

リアホナ

770





「オリブ山からエルサレムを望む」マックス・ゲスタル画

オリブ山からケデロンの谷越しに見えるいにしえのエルサレムが、穏やかなたたずまいで疲れた旅人を待ち受けている。

末日聖徒イエス・キリスト教会 第171回半期総大会報告

2001年10月6、7日の両日、
ユタ州ソルトレーク・シティ、
カンファレンスセンターにおいて開かれた
半期総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、2001年10月7日、日曜日午前の部会で次のように語った。「言うまでもなく、わたしたちは危険な時代に生きています。……さて、わたしは人騒がせなことを言うつもりはありません。死を宣告する預言者になりたいとは思いません。わたしは楽観的です。すべてを滅ぼす災いがわたしたちを襲う時が来ているとは思いません。そうでないことを心から祈っています。まだ成し遂げねばならない主の業が非常に多くあります。わたしたちと、またわたしたちの子どもたちでそれを行わなければなりません。」

そして、こう付け加えた。「けれども恐れる必要はありません。心に平安を、家庭に平和を得ることができます。わたしたちは皆、この世にあって善なる影響を及ぼすことができます。」

ヒンクレー大管長はまた、日曜日午後の部会^{こんにち}の説教の中でこう話した。「さて、今日、わたしたちは特別な問題に直面しています。深刻で、痛切かつ困難な問題であり、わたしたちにとって大きな関心事となっています。確かにわたしたちは主を必要としています。……わたしたちの安全は生活の徳高さにかかっています。わたしたちの強さは義の中に存在しています。神は次のことを明確



ソルトレーク神殿の碑銘は、神殿が主の宮であることを明らかにしている。

にされました。すなわち、わたしたちが神を捨てなければ、神はわたしたちを見捨てられないということです。」ヒンクレー大管長は大会を閉じるに当たり、主が「平和の業を祝福し、再び速やかに平和を回復して」くださるよう祈った。

総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第

二副管長の3人が司会を務めた。

土曜日午後の部会中に行われた管理上の決定では、七十人定員会と中央日曜学校会長会、中央若い男性会長会に異動があった。七十人会長会の二人が代わり、七十人第一定員会から5人が解任され、名誉幹部の称号を受けた。七十人第二定員会からは4人が解任となった。また、24人の地域幹部七十人が解任となり、3人の地域幹部七十人が新たに召された。さらに、中央日曜学校会長会と中央若い男性会長会が再組織された(本誌23ページ参照)。

大会の各部会の模様は、合衆国、カナダ、西インド諸島、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカの10か国、イギリス、アイルランドほかヨーロッパの19か国、南アフリカの多くのステークセンターに衛星中継された。合衆国とカナダの約1,500局のケーブルテレビシステムおよびテレビ・ラジオ局が大会各部会の模様を通信衛星を経由して無料で中継した。大会はまた、ディッシュネットワーク(Dish Network)のBYUTVチャンネルでも視聴することができた。全部会はインターネット(www.lds.org/broadcast)を通じて、38か国語で生放送された。また、放送が受信できない地域のために、大会のビデオが入手可能となっている。——編集部□

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリヤ語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギリバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長: デニス・B・ノイエシュバンダー
顧問: J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者
実務部長: ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン
編集副主幹: ロジャー・テリー
編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド
編集補助: スーザン・バレット
出版補佐: コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン
デザイナー主任: シェリー・クック
デザイナー: トーマス・S・チャイルド
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ケリー・ブラット、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウド・E・ワナー
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ
ディレクター: ケイ・W・ブリッグス
配送部長: クリス・クリステンセン
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『リアホナ』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines January, 2002, Japanese, 22981 300

For Readers in the United States and Canada:
January 2002 no.1, LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマをすべて網羅するものではありません。

あ 愛 ……7, 40, 68, 77, 94, 96, 112, 115
証 ……100
贖い ……19, 33
アロン神権 ……43, 47
イエス・キリスト 19, 31, 68, 80, 109
一致 ……10, 13, 40, 83
祈り ……16, 87, 100, 104
永代教育基金 ……60
教え ……80
親の務め ……77, 80, 106, 109, 112, 115

か 開拓者 ……49
家族関係 ……80, 96, 109
活発化 ……57
感謝 ……37, 49
完成 ……27
希望 ……4, 19
義務 ……43, 47, 57
逆境 ……4, 27, 106
悔い改め ……19
決意 ……53
謙遜 ……16, 53
幸福 ……33, 49

さ 自制 ……90, 96
指導力 ……77, 112
従順 ……31, 83, 98
什分の一 ……37, 83
純潔 ……90
女性の務め ……13
自立 ……83
人格 ……96
神権 ……13, 51, 57, 60
信仰 ……10, 16, 24, 31, 94, 104, 106
真理 ……115
死 ……68
救いの計画 ……33
青少年 ……43, 47, 77
聖典の研究 ……16, 71, 87
聖霊 ……10, 100

た 知識 ……35
慎ましき ……75
つぶやき ……98
伝道活動 ……7, 87

な 忍耐 ……27
フェローシップ ……7
不敬 ……75
復活 ……19, 68
平安 ……83
奉仕 ……16, 51, 53, 57, 68, 94, 115
包容 ……40, 75

ま 模範 ……75, 109
モルモン書 ……71
や 優先順位 ……35, 106
赦し ……19
預言者 ……24, 98
ら 隣人 ……40, 75, 94

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

アイリング、ヘンリー・B ……16
オークス、ダリン・H ……7
オートン、ロバート・F ……94
クレートン、L・ホイットニー ……31
ゴールデン、クリストフェル・ジュニア 33
ゴンザレス、ウォルター・F ……35
サミュエルソン、セシル・O・ジュニア 47
ジェンセン、バージニア・U ……109
スコット、リチャード・G ……100
スノー、ステイブン・E ……49
スムート、メアリー・エレン ……106
ディディエ、チャールズ ……10
デュー、シェリー・L ……13, 112, 80
バートン、H・デビッド ……75
パッカー、ボイド・K ……71
バラード、M・ラッセル ……40
ピーターソン、ウェイン・S ……96
ヒルビッグ、キース・K ……51
ヒンクレー、ゴードン・B ……4, 60, 83, 104
ファウスト、ジェームズ・E ……19, 23, 53
ヘイト、デビッド・B ……24
ヘイルズ、ロバート・D ……43
ペリー、L・トム ……87
ホルランド、ジェフリー・R ……37
マックスウェル、ニール・A ……90
モンソン、トーマス・S ……57, 68, 115
ラーセン、シャロン・G ……77
ワークマン、H・ロス ……98
ワースリン、ジョセフ・B ……27

ホームティーチングおよび家庭訪問
『リアホナ』の総大会報告号には、ホームティーチングまたは家庭訪問用の特定のメッセージは掲載されていません。ホームティーチャーおよび家庭訪問教師は祈りの気持ちで訪問する会員の必要性を熟考したうえで、一つの総大会説教をメッセージとして選んでください。

表紙—写真/ジョン・ルーク。
裏表紙—写真/クレグ・ダイヤモンド
大会の写真—大会の写真の撮影者は以下のとおりです。—クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・アンダーセン、ジョン・ルーク、ジェド・クラーク、マット・ライアー、ケリー・ラーセン、タムラ・H・ラティエタ、エリー・カーター、マーク・ヘディングレン、ロバート・ケーシー。

インターネット上での大会説教—インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。—
www.lds.org

目 次

1 末白聖徒イエス・キリスト教会第171回半期総大会報告

●土曜午前の部会 2001年10月6日

- 4 時満ちる時代に生きる
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 7 福音を分かち合う
十二使徒定員会 ダリン・H・オックス
- 10 信仰の橋を架ける
七十人会長会 チャールズ・ディディエ
- 13 人が独りであるのは良くない
中央扶助協会第二副会長 シェリー・L・デュー
- 16 祈り 十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 19 贖い——最も大いなる希望
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

●土曜午後の部会 2001年10月6日

- 23 教会役員の支持
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 24 わたしたちの預言者の信仰
十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト
- 27 一歩ずつ 十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 31 「不信仰なわたしを、お助けください」
七十人 L・ホイットニー・クレートン
- 33 わたしたちの御父の計画
七十人 クリストフェル・ゴールデン・ジュニア
- 35 心に福音の原則を刻み込む
七十人 ウォルター・F・ゴンサレス
- 37 「潤った園のように」
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 40 包容の教義 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

●神権部会 2001年10月6日

- 43 神への務めを果たす
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 47 神への務め
七十人会長会 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア
- 49 感謝 七十人 スティーブン・E・スノー
- 51 神権の輪を作り、鎖につなげていく
七十人 キース・K・ヒルビッグ
- 53 「何か大きな事」
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 57 義務の伴う召し
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 60 手を差し伸べ、引き上げる
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会 2001年10月7日

- 68 今がその時である
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 71 モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー
- 75 雄々しく立つ 管理監督 H・デビッド・バートン
- 77 「恐れることはない。われわれと共にいる者は……多い」
中央若い女性第二副会長 シャロン・G・ラーセン
- 80 あなたの家を整えなさい
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 83 わたしたちが生きている時代
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会 2001年10月7日

- 87 帰還宣教師 十二使徒定員会 L・トム・ペリー
- 90 第7の戒め——盾
十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 94 「いちばん大切な、第一のいましめ」
七十人 ロバート・F・オートン
- 96 行動が人格を決める
七十人 ウェイン・S・ピーターソン
- 98 つぶやきに注意する 七十人 H・ロス・ワークマン
- 100 強い証の持つ力
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット
- 104 「また逢うまで」
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央扶助協会集会 2001年9月29日

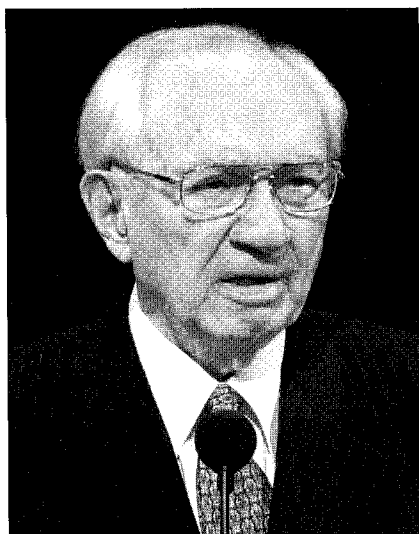
- 106 確固として、揺るぎなく
中央扶助協会会長 メアリー・エレン・スムート
- 109 確固として立つ
中央扶助協会第一副会長 バージニア・U・ジェンセン
- 112 わたしたちは皆、母親ではないでしょうか
中央扶助協会第二副会長 シェリー・L・デュー
- 115 模範となりなさい
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 119 指導者の言葉
- 120 レッスン用資料リスト（わたしたちの時代のための教え、2002年度/扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集会」のテーマ/アロン神権、若い女性リソースガイド）
- 126 チャーチ・ニュース
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

時満ちる時代に生きる

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「わたしたちを取り巻く苦悩や、至る所で目にする恐ろしい事柄、世界中に広まりつつある紛争にもかかわらず、わたしたちはより善い者となることができます。」



愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんがどこにおられようと、末日聖徒イエス・キリスト教会のこの偉大な世界規模の大会に歓迎いたします。わたしたちはソルトレーク・シティの新しくすばらしいカンファレンスセンターに集っています。建物はほとんど満員のようです。この建物があることをうれしく思います。これを建てるようにという靈感に感謝しています。実に驚嘆すべき建物です。わたしたち全員が一つの会場に集えればよいのですが、それは不可能です。しかしながら、テレビ、ラジオ、ケーブル、衛星中継、そしてインターネットという驚くべき技術があることに心から感謝しています。わたしたちは偉大な世界規模の教会となりました。そして今、大勢の会員が

一つの大きな家族としてこれらの集會に出席することが可能となっています。多くの言語を話し、集う場所は様々ですが、皆、一つの信仰、一つの教義、一つのバプテスマという共通点があります。

今朝、わたしは、主がわたしたちのためにしてくださったことを思い、抑え切れないほどの感動を覚えています。

享受しているすばらしい祝福に見合うために、わたしたちが前世で何を行ったかは分かりません。わたしたちは人類の長い歴史の中で、この偉大な時代に地上に生を受けました。すべての時代の中で驚くべき最高の時代です。最初の両親の時代から人類の長く険しい歩みを振り返るとき、感謝の念を覚えずにはいられません。

わたしたちが生きるこの時代は、聖文で語られている時満ちる時代です。過去の神権時代のあらゆる要素を神が一つに合わせられた時代です。神と神が愛しておられる御子が少年ジョセフに御姿を現された日から、膨大な知識が滝のように世に注がれてきました。マラキの言葉を成就すべく、人々の心はその先祖に向けられてきました。ヨエルの受けた次の示現が成就してきているのです。

「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。



その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ。

わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。

主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。

すべて主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。」(ヨエル2:28-32)

この何十年かで、それまでの人類史上でなされたすべての科学的発見よりも多くの発見がなされてきました。運輸、通信、医療、公衆衛生、原子力の活用、コンピューターの奇跡とそれに付随する



大会の部会に出席するためにカンファレンスセンターを埋め尽くした会員たち。

すべての進歩がわたしたちのこの時代に花開いたのです。これまでの生涯のうちに、わたしは奇跡に次ぐ奇跡が実現するのを見てきました。人々はそれを当たり前のように思っています。

そして、これらすべてとともに、主は古代の神権を回復されました。この1世紀半の間に御自身の教会と王国を組織されました。主は御自分の民を導いてこられました。彼らは恐ろしい迫害という溶鉱炉の中で精錬されました。そして主は、わたしたちが今生きているこのすばらしい時代をもたらされたのです。

しかし、わたしたちは、この教会をすばらしい未来へと導く神の力のほんの一端をかいま見たにすぎないのです。それでもなお、わたしはこれまでに成し遂げられたことに驚嘆しています。

会員数は増加しました。忠実さという面でも成長してきたと、わたしは確信しています。多くを失っているかもしれませんが、忠実な人々は大いに強められてきました。教会を観察している人々は、わたしたちが宗教界の大きな流れに仲間入りしてきた、と言います。しかし、わたしたちは何も変わっていません。わたしたちに対する世の見方の方が変わってきたのです。わたしたちは同じ教義を教えています。組織も同じです。同じ良い働きをするために働いています。一方で、古い嫌悪感が払拭され、かつての迫害は鳴りを潜めているのです。人々にはより正しい情報が与えられています。人々はわたしたちの信条や働きを認めてくれつつあります。

しかし、この時代はすばらしい一方

で、危険に満ちています。悪がはびこっています。その魅力的な誘惑は、多くの人々を陥れています。パウロはこう言いました。

「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。

その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、

無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快樂を愛する者、

信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。」(2テモテ3:1-5)

こんにち
今日、わたしたちはこれらすべての悪の力をこれまでも増してもっとよく目にしています。つい最近、ニューヨーク市やワシントン、ペンシルベニアで起きた事柄によってもそのことを思い知らされましたが、それについては明日の朝話すつもりです。わたしたちは、粗暴な者が恐ろしく卑劣な行いをする時代に生きています。戦争の時代に生きています。傲慢ごうまんの時代に生きています。邪悪とボルノグラフィー、不道德の時代に生きています。ソドムとゴモラにあったすべての罪が社会にはびこっています。若人がこれほど大きなチャレンジに直面したことはありませんでした。現代ほど、悪があからさまに姿を見せたこともありませんでした。

ですから兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはこの偉大な大会に、互いに支え、強め合うために、また互いに助け、高め合うために集まりました。励ましを与え、信仰を築き、主が与えてくださったすばらしい物事を思い巡らすために、そしてどのような形であれ悪に対抗するわたしたちの決意を強めるために集まったのです。

わたしたちは偉大な軍勢となっています。影響力のある民となっています。わたしたちが話すときに人々は耳を傾けて

くれます。わたしたちは困難に対処するために力を示してきました。わたしたちの力は全能の神を信じる信仰から来ています。天の下のどのような力も神の業をとどめることはできません。困難は訪れるかもしれませんが、世界は戦争と戦争のうわさに巻き込まれるかもしれませんが、しかし、この業は前進し続けます。

皆さんは、預言者ジョセフによって書かれた次の崇高な言葉を御存じでしょう。「いかなる汚れた者の手も、この業の発展をとどめることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるであろう。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、業は成就したと仰せになるのである。」(History of the Church, 第4巻, 540)

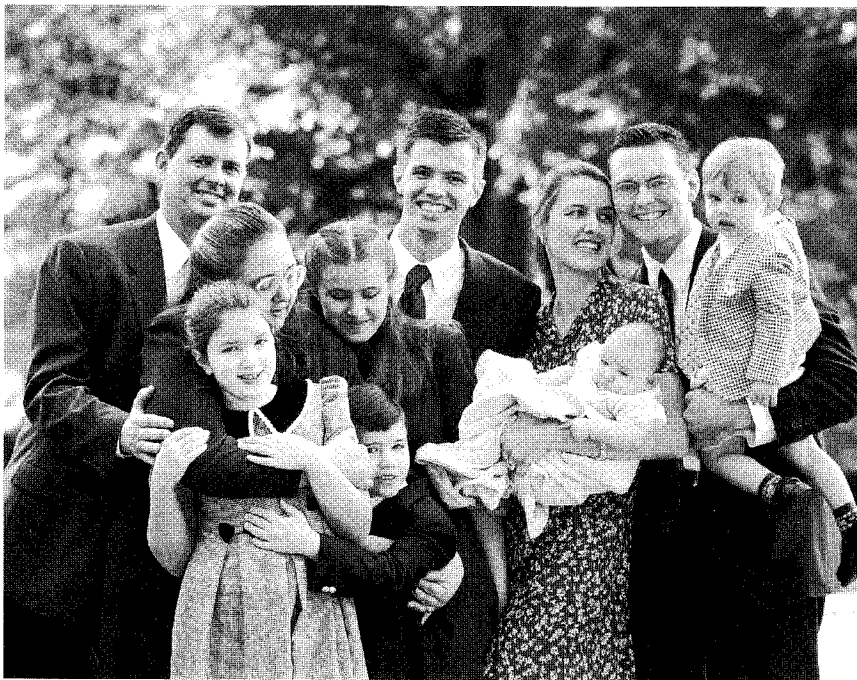
主はわたしたちが目指すべき目標をお与えになりました。それは、主の王国を築くことです。それは、信仰と高潔さを備え、人類への愛と関心を持つ多くの男女が推し進める強力な大義です。それは、より良い社会を築くために前進し、わたしたち自身とほかの人々のうえ

に祝福を与えています。

自分たちの立場と目標を心に留めるなら、わたしたちは傲慢になることはありません。独りよがりになることもありません。自己満足したり、自己中心的になったりもしません。わたしたちは全人類に手を差し伸べなければなりません。すべての人は永遠の父なる神の息子と娘であり、神はわたしたちが彼らに関して行うことに対して、いつか報告するよう求められます。主の祝福が皆さんのうえにありますように。主がわたしたちを、善い業を行えるよう、強く、雄々しくくださいますように。わたしたちの信仰が朝日のように輝き渡りますように。わたしたちが主の神聖な戒めに従順に歩んでいけますように。主がわたしたちにほほえんでくださいますように。わたしたちが前進するとき、すべての人に手を差し伸べ、人類社会を祝福できますように。すなわち、虐げられ、抑圧された人々を励まし、飢えた人々と貧しい人々に食べ物と衣服を与え、身近にいるこの教会の会員でない人々にも、愛と親切を示すことができますように。主はわたしたちに道を示しておられます。主は御言葉みことばと勧告、導き、すなわち戒めをお与えになっています。わたしたちはよくやっています。わたしたちには、感謝し、誇りに思うべきことがたくさんあります。それでも、わたしたちは今よりいっそう向上することができます。

この大義に携わる兄弟姉妹をわたしはどんなに愛していることでしょうか。わたしは皆さんが行ってきたことと、これから行おうとしていることのために、皆さんを愛しています。わたしたちを取り巻く苦悩や、至る所で目にする恐ろしい事柄、世界中に広まりつつある紛争にもかかわらず、わたしたちはより善い者となることができます。

わたしは天の祝福が皆さんのうえに注がれるよう請い求めます。そして皆さんへのわたしの愛をお伝えし、皆さんがこれからの2日間にこの説教壇から聞く偉大なメッセージを生活に取り入れるようお勧めします。わたしたちの主イエス・キリストの聖なる御名みなによって、アーメン。

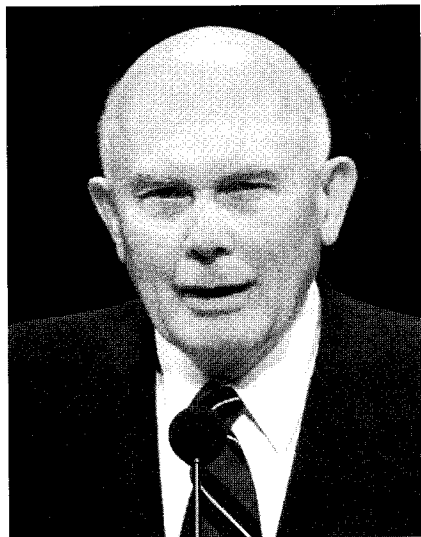


福音を分かち合う

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス

「会員であれ、宣教師であれ、最も効果的に伝道を行う人は例外なく愛に根ざして行動しています。……もしわたしたちがこの愛に欠けているなら、祈り求めるべきです。」



ヒンクレー大管長、すばらしいメッセージをありがとうございます。わたしたちは皆、この困難な時代にあって精力的な、また靈感あふれるあなたの指導に深く感謝しています。大管長の指導の下でわたしたちは、現在の混迷した世の中で緊急に必要とされている主の業を推し進めています。

イエス・キリストの福音の良い知らせを宣言することはクリスチャンの信仰の基本となる原則です。福音書の著者のうち3人はこの原則に関して救い主から与えられた指示について報告しています。

マルコの書にはこのように記録されています。「そして彼らに言われた、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。』」(マルコ16:15-16)

信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。』」(マルコ16:15-16)

マタイは救い主が語られた戒めの言葉を引用しています。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し[なさい。]」(マタイ28:19)

ルカはこのよう述べています。「こう、しるしてある。……その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが……もろもろの国民に宣べ伝えられる。」(ルカ24:46-47)

近代の預言者たちは救い主の与えられたこの指示を今の時代に適用し、福音を分かち合うことをわたしたち一人一人にチャレンジしています。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はわたしたちの時代のために明快に響きわたる声で呼びかけてきました。衛星放送を通じて世界中の宣教師と指導者に語った話の中で、大管長は「教会のあらゆるレベルで」伝道活動に対する「熱意をかき立てる」よう求めました(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、123)。宣教師は求道者を見つけるために引き続き最大の努力を払わなければなりません。が、「もっと良い方法……は教会員を通じて行う方法」であることを強調しました(121)。大管長はわたしたち一人一人に求道者を見つけることについて最善の努力を払って宣教師を支援するよう要請しました。また、ステーキ会長と監督に対して、それぞれのユニットで「求道者を見つけ、友達になることについて、あらゆる義務と管理責任を引き受け」るよう求めました(123)。ヒンクレー大管長は「この大きなチャレンジに立

ち向かう」ことができるよう一人一人に主の祝福を祈り求めました(124)。

大管長がこの要請を行ってから2年半が過ぎました。けれどもわたしを含めほとんどの人が、このチャレンジにこたえるような実りある働きを行っていません。

わたしは祈りの気持ちでヒンクレー大管長の言葉を研究し、どうすれば福音を分かち合うことができるか深く考えた結果、預言者からのチャレンジを成し遂げるには3つのことが必要であるという結論に達しました。第1に、福音を分かち合うことについて心からの望みが必要であり、第2に、神の助けが必要であり、第3に、何をなすべきかを知る必要があります。

1. 望み

ほかの多くの事柄と同様に、福音を分かち合うには最初にその望みを持つことが必要です。福音を分かち合うという面で、神の御手に使われる者としてもっと役に立つ者になりたいと思うならば、心からそう望まなければなりません。この望みを持つには二つの段階を経なければならないと確信しています。

第1段階として、回復されたイエス・キリストの福音が真理であり、大切であるということについて揺るぎない証を持たなければなりません。中でも、御自分の子どもたちに対する神の計画にはこの上ない価値があるということ、その計画においてイエス・キリストの贖罪が不可欠であるということ、この世においてその計画を実行するためにイエス・キリストの教会が大切な役割を担っているということについての証がなければなりません。

第2に、神とそのすべての子どもたちを愛さなければなりません。近代の啓示で、わたしたちは「神の栄光にひたすら目を向けて……愛を持つ者には、その業に携わる資格がある」と言われています(教義と聖約4:5)。今日の神権時代の初期の使徒たちは、「すべての人を……豊かに」愛するように命じられました(教義と聖約112:11)。

回復された福音が真理であり大切であるという証を得るならば、わたしたちは自分たちに与えられているものの価値

を理解することができます。神と隣人を愛するならば、その大いなる贈り物をすべての人と分かち合いたいという望みを持つようになります。福音を分かち合いたいという望みの強さは、個人的な改心の度合いを測る大切なはかりの一つなのです。

モルモン書には証と愛の力について驚くべき例が幾つか記されています。「罪人の中でも最も罪深い者であった」モーサヤの息子たちは、証を得たときに「救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った。彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。」(モーサヤ28:3-4)彼らの同僚であるアルマは後に、こう呼びました。「おお、わたしが天使で〔あれば〕よいものを。〔そうすれば〕出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り……あらゆる人に……^{あがな}贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないように〔できように。〕」(アルマ29:1-2)。

伝道活動を、福音を分かち合うこと、という言葉に置き換えたいと思います。分かち合うからには、わたしたちは何か非常に大切なものを持っており、それをほかの人々の益と祝福のために与えたいと望んでいなければなりません。

会員であれ、宣教師であれ、最も効果的に伝道を行う人は例外なく愛に根ざして行動しています。わたしはこの教訓を若い男性の時代に学びました。わたしは教会にあまり活発でないある会員を訪問する割り当てを受けていました。彼はわたしよりもずっと年上で、専門職に携わっており、成功していました。自分の行動を振り返ってみると、わたしはその人に対して愛に根ざした関心をほとんど抱いていなかったことが分かります。義務感から、単にホームティーチングを100パーセント達成したいという望みだけで訪問していました。月末を間近に控えたある日の晩、わたしは彼に電話をかけて、これから同僚とともに訪問してよいかどうか尋ねました。彼の答えはわたしにとって懲らしめとなり、忘れられない教訓となりました。

「いや。今夜は来てほしくないね」と彼は言いました。「疲れているし、いつで

も寝られるように着替えも済ましてしまったんだ。今、本を読んでいるんだよ。君のホームティーチング100パーセント達成の報告のために、読書のじゃまをされたくはないね。」この言葉は今でもわたしの心を突き刺します。自分本位の動機で訪問しようとしていたことが見抜かれていたからです。

だれかに回復された福音のメッセージに耳を傾けるよう勧めるときに、その人に対する純粋な愛や価値あるものを分かち合いたいという無私の望みではない別の理由があるのではないかと疑われないように望んでいます。

もしわたしたちがこの愛に欠けているなら、祈り求めるべきです。「キリストの純粋な愛」に関する預言者モルモンの記録はこう教えています。「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:47-48)

II. 神の助け／正しいタイミング

福音を分かち合うときにはわたしたちを導く神の助けが必要です。わたしたちの望みが証と愛に根ざした純粋なものでなければならぬのと同じように、わたしたちの行動も主の導きを受けたものでなければなりません。この業は主の業であって、わたしたちの業ではありません。わたしたちはこの業を主の方法と主のタイミングで行うべきであって、自分たちの方法や都合で行うではありません。この点を誤ると、わたしたちの努力は挫折や失敗に終わることでしょう。

福音を必要としているにもかかわらず心がそれに向かわないでいる人が家族や友達の中に必ずいます。わたしたちが効果的に働くためには、主の導きがどうしても必要です。彼らが最も受け入れやすい方法とタイミングで働きかけることができるようにするためです。今準備のできている人、主が今日わたしたちを通して助けの手を差し伸べようとしておられる人に対して、わたしたちが神の御手に使われる者となるには、主の助けと指示を祈り求めなければなりません。それから、どのような方法で進めたらよ

いか告げる神の御^{みたま}霊の促しによく注意して耳を傾け、従わなければなりません。

これらの導きは必ず与えられます。数え切れないほどの多くの人々の証から、わたしたちは主が御自身の方法と時に従って、福音を受け入れる人々を備えておられることを知っています。これらの人々は福音を探し求めています。そしてわたしたちが彼らを見いだそうと努力するときに、主はわたしたちの祈りに答えをお与えになり、それによって彼らの祈りにこたえられるのです。望みを持ち続けている人々、どのような方法で、いつ、どこで、だれに福音を分かち合ったらよいかについて心から導きを求めている人々に、主は促しと導きをお与えになります。このようにして、神はわたしたちの望みをかなえてくださるのです(アルマ29:4;教義と聖約6:8参照)。

主は近代の啓示の中で、このように言われました。「地上のすべての教派や宗派、門派の中には……目をくらまされ、見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる多くの人がいる。」(教義と聖約123:12)わたしたちが

カンファレンスセンター内の1階にある噴水は、人気のある待ち合わせ場所となっている。



「いつでも、どのようなことについても神の証人」となっているならば(モーサヤ18:9)、主は福音を探し求めている人を見い出して適切にコミュニケーションをする方法を明らかにしてください。わたしたちが導きを求め、キリストのような愛に基づいて心から人々に働きかけるときに、主からそのようにしていただけるのです。

主は御自分のすべての子どもたちを愛しておられます。主はすべての子どもたちが御自分の真理を全部手にし、御自分が持っておられる祝福を豊かに受けることを望んでおられます。主は一人一人がいつ準備できるのか御存じです。そしてわたしたちに対しては、福音を分かち合うことに関する指示を聞いて、それを心に留めるよう求めておられます。わたしたちが自分の分を果たしているならば、準備のできた人々から「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。……彼らはわたしについて来る」と言われた御方のメッセージに応じていくことでしょう(ヨハネ10:27)。

III. どのように行うか

人々と福音を分かち合いたいと心から望み、その努力に対する助けを神に求めたら、次にわたしたちは何をすればよいのでしょうか。どのように進んで行ったらよいのでしょうか。物事はまず行動を起こすことから始まります。天からさらに指示が与えられるまで待っているではありません。ほとんどの場合、啓示が与えられるのは何かを行っているときなのです。

だれに対して、どのような方法で行うかについて、主は次のように指示を与えておられます。「また、あなたがたの教えを説くことが……各人がそれぞれ隣人に、穏やかに、かつ柔和〔である〕ようにしなさい。」(教義と聖約38:41)「隣人」とはもちろん、隣に住んでいる人や友達、つきあいのある人たちだけではありません。「わたしの隣人とはだれのことですか」と尋ねられたとき救い主は、エリコに向かう道で「隣り人」の存在に気づいたサマリヤ人の話をされました(ルカ10:25-37参照)。このように、



わたしたちの「隣り人」には日常生活の中で擦れ違う人々も含まれています。

わたしたちは、いにしえのアルマのように、交わる人々を主のみもとに「連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵を」与えてくださるよう祈るべきです(アルマ31:35)。さらに彼らの幸いを求めて祈ります(アルマ6:6参照)。

褒められたり利益を得たりしようとするのではなく、愛に根ざして行動しなければならないということを忘れてはなりません。教会での立場を利用して自分の高慢や野望を満たそうとする人への警告は(教義と聖約121:37参照)、わたしたちが福音を分かち合うときにも当然当てはまります。

愛に根ざして行動するという義務はまた、人を操ろうとしたり、操っていると感ぜさせたりしてはならないという警告でもあります。わたしたちと信仰を共にしていない人々の中には、わたしたちが何かを指して「伝道の道具」と言うのを聞いて不快に感じる人もいます。「道具」は命のないものを操作するために用いるものです。ですから何かを指して「伝道の道具」と言うと、わたしたちがだれかを操ろうとしているような印象を与えるのです。この印象は伝道活動の特徴である利己心のない、分かち合いの精神とは相いれません。

ヒンクレイ大管長はその偉大なメッセージの中で「福音を分かち合う機会はどこにでもあります」と断言しました(『リアホナ』1999年7月号, 122)。大管長はわたしたちにできる多くのことを挙げています。大管長が語った「教会員の模範が持つ途方もなく大きな力」が周囲の人々に影響をもたらすように生活すべきです(121)。「わたしたちが携えることのできる最も効果的なちらしは、わたしたち自身が善良な生活を送ることです。」(123)

わたしたちはあらゆる人に対して真心から親切に接する必要があります。

ヒンクレイ大管長は、出会う人々に「教会の印刷物を」渡すことができると述べました(122)。「宣教師が教える際に家庭を提供する」こともできます(122)。宣教師が「教会員に友達を紹介するよう求めるのは適切なことです。」(124参照)宣教師から求められたら、わたしたちはそれにこたえるべきです。

要するに、ヒンクレイ大管長は、教会員は皆「求道者を見つけ、彼らを励ますという務めを絶えず実行」することができると述べたのです(123)。

このほかにもできることがあります。預言者モロナイが語った偉大な言葉、すなわち「わたしは人のすることは恐れない。完全な愛はあらゆる恐れを取り除くからである」という言葉に従うならば、特にそうです(モロナイ8:16。1ヨハネ4:18も参照)。友達を教会の集会や教会主催の活動に招くことができます。教会とその教えが及ぼす影響に感謝していることを述べて、もっと知りたいかどうか尋ねることができます。

もっと簡単な方法があります。この興味をそそるパス・アロング・カードを1束持ち歩いて、日々の生活で出会う人々に、たとえ偶然知り合った人でも、このカードを渡すのです。このカードはわたしたちの分かち合いたい真理を研究してみるように勧める理想的な手段の一つです。押しつけがましさはまったくなく、すばらしい贈り物を差し出すことができます。どの贈り物を選ぶのかはカードを受け取った人に任されていて、その人自身が連絡を入れなければなりません。わたしたちの経験によれば、贈り物を希望して電話してくるかなりの人が、さらに話を聞かせてくれる人にその贈り物を届けてほしいと希望しています。

教会は最近、インターネットを通して世界中に福音を分かち合う方法を発表しました。19世紀にちらしが作成され、20世紀にラジオやテレビ、フィルムの利用が始まったと同様に、この新しい方法が持つ可能性にわたしたちは胸躍らせています。教会は新しいインターネットのサイトを開きました。そのサイトを通して、教会や教会の教義や、ともに礼拝できる場所に関する情報を求めている人々に紹介することができます。アドレスはwww.mormon.orgです。宣教師たちは経験とともに、この新しい手段の利用価値や利用方法が分かってくるでしょう。教会員は友達から質問を受けた際、このサイトを使って答えることができます。直接質問に答えることもできますし、友達にサイトを開いてみるように言うこともできます。さらに、福音のメッセージの入ったあいさつ状や案内状をインターネットで友達に送ることもできます。

IV. 結び

わたしたちは福音を分かち合う努力と能力を倍増させて、この偉大な業における主の目的を成し遂げるよう求められています。これを実行しないかぎり、すばらしい専任宣教師たち、つまりわたしたちの息子や娘たち、そして主の業のために熱心に働いている高潔な友人たちは、回復されたイエス・キリストの福音を教えるという務めを十分に果たすことができません。

わたしたちは愛に根ざした望み、天からの導き、隣人と福音を分かち合うという神の命令を成し遂げる方法について考えてきました。イエス・キリストの福音はこの暗い世界にあって、何にも勝る輝きを持っており、また唯一の希望です。「したがって」、ニーファイが教えているように、「これからキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない」のです(2ニーファイ31:20)。

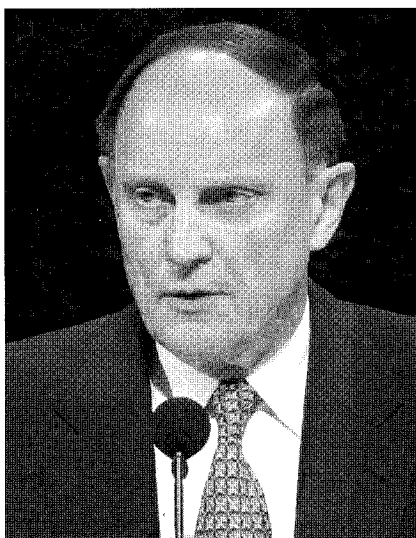
わたしは救い主イエス・キリストについて証します。また主がわたしたちに、この主の業に心から参加するよう望んでおられることをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

信仰の橋を架ける

七十人会長

チャールズ・ディディエ

「現世は、人が信仰の橋を架け、不死不滅と永遠の命に続く扉を開けて、神にお会いする時期です。」



あ る大手の広告会社に一步足を踏み入れると、壁にかかった額の言葉が目に残ります。よう。「人は壁を作りすぎている。しかし、橋の数は足りない。」(フランスに本社を置くJCドゥコー社から引用)

確かに壁は普通、二人以上の人やグループを物理的、精神的、あるいは霊的に隔て、障害物とするために作られます。壁はまた、防御、保護、分離の象徴として作られるのです。そのような理由で建てられ、有名になった壁があります。エルサレムの城壁、万里の長城、ベルリンの壁がそうです。また壁はこの分離の概念を表すために、日常会話においても象徴的に「不理解の壁」「不寛容の壁」あるいは「れんがの壁に話しかけているようだ」などと使われたりもします。

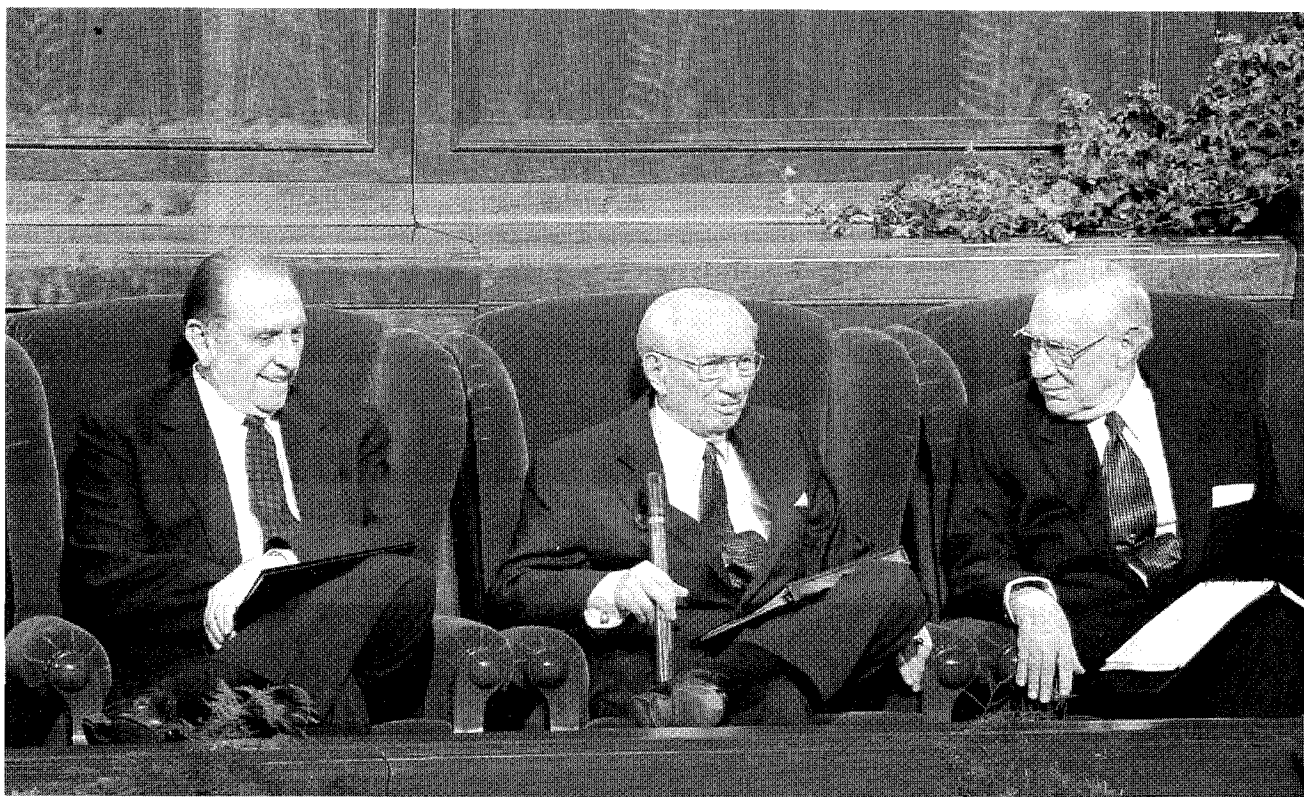
橋は壁と対照的です。橋は、二人以上の人やグループを合わせたり、結び

つけたり、一致を生み出すために架けられます。橋は障害を乗り越えるために架けられます。有名になった橋には、「嘆きの橋」「アレンビー橋」など多数あります。橋という言葉はわたしたちの言語で、再結合や一致という概念を表し、「意見の隔たりに橋を架ける」「相違点に橋を架ける」のように使います。

地上での死すべき生活や、アルマが「現世は人が神にお会いする用意をする時期である」(アルマ34:32)と述べた人生の目的について考えると、この大切な目的を果たすため、主がどのように助けてくださるのか知りたくなります。この比喩を借りて答えるなら、それは単に、不信仰、無関心、恐怖、罪の壁を乗り越えるために、わたしたちが生活の中で信仰の橋を架けられるように助けてくださることなのです。現世は、人が信仰の橋を架け、不死不滅と永遠の命に続く扉を開けて、神にお会いする時期です。

では、どのようにして信仰の橋を架けるのでしょうか。

若いころわたしがベルギーのナミュールという都市に住んでいたとき、ナミュール市は大きな河によって反対側にある隣の都市と隔てられていました。当時この二つの都市を結ぶ橋は一つしかありませんでした。この橋は、何世紀も前に戦勝国ローマが架けた橋の残骸を、何度も補強し、修復したものでした。幅は狭すぎて車の流れを妨げ、幾つもの小さなアーチがじゃまをして大型船やはしけが通過できませんでした。もっと幅が広く、一つだけのアーチを持つ新しい橋が必要でした。そのうちに河の両側で、新しい橋の基礎工事が始まり



大会の部会前に話し合う大管長会の3人。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（中央）、トーマス・S・モンソン第一副管長（左）、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長（右）。

ました。河の真ん中で接合する予定の金属製の巨大な橋げたが見る見る両側から伸びてきました。わたしはこの土木工事に魅了され、毎日のように自転車に乗って、工事の進行具合を見に行きました。ついに、2本の橋げたをつなぐために、中心部に鉄鋼製のかなめ石がはめ込まれる日が来ました。わたしと一緒に大勢の人が慎重な工事を見守っていました。あと一步で2本の橋げたがつながれ、初めて通行可能になるのです。完成すると拍手が沸き起こり、作業員たちは抱き合いました。河という障害物は征服され、克服されたのです。

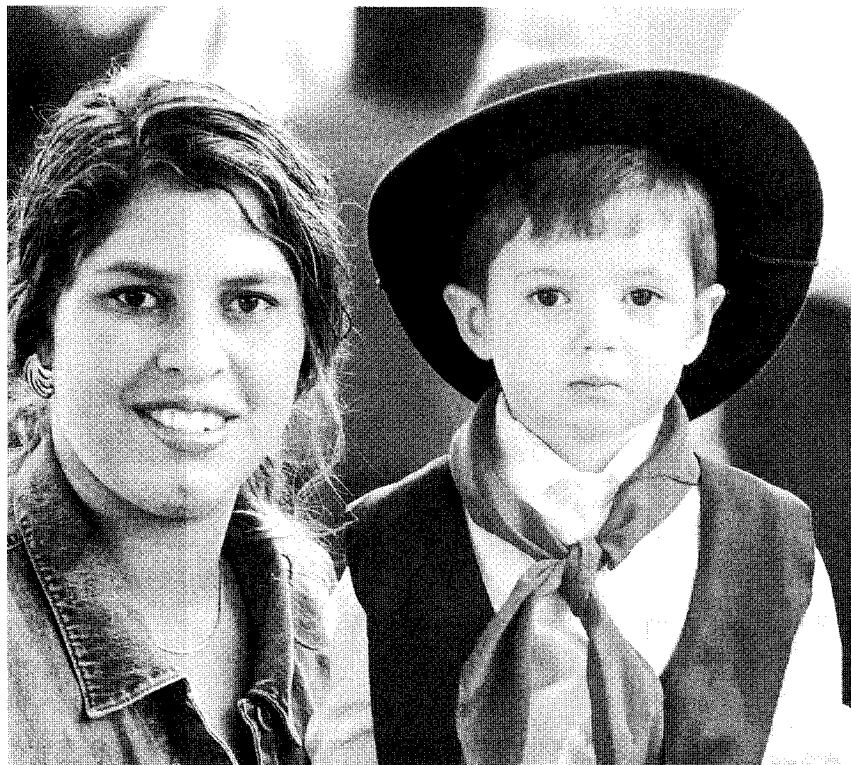
この経験をお話したのは、それが表す象徴について考えるためです。橋には、金属製の橋以上の意味があります。それは、天の御父の子どもであるわたしたちが再び御父にまみえることを可能にする、信仰の橋を象徴しています。橋の中心にあるかなめ石が表しているのは、仲保者イエス・キリストの贖い、死すべき状態と不死不滅とをつなぐ点、生まれながらの人と霊的な人と

の接点、そしてこの世の命から永遠の命へと転換する点を表しています。救い主のおかげで、人類は御父と和解でき、罪と死すべき状態という壁を克服できるのです。これらの障害物は霊の死と肉体の死を意味しています。イエス・キリストの贖いは救いの計画の中心であり、約束どおりわたしたちの天の御父と再会できることを意味しています。モーセ書にはこのように書かれています。「これが、時の中間に来るわたしの独り子の血によってすべての人に与えられる救いの計画である。」(モーセ6:62)

橋の反対側にある神の愛は、神の御子イエス・キリストを信じる信仰に対する報いです。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3:16) 神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものは、御子の究極の犠牲、すなわち御子の贖いです。そのおかげで、神の戒めを守り最後まで堪え忍ぶという条件で、不死不滅だけでなく永遠の命をも得ることができるのです(教義と聖約14:7参照)。

ですから、信仰の橋を架けようと努力するときには、わたしたちは生活の中で御父と御子と御子の贖いに対する堅固な証を築かなくてはなりません。信仰の橋は天の御父と再び永遠に住めるようになるか、または永遠の別離を味わうかという違いを生じます。もし、わたしたちが罪の壁を建てるならば、神の愛と憐れみから引き離されてしまうのです。

聖霊の賜物は信仰の橋の土台です。救いはイエス・キリストによる以外に、またイエス・キリストを信じる信仰を正しく行使する以外に与えられません。そうするときに、わたしたちは罪を悔い改め、橋の手すりとも言うべき救いの儀式を受けることができるのです。この世の障害を克服し、義にかなった選択をしようという気持ちと励ましは聖霊の声に耳を傾けるときにわいてくるでしょう。信仰の橋を渡ることは、想像以上に困難なことかもしれません。橋が嵐に耐えられるかどうかは、すべてその基礎である橋脚の強さにかかっています。人生の嵐や信仰の危機、例えば、死、重



病、失業、あるいは財政不安などは、常に現世に付きまといまふ。そのような危機に直面すると、時々、神や救い主の存在そのものさへ疑ってしまうほど、いらだつことがあるかもしれません。そのようなときにもっと信仰が増すように叫び求めれば必ず、慰め主がこたえてくださるでしょう。これこそ、「常に……^{はんりよ}伴侶となり、……義と真理の不變^{しやく}の笏となる」聖霊なのです(教義と聖約121:46)。

そうです。信仰をもって日々聖霊を求めれば、日々の問題を解決する方法は、必ず見つかります。聖霊はすべてのことを思い起こさせてくださる御方です(ヨハネ14:26参照)。このことを説明するために、何年も前、当時改宗したばかりの人が書いた手紙から引用したいと思います。これはステーキ大会でハロルド・B・リー大管長が話した後、大管長あてに書かれたものです。「大管長が話されてから、ずっと考えていることがあります。それは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、人生はまるでバプテスマによって教会に入る誕生から、永遠の命に向かって死ぬまで、俗世と罪の激流の上に架かった不安定な釣り橋を渡るようなものだ、ということ

です。渡り始めると、バプテスマの直後は安心感や信仰があるものの、眼下の激しい流れや目的地がはるか先にあることに気づくと、安心感に代わって疑いや恐れという発作的な苦しみが増えます。こうして、祈りの習慣や信仰、愛、そして歩みを順調にする労働が影を潜めてしまうのです。疑いと無感動という霧が立ち込め、心と精神はむしろ、歩みは妨げられ、橋の向こう側から流れてくる力強い愛の力への反応が弱くなってしまいます。そういうときには立ち止まり、ひざまずいて、愛の力によって進むべき信仰と方角がよみがえるまで辛抱するのです。」(Conference Report, 1965年4月, 15)

最後に、信仰の橋を完成させるには、永遠の家族になるために親子を結びつけ、一致させるきずなが絶対に必要です。世代間に信仰の橋を架けるのは、彼らも一つとなるためです。ちょうど御父と御子が一つであられるように、永遠の命を受けるという目的において一つになるということです。そのために、戒めが与えられています。まず、子どもたちは父親と母親を敬い、次に両親は子どもたちに「主の前をまっすぐに歩むこと」を教えるのです(教義と聖約68:28)。

例を示しましょう。

第二次世界大戦当時わたしはまだ幼く、祖国は侵略され、危険が満ちていました。母は信頼と一致について大切な教訓を与えてくれましたが、わたしはそれを決して忘れたことはありません。母は戦争が招く様々な危険についてわたしに警告し、一言次^{ひとこと}のように言いました。「お母さんの言うことを信じてついて来なさい。お母さんの声をよく聞くのよ。そうすれば、いちばんいい方法で守ってあげるからね。」わたしは母を愛し信頼していたので、母の言葉に耳を傾けました。

しばらくして学校が始まりました。学校はわたしにとって新しい橋でした。わたしの人生におけるこの新しい経験に備えるため、家を出る前に母は、教師の言葉をよく聞き、素直でいるようにと言いました。今回も母の忠告を信じました。教師によく従い、校則を守ろうと決意したのです。おかげで学校は無知の壁ではなく、知識の橋となりました。

信頼し一致するという教えは、両親、家族、教師と一つとなるうえできわめて大切でした。この教訓のおかげで、後にバプテスマを受けて主の教会に入り、救い主と一致することができました。この教訓は、神殿の聖約を守ることによって、夫、父親、祖父として、家族の中に信頼と一致を続けて築くことを思い出させてくれました。ヒンクレー大管長はこう述べています。「神殿は不死不滅の事柄に関連しています。神殿はこの世と次の世をつなぐ架け橋となります。」(Stand A little Taller [2001年]6)

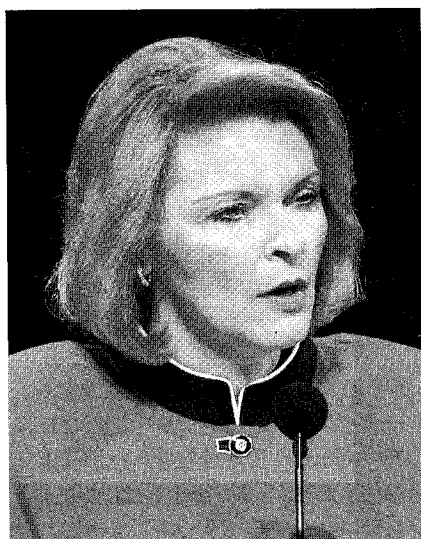
今日、俗世^{こんじち}にかかわることでも霊にかかわることで、また家族や宗教にかかわることでさえも壁を建てることによって孤立することは容易です。しかし、信仰や和解の橋をもっと多く架け、「世が与えるようなもの」ではなく(ヨハネ14:27)、神の御子、イエス・キリストが与えてくださる平安によって生活しましょう。

イエスがキリストであられることを証します。わたしは主と主の救いの福音を信頼し、いつか主と再会できると深く信じています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

人が独りでいるのは 良くない

中央扶助協会第二副会長
シェリー・L・デュー

「結婚でも、家族でも、ワードやステーキでも、夫婦が、両親が、あるいは男女が、一つの目的を持ち協力し合わなければ、可能性を最大限に引き出すことは期待できません。」



この5年間、わたしはアフリカからアマゾンまで、世界中の扶助協会の姉妹たちと神権指導者とともに仕える機会に恵まれてきました。皆さんとのそのような経験を通し、ある基本的な福音の原則の大切さを再認識するようになりました。今日はその原則について、特に若い成人会員の兄弟姉妹たちにお話ししたいと思います。皆さんは人生で最もチャレンジに満ちた時期に差し加ろうとしています。

この夏、わたしは肩を痛めて何週間も片腕が使えなくなってしまいました。それまで、体のバランスを取るのに片方の腕がもう片方の腕にどれだけ依存しているかなど、考えたこともありませんでした。片腕では重い物をなかなか持

ち上げられないし、まったく不可能な事柄もあることに気づきました。この不調のおかげで、体の障害によく対処している方々への尊敬の念を新たにし、両腕を使ってこそ多くを達成できることを知りました。

二人は通常一人に勝ります。¹ 天の御父は「人が独りでいるのは良くない」²と言われ、アダムに助け手を造られました。助け手とは、自分とは別の才能を持っていて自分の能力を補い、均衡を保ってくれる人のことであり、この世の重荷を分かち合い、一人では不可能なことを可能にしてくれる人です。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」³とあるとおりです。

サタンは、義の下に一致した男女の持つ力を知っています。サタンとの戦いで天使ミカエルが率いた天の衆群^{しゅうぐん}は、キリストの大義の下に団結した勇気ある男女で構成されていました。戦いの後で永遠に追放されたサタンは今も敵意を燃やしています。ペテロの恐ろしい言葉^{ことば}を借りれば、「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししの^{しし}のように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」⁴のです。ルシフェルは結婚と家族を食い尽くそうと躍起になっています。この二つが崩壊すれば、巻き込まれるすべての人の救いだけでなく、主の王国そのものの生命力が危なくなるからです。サタンが男女の異なる責任と特性について混乱を引き起こそうとするのは

そのためです。サタンは、性別や結婚、家族、そして男女の結びつきすべてについて誤ったメッセージを浴びせてきます。そのねらいは、男女の差など取るに足りないものであり、固有の賜物^{たまもの}など不必要だとか、逆に、その隔たりが大きすぎて理解し合うことなど不可能だと信じさせることです。そのどちらも間違っています。

天の御父はわたしたちを創造されたとき、御自分のしていることの意義をはっきりと認識しておられました。つまり、人を男と女に創造されたとき、愛し合えるように類似点を与え、互いの力と役割を合わせて初めて完全になれるように相違点を与えられたのです。男性も女性も、自分だけでは不完全です。同様に、結婚でも、家族でも、ワードやステーキでも、夫婦が、両親が、あるいは男女が、一つの目的を持ち、互いの力を尊重しながら頼り合い、協力し合わなければ、可能性を最大限に引き出すことは期待できません。

今日の社会は、神が与えられた男女の責任に関するこれらの真理のほとんどを忘れていました。テレビのホームドラマでも、そして、残念ながら、家族やワードの中でさえそれらを見いだすことができません。しかし、主は忘れてはおりません。主は、わたしたちが「欺かれ^{ごまか}るために……すべてのことに関して規範を与え^{きんぱん}」⁵ておいでになります。夫婦のために、そして主の王国とともに奉仕する男女のためにこの規範を確立したのは、最初の両親であるアダムとエバでした。アダムとエバはともに働き⁶、嘆き^{なげ}、従順に従い、子どもをもうけ⁸、子孫に福音を教えました。⁹ また、主の御名を呼び求め、「主の声を聞^{きこ}き」¹⁰、神の御名をたたえ¹¹、神に自分自身をささげました。聖文には繰り返し、アダムとエバについて「彼ら」という代名詞が用いられています。

神権を持つアダムも、母なるエバも、一人で墮落をもたらしことは不可能でした。彼らの独自の役割はそれぞれ関連し合ったものでした。二人は話し合い、一人で担うには重すぎる荷をともに負い、不安に満ちた荒れ野をともに歩ん

で行ったのです。これこそ義にかなった男女に与えられた主の規範です。

さて、人は理想どおりにいかない状況に直面することがあります。わたしはこのことをよく理解しています。わたし自身もそれに対処しているからです。しかし、愛する若い兄弟姉妹の皆さん、教会と教会の家族の未来は皆さんの手にゆだねられています。主のこの規範に対する皆さんの理解が、皆さんの結婚や家族、そして王国の建設を助ける能力と、永遠の命に影響を与えるということを、わたしは皆さんにお伝えしておかなければなりません。

若い姉妹の皆さん。皆さんの周りには、女性が神権に聖任されないのは不公平だと言い伏せようとする人たちがいます。そのような人たちは間違っており、イエス・キリストの福音を理解していません。男性でも女性でも、神権の祝福は義にかなったすべての人に与えられます。わたしたちには、聖霊と個人の啓示、そして神殿でエンダウメントを受け、力を「帯びて」¹² 出て行く機会が与えられています。神権の力はすべての義にかなった人を癒し、守り、暗黒の力に抵抗する力を与えてくれます。何より重要なのは、主の宮で受ける最高の儀式に含まれる完全な神権は、夫婦一緒になければ受けられないということです。¹³ ハロルド・B・リー大管長はこう語ってい

ます。「清い女性と神権者が一つになって昇栄が可能になるのです。神権者のいない女性や、清い女性のいない神権者では昇栄することはできません。」¹⁴

姉妹の皆さん、わたしたち女性は神権の力によって立場を弱くされているのではなく、むしろ力を増し加えられているのです。わたしはそれが真実であることを知っています。何度も体験してきたからです。

皆さんの将来の夫や、ともに教会で奉仕する男性たちは、皆さんにしか与えられない支えを必要とします。皆さんにはジェームズ・E・ファウスト副管長が男性と同等の、もしくは男性をしのぐ¹⁵ と表現した、内に秘めた強い霊性があるからです。霊的な責任を放棄しないでください。皆さんの信仰には強い説得力があります。鏡の前でどんなに長時間過ごしても、聖霊を伴侶とする人の魅力にはかないません。徳と信仰、高潔さ、そして限りない思いやりという、神の女性にしかできない方法で家族や教会を祝福してください。

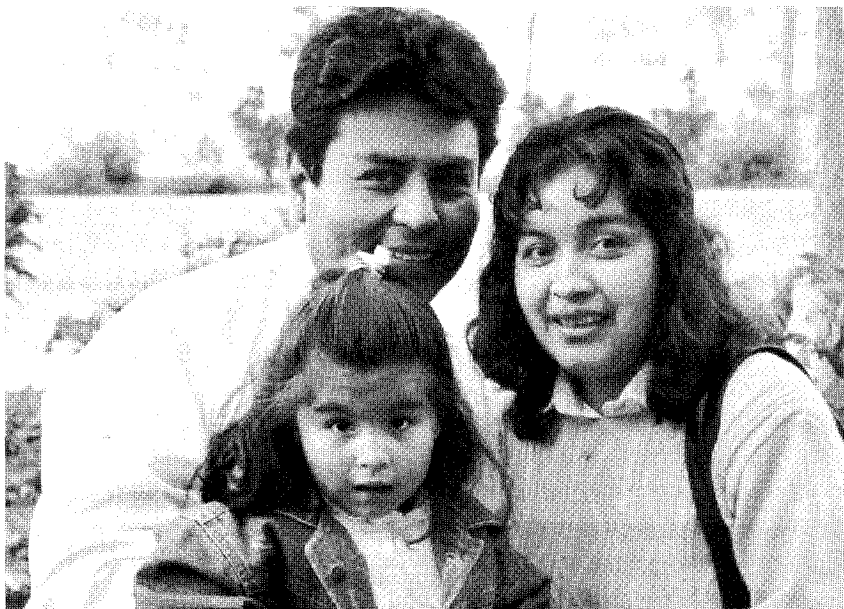
若い兄弟の皆さん、神権への聖任は大いなる特権と責任を伴いますが、神権は人を支配する資格ではありません。奉仕のために与えられたこの神の力を使用するに当たり、いつもふさわしくあってください。御霊に導かれ、神権を尊ぶ男性ほど崇高な存在はありません。

主の御声^{みこゑ}が聞ける徳高い女性と結婚すれば、彼女は生涯を通して毎日皆さんを祝福することになるでしょう。エバを思い出してください。木の実が好ましいのだと最初に気づいたのはエバでした。そして食べ終わってから、「ともにいた夫にも与えたので、彼も食べた」¹⁶ のです。エバがいなかったら、わたしたちの進歩は止まっていたはずです。ダリン・H・オックス長老は、エバのしたことは「永遠の命への扉を開けるうえで必須の栄えある行為」であり、「アダムはよく知恵を使った結果、同じ行為を選びました」¹⁷ と語っています。

若い兄弟の皆さん、いずれ皆さんは家庭と教会で管理の責任を持つことになります。身近にいる女性の話に耳を傾け、彼女たちから学ぼうとする謙遜さを身に付けてください。彼女たちは洞察力、偏りのない考え方、そしてユニークな知恵を提供してくれるはずです。そしてチャレンジに直面したとき、皆さんは父なる神とイエス・キリストに献身する女性の回復力の強さに目を見張ることでしょう。

神が示されたこの男女の規範は、夫婦と家族のきずなだけでなく、教会も強めてくれます。なぜなら、忠実な神権者である男性と、神権者の指示の下で奉仕することを喜びとする義にかなった女性が、一致して働かないかぎり、教会もその作られた目的を最大限に達成することができないからです。わたしはこの喜びを何度となく経験したことがあります。

ブラジルのある集会で、ポルトガル語の通訳者を通してお話したときのことを思い出します。彼女は自分の通訳能力に自信を持ってないでいました。結局、わたしとその姉妹は、楽に意思の疎通ができたのですが、集会が終わってからその理由が分かりました。集会を管理していた中央幹部が、集会の間中、わたしたちの背後で文字どおり席から身を乗り出して、必要に応じて通訳者に小声で助け船を出していたのです。それだけでなく、ほかの神権指導者にわたしたち二人のために集会中ずっと祈ってくれるようお願いしていたのです。





壇上から見た会場の様子。カンファレンスセンターが満席となっているのが分かる。七十人定員会席の後方から撮影。

その中央幹部は、わたしに責任を与えただけでなく、それを無事に果たすことができるように安全網を用意してくれたのです。このようなサポートの輪に終わりはありません。^{*}なぜなら、義にかなった男女が互いに尊敬し合い、主の果樹園で肩を並べて鎌を入れ刈り入れる、という善い業には終わりがありません。神の王国を建設するには、わたしたち神に従う男女は互いに高め合わなければなりません。活発化、定着、家族に関する問題、その他どんなチャレンジであれ、評議会でも話し合い、互いの重荷を軽くするように助け合うとき、わたしたちに解決できないものはありません。

愛する若い兄弟姉妹の皆さん、神がお与えになった男女の規範を今身に付けてください。聖文にあるアダムとエバの話について深く考え、皆さん自身が結婚して家族を持ち教会で奉仕をするときに強くなれるように主が何を教えてください。アメリカにおける最近の破壊的な事件を思うにつけ、厳しい将来の前兆のような気がします。けれども、皆さんの世代の男女が、義をもって、いまだかつてなかったほど一致すれば、将来は自信と勇気

に満ちたものとなることでしょう。神権の指示の下で力を合わせて働き、同じくびきをともに負うときにわたしたちに不可能はないのです。

天の御父の規範はわたしたちを欺瞞^{きまん}から守ってくれます。この世のものでなく主に頼って、男女に関する考えや理想を見つけてください。若い友の皆さん。皆さんこそ、この比類ない時代に母親、父親、そして指導者となるよう取っておかれた特別な霊です。それは天の御父が皆さんを知っておられ、皆さんには雄々しく世に立ち向かって神の王国を建設するだけの力があることを知っておられるからです。力を合わせて働いてください。なぜなら、男性も女性も、「人が独りでいるのは良くない」からです。互いに高め合えば、ともにこの世の重荷も軽くすることができ、とこしえに栄光をその頭に付け加えられます。¹⁸ 主は王国を建設するために義にかなった男女を必要としておられます。わたしはこれが真実であることを知っています。神はわたしたちの御父であって、キリストはその独り子です。これは御二方の業であり、御二方の栄光です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

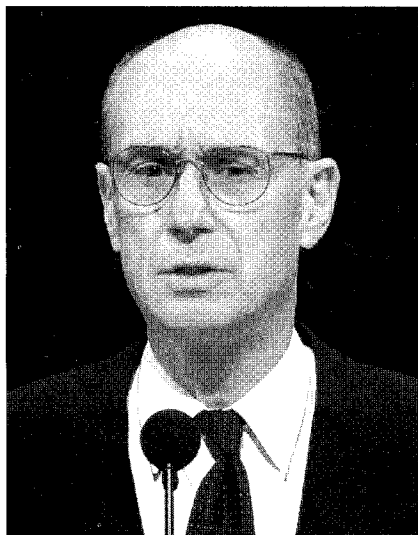
1. 伝道4:9参照
2. モーセ3:18。アブラハム5:14も参照
3. 1コリント11:11
4. 1ペテロ5:8
5. 教義と聖約52:14
6. モーセ5:1参照
7. モーセ5:27参照
8. 2ニーファイ2:20参照
9. モーセ5:12参照
10. モーセ5:4
11. モーセ5:12参照
12. 教義と聖約109:22参照
13. 教義と聖約131:1-4; 教義と聖約132:19-20参照
14. *The Teachings of Harold B. Lee* (1996年) 292
15. ジェームズ・E・ファウスト「神の娘とは何か」『リアホナ』2000年1月号, 122参照
16. モーセ4:12
17. 「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号, 81
18. アブラハム3:26参照

祈り

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

「信仰があれば、自分の願うものを求めて祈ることもできますし、何であれ頂くものに感謝することもできるのです。また、そのような信仰があつて初めて、神がお求めになるような熱心さをもって祈ることもできるのです。」



世界は激動しているように思われます。戦争があり、戦争のうわさがあります。世界のどの大陸でも、経済の動きは鈍っています。世界各地の雨不足のために、穀物の生産が落ち込んでいます。そして天は、危機に陥った人々の祈りで、満ちあふれています。公の場でも私的な場でも、人々は助けを求め、慰めを求め、そして導きを求めて、神に訴え続けているのです。

皆さんも恐らくすでにお気づきのことと思いますが、人々の祈りはその頻度が増ただけでなく、もっと真心からささげられるようになっていくことが最近分かってきました。集会に行くと、壇上では、祈りを依頼された人の近くにわたしの席が用意されていることがしばしばなのですが、近ごろわたしはその祈りを驚きの念をもって聞いています。ささげられる祈りの言葉が、確かに、その力

強さにおいても、そこからにじみ出る思慮深さにおいても、神の靈感を受けたものだからです。そしてその訴える口調は、助けを求めるいたいけな幼子おきなごのようです。地上の親に助けを求めているのではなく、求める前にわたしたちに何が必要かを御存じである全能の天の御父に向かって、助けを求めているのです。

世の中がまるで狂ってしまったのではないかと思われるときに、人々の心は熱烈な祈りへと向かいますが、このような現象は人類の歴史と同じくらい昔からありました。悲劇や危機の時には、人々は祈りを通じて神に心を向けるのです。いにしへのダビデ王も、今起きているような状況を認識していたのでしょう。皆さんは詩篇にあるダビデの言葉を覚えておられることと思います。

「主はしえ上げられる者のとりで、なやみの時のとりでです。」

み名を知る者はあなたに寄り頼みます。主よ、あなたを尋ね求める者をあなたは捨てられたことがないからです。¹

真心からの祈りをささげるべきだとの思いが大いに深まり、公にもそうした考え方が受け入れられていることは、わたしにとっても、ほかの人々にとっても、きわめて注目すべき現象です。最近一度ならず、ある人がわたしにこう言いました。しかも実に熱意を込めて、そしていかにも心配そうに言ったのです。「わたしは、このような変化がずっと続くことを願っています。」

そのような心配は無理もないことです。わたしたち自身の個人的な経験を考えても、また、神とその子どもたちとの間でどのようなやり取りがあったかを

神の記録から読んでみても、その心配が当たっていることがよく分かります。祈りがこたえられれば、神に頼る心はすぐさま消えてしまうのです。そして、問題が少なく、小さなものとなれば、ささげられる祈りも少なく、弱々しいものとなってしまう。モルモン書には、そのような悲しい物語が幾度も繰り返して登場します。

ヒラマン書を見てみましょう。「おお、どうしてあなたがたは、神が助けてくださったその日に、神を忘れることができたのか。」² そして同じ書の後の部分で、神が恵みに満ちた優しさで祈りにこたえてくださった直後の、民の恐ろしいまでの行動パターンが、再び描写されています。

「このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみいつくをもって祝福し、榮えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。」

また、主が御自分の民を榮えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。

またこのことから、主が多くの苦難をもって御自分の民を懲らしめられなければ、まことに、死と恐怖と飢饉とあらゆる疫病を下されなければ、彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。³

そして、同じ章の次の節を読むと、わたしたちがなぜ祝福の源をいとも簡単に忘れ去り、信仰をもって祈る必要性を感じなくなるのか、その理由が分かります。

「おお、人の子らは何と愚かで、虚栄心が強く、邪悪で悪魔に従い、何と罪

悪を行うのが早く、善を行うのが遅いことか。何と悪しき者の言葉を聴くのが早く、俗世のむなしいものに執着するのが早いことか。

まことに、何と高慢になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行うのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅く、主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を歩むのが遅いことか。

見よ、人の子らは、自分たちを造ってくださった主なる神に治められ、統治されるのを望まない。主が深い慈しみと憐れみをかけてくださっているのに、人の子らは主の勧告を軽んじ、主が自分たちの導き手になってくださるのを望まない。」⁴

この3節の短い聖句から、悲しいことにいつの間にか謙遜な祈りを捨ててしまう原因が3つ見えてきます。まず第1に、神はわたしたちが祈るよう願っておられるのに対して、魂の敵は、祈りの大切さを過小評価し、あざ笑うという点が挙げられます。ニーファイ第二書に書かれている警告は真実です。「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがまだ心の中で深く考えているのを承知している。そして、このことについてあなたがたに述べなければならないのは、わたしにとって悲しいことである。あなたがたは、祈るよう人に教えてくださる御霊に耳を傾けるならば、祈らなければならないことが分かるであろう。悪霊は祈るようにとは人に教えず、かえって祈ってはならないと人に教える。」⁵

第2は、慢心から、神を忘れ去ってしまうということです。わずかに繁栄したり平安になったりしただけで、あるいは、ほんの少しだけ改善したというだけで、わたしたちは自分で十分にやっつけけるという気持ちになります。自分の人生は自分でコントロールできる、改善したのは自分の努力の結果であって、御霊の静かで細い声を通じて語りかけてくださる神のおかげではない、といった思いにすぐに駆られます。高慢な思いが心の中に雑音を作り出し、そのために、御霊の静かな声を聞きにくくしています。そして日ならずして、慢心のためにその

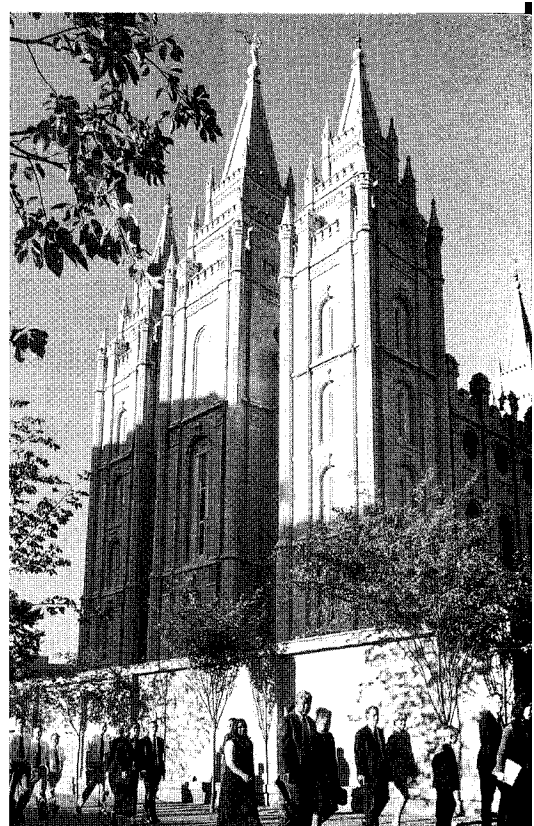
声に耳を傾けようとさえしなくなってしまう。そうすると、自分にはそんなものは必要ないという思いになるのも時間の問題です。

第3の原因は、心の奥深くに根ざしている問題です。わたしたちは愛に満ちた天の御父の霊の子どもです。天の御父はわたしたちをこの死すべき世に置かれ、わたしたちが天の御父の戒めを守り、その愛する御子のみもとに戻る道を選ぶかどうか、(自由に選ぶことができるわけですが)、試しておられるのです。わたしたちは強制されているわけではありません。むしろ、天の御父も御子も強制することはおできにならないのです。そんなことをすれば、幸福の計画を台なしにしてしまうからです。だからこそ、わたしたちの心の中には、自分自身の選びについては責任を取りたいと考える、神から授かった願いが備わっているのです。

自分自身で選びたいというこの願いは、永遠の命へと進む、上り階段の一部です。しかし、もしわたしたちがこの世の目だけを使って物事を見ようとしたら、この願いは、神に頼る思いを弱めてしまいます。さらには、そうした強い願いが自分から出たものであると感じ始めるとき、神に頼る思いはまったく消え失せてしまいます。そう考えると、以下の真の教義は、実に耳に痛い教えとなり得ます。

「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もしやそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」⁶

子どものように従う人々は、御父がひとえに子どもたちの幸福を願っておられることを知っているがゆえに、また、御父しかその道を御存じの方がおられないことを知っているがゆえに、従います。恵まれているときも問題を抱えていると



カンファレンスセンターに向かう途中で
ソルトレーク神殿のそばを通る大会出席者。

きも、従順な子どものように祈り続けるために、わたしたちは御父に対するそのような証を持つ必要があります。

そのような信仰があれば、自分の願うものを求めて祈ることもできますし、何であれ頂くものに感謝することもできるのです。また、そのような信仰があって初めて、神がお求めになるような熱心さをもって祈ることもできるのです。神は祈るように命じられたとき、「絶えず祈る」「常に祈る」「熱烈な祈り」といった言葉をお使いになりました。

こうした戒めを読むと、数多くの言葉を使うことは求められていないと分かります。事実、救い主は、祈るときには言葉数を多くする必要はないと言われました。神が求めておられるような熱意あふれる祈りとは、美辞麗句を連ねた祈りでも、人里離れた所での長時間にわたる祈りでもないのです。それは、モルモン書のアルマ書の中ではっきりと教えられています。

「また、声に出して主に呼び求めないときでも、あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満ちし、それが絶えず主への祈りになるようにしなさい。」⁷

わたしたちの心が神に向けられるの

は、神を愛する心と、神の慈しみを信頼する心に満たされたときだけです。ジョセフ・スミスは、まだ幼い少年だったときでさえ、どのようにしたら神への愛に満ちた心で祈ることができるようになるか、試練や祝福に満ちた生涯を通じで絶えず祈ることができるようになるか、ということについて、一つの模範を示しました。

ジョセフは、愛に満ちた神は必ず祈りにこたえてくださり、混乱から救ってくださるという信仰をもって、祈るために森に向かいました。ジョセフは、神の御言葉を読むことにより、また、それが真実であるという証を得ることにより、その確信を持ちました。ヤコブの手紙の次の言葉を読んだと記録しています。「その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」⁸ 祈りを通じて神に願い求めようというジョセフの信仰は、聖句について深く考え、神が愛に満ちた御方であられるという確信を得た後にもたらされました。ジョセフは、わたしたちに今求められていると同様の、愛に満ちた神を信じる信仰をもって祈りをささげたのでした。

ジョセフは、ただ単に神の言われることを聞くためだけでなく、それに従うつもりで、祈りました。ただ真理を知るためにだけ願い求めたわけではありません。神が自分にお話しになる事柄については、どんなことであれ、それに従って行動する決意ができていたのです。ジョセフの書いた記録を読むと、固い覚悟のうえで祈ったことが明らかです。どのような答えを受けようとも、それに従って行動しようという決意でした。その記録を読んでみましょう。

「この聖句が、このとき、かつて人の

心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった。それはわたしの心の隅々に大きな力で入り込んで来るように思われた。もしだれか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟って、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。なぜならば、わたしはどうしてよいか分からず、また自分がそのときに持っていた知恵よりも深い知恵を得られなければ、どのように行すべきかまったく分からなかったからである。それというのも、様々な教派の教師たちは同じ聖句を異なって解釈し、その結果、聖書に訴えて疑問を解決することへの信頼をすべて打ち砕いてしまっていたからである。」⁹

御父とその愛する御子が、祈りの答えとしてジョセフの前に御姿を現されました。そしてジョセフは、望んでいたとおり、どのように行動すべきかを教えられたのです。彼は子どものように従いました。どの教会にも加入してはならないと告げられました。ジョセフは教えられたとおりにしたのです。そしてその忠実さのゆえに、それからの日々、年々歳々、彼の祈りは光と真理が洪水のように注ぎ込まれることによってこたえられました。イエス・キリストの完全な福音と神の王国の鍵がこの地上に回復されました。ジョセフがへりくだって神に頼ったために、権能と聖なる儀式とともに、福音が回復されたのです。その回復のおかげで、最も貴重な独立を選ぶ機会がわたしたちに与えられています。つまり、イエス・キリストの贖いによる清めの力によって、罪の束縛から自由になることができるのです。

ジョセフ・スミスの使命は、ほかに類を見ないものでした。しかしながら、その謙遜な祈りは、わたしたちにとって有益な模範となり得るものです。ジョセフは、わたしたちに求められているのと同様に、神を信じる信仰をもって御業を始めました。神はわたしたちに語りかけ助けることがおできになり、またそう望んでおられます。ジョセフの信仰は、聖文に書かれている神の僕たちの言葉を深く考えたときにもたらされた強い印象に

根ざしていました。わたしたちは、神の御言葉を度々、そして注意深く研究することができますし、また、そうする必要があります。もし聖文の研究をごく自然にできるようになったら、祈りもごく自然にささげることができるようになるでしょう。

わたしたちは祈ることはやめないかもしれませんが、祈りが、本来の目的を欠いたまま同じ言葉の繰り返しになったり、機械的にささげられたりすることはあるでしょう。自分で知らない神に心に向けることはできません。そこで、聖文や生ける預言者の言葉が、神を知る助けになるはずで、神を知れば知るほど、神を愛するようになるのです。

また、神を愛するためには、神に仕える必要もあります。ジョセフ・スミスはそのような生涯を送り、最終的には、神に仕えるために自らの命をささげたのです。ジョセフはいつも従うつもりで祈っていました。そのように従順であることは、常に人に仕えることも意味していました。神の業において奉仕をするとき、神の御心を幾分か感じることができるようになり、神を知るようになるのです。

「なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができるのか。」¹⁰ 神に対する愛が深まれば、祈りによって御父に近づきたいという願いも、同じように強まってくるものなのです。

この大会で耳にする言葉や音楽は、真心からの祈りをささげなくなる危険に対抗する決意を強めるためにはどのようなことを実践したらよいのか教えてくれることでしょう。聖文を研究するよう促す思いがわき起こることでしょう。その促しに従ってください。また、この大会を通じて、皆さんがバプテスマの水に入ったときに実行しようと決意した奉仕について、思い起こす機会があることでしょう。どうぞ従うことを選んでください。

皆さんが聖文について深く考え、神と聖約を交わした事柄を実践し始めるなら、神に対する愛をいっそう深めることができ、また皆さんに対する神の愛をいっそうよく感じられることを約束いた



します。¹そして、この愛を念頭に置いてささげられる皆さんの祈りは、感謝と願いとで心を満たしつつ、真心からささげられることになります。そして、神に頼る思いも強まります。また、恐れずに、心に平安を抱いて、神に仕える業のために行動を起こそうという勇気と決意とを見いだすことになります。常に祈るようになります。そして、将来どのようなことが起ころうとも、神を忘れるようなことはなくなるのです。

父なる神が生きておられることを皆さんに証します。神はわたしたちを愛しておられます。わたしたちの祈りを聞き、最善のものを用意してこたえてください。神の御言葉を通じ、また奉仕の業を通じて神を知るようになるにつれ、わたしたちは神をいっそう深く愛するようになることでしょう。わたしはそれが真実であることを知っています。

イエス・キリストの完全な福音とイエス・キリストの真の教会は、預言者ジョセフ・スミスを通して回復されました。神権の鍵はこの教会にのみ存在します。わたしは、自分が生きているのと同じように確かに、現在ゴードン・B・ヒンクレー大管長がこの地上でその鍵を持ち、行使していることを知っています。イエス・キリストは生きておられます。わたしはそのことを知っています。そして、主は今日も御自身の教会を導いておられます。この大会において、御自身の僕たちを通じて、皆さんを教え導いてくださるのです。

イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. 詩篇 9:9-10
2. ヒラマン 7:20
3. ヒラマン 12:1-3
4. ヒラマン 12:4-6
5. 2ニーファイ 32:8
6. モーサヤ 3:19
7. アルマ 34:27
8. ヤコブの手紙 1:5。ジョセフ・スミス—歴史 1:11も参照。
9. ジョセフ・スミス—歴史 1:12
10. モーサヤ 5:13

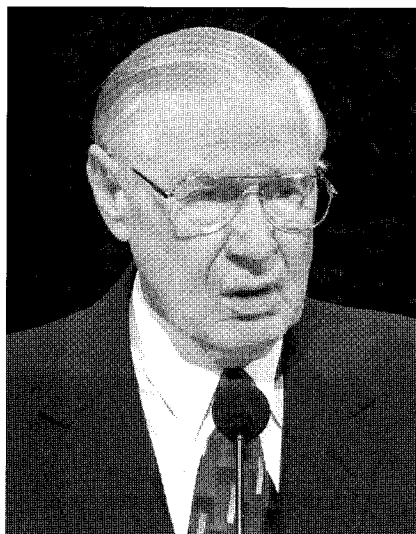
あがな

贖い—— 最も大いなる希望

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

「わたしたちの救いは、贖いをいかに信じ、受け入れるかにかかっています。贖いを受け入れると、贖いをより完全に理解するためのたゆみない努力が必要になるからです。」



愛する兄弟姉妹、友人の皆さん、今朝わたしは、歴史上で最も偉大な出来事についてお話するために、へりくだってこの壇上に立っています。そのすばらしい出来事は、わたしたちの主であり救い主であるキリスト・イエスのたぐいまれな贖いの業です。これは過去に行われた中で最も卓越した業であると同時に、最も理解が困難な事柄です。贖いについてできるかぎり学びたいというわたしの思いは、幾分利己的です。わたしたちの救いは、贖いを信じ、贖いを受け入れることにかかっています。¹ 贖いを受け入れると、贖いをより完全に理解するための継続的な努力が必要になるからです。贖いによってわたしたちは完全になるこ

とができ、それによりわたしたちは現世で成長し、その目的を果たすことができます。² わたしたちは皆罪を犯しているため、悔い改めてわたしたちが払える負債を完全に支払う必要があります。真心から悔い改めたとき、救い主の偉大な贖いにより、残りの負債が支払われるのです。³

パウロは、贖いの必要性について簡潔に説明しています。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」⁴ イエス・キリストは、創世の以前から贖い主に指名され予任されました。神の御子として罪のない生涯を歩み、ゲツセマネの園で血を流し、十字架上の苦痛に満ちた死とその後起こった墓からの肉体の復活により、イエスは救いの源となり、すべての人類のために贖いの業を完成されたのです。⁵

贖いとキリストの復活について理解すると、キリストとその使命に関する知識を得られるようになります。⁶ キリストの贖いの犠牲に対する理解が深まると、キリストにさらに近くなることができま。贖い(atonement)は文字どおりキリストと「一つ」になること(at-one-ment)を意味します。贖いの本質とその効力は、非常に深遠かつ無限であり、計り知れないものです。死すべき人間の理解と知識を超えているからです。わたしは、恵みによって救われるという原則に深く感謝しています。多くの人は、イエ

スがキリストであられると告白することだけが必要であり、その後は恵みだけで救われると考えています。しかし恵みだけで救いを得ることはできません。「わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているから」です。⁷

数年前、ゴードン・B・シンクレイ大管長は、「一種のたとえ」として、「バージニアの山あいにある、教室が一つしかない学校」についての話をしました。「男の子たちはとても乱暴で、その子たちを制することができる先生はいませんでした。」

そんなある日、一人の若い、経験の浅い先生が赴任して来ました。教師は皆ひどい仕打ちを受けていると言われましたが、その先生は覚悟を決めました。最初の登校日に、その先生は、男子生徒に自分たちの規則と、規則を破ったときの罰を作るように言いました。クラスの生徒は10の規則を挙げ、それらが黒板に並びました。そしてその先生は言いました。「規則を破った人にはどうしますか。」

「上着を脱がせて背中を10回、鞭でたたく」という答えが返ってきました。

1日かそこらたったとき、……トムという体の大きな生徒の弁当が盗まれました。「盗んだ生徒が分かりました。10歳ぐらいの、体の小さな、おなかをすかせた生徒でした。」

小さなジムは、罰を受けるために出て来ると、上着を脱がなくても済むように嘆願しました。「上着を脱ぎなさい。」先生が言いました。「君も規則を作る手伝いをしたんだから。」

その男の子は上着を脱ぎました。彼は下着を着ていず、体はやせて少し障害がありました。先生が棒を持って躊躇していると、体の大きいトムが素早く立ち上がり、代わりに罰を受けると申し出ました。

「いいだろう。ほかの者が身代わりになれるという法律もある。みんなは賛成かい」と先生が聞きました。

トムの背中を5回打ったところで、棒が折れてしまいました。クラスのみんながすすり泣く声が聞こえました。「小さなジムが来て、両手をトムの首に回して

抱きつきました。『トム、ごめんね。君の弁当を盗んだりして。ぼく、とてもおなかすいていたんだ。トム、ぼくは死ぬまでずっと、君のことが大好きだよ。ぼくの代わりに鞭を受けてくれた君のことが。そうさ、永遠に君が好きだよ。』」⁸

それからシンクレイ大管長は、イザヤ書を引用しました。

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……

……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」⁹

救い主が受けられた苦痛のすべてを知る人はだれもいませんが、聖霊の力により、主がわたしたちにお与えになった天の賜物の幾分かを知ることができます。¹⁰ 聖餐の賛美歌に次のような言葉があります。

「われら、その苦痛知り得ぬとも
主の苦しみ、わがためと信ず」¹¹

イエスはわたしたちのために、幾多の痛み、「言葉に表せないほどの苦痛」、「強烈な責め苦」¹²を受けられました。ゲツセマネの園で激しい苦しみを受けられ、全人類のすべての罪をその身に負われ、「苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受け」られたのです。¹³「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られ」¹⁴しました。そしてこう言われました。「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように。」¹⁵ イエスは、イスカリオテのユダに裏切られ、ペテロに否定されました。祭司長と役人にあざけられました。法廷では、衣を引き裂かれ、こぶしで打たれ、つばきをかけられ、鞭で打たれたのです。¹⁶

イエスはゴルゴタに連れて行かれ、手足に釘を打たれました。「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」¹⁷とピラトが書いた罪状書きを付けた木製の十字架にはりつけになり、何時間も苦しめました。

地上の全面が暗くなって、「三時ごろに、イエスは大声で叫んで、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」¹⁸ だれも主を助けることができませんでした。主は独りで酒ぶねを踏まれたのです。¹⁹ それから、「イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられ」ました。²⁰ そして、「ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出」ました。²¹ 「地震があり」、そして「百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、『まことに、この人は神の子であった』と言」いました。²² 賛美歌の中に、「カルバリの十字架に、血流して、死にし救い主、思わせたまえ」²³ という言葉があります。わたしのためにどれほどの血を流されたのかと思うと胸が詰まります。

イエスが行われたことは、神のみがおできになることでした。肉体における御父の独り子として、イエスは神聖な属性を受け継がれました。イエスはこの世に生を受けた人の中で、この最も重要で神聖な業をなし得る唯一の御方でした。この地上に生きた唯一罪のない人として、イエスは霊の死に服従されませんでした。その神性により、肉体の死を克服する力も持っておられました。このようにして、イエスはわたしたちが自分ではできないことを、わたしたちのために行ってくださいました。イエスは死の冷たい縄目を解かれました。イエスはさらに、わたしたちが聖霊の賜物による、この上ない静かな慰めを得られるようにされたのです。²⁴

贖いと復活により、多くのことが成し遂げられました。贖いは悔い改めを条件として、わたしたちを罪から清めてくれます。悔い改めは、憐れみを受けるための条件です。²⁵ 最後の1コドラントを払うためにわたしたちができるすべてのことを行い、過ちを正した後に、わたしたちを清めて完全にする贖いを通して、生活の中で救い主の恵みにあずかることができます。²⁶ キリストの復活は、死を克服し、わたしたちが死後

も墓を超えて生き続ける確証を与えてくれました。キリストはこう言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」²⁷ 復活は無条件で、かつて生を受けた人とこれから生を受ける人すべてに与えられます。復活は無償の賜物です。²⁸ ジョン・テラー大管長はこのことを適切に表現してこう言いました。「墓が開けられ、死者は神の御子の声を聞くでしょう。そして墓から出て来て、善を行った人々は忠実な人の復活を受け、悪を行った人々は、忠実でない人の復活を受けます。」²⁹

現世での行いと贖いに関して、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は深い洞察を示してこう言いました。

「〔救い主は〕わたしたちの背きに対して最低限の罰をお与えになると思います。わたしは、主がお持ちの無限の愛と祝福、憐れみ、親切な心、そして思いやりのすべてを御自身の正義に込められると信じています。……

それとは逆に、善い行いに対する報いについて言えば、わたしたちが犯した過ちを心に留めながらも主は、可能なかぎり最大の報いをお与えになると信じています。」³⁰

イザヤが書いているように、わたしたちが主に立ち返るなら、「主は豊かにゆるしを与えられる」のです。³¹

わたしたちは毎週聖餐を受けることにより、救い主の執り成しと十字架上の死と贖いの意義深い出来事を思い起こすように命じられています。聖餐の祈りの言葉を心に留め、わたしたちのために犠牲となられた体と血を記念してパンと水を頂きます。そして、いつも御子の御霊を受けられるように、御子を覚え、御子の戒めを守るのです。

わたしたちの贖い主は、かつて生を受けた人とこれから生を受けるすべての人の罪、苦しみ、弱点、病のすべてをその身に引き受けられました。³² 主ほどの苦しみを受けた人はいません。贖い主は御自身の経験により、わたしたちが受ける現世での試練を知っておられます。その試練とは、いわばエベレスト山に登ろうとして、ほんの数メートル登っただけの



カンファレンスセンターに集まった会衆に手を振るゴードン・B・ヒンクレー大管長。後ろに立っているのは、(左から)十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、リチャード・G・スコット長老、および大管長会のトーマス・S・モンソン副管長とジェームズ・E・ファウスト副管長。

労苦にすぎないものです。しかし贖い主は、山の頂上までの8,640メートルを登られました。贖い主は、死すべき人間のだれよりも苦しめたのです。

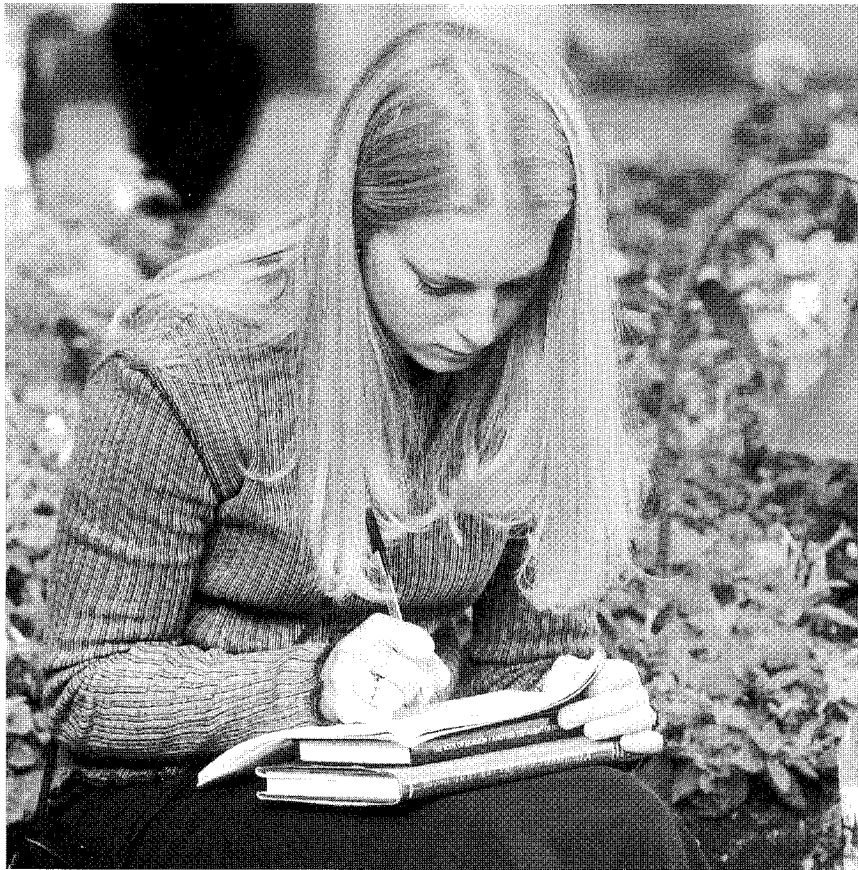
贖いは罪人だけにでなく、罪を犯した相手、すなわち罪の犠牲者にも恵みをもたらします。「わたしたちに対して罪を犯した人」(ジョセフ・スミス聖書マタイ6:13より和訳)を赦すことにより、贖いはほかの人々の罪悪による、罪のない犠牲者が必要とするだけの平安と慰めを与えます。人を癒す根源は、イエス・キリストの贖いです。個人的な悲劇の苦しみに対する癒しであっても、最近ニューヨーク、ワシントンD.C.、ピッツバーグ郊外で起きた国家的な大惨事の苦しみに対する癒しであっても、それは確かに与えられます。

悲痛な思いで離婚した一人の姉妹が、贖いから力を得た経験について書いています。彼女はこう語っています。「離婚によって、……人を赦すという義務がなくなったわけではありませんでした。ほんとうに赦したいと思っていましたが、わたしにはもともと不可能なことを命じられているように思えました。」監

督は彼女に良い助言を幾つか与えてこう言いました。「あなたの心に赦すためのゆとりを持続してください。そして赦す気持ちが入って来たら、迎え入れるのです。」何か月もの間、赦すための苦闘が続きました。彼女はそのときの様子をこう振り返っています。「あの長い祈りの間、……愛する天の御父から送られる慰めの命の泉に触れてきました。天の御父は、まだ赦せないでいるわたしに失望をもって待っていらっしやるのではなく、むしろ涙を流しているわたしと一緒に悲しんでおられることに気づいたのです。……

最終的にわたしの心に生じたのは、キリストの贖いについての驚くほどの奇跡的な証です。わたしはいつも、罪人が悔い改めの過程を踏む手段として贖いを理解していました。しかし罪の犠牲者にとって、赦しの心地よい平安を心に受ける効力があるとは知りませんでした。」³³

傷ついた人は、試練を乗り越えるためにできる限りのことをしなければなりません。そして救い主は、「〔民〕の弱さに応じて」救われるのです。³⁴ 救い主は、



わたしたちが重荷を運ぶときに助けてくださいます。ある人々は非常に深い傷のため、より高い所から与えられる力の助けと次の世での完全な正義と回復に対する望みがなければ癒されることができません。³⁵ 救い主は、わたしたちが感じ経験し得る、あらゆる事柄に耐えられたので、弱い人がさらに強くなるように助けることがおできになります。救い主はすべての試練を自ら経験されたからです。主はわたしたちの苦痛を理解され、わたしたちが最も困難な時期でさえともに歩んでくださるのです。

わたしたちは贖いがもたらす最終的な祝福を強く望んでいます。それは、救い主と一つとなり、救い主の御前に行くことです。また、わたしたちが、救い主からにこやかにほほえんで温かく迎えられ、それぞれの名前が呼ばれ、両手を広げて招き寄せられ、限らない愛をもってその御腕に抱かれることも心から願っています。³⁶ もしわたしたちが救い主の御前にふさわしいとすることができるなら、それは何と栄光に満ちた感動的な経験となることでしょう。救い主の大

いなる贖いの犠牲によりわたしたち一人一人に与えられる無償の賜物とは、昇栄するための唯一の道です。その道によってのみ、わたしたちは救い主の御前に立ち、顔と顔を合わせることができるのです。贖いの大いなるメッセージは、救い主がわたしたちすべてに抱いておられる完全な愛です。この愛は、あふれるばかりの憐れみ、忍耐、恵み、公平、長く堪え忍ぶことに満ちた愛、そしてとりわけ、赦しに満ちた愛なのです。

サタンの悪の影響力が、間違いを克服しようとするわたしたちのあらゆる望みを打ち砕こうとすることでしょ。サタンは、わたしたちは道に迷っていて望みはないと思わせることでしょ。しかし、それとは対照的に、イエスはわたしたちを引き上げるために手を差し伸べてくださいます。わたしたちは、悔い改めと贖いの賜物により、救い主の御前にふさわしい状態で立てるように備えることができるのです。これらのことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

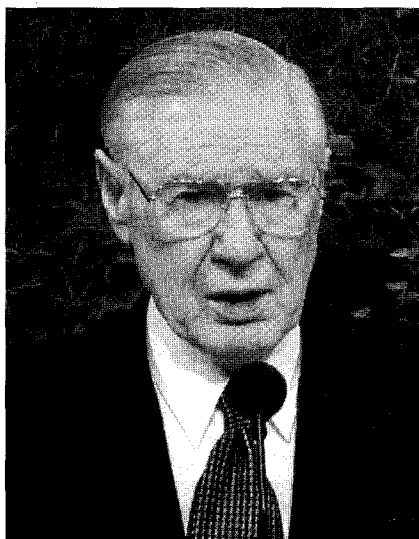
注

1. モーサヤ4:6—7参照
2. モロナイ10:32参照
3. 2ニーファイ25:23参照
4. 1コリント15:22
5. 『聖句ガイド』『贖い』の項、8参照
6. モルモン書ヤコブ4:12参照
7. 2ニーファイ25:23、強調付加
8. ヒンクレー大管長「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」4—6参照
9. イザヤ53:4—5
10. 1コリント12:3参照
11. 「街を離れたる青き丘に」『賛美歌』110番
12. ジョン・テラー, *Mediation and Atonement* (1892年) 150
13. 教義と聖約 19:18
14. ルカ22:44
15. マタイ26:42
16. マタイ26:47—75, 27:28—31参照
17. ヨハネ19:19
18. マタイ27:46
19. 教義と聖約 133:50参照
20. マタイ27:50
21. ヨハネ19:34
22. マタイ27:51, 54
23. 「われら祈りまつる」『賛美歌』97番
24. ヨハネ15:26参照
25. アルマ42:22—25参照
26. 2ニーファイ25:23; アルマ34:15—16, 42:22—24; モロナイ10:32—33参照
27. ヨハネ11:25
28. 使徒 24:15参照
29. *The Gospel Kingdom*, G・ホーマー・ダラム選(1943年) 118. ヨハネ5:28—29も参照
30. "As Ye Sow . . .," Brigham Young University Speeches of the Year, (1955年5月3日), 7
31. イザヤ55:7
32. アルマ7:11—12参照
33. (匿名) "My Journey to Forgiving," *Ensign*, 1997年2月号, 42—43
34. アルマ7:12
35. アルマ7:11参照
36. アルマ26:15; モルモン5:11:6:17; モーセ7:63.

教会役員の支持

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の要請により、これから皆さんの賛意の表明を頂くため、教会の中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会会長会の名前を提議いたします。

わたしたちはゴードン・ビトナー・ヒンクレーを預言者、聖見者、啓示者、および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持するよう、またトーマス・スペンサー・モンソンを第一副管長として、ジェームズ・エスドラス・ファウストを第二副管長として支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表してください。もし、反対の方がいれば、その意を表してください。

トーマス・スペンサー・モンソンを十二使徒定員会会長として、ボイド・ケネス・パッカーを十二使徒定員会会長代理として、また次の方々を十二使徒定員会会員として支持するよう提議いたします。ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マ

ックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング。賛成の方はその意を表してください。反対の方。

わたしたちは副管長および十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議いたします。賛成の方は皆その意を表してください。もし、反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

L・アルディン・ポーター長老、マーリ

ン・K・ジェンセン長老を七十人第一定員会会長会から解任するよう提議いたします。また、L・アルディン・ポーター、ボーン・J・フェザーストーン、レックス・D・ピネガー、ジョン・K・カーマック、L・ライオネル・ケンドリックの各長老を七十人第一定員会から解任し、七十人第一定員会の名誉会員の称号を与えるよう提議いたします。この提議に賛成の方は、皆その意を表してください。

わたしたちは七十人第二定員会における働きに感謝し、リチャード・B・ワースリン、リチャード・E・クック、ウェイン・M・ハンコック、レイ・H・ウッドの各長老を榮譽をもって解任いたします。また、以下の方々を地域幹部七十人から榮譽をもって解任いたします。ノーマン・C・ボーム、ジェス・L・クリステンセン、デール・L・ドランスフィールド、デビッド・W・エカ、ジェームズ・E・グリフィン、エステバン・ゲバラ、ロナルド・J・ハモンド、トーマス・A・ホルト、エルンスト・フス、フリオ・H・ハラミヨ、ロイド・W・ジョーンズ、渇沼誠二、J・グレ

手車の開拓者たちの犠牲を思い起こさせてくれる、テンプルスクウェア内の像。



ー・ラーキン、中村晴兆、カール・E・ネルソン、ジェズス・ニエビス、ロドリゴ・オベソ、ジェームズ・S・オルソン、グレン・A・オーバートン、ウィリアム・W・バームレー、ステイーブン・H・ポンド、マイケル・T・ロビンソン、ホルヘ・W・ベンチュラ、クレイグ・T・ピンセント。感謝を表明してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

わたしたちはマーリン・K・ジェンセン、ニール・L・アンダーセン、ジョン・H・グローバーグの各長老を中央日曜学校会長会から、ロバート・K・デレンバック、F・メルビン・ハモンド、ジョン・M・マドセンの各長老を中央若い男性会長会から感謝をもって解任するよう提議いたします。賛成の方は皆、手を挙げてその意を表してください。

チャールズ・ディディエ長老、セシル・O・サミュエルソン長老を七十人定員会会長会の会員として支持するよう提議いたします。賛成の方は皆、その意を表してください。反対の方は皆、同様にその意を表してください。

カーロス・J・ガルシア、R・ランドール・ハフ、ジョン・W・ヤードレーを地域幹部七十人として支持するよう提議いたします。賛成の方は皆、その意を表してください。反対の方。

セシル・O・サミュエルソン、ジョン・H・グローバーグ、リチャード・J・メインズの各長老を中央日曜学校会長会として、またF・メルビン・ハモンド、グレン・L・ベイス、スペンサー・J・コンディエーの各長老を中央若い男性会長会として支持するよう提議いたします。賛成の方は皆、その意を表してください。反対の方。

わたしたちはそのほかの中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

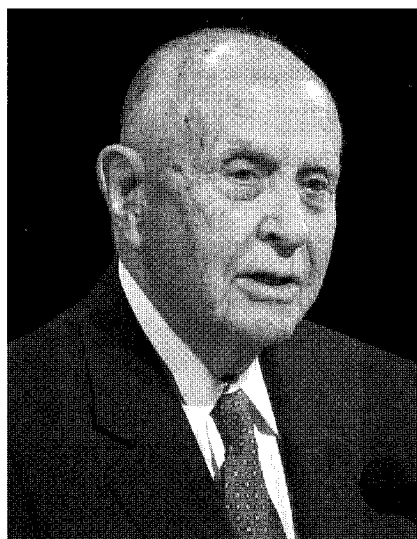
支持の提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹、皆さんの信仰と祈りに感謝いたします。

わたしたちの 預言者の信仰

十二使徒定員会
デビッド・B・ヘイト

「わたしたちに必要なのはブリガム・ヤングが持っていたような信仰であり、ゴードン・B・ヒンクレーが持っているような信仰であり、わたしたちの預言者であり指導者である人々が持っているような信仰です。」



先 ほどヒンクレー大管長を教会の大管長として、また預言者、聖見者、啓示者として支持し、そしてほかの中央役員を提議されたことに支持することを表明するために手を挙げました。わたしはそのとき、心に燃えるものを感じました。皆さんも同じように感じていらっしゃることを望んでいます。現在地上に生きている預言者を支持するということは、わたしたち全員にとって何とすばらしく偉大な特権でしょう。それはただここに座って何となく手を挙げるのではありません。単に大管長を支持するだけでなく、大管長がこれまでに行ってきたこと、わたしたちを代表して世に向けて行ってきた事柄に賛同していることを心に感じる機会なのです。特にこの数日間、あるいは数週間、大管長が驚くべき、靈感あふれ

る方法で世界の人々に伝え、語ってきたことにわたしたちは感謝しています。

数年前、ニューヨーク市のニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めていたアルトゥーロ・トスカニーニは、当時土曜日の午後にラジオ番組を持っていました。ある日、トスカニーニは郵便物の中に、しわくちゃで少し黄ばんだ紙を見つけました。次のように書いてありました。

「親愛なるトスカニーニ様、わたしはワイオミングの山中で寂しく羊飼いをしている者です。わたしには宝物が二つあります。一つは古いバイオリン、もう一つは電池式のラジオです。電池が残り少なくなって、ラジオが聞こえにくくなってきました。それにバイオリンは音が合わなくなって、弾けなくなりました。そこでお願ひですが、次の土曜日の放送で、『イ音』を流していただけませんか。」

翌週の番組でアルトゥーロ・トスカニーニはこのような言いました。「ワイオミングの山中に住む新しい友人のためにニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団がこれから、全員で完全な『イ音』を奏でます。」そして、全楽団員は完全な『イ音』を奏でました。こうして孤独な羊飼いは『イ音』の弦を合わせ、それから完全な『イ音』に基づいて『ホ音』の弦、『ニ音』の弦、『ト音』の弦を合わせることができました。

わたしたち自身の生活やわたしの話を今聞いていらっしゃる多くの人々の生活の中で——皆バイオリン、つまり生活

の音程が少しずれている可能性があるのではないと思うのですが——その生活の中で、教会の総大会に出席してすばらしいメッセージを聞けるということは、思えば実に興味深いことではないでしょうか。ここで話す機会を与えられているわたしたちは、快活に、力強く、いきいきと話すことができるように熱心に祈っています。人生のたそがれと言われる時期に入ったわたしとも同じです。皆さんの前に立って、この業が真実であることを証するのです。わたしはその証人なのです。

皆さんの多くがそうでいらっしゃるように、あるいはそう望んでおられるように、わたしは末日聖徒の家庭で育ち、教会ではぐくまれ、その後世に出て行って生活し、多くの場所で人々と交わる機会を得ました。政府や実業界、その他様々な人と交わりました。そのような人々と語り合い、皆さんが心に抱いているような気持ちを分かち合うことができました。

ヒンクレイ大管長はわたしたちと集会を持つときにしばしば——確か公の場でも話したことがあると思いますが——自分の机の後ろの壁にかけてあるブリガム・ヤングの絵について話してくれます。ヒンクレイ大管長は1日のうちに非常に多くの難しい決断を下さなければならないときがあります。そのようなときに大管長はいすを回して、後ろのブリガムの絵を見上げて、「ブリガム兄弟、このようなとき、あなただったらどうしていたでしょうか」あるいは「何か提案はないでしょうか」と声に出して、あるいは心の中で問いかけることがあります。

この数年間に起きたことに思いをはせてください。この数年間にヒンクレイ大管長が教会の拡張に関してどのような靈感と指示を受けてきたか皆さんはよく御存じだと思います。数々の神殿を建設したこと、ホテル・ユタを見事に改築しジョセフ・スミスの名を冠したジョセフ・スミス記念館にしたこと、そして今日わたしたちが集っているカンファレンスセンターを建築したこと。このような建物は世界中どこを探しても見当たらないと思います。長年にわたってヒン

クレイ大管長とともに働き、傍らに立って、大管長の言葉に耳を傾け、交わってきたわたしたちにとって、この業が靈感に基づいて拡張し前進する様を見、肌で感じ、その一翼を担ってこられたことは何とすばらしい経験であり、祝福でしょう。

さて、ブリガム・ヤングに思いを向けて、この驚くべき人に与えられた靈感と指示について深く考えるときに、預言者ジョセフ・スミスの死によって空いた指導者の地位をどのようにして埋めたか、靈感と啓示によってノーブーを閉鎖し西部への旅を計画するという責任をどのように引き受け、導き、指示したかが思い起こされます。当時ノーブー神殿を完成するための働きが続けられていたことやノーブーでの作業を継続するためにどのような方法が取られたかが思い出されます。その一方で幌馬車隊を組織し、西部を目指して平原を横断し、後にシオンとなるソルトレーク盆地に入り、この地で礼拝し、教え、福音を説き、集会所やそのほか、この地で繁栄した文明と文化を育て押し広げるために必要なすべての施設を建設したのです。

ブリガム・ヤングはソルトレークに大

都市を建設するだけでなく、民をほかの定住地へ出て行かせるという靈感も受けてきました。そのことについて考えてみてください。この盆地に大挙して流入して来る開拓者たちが、定住し、家庭を築き、町や共同体を建設し、個性や人格を築き、才能を伸ばせるような盆地や地域を、ソルトレーク・シティーから離れた場所に見つけておこうという先見の明が彼にはありました。こうしてブリガム・ヤングの指導の下で、ソルトレーク1か所に大都市を建設するのではなく、ユタの内部はもとより、遠くワイオミング州、ネバダ州、アリゾナ州、アイダホ州南部にまで約360の共同体が築かれました。

人々はソルトレークを出て、これらの小規模の共同体を築く一方で、学校の委員会や町の評議会で働くことによって才能と能力を伸ばし、小さな町で指導的役割を果たすようになりました。彼らは地域の住民となり、学校をつくり、これらの共同体を拡張していきました。わたしたちはブリガム・ヤングが心に描き、定着に力を注いだこれらの地域でどのようなことが起きたかを現在目にしています。定住地がどのようにして発展した

大会の部会終了後、マージョリー夫人をエスコートしてカンファレンスセンターを退場するゴードン・B・ヒンクレイ大管長。続いて退場しているのは、大管長会のトーマス・S・モンソン副管長、ジェームズ・E・ファウスト副管長およびボイド・K・バックナー十二使徒定員会会長代理。

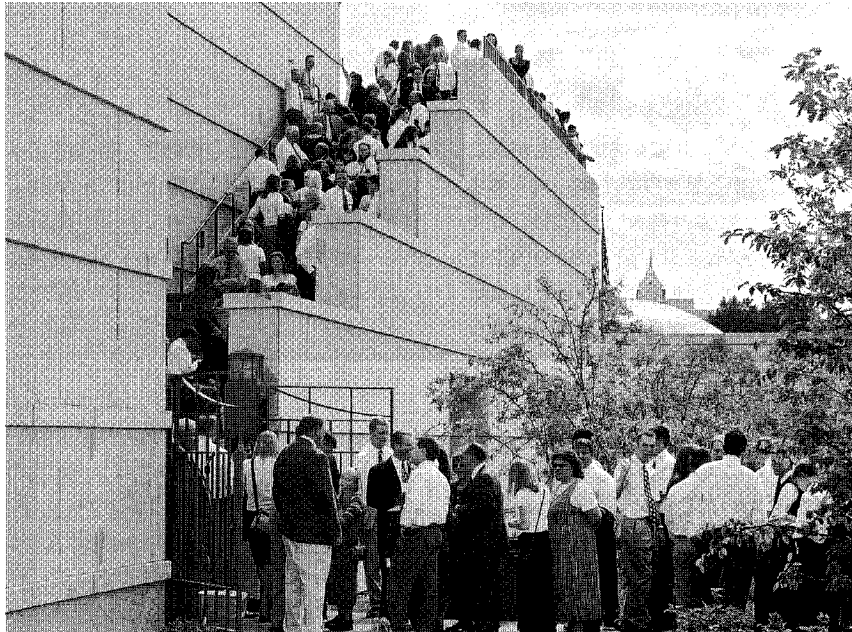


かを少し考えてみてください。例えば、カリフォルニア州サンバーナーディノへ向かう人々のためにネバダ州ラスベガスに一つの定住地が開発されました。人々は船でカリフォルニア州サンパドロに到着してから、サンバーナーディノで旅支度をしてこの盆地に来ることができました。それから、ユタ州南部のサンピート郡や、北に進路を取ってアイダホ州やその他の地域へ向かったのです。

わたしはそのような環境の中で生まれました。母の家族はここソルトレーク・シティーに到着すると、ユタ州西部のツエレに定住地を築くために派遣されました。後にはアイダホ州へ派遣されました。製材所と製粉所を建設する必要があったからです。父の家族はユタ州ファーマントンに定住しました。わたしが話しているこの、人々を強め機会を与える入植事業の一環としてです。人々は大都市の中で埋もれてしまうのではなく、能力を伸ばすことができ、もっと多くの学校が築かれ、もっと多くの教師が必要となり、才能のある人たちが能力を伸ばすことができる小さな共同体へ移るよう求められました。以上の理由からわたしの先祖はファーマントンとツエレを去り、肥沃な農地を売って、当時は山よもぎしか生えていなかったアイダホ州南部へ行くよう求められたのです。

このような小さな開拓地でわたしの父と母は互いを思い慕うようになりました。20歳になって結婚する準備ができたなら、彼らはどこで結婚するのでしょうか。ユタ州ローガン神殿です。どのようにしてローガンまで行くのでしょうか。1頭立ての軽装馬車です。どのくらいの時間がかかるのでしょうか。何と5日か6日あるいは7日です。広い道路や平らな道があったのでしょうか。もちろんありませんでした。ほかの輓馬車が山よもぎを踏みしめ、灌木を抜け、石を乗り越えてできた道を行ったのです。彼らはどこで結婚するのでしょうか。どこで結び固めを受けるのでしょうか。ほかのどこでもありません。神殿です。彼らは1頭立ての軽装馬車で行きました。

それはわたしにとって一つの受け継ぎとなりました。これらの小さな町で育っ



カンファレンスセンターわきの階段に並んで入場を待つ人々の長蛇の列。

た人々にとってもそうでした。その後、教会は幾つかのアカデミーを開くことを決めました。遠く離れたこのような幾つかの地域に約30のアカデミーを開いたのです。そうした小さなアカデミーの一つがわたしたちの町にもできました。そして、高等教育を受けるために近隣の共同体から多くの人々がその小さな町に移って来るようになりました。もちろん、高等教育といっても単なる高等学校でした。しかし、'アカデミーと呼ばれていました。

わたしは、現在ソルトレーク・シティーを取り囲む山間地方の開発と定住に関して何年も前に預言者ブリガム・ヤングに与えられた靈感について話しています。今日のわたしたちがどのような民になっているかについて、この業がどれほど発展してきたかについて、またヒンクレー大管長が預言者、聖見者、啓示者、指導者であることによって生活の中で得ている祝福について考えてみてください。今どのようなことが起きているか、さらに、すでに始まっていることを継続する信仰さえあれば将来どのようなことが起きているはずか心に思い浮かべてください。教会の将来と、現在成し遂げつつあることに思いをはせてください。

ヒンクレー大管長はこの民が信仰をもっと深める必要があることについてしばしば語っています。そのような信仰は、福音の原則に従って生活し、正しい生活を送り、あるべき姿に子どもたちを育

てることにより得られるのであり、子どもたちが性格や人格を磨いてわたしたちの信じている教えを実行する人になり、わたしたちが達成したいと願っていることを子どもたちが達成するのを見るときに得られるのです。

皆さんは精神に異常を来した息子を持った父親の話をよく記憶しておられると思います。彼は救い主のみもとへ行って、息子を祝福して、悪霊を追い出していただけるかどうか尋ねました。彼は救い主にこう言いました。「その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした。」救い主はその少年を祝福されました。すると悪霊はたちまち離れ去りました。すると弟子たちは救い主のみもとへ来て言いました。「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか。」(マタイ17:14-21参照) 救い主は以前にも「信仰の薄い者たちよ」と言っておられました(マタイ16:8)。

もしあなたがたに小さな信仰、あの小さな木の名を思い出そうとしているのですが。[ヒンクレー大管長が「からし種」と言葉をかける。]からし種です。大管長、ありがとうございます。(わたしはいつも大管長にそばにいて助けをもらうようにしています。)もし、からし種1粒ほどの信仰があるなら。たぶん皆さんの中からし種を見たことがある人はそう多くないと思います。何年か前にエルサレムを訪れて、車に乗っていたとき、

運転手が「ああ、あそこからしの木がありますよ」と言いました。わたしは「見に行きましょう」と言いました。わたしたちは車を降りて、そのからしの木を見ました。その木は小さなさやをつけていました。わたしはそのさやを開いてみました。それは針槐はりえんじゅの木がつけているものとよく似ていました。そしてその種とよきなら、小さなコショウの粒ほどもありませんでした。

救い主が人々に教えるために使われたたとえを思い浮かべてください。もしあなたがたに非常に小さなからし種ほどの信仰があるなら、そしてわたしはその種を手にとってみましたが、ほとんど見えないほどでした。もし、あなたがたにそれだけの信仰があるならば、山に向かって、「ここからあそこに移れ」と言えば、移るでしょう。もしあなたがたにそれだけの信仰があるなら（マタイ17:20参照）。「信仰の薄い者たちよ」と主はわたしに言われました。

したがって、わたしたちに必要なのはブリガム・ヤングが持っていたような信仰であり、ゴードン・B・ヒンクレイが持っているような信仰であり、わたしたちの預言者であり指導者である人々が持っているような信仰です。

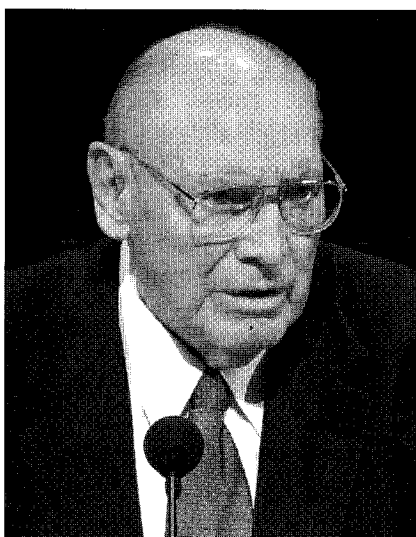
神は生きておられます。わたしは神が実在しておられること、神がわたしたちの御父であられること、そして御父がわたしたちを愛しておられることを知っています。わたしはそのことを知っています。また、わたしはイエスがキリストであり神の御子であられることを知っています。わたしは御霊みたまがそう証するのを感じてきました。わたしはその証人です。預言者ジョセフ・スミスと、ジョセフが回復をもたらす器として行った歴史上のすべての事柄が真実であること、ジョセフの後ヒンクレイ大管長まで続いた預言者たちが神によって召されたことを知っています。この業は真実です。皆さんにわたしの愛と、確信と、心の中で燃えている証をお伝えします。わたしは生きているかぎり、この業が真実であることをだれかに話し、理解できるようにお手伝いしたいと願っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

一歩ずつ

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

「今日、完全になる必要はありません。ほかのだれかよりも優れている必要はないのです。わたしたちがしなければならないのは最高の自分になることだけです。」



愛する兄弟姉妹の皆さん、今日この場に立って回復された福音の真理について証を述べること、わたしにとって大きな特権です。わたしたちは今、デビッド・B・ヘイト長老のお話を聞きました。95歳です。その年齢になったら、ヘイト長老の半分でも記憶力があればいいと願うばかりです。もし、わたしがそれだけ長生きしたら、の話ですが。

聖徒たちが集まるのを目にするとき、わたしは喜びを感じます。小さな家に何家族かが集まる集会であろうと、巨大なホールに数千人が集まる集会であろうと、イエス・キリストの御名みなを愛し、たたえる人々が主の御名によって礼拝するためにともに集うとき、諸天は喜びを表すのです。

わたしたちは皆、それぞれの生活で

様々な経験をしています。今、喜びに満たされている人もいれば、悲しみのために胸が張り裂ける思いをしている人もいます。世界が自分の思いどおりに動いていると感じている人がいれば、自分はまるで牡蠣かきのようであって、海から引き揚げられ、こじ開けられて、中にある大切なものをすべて奪われてしまったと感じている人もいます。

皆さんがどのような立場に置かれているのであれ、情緒的あるいは霊的にどのような心の状態であれ、この死すべき世を通る旅路のどこにいるかにかかわりなく、皆さんにとって役立つ助言をしたいと思います。

確かに、わたしたちには感謝すべきことがたくさんあります。もし、わたしたちが受けている祝福をよく考えるならば、悩みを幾らかでも忘れられるだろうと思うのです。確かに、皆さんが教会員として、偉大なゴードン・B・ヒンクレイ大管長の指導の下で受けている祝福を実感するならば、皆さんは心の落ち着きと喜びを得られるでしょう。わたしたちにとって、きっと大きな助けとなるでしょう。

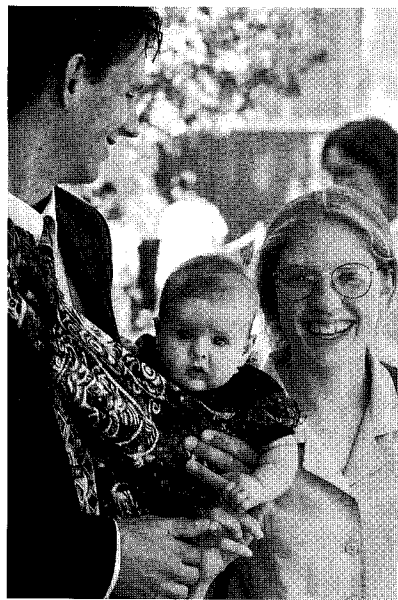
最近、わたしはエリック・ワイナマイヤーについての書物を読みしました。彼は、エベレスト山に登ることを夢見た33歳の男性です。世界中から訪れる最も熟練した数多くの登山家を拒んでいるエベレストです。実際、登頂を試みた人々の90パーセント近くは頂上を極めていません。気温は零下50度以下まで下がります。極限の寒さに加えて、風速45メー

トルの強風が吹きすさび、恐ろしいクレバスが口を開け、それに雪崩が襲いかかります。登山者は高所、希薄な酸素、そして恐らく不衛生な食物と水というチャレンジを克服しなければなりません。1953年以来、8,848メートルの頂上を目指し、道半ばにして亡くなった登山家は少なくとも165人はいます。

このような危険をはらんでいるにもかかわらず、毎年登頂の順番を待つ人は数百人もいます。エリックもその一人でした。けれども、エリックと、これまで登頂を試みた登山家たちの間には一つの重大な違いがありました。それはエリックが全盲だったことです。

エリックは13歳のときに遺伝性の網膜疾患によって目が見えなくなりました。したいと思っていたことの多くができなくなりましたが、落胆やむなしさに負けて自分の人生を無駄にはしないと決意しました。そして限界に挑戦し始めました。

16歳のときに彼はロッククライミングと出会いました。岩肌を感じながら、手と足を安定できる場所を見つけて登りました。それから16年後に、エベレスト山への挑戦を始めたのです。皆さんが想像するとおり、彼の登山の物語は悲惨で、命を危険にさらすたくさんのチャレンジに満ちていました。けれどもエリックはついに南壁のルートから登って行き、それまでに頂上を極めた人々とともに、地上で最も高い山の頂に立った



数少ない人の一人となったのです。

どのようにして登ったかを尋ねられて、エリックはこう答えました。「ただ考え続けました。……思いを集中させるのだ。疑いや恐れや落胆など、すべて心の中から追い出すのだ、と。」そして、最も大切なことを言いました。「毎日一歩ずつ進むだけです。」¹

そうです。エリックはただ片足を別の足の前に一歩出すことによってエベレストを征服したのです。彼は頂上にたどり着くまでそれを続けました。

エリックの場合と同じように、わたしたちにも行く手を遮る障害物があるかもしれません。したいと望んでいることをなぜ実行できないのか言い訳さえるかもしれません。たぶん、達成できていないことを正当化しようとする誘惑に駆られたとき、わたしたちはエリックを思い出すことができるはずで、彼は視力を失ったにもかかわらず、多くの人が不可能だと考えたことを、ただ片足を別の足の前に一歩出し続けることによって成し遂げました。

千里の道も一歩からということわざがあります。

時々わたしたちは必要以上に手順を複雑にすることがあります。どれだけ時間がかかるだろうとか、どれほど大変だろうかなどと思い悩んでいたなら、千里の道に行くことなどとうてい不可能です。毎日一歩ずつ進むこと、そして目的地に着くまでそれを何度も何度も繰り返すことによって達成するのです。

皆さんとわたしがより高い霊性を目指すにもこれと同じ原則が適用されます。

登り始めるにはわたしたちが現在いる場所から出発しなければならないことを天の御父は御存じです。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「はしごを登るときは、いちばん下から始めて、一段一段登って行かなければなりません。そしてついには、いちばん上の段にたどり着くのです。福音の原則についても同じです。あなたがたは第一のものから始めなければなりません。そして学び続けて、ついに、昇栄に関するすべての原則を学ぶのです。しかし、あなたがたがそれらを学び終えるのに、

幕のかなたへ行っても長い時間を要するでしょう。」²

天の御父はわたしたち一人一人を愛しておられ、より高い霊性を目指す過程には準備と時間と決意が必要であることを御存じです。神はわたしたちが時々過ちを犯すこと、つまりくこと、落胆し、もしかするとついには放り出して、努力する価値がないと自分に言い聞かせたくなることを御存じです。

わたしたちは努力する価値があることを知っています。なぜなら、賞として与えられる永遠の命は「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」だからです。³ この賞を受けるには一歩ずつ前進して、熱望する霊的な高さに到達するまで歩き続けなければなりません。

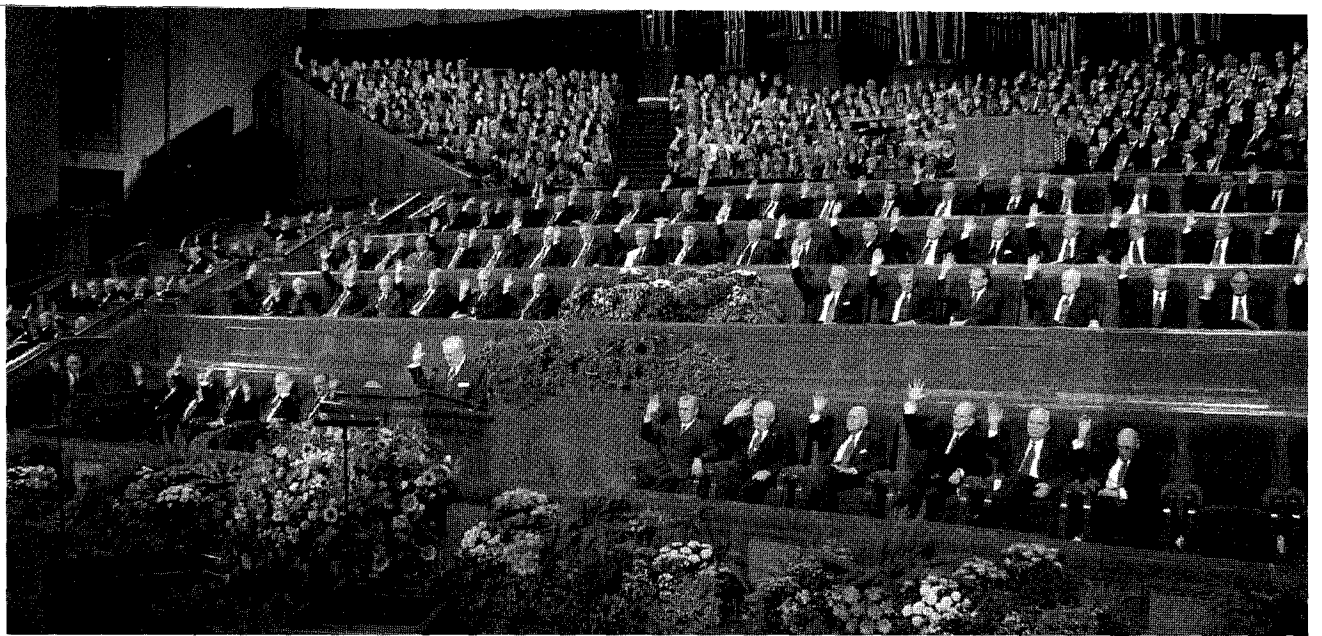
聖文は一つの永遠の原則を明らかにしています。「人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。」⁴

わたしたちは速く走る必要はありません。ただ着実に、正しい方向に進まなければならないのです。一歩ずつ、最善を尽くさなければならないのです。

若いころ、わたしは走るのが大好きでした。皆さんはとても信じられないかもしれませんが、大好きでした。何度か1着になったことがあります。今では、もうそれほど速くはありません。実際、競走相手が十二使徒定員会のメンバーだけだとしても、わたしはどこまでできるか自信がありません。

わたしの走る力は、今となってはそう速いとは言えません。将来、復活体を得たら、再び競技場を全力で走り、髪が風になびくのを感じられるその時を楽しみにしています。しかし、今のわたしにそれはできないという事実をあれこれ考えているわけではありません。

それは愚かなことです。その代わり、わたしが今できる歩みを続けていきます。年齢から来る限界はありますが、まだ、一歩ずつ足を踏み出すことはできます。わたしにできることを実行することこそ、天の御父が今わたしに求めておられるすべてなのです。能力がないとか、制限があるとか、自信がない



総大会土曜日午後の部会で教会指導者に対する支持の表明をする中央幹部と聖歌隊員。

とかに関係なく、神は皆さんに同じことを求めておられます。

ジョン・ウッデンは恐らく、大学バスケットボール史上最も偉大なコーチだったと思います。無敗で終えたシーズンが4回ありました。彼のチームは10回全国優勝を飾りました。あるときは、88連勝を成し遂げました。⁵

ウッデンコーチが選手たちに最初に繰り返し教えたことの一つは、彼が少年時代に農場で父親から教わったことでした。「ほかの人よりもうまくやろうとすることにあまり気を取られてはいけません」と父親は言いました。「ほかの人から学びなさい。けれども、人に勝ろうとだけしてはいけません。その気持ちはコントロールが利かなくなるからね。そうではなく、最善の自分を追及するために一生懸命努力するのだ。これはおまえにコントロールできることだから。」⁶

これは仮定に基づいた例ですが、紹介してみたいと思います。どこのワードにでもおられるような愛すべき姉妹の例です。彼女には教会で決して騒いだりしない完璧な子どもたちがいます。彼女は家族歴史の20代前の先祖を探求しています。家はいつでもちり一つありません。彼女はマルコによる福音書を暗記しており、ルーマニアの孤児のためにウールのセーターを編んでいます。断っておきますが、そのような立派な目標を軽視するつもりは毛頭ありません。さて、皆さんがこの愛すべき姉妹と自分自身

の姿を比べ、両手を上げて、あきらめようとする誘惑に駆られるときには、どうか思い出してください。わたしが十二使徒定員会のメンバーと50メートル走で競い合ったりしないのと同じように、あなたはこの姉妹と競い合っているのではないということです。

皆さんが心配する必要のあることは唯一、最高の自分になるよう努力することです。皆さんはどのようにして努力するのでしょうか。人生で最も大切な目標に注意を集中させてください。そうすれば、目標に向かって一步一步前進して行くのです。

多くの人が道は険しく、暗いと感じていることをわたしは知っています。けれども勇敢な登山家エリックのように、わたしたちにもガイドがいます。

わたしたちには歴史を通じて人類に神の御言葉を明らかにする聖文があります。神の御言葉をよく味わうならば、永遠の真理に心を開き、聖霊の優しいさやきに内なる霊の扉を開くことができます。確かに、聖典と現代の預言者を通して伝えられる神の御言葉は「[わたしたちの]足のともしび、[わたしたちの]道の光です。」⁷

偉大な先人たちについて読むとき、彼らにも落胆と悲しみの時があったことが分かります。彼らは苦難に出遭っても、逆境に遭っても、時には自分自身の弱点を知っても屈しませんでした。彼らも一步一步懸命に前進し続けたことが分

かります。わたしたちはリーハイが語った義人になることができます。彼らは「鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、……暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた」のです。⁸

また、わたしたちには生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長がいます。ヒンクレー大管長は今の時代のわたしたちに勧告と預言者としての指示を与えています。

わたしたちは大管長の勧告と自身の祈りを通して、天に近づき、無限の御方である神と個人的に交わることができます。信仰によって天もわたしたちのために動くのです。扉が開かれ、答えが与えられるのです。

ジョセフ・スミスについて考えてみましょう。混乱し矛盾する様々な声に囲まれた少年時代の彼は、すべての教会のうちどれが正しく真実なのかを知りたいと切に願いました。ジョセフも当時の闇に囲まれて、目が見えない状態にあるのを感じていました。彼は新約聖書のヤコブ書を読んでから、古代の使徒の言葉を信じたのです。すなわち、「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」⁹ という約束です。ジョセフはこれらの言葉を信じました。そして、1820年、ある春の朝に、森に入り、祈

りによって自身を高め、天の御父に知恵を尋ね求めたのです。

祈りの答えはジョセフの全身を光と教
えで満たしました。わたしたちの天の御
父とその愛しておられる御子^{みすがた}が御姿を
現されたのです。御二方の教えは、彼
を捕らえ、滅ぼそうとしていた深い闇を
取り払いました。ジョセフの混乱を永久
に取り払ってくれたのです。

その瞬間からほぼ四半世紀後の殉教
まで、ジョセフ・スミスは御父と御子に
よって示された道から離れませんでした。
彼の生涯がどれほど苦痛に満ちたもの
であったかを考えてください。堪え忍ば
なければならなかった苦しみと迫害に思
いはせてください。しかしジョセフは
一歩ずつ、決してあきらめずに歩き続け
ました。自分にできることをしさえすれ
ば、天の御父が残りの部分を補ってくだ
さることを決して疑いませんでした。

兄弟姉妹、地上におけるわたしたち
の時間は非常に大切であるとともに、非
常に短いのです。わたしは預言者ヤコ
ブが述べた「一生はあたかも夢のように
過ぎてしまった」¹⁰という言葉をどれほ
ど理解しているのだろうかと考えます。

瞬く間にわたしたちの時間は終わります。
できる間に、仕事を終わらせる時間
がある間に、正しい方向に向かって
一歩ずつ前進しようではありませんか。

それは難しいことではありません。今
日、完全になる必要はありません。ほか

のだれかよりも優れている必要はないの
です。わたしたちがしなければなら
ないのは最高の自分になることだけです。

たとえうんざりすることがあっても、
時には道がはっきり見えないことがあ
っても、天の御父は義にかなって従う者
たちを決してお見捨てにはならないこと
を知ってください。皆さんが慰めを受け
ないままにしてはおけません。御父は
あなたの傍らに立って、そうです、旅の
一歩一歩を導いてくださいます。

この世を描写したジョセフ・フィール
ディング・スミス大管長の美しい言葉に
耳を傾けてください。

旅はそれほど長いだろうか。
道は厳しく、険しいだろうか。
いばらととげで閉ざされているだろうか。
昼の暑いさなかに頂上を目指す
あなたの足を鋭い石が切り裂くだろうか。

重荷に耐えて進むあなたの心は
疲れ果て、悲しんでいるだろうか。
霊は疲れているだろうか。
あなたに負わせられた荷は重いだろうか。
重荷をともに負ってくださる方はいない
のだろうか。

くじけてはならない。
旅は今始まったばかりなのだ。
今でもあなたを招き寄せている御方がお
られる。
だから喜んでまなざしを上げ、

その御方の手を取りなさい。
かつて登ったことのない高きにまであな
たを導いてくださる。

聖なる、汚れない地で
すべての悩みは終わりを告げる。
あなたの命はすべての罪から開放される。
そこには流される涙はない。
引きずる悲しみが無いからだ。
彼の手を取り、ともに入りなさい。¹¹

わたしたちが自分自身のエベレスト山
に登り始める勇気を持てますように、ま
た人生の旅路を一歩ずつ前進し、わた
したちの内にある最高の域にまで到達
できますように。

わたしたちの天の御父は生きておら
れ、わたしたち一人一人を知り、愛し
ておられます。イエスはキリストであり、
神の御子、全人類の救い主、贖い主^{あがな}、
まさに平和の君です。ジョセフ・スミス
は回復の預言者であり、ゴードン・B・ヒ
ンクレー大管長は今日の地上における
わたしたちの預言者、聖見者、啓示者
であることを証します。また、皆さんが
最善を尽くしさえすれば、幸福と満足を
得られることを証し、イエス・キリストの
御名によってお祈りします。アーメン。

注

1. "Everest Grueling for Blind Man,"
Deseret News, 2001年6月5日付,
A12. カール・タロ・グリーンフィー
ルド, "Blind to Failure," Time,
2001年6月18日付も参照
2. The Teachings of Joseph Smith,
ラリー・E・ダールとドナルド・Q・
キャンノン編 (1997年) 519
3. 教義と聖約14:7
4. モーサヤ4:27
5. [http://www.coachwooden.com
/bio.shtml](http://www.coachwooden.com/bio.shtml)
6. [http://www.coachwooden.com
/bodySUCCESS.shtml](http://www.coachwooden.com/bodySUCCESS.shtml)
7. 詩篇119:105
8. 1ニーファイ8:24
9. ヤコブの手紙1:5
10. モルモン書ヤコブ7:26
11. "Does the Journey Seem Long?"
『賛美歌』(英文) 127番

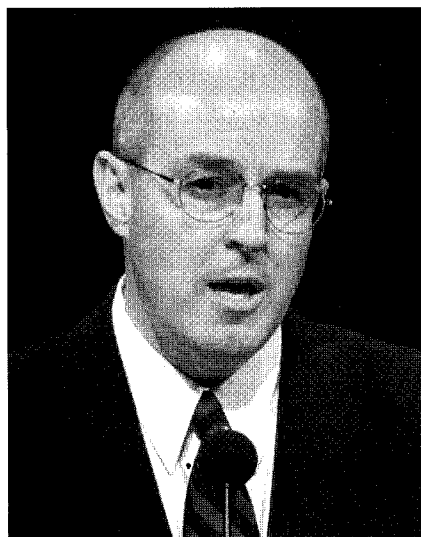


「不信仰なわたしを、お助けください」

七十人

Ｌ・ホイットニー・クレートン

「わたしたちは正しいことを行うときに、信仰を強める道を前進します。つまり、そのような行いの後に……いつも信仰が増すのです。」



あるとき、救い主は、主の弟子たちと律法学者の間で交わされる議論を聞こうとしてやって来た大群衆に遭遇されました。救い主はそのとき、律法学者にこうお尋ねになりました。「あなたがたは彼らと何を論じているのか。」

ある男が主の御前にひざまずいて答えました。自分の息子から汚れた霊を追いついてくれるように願いましたが、「お弟子たちに[は]できませんでした。」その父親は主にお願いこう言いました。「しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください。」

イエスは彼に言われた、『もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。』

その子の父親はすぐ叫んで言った、『信じます。不信仰なわたしを、お助けください。』

そして救い主は汚れた霊をしかって、こう命じられました。『『この子から出て行け。二度と、はいって来るな。』すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。』¹

わたしたちはだれもが困難なことがあるいは絶望的なことに直面した経験があります。そのようなときにわたしたちはひざまずいて、この父親と同じようにお願いします。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください。」

救い主は、あの「てんかんで苦しんで」²いる息子を持つ父親になさったと同様、今日の不信仰なわたしたちに、信仰をもって現世の戦いに生き残り「勝利者となる」³ための助けを喜んで与えてくださいます。

主を信じる信仰は福音の第一の原則であり、単なる信念以上のものです。⁴信仰を持つ人は「まだ見ていない真実のことを待ち望」みます。⁵「信仰はいつもその所有者を肉体的、精神的行動に駆り立てます。」⁶「イエス・キリストを信じる信仰を持つということは、命じられるすべてのことに従うほど深くイエス・キリストを信頼するという意味です。従順のないところに信仰はありません。』⁷

信仰は神の御言葉を聞くことから始まります。それは一つの霊的な賜物でもあります。⁸信仰はわたしたちが単に聞くだけでなく、教わった真理に従順になり神の御言葉に基づいて行動するときに増します。⁹

天使の言葉を聞いたときのマリヤの答えは、すばらしい模範です。マリヤは天

使ガブリエルからこう言われます。「あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は偉なる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。」そしてマリヤは従順に、ガブリエルにこう言います。「わたしは主のはしめです。お言葉どおりこの身に成りますように。」¹⁰

また別のときに、こうあります。「イエスがガリラヤの海を歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。

イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』

すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。』¹¹

救い主の復活の後に、ペテロとほかの弟子たちが「漁」に出かけました。しかし、「その夜はなんの獲物もなかった。

夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。しかし弟子たちはそれがイエスだとは知らなかった。」イエスは彼らに言われました。『『舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう。』彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかった。』¹²

預言者ジョセフ・スミスの生涯の中にこれと似た、信仰をはぐくむ従順さを見いだすことができます。1823年9月、一晚中天使モロナイの訪れを受けていた次の日の朝、ジョセフは父親とともに仕事に出かけました。ほとんど一晚中寝ずに過ごしていたジョセフは、「その日にしなければならぬ仕事」が「まったく[でき]ないほど疲れ果てているのを知」りました。父親から家に帰るように言われ、ジョセフは「家に帰ろうとして出かけ」ました。「しかし……すっかり力を失ってぐったりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失って」いました。ジョセフが目覚め、「見上げると、あの同じ使者が前のように光に包まれて、頭上に立っておられるのが見え」ました。そしてジョセフは「父のところへ行って、[自分が]受けた示現と命令のことを告げるように」命じ

られました。当然ジョセフは疲れ切っていました。従順に「父のところへ戻って、父にすべてのことを詳しく告げ」ました。ジョセフの父親は「それは神から出ていると」答え、「命じられたとおりにするように告げ」ました。そこで、従順なジョセフは疲れ果てていながらも「畑を去って、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行」きました。¹³

毎日、わたしたちは数え切れないほどたくさんの選択肢の中で、何をし何をしないかを決めています。戒めに喜んで従うことを最優先し、主が命じられた事柄についてつぶやいたり自分の尺度で評価したりしなければ、主のはしためとなり、人間をとる漁師となり、舟の右の方に網を下ろしていることになるのです。命じられたことをそのとおりに行えるように主が助けてくださると信頼し、たとえ疲れていてもただ行って主が命じられたことを行う¹⁴ だけでよいのです。そうするとき、主は不信仰なわたしたちを助けてくださり、わたしたちの信仰は力強く、活気を運び、揺るぎないものとなるのです。預言者ジョセフはリバティーの監獄から次のような手紙を書きました。「したがって、親愛なる兄弟たちよ、わたしたちの力のかぎりすべての

ことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信〔または信仰〕をもって待ち受けて、神の救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるよう。」¹⁵

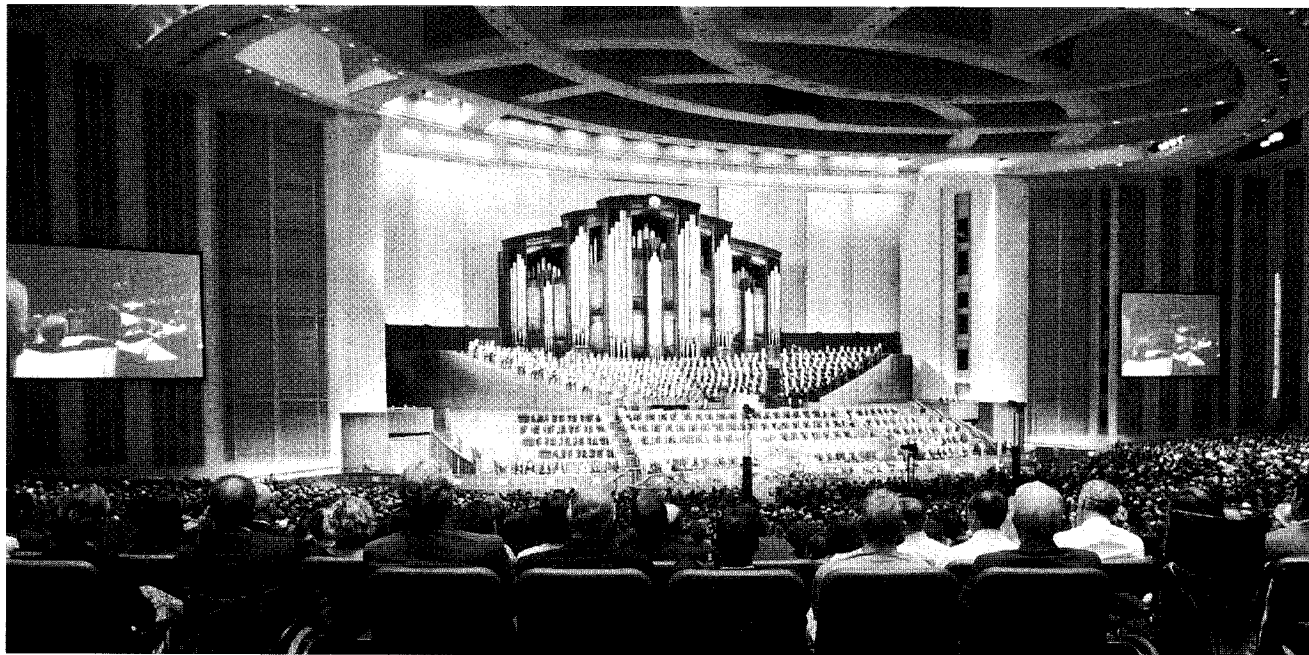
だれであろうと、またどこに住んでいようと、日常生活には決まり切った仕事や繰り返し行わねばならない事柄が数多くあります。このような日常的な事柄に取り組むときに、思慮を働かせて最も大切なことをまず一番に行うようにしなければなりません。とりわけ、忠実な者が毎日行わなければならない最低限の事柄、すなわち心からの従順を示す行い、謙遜な祈り、熱心な聖文研究、ほかの人々への私心のない奉仕のためにまず時間を取ることが大切です。毎日摂取するビタミンの中で、これらの行為ほどわたしたちの信仰という筋肉を強めるのに即効性のあるものはありません。真の断食が強い信仰をはぐくむ¹⁶ というのも忘れてはなりません。これは「祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」¹⁶ 根強い性格の欠点を誠実に直そうとするときに特に大切なことです。

主イエス・キリストを信じる信仰は、一歩ずつ教訓に教訓、規則に規則を加えるようにはぐくんでいくものです。わ

たしたちは正しいことを行うときに、信仰を強める道を前進します。つまり、そのような行いの後に結果としていつも信仰が増すのです。¹⁷ 日々、祈りと、研究と、従順によって信仰を行使するときに、主は不信仰なわたしたちを助けてくださり、わたしたちの信仰は「悪い者の放つ火の矢をことごとく消す」¹⁸ 盾となるのです。アルマは「主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かう」¹⁹ ことができると教えました。しかし、信仰に必要な不可欠な要素を無視したり拒否したりしていながら、豊かな収穫を刈り取ろうと期待することはできません。

今日、教会員の中で信仰がはぐくまれている例を数え切れないほど目にしています。伝道の召しにこたえる青年男女や熟年夫婦、自らをふさわしく備えて神殿で結婚する男女、子どもたちをその行くべき道に従って訓練する両親²⁰、このような人々は主イエス・キリストを信じる信仰を強めることができるのです。安息日を清く保ち、召しを導んで大いなるものとし、²¹ 什分の一とささげ物を納め、新会員を教会の輪の中に歓迎し、友人と隣人が福音の真理を学べるよう導くならば、そのときわたしたちは、自

カンファレンスセンターの壇の左右に設置された大画面のモニターを通して、会衆は、話者の表情を間近に見ることができる。



らの信仰を強めているのです。自らの罪を捨て進んで悔い改めることを選択するならば、そして厳しいときにも良いときにも同じようにひざまずいて祈るならば、そのときわたしたちは強い信仰をはぐくんでいるのです。

そのとき、モルモン書の中に記されている経験がわたしたち自身の生活の中でも現実のものとなっていることに気づくのです。「それでも彼らは、しばしば断食して祈り、ますます謙遜になり、ますますキリストを信じる信仰を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに清められ、心の聖めを受けた、この聖めは、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。」²¹

わたしは救い主が生きておられることを知っています。そして主が不信仰なわたしたちを助けてくださることを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

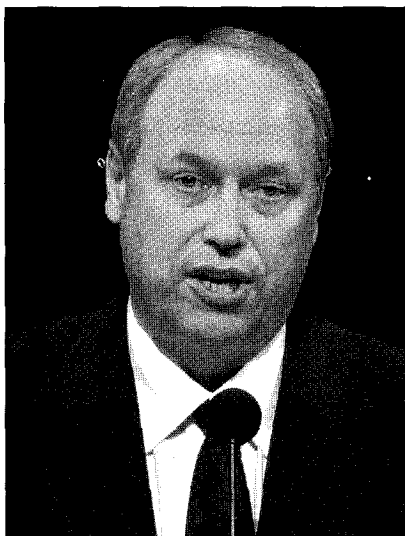
1. マルコ9:14-29参照。マタイ17:14-21も参照
2. マタイ17:15
3. 教義と聖約10:5
4. 信仰簡条1:4; Bible Dictionary, 669-670参照
5. アルマ32:21。ヘブル11:1; エテール12:6も参照
6. Bible Dictionary, 670から和訳
7. *Gospel Principles*, (1997年)118から和訳
8. ローマ10:17; モロナイ10:11; Bible Dictionary, 669参照
9. Bible Dictionary, 669-670
10. ルカ1:31-32, 38
11. マタイ4:18-20
12. ヨハネ21:2-4, 6
13. ジョセフ・スミス—歴史1:47-50
14. 1ニーファイ3:7参照
15. 教義と聖約123:17
16. マタイ17:21。マルコ9:29参照
17. Bible Dictionary, 669参照
18. 教義と聖約27:17
19. アルマ37:33
20. 箴言22:6参照
21. ヒラマン3:35

わたしたちの御父の計画

七十人

クリストフェル・ゴールデン・ジュニア

「〔わたしたちの天の〕御父の望みは、わたしたちすべてが満ちみちる喜び、すなわち……御父が持っておられるすべてを得ることができるように、その機会をお与えになることです。」



1830年の6月のある日に預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示には、天の御父が意図しておられることについて次のように宣言されています。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」¹ この宣言によれば、御父の望みは、わたしたちすべてが満ちみちる喜び、すなわち完全で、栄光を受けた御父が持っておられるすべてを得ることができるように、その機会をお与えになることです。²

このきわめて重要な末の日にあって、わたしたちは永遠の父なる神が生きておられることを宣言します。この世に生を受ける前に、わたしたちが御父の霊の子どもとして御父の御前にいたことを証します。前世で生活していたとき、わた

したちは一人一人が個人的に教えを受けていました。そこは、わたしたちに才能や能力を伸ばす機会を与えてくれる場所でした。その恵まれた前世での生活で、わたしたちは「善を選ぶのも悪を選ぶのも任せられ」ていました。アルマは、わたしたちが善を選んで非常に「深い信仰」を働かせ、「善い行い」をしたと述べています。そのようにしてわたしたちは第一の位を保ち、それとともに御父は、わたしたちを予任し、現世にいる間に一定の特権を得られるようにしてくださったのです。³

同様に末日の啓示には、天の御父が御自分の霊の子どもたちで第一の位を保ったすべての人のために、偉大な幸福の計画を定められたことが明らかにされています。⁴ この偉大な幸福の計画には、わたしたちがいつの日か天の御父のようになり、御父が現在持っておられるすべての権利や特質を得るという未来が含まれています。使徒ペテロは「いのちと信心とにかかわるすべてのこと〔が〕、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられて」いるのは、「それらのものによって……あなたがたが……神の性質にあずかる者となるためである」と、聖徒に思い起こさせました。⁵ ペテロのこの宣言は大胆なものかもしれませんが、わたしたちも、それを達成するために一生、いえそれ以上かかることを承知しています。しかし、ペテロの宣言は「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完



テンブルスクウェアのタバナクルのそばを歩く大会出席者。

全な者となりなさい」という救い主の勧告に対して共感を呼ぶものがあります。⁶

御父の計画ではまた、第一の位を保ったすべての者に、第二の位すなわち死すべき世において試しを受けることが求められました。この第二の位においてわたしたちは、自分の意志で行動し、主のすべての戒めを守り、罪や敵の力に打ち勝つ力があることを、神に対しても自分自身に対しても示すことを求めています。⁷

アダムの墮落のため、そして死すべき人間の性質のため、人は神の律法に背く性癖を持つようになりました。その結果、正義の要求を満たすことができなくなり、囚われの状態になりました。しかしながら、天の御父の先見の明により、また偉大な幸福の計画を通して、御父は憐れみの計画を用意してくださいました。つまり無限の贖罪を通して、正義の要求を完全に満たす道が備えられたのです。⁸

イエス・キリストは、初めから御父に

選ばれた者として、⁹ 贖いによって正義の律法と憐れみを調和させるために求められるすべての資格と特質を備えておられました。¹⁰

ベニヤミン王は、人が聖霊の勧めに従うことによって生まれながらの人を脱ぎ捨てることが可能になったのは贖いのおかげであると教えています。¹¹ したがって、福音の律法と儀式に従順であるを通してキリストのみもとに来る人はすべて、「永遠の救いと永遠の命」に対する信仰を行使することができます。これがわたしたちの証です。¹²

わたしたちはまた、天の御父とその御子イエス・キリストが、大背教の後に、預言者ジョセフ・スミスを通して福音を再び確立されるまでは、偉大な幸福の計画のすべての条件に従うことは不可能であったことを証します。¹³

わたしたちの愛する預言者、ゴードン・B・シンクレイ大管長はこう宣言しています。「これらの出来事に関する預言者ジョセフの言葉が真実であり、御父

が……御子の神性について証をなさり、御子が少年預言者を教え導かれたこと、そして『主なるわたし[が]……心から喜んでいる』『全地の面に唯一まことの生ける教会』が組織されるに至った一連の出来事が続いたことを厳粛に宣言いたします。』¹⁴

第二の位を保つことは忠実な人々の心からの望みです。わたしたちは天の家に戻る道を自分一人で探すわけではありません。主は地上に御自分の王国を確立され、神の選民が集まれるようにしてくださいました。

わたしたちの行く手にはサタンの仕掛けた落とし穴が数多くありますが、主は、わたしたちがその道を安全に進むうえで必要不可欠な手立てを、愛のこもった心遣いですべて備えてくださっています。¹⁵

その欠かせない事柄には、福音の儀式と聖約が含まれています。この福音の儀式と聖約の中に贖いの力が及ぼされるのは明らかです。¹⁶ わたしたちにはまた、聖文という真理と誤りを見分けるために必要な標準を示す手がかりも与えられています。¹⁷

さらに重要なことは、わたしたちが生きている時代は、見張り人、すなわち主が生ける預言者や使徒をわたしたちの中に立てておられる祝福された時代であるということです。彼らは救いと昇栄にかかわる儀式を執行するうえで不可欠な権能と鍵をすべて有しています。¹⁸

何にも増して、バプテスマを受けてキリストの教会の会員となったわたしたちは、聖霊の賜物というたぐいまれな贈り物を授かっているのです。わたしたちの罪をその身に引き受けるのを翌日に控えていた救い主は、弟子たちにこう言われました。「……御霊……[は]、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。』¹⁹

黙示者ヨハネは、天から受けた示現の中で、御父の計画が成就するのを見、大変な苦難を耐え抜いた後で小羊の血によって衣を白く洗われた者たちの様子を記録しました。そして、この世に打ち勝った人々が神の御座の前に立ち、神の神殿で神に仕える姿を見ました。主は彼らのただ中におられ、忠実な者た

ちは二度と飢えることもなく、渴くこともありませんでした。神が忠実な者たちの目から、涙を完全にぬぐい去ってくださったのです。²⁰

恐れることはありません。ただ信仰を持ち、天の御父が備えてくださった偉大な幸福の計画に従うだけでよいのです。わたしたちは、すべての人が来て、主の恵みと憐れみを受けるようにお招きします。主は救う力を備えておられ、決してわたしたちをお見捨てにはなりません。²¹

熱心に努力するわたしたちを、主が祝福してくださいませよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

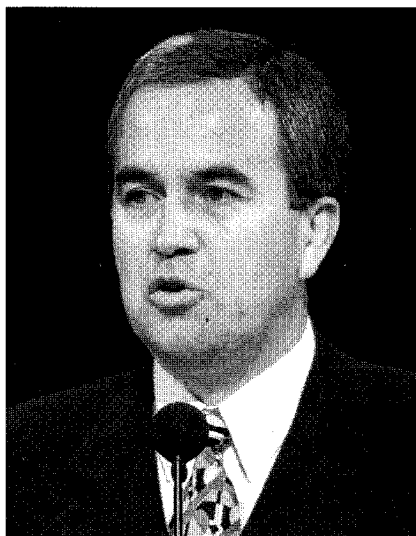
1. モーセ1:39
2. モーセ7:67; 教義と聖約76:69-70 参照
3. アルマ13:3-13; 1ペテロ1:20 参照
4. アルマ42:8
5. 2ペテロ1:3-4
6. マタイ5:48。3ニーファイ12:48 も参照
7. マタイ7:21; 黙示3:21; 教義と聖約98:14-15
8. アルマ42:15 参照
9. モーセ4:2 参照
10. *Doctrines of the Gospel, Student Manual* (1986年) 22
11. モーサヤ3:19 参照
12. モーサヤ5:15。モロナイ10:32 も参照
13. 1ニーファイ11:13-36; 2ニーファイ3:5-11 参照
14. 教義と聖約1:30; 「キリストの特別な証人」[リアホナ]2001年4月号, 24
15. モーセ4:3-4; 教義と聖約93:39 参照
16. ヨハネ3:5; モーサヤ5:1-2; 教義と聖約76:50-54 参照
17. アルマ4:19; 31:5 参照
18. マタイ10:1-15; 教義と聖約1:14-15; 21:1-8 参照
19. ヨハネ16:13
20. 黙示7:14-17
21. 申命7:7-18 参照

心に福音の原則を刻み込む

七十人

ウォルター・F・ゴンサレス

「知識だけでは十分ではありません。時間をかけて、様々な原則を実生活に応用していく必要があります。」



でそうであると考えている。わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は彼らのことを心配して涙で枕をぬらしている。」(2ニーファイ33:3) この真心からの嘆願は、今日、モルモン書を通して、確かにこたえられています。ニーファイは、自分に「弱点がありながらも書き記してきた言葉」がわたしたちのために「力強いものとなる」ようにと祈っていました。「それは、この言葉が善を行うように説き勧め、また彼らに先祖のことを知らせ、イエスについて述べ、イエスを信じて最後まで堪え忍ぶように彼らに説き勧めるものだからである。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶならば、永遠の命を授かるのである。」(2ニーファイ33:4)

わたしは、教義や福音の諸原則が、南アメリカにおいて増加の一途をたどる数多くの会員たちに導きを与えている様子を、この目で見てきました。南アメリカであれ世界のどこであれ、わたしたちの務めは、聖文や預言者たちの教えの中に見いだすことのできるもろもろの原則を探求し続けることであり、また、「墨によらず生ける神の霊によって……石の板にではなく人の心の板に」刻み込み続けることなのです(2コリント3:3)。そのように福音の原則を確立するためには、時間が必要です。時間が必要なのは、福音の様々な真理について学ぶためであり、また、それを実生活で応用するためでもあります。

南アメリカの大半の会員にとって、福音の原則について学ぶということは、時間を作り出して宣教師の教えに耳を傾

英語は「回復」の言語です。本大会のこの午後の部会でも、なまりのある英語が話されていますが、それは教会が世界中で成長していることの象徴でもあります。わたしは南アメリカの出身ですが、そこでは教会は劇的な発展を続けています。30年前にわたしが教会に加入したときには、南アメリカ大陸の教会員数は10万8,000人、ステーク数は6つでした。当時、南アメリカ大陸には神殿がありませんでした。しかし、現在では、260万人の会員と557のステークを擁しています。11の神殿で儀式が執行されており、2つの神殿が現在建設途上にあります。リーハイの息子のニーファイはこう言っています。「しかし、わたしニーファイは、これまで書き記してきたものを大いに価値があると考え、特にわたしの民にとつ

け、その証^{あかし}を聞くことから始まりました。わたしたちは時間を作って耳を傾けましたが、今は、わたしたちの国々で働いてくれた宣教師たちに、言い尽くせぬほどの感謝の念を抱いています。この心からの感謝の思いは、宣教師たちにとどまることなく、彼らを送り出してくれた家族にもささげられるものです。(今では、何千という南アメリカの人々が、回復された福音という喜びのおとずれを分かち合うために、自分の子どもたちを伝道に送り出しています。)わたしたちのように教会の第1世代の者たちは、教会員ではない両親にも深く感謝しています。彼らが、時間をかけて義になかった原則を教えてくれたがために、福音のメッセージが伝えられたときには、それをはっきりと認識し、歓迎する用意ができていたからです。

宣教師たちは、教義や福音の原則について学ぶという務めの端緒を開いてくれました。しかしながら、心に福音を刻み込み続けるということは、時間を必要とする、継続的な務めです。知識だけでは十分ではありません。時間をかけて、様々な原則を実生活に応用していく必要があります。例えば、ニーファイは主



が祈りにこたえてくださることを知っていました。ニーファイは何世紀も前に、その知っていることを実践したのです。そのおかげで、今日のわたしたちには永遠の祝福が与えられることになりました。注意深く聖文を読むと、ニーファイは、自分の「嘆願」(2ニーファイ33:3 参照)が神に聞き届けられることを知っていたがゆえに、神を信じる大いなる信仰をもって祈りをささげたことが分かります。ニーファイが時間を割いて自分の知識を実践に移してくれたことを、わたしたちは心から感謝しています。同様に、ニーファイがその知識を、「墨によらず生ける神の霊によって」自分の心に刻み込んでくれたことを、どれほど感謝しているのでしょうか。

学識を積み重ねるときと同様に、キリストの弟子となるためにも時間は必要です。時折、わたしたちは、ある原則が真実であると認めながらも、その原則に従って生活する時間を作り出すために優先順位を変えようとしなないことがあります。そのようなことを続けていると、聖霊によって教えを受けるときに心の変化を生じる貴重な機会を失ってしまうことになります。ここで、しばらく、エノスの例について考えてみましょう。エノスは、父親から受けた知識をすぐさま実践に移したわけではありませんでした。しかしながら、最終的には、時間を取ってその知識を実生活に応用して生活しました。そのために、数々の祝福がわたしたちのもとにもたらされたのです。エノスの記録によれば、森で獣を狩ろうと出て行ったときに、永遠の命や聖徒たちの喜びについて父親が語ってくれたことが深く心にしみ込んだ、と書かれています。そこで、エノスは時間を取って祈ることを決意しました(エノス1:3-4 参照)。その祈りに神から答えが与えられ、主はエノスに対して、御自分がふさわしいと思われるときに記録をレーマン人に伝える、と聖約されたのです(エノス1:16 参照)。神はわたしたちの祈りにこたえられます。エノスは石の板に刻まれたこの原則を、彼自身の心の板に刻み込みました。そして、さらに高度の知識を得ることになりました。それによって、

彼自身に祝福がもたらされただけでなく、この神権時代のわたしたちにも祝福が与えられることになったのです。

学ぶことや、特に福音の原則に従って生活することに時間をささげようという立派な心がけを持っていながら、そうできずにいる理由が数多くあります。例えば、ある特定の話題に関して様々なメディアから情報が入りすぎると、それに圧倒されることがあります。そのような情報過多が起きると、人によっては「常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない」という状態になってしまうのです(2テモテ3:7)。

わたしたち一人一人は、自分自身の生活を吟味し、福音の原則に従って生活するための時間を取るうえで妨げとなっているものは何か、見定めることができます。そうすれば、悔い改めて必要な修正を施せるので、その福音の原則を実生活で取り入れる時間を生み出すことができるのです。そのようにすれば、エノスと同じように、神の真理についての理解を深めることができると主は約束してくださいました。主はこう宣言されたのです。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教^{おしえ}が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17)

生活の中で、学び、深く考え、とりわけ、福音の原則を実践するための時間を生み出すことによって、御霊^{みたま}から来る喜びと平安が得られます。教会は、南アメリカでも、世界のほかの地域でも、花咲き続けていくことでしょう。それは、福音の原則を、墨ではなく聖霊によって、そして、石の板にではなく人の心の板に刻み込み続ける会員たちがますます増えていくからです。わたしは証します。聖文に書かれている数々の真理は、時間をかけて実生活で実践していくなら、知的な理解や評価をキリストのようになりたいという望みにまで高めてくれます。わたしは救い主が生けるキリストであられることを知っています。以上のことを、イエス・キリストの御名^{みな}によって証します。アーメン。

「潤った園のように」

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

「わたしたちは惜しみなく^{あわ}憐れみをもって与えてくださる天の御父に対し、愛を個人的に示すために、^{じゅうぶん}〔什分の一と献金〕を納めるべきです。」



末日聖徒イエス・キリスト教会は確実に、かつ着実に世界中に広がっています。ダニエルの言葉によると、教会は「人手によらずに山から切り出された「一つの石」¹です。またイザヤは自らが予見したことについて、「不思議な驚くべきわざ」²と表現しました。これはまさに不思議な業です。このイエス・キリストの福音の回復と発展には、あらゆる種類の奇跡と啓示と現れが満ちています。そしてその多くは、わたしたちが生きている間に起こっています。

わたしが17歳になるまで、北アメリカ以外にシオンのステーキはありませんでした。しかし現在は1,000以上のステーキが、遠く離れた大陸や海の島々に存在しています。神殿は、儀式が執行されている所と建設が発表されている所を合わせて125あり、その半数以上(64)の神殿は合衆国以外のものです。

神殿もやはり、わたしが16歳になるころまで、合衆国とカナダ以外の州または地域には建設されていませんでした。

またすべてのふさわしい、適齢の男性が神権を受けるという啓示も目の当たりにしてきました。その祝福として、世界の多くの地で御業が推し進められてきています。また100近い言語による聖典全体または抜粋部分の翻訳、出版も実現しました。長く待ち望まれていたように、すばらしい男性の皆さんが数多くの国々から召されて複数の七十人定員会が組織され、今度は多くの国で奉仕するため遣わされるようになりました。最近では、ヒンクレー大管長が「永代教育基金」を発表し、最も遠い地にあっても、大勢の人々がついにその恩恵を受けられるようになりました。このようにして教会の国際化は進んでいます。

別の注目すべき事柄を簡単にお話しいたします。教会の一般会員の方々からは見過ごされてきたことかもしれませんが、言うならばそれはもう一つの奇跡、もう一つの啓示でした。ある意味で、これは周囲の注目を浴びないように意図されていました。わたしが述べているのは、10年ほど前に幹部たちの間で行われた決定事項で、国内外の地元教会員に対し、いかなる特別な分担金を課すことも取りやめ、資金獲得の義務をなくすというものです。

この決定は、わたしが今述べてきた国際的發展のさなかに行われました。財政面でどのようにこれを達成できたのでしょうか。会員による特別な分担金を廃止すると同時期に、どうやってさらに遠い地へと教会を発展させることができ

たのでしょうか。理屈から言えば、教会はこの状況では正反対の決定を行うべきだったかもしれません。

どのようにしたのでしょうか。それをお伝えしたいと思います。管理の責任を受けていた幹部たちの中に、教会に入って間もない会員でさえも、什分の一と任意の献金という主の原則を尊び、このような神聖な原則に忠実であれば、この状況を切り抜けられると心から信じた人々がいたのです。

わたしはこの重要な決定が行われたとき、十二使徒定員会の一員ではありませんでしたが、そのときの話し合いと、教会の管理評議会の兄弟たちに求められた信仰による行いを想像することができます。もし中央幹部が分担金制度を廃止したうに、聖徒が什分の一と献金を納めなかったとしたら、どうなっていたでしょうか。わたしが知るかぎり、そのような懸念が真剣に考慮されたことはまったくありませんでした。指導者たちは信仰、つまり神への信仰、啓示された原則への信仰、そしてわたしたちへの信頼を行動に移したのです。彼らは決して振り返りませんでした。(ほとんど気づかれることはなかったとしても、)それは末日聖徒イエス・キリスト教会が組織として成熟する中で、ほかに類を見ない日となりました。

しかしその決定に従うために、わたしたちも同様に、教会の一会員として成熟しなくてはなりません。富める者も貧しい者も、または教会員生活の長い人も改宗したばかりの人も皆、什分の一と献金を忠実に納めなくてはならない理由について、5つお話ししたいと思います。

まず、子や孫たちのために什分の一と献金を納めてください。わたしたちが注意を傾けていなければ、このような若い世代の人々は、自分たちの神殿や教会堂、セミナー、活動がどのように賄われているのかについて、まったく理解できないまま育ちかねません。教会で受ける祝福の多くは、親や子ども、孫たちの世代の人々が教会に納める什分の一と献金のおかげであり、事実上ほかの方法では得られないことを、子どもたちに教えましょう。



カンファレンスセンターの北西側からは、ソルトレーク・シティー中心部にある数々の教会の建物やオフィスビルを臨むことができる。

年末の什分の一の面接に、子どもたちを連れて行きましょう。何年も前になりますが、ハワード・W・ハンター大管長の孫も、父親に連れられて行きました。その面接で、監督は若いハンター兄弟が什分の一を完全に納めたいと願っていることを知り、喜んでいることを伝えました。献金を受領する段階になり、監督は少年に福音を真実と思うかどうか尋ねました。この7歳の少年は、14セントの完全な什分の一を納めながら言いました。「福音は真実だと思います。でも、たくさんお金がかかります」³ わたしが話した建物、プログラム、教材は費用がかかります。そのことを子どもたちが若いころに学ぶのは、無益な教訓ではありません。

第2に、この戒めを守る人に約束されている祝福を正当に求めるために、什分の一を納めてください。「これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる」⁴ ノープーでの殉教で夫に先立たれたメアリー・フィールディング・スミスは、その後、父親を亡くした5人の子どものとともに西部へ渡り、貧しい中であっても什分の一を納め続けました。ある日、什分の一事務所の職員が彼女に対して、わずかなじゃがいもしか収穫できなかったのだから、その10分の1をあえ

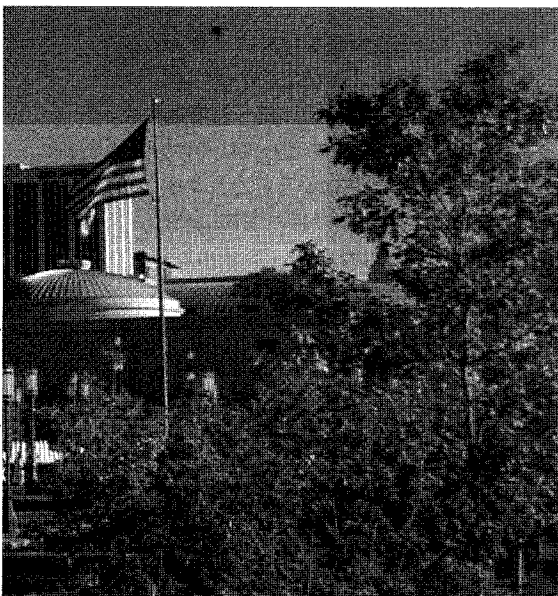
て納める必要はないのではないかと、不適切な提案をしました。すると彼女はその職員に向かって大きな声で言いました。「ウィリアム、あなたは恥を知るべきです。わたしから祝福を取り上げるつもりですか。什分の一を納めなければ、主はわたしから祝福を取り上げておしまいになるのですよ。わたしが什分の一を納めるのは、それは神の律法だからだけでなく、祝福を頂きたいからです。〔わたしには祝福が必要なのです。〕この戒めやほかの戒めを守ること、自分の家族を養えると……期待しているのです」⁵

この原則への従順さによって、祝福がどのように注がれるのか、そのすべてを挙げることはできません。しかし多くの祝福は、金銭以上の霊的な方法でもたらされることを^{あかし}証します。例えば、わたしは今までに、「食い減ぼす者を、〔わたし自身の〕ためにおさえ」⁶ という神の約束が成就するのを、この目で見えました。また、わたしとわたしの愛する者たちは、悪から守られるというこの祝福を感謝し切れないほど受けてきました。神によって守られたのは、個人、家族として什分の一を納めると決意したことが、少なくとも理由の一つであると確信しています。

第3に、物を所有することや世俗的な富を築くことが、皆さんにとって最も大

切な目標ではないことを表明するために、什分の一を納めましょう。夫と父親の務めを担うある青年は、大学に通いながらわずかな生活費で暮らしていますが、最近わたしにこう言いました。「恐らく末日聖徒として最も重要な機会は、自分の生活する文化の潮流に真っ向から逆らって進まなくてはならないときに訪れます。什分の一を納めるのも、まさにそのようなときです。今の世の中では、物を得ることが強調され、他人の財産を何とかして手に入れようともくろむ人間や企てに対する不信感が助長されています。そのような世の中で生活するわたしたちは、快く、信頼をもって、惜しみなく差し出すことで、利己心を捨てるのです。そのような行いのために、確かにわたしたちはほかとは異なり、神の宝の民であると言えます。金銭が最も貴重な財産だと訴える社会にあって、わたしたちは、そうではないことを断固として表明するのです」⁷

スペンサー・W・キンボール大管長はかつて、広大な土地と、森、ぶどう園、家畜、畑、池、家屋など、ありとあらゆる資産を誇る人の話をしました。その人はこうしたものを誇っていましたが、この世を去る時が近づいても、什分の一を納めることには気が進まず、それどころか資産は神から受けたものであると認めようとすらしませんでした。後にキ



ンポール大管長はその男性の葬儀で話をし、このようなことに触れました。この地主は、「背の高い人に見合った長さで、太った人にちょうどいい幅」⁸の細長い形に掘った土に横たえられていました。「彼はどれほど残して行ったのだろうか」という聞き古された問いかけに対する答えは、依然として常に「すべてを残して行った」なのです。ですから、天に宝を蓄えた方が賢明です。そこでは課税はなく、私有財産、相続、遺言書、遺志といった言葉が、教義によって、位、受け継ぎ、証、思いという意味を持つのです。⁹

第4に、什分の一と献金は、神が当然お受けになるべきものであるため、正直かつ誠実に納めましょう。確かにあらゆる聖文の中で最も心を貫く言葉の一つは、エホバのこの力強い問いかけです。「人は神の物を盗むことをするだろうか。」わたしたちは尋ねます。「どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか。」主はこう答えられます。「十分の一と、ささげ物をもってである。」¹⁰

什分の一を納めるということは、どうにかこうにか心を広くして神に差し出す、ささやかな贈り物などではありません。什分の一を納めるとは、負債を返済することです。ジェームズ・E・タルメージ長老は以前、わたしたちと主との間に交わされた契約であると表現したこと

があります。タルメージ長老は主がこう語られるのを思い浮かべました。「この世において、あなたは……家族の食糧、衣類、住居……生活を快適にするありふれたものなど、多くを必要としています。……あなたはそれらを手に入れる手段を得るでしょう。しかし覚えておいてください。それらはわたしのものであり、あなたの手に託したものの賃貸料を支払うようわたしはあなたに求めます。しかし人生において何事も常に順調に進むとは限りません。……[ですから]この世の地主が行うように、あなたの人生の浮き沈みや……将来の見通しにかかわらず、前払いを……請求するのは異なり、あなたが受けたときに[のみ]……支払えばよいのです。そして受け取ったものに应じて支払いなさい。もし収入の多い年があれば、……[あなたの収入の10パーセントも]少し多めに[なるでしょう。]翌年景気が悪く、収入が前年を下回る場合、……[収入の10パーセントは]減る[でしょう]。……[あなたがいかなる状況にあらうと、什分の一の律法は常に公平なものとなります。]」

タルメージ長老は次のように問いかけています。「皆さんはこの世で、このような[公平な]契約を進んで結んでくれる地主に出会ったことがあるでしょうか。この度量の大きさを考えると、……もし[神の正当な所有物]を奪おうとするならば、……わたしは恥ずかしくて、……天に顔向けできない気持ちになります。」¹¹

これは、什分の一と献金を納める5番目の理由へとつながっています。わたしたちは惜しみなく憐れみをもって与えてくださる天の御父に対し、愛を個人的に示すために、それらを納めるべきです。神はその恵みによって、飢えている人々にパンを、貧しい人々に衣服を与えてくださいます。人生の様々な時において、わたしたちも皆、物質的であれ、霊的であれ、恵みを受けてきました。福音はまるで朝日のように、わたしたち一人一人が無知や悲しみ、恐れ、絶望という闇を払う力となってきました。様々な国で神の子らは主を呼び求め、主はそれにおこたえになってきました。世界中に福音が広がる中で、神は疲れた者の

重荷を降ろさせ、虐げられた者に自由を得させてくださいます。主は愛にあふれた慈しみをもって、貧富を問わず、住む場所にもかかわらず、会員たちの生活を「潤った園……水の絶えない泉のように」してくださいませ。¹² わたしはイエス・キリストの福音のあらゆる祝福に対して、心から感謝しています。とりわけ神の独り子の模範的な生涯とその贖いという最も大いなる賜物に感謝しています。わたしはいかにしても、この深い恵みのほんの一片に対してすら、天に報いることはできません。しかし、感謝を示すよう努める方法は数多くあります。その一つが、什分の一と自らの意志による献金を納めることです。わたしは主に幾分かでもお返ししようと望んでいますが、(ダビデ王の言葉を借りれば)「費用をかけずに」¹³ 行おうとは決して思いません。

什分の一の原則は聖文の簡潔な表現によって教えられており、その神性は疑いようのないものです。そのような什分の一の原則は神が定められたものであることを証します。わたしたちが皆、永遠にわたってその祝福にふさわしくあれよう、イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

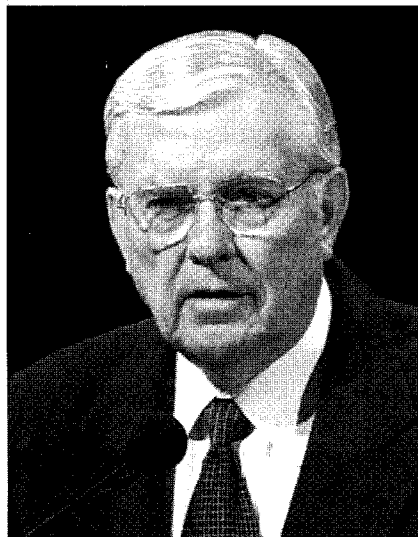
1. ダニエル2:45
2. イザヤ29:14
3. デビッド・B・ヘイトにより引用、「アロン神権者の責任」『聖徒の道』1981年9月号、70
4. マラキ3:10
5. Conference Report, 1900年4月、48
6. マラキ3:11
7. 個人的な書簡
8. Conference Report, 1968年4月、74
9. マタイ6:19-21 参照
10. マラキ3:8
11. The Lord's Tenth (パンフレット、1968年)10-11
12. イザヤ58:11; イザヤ58:6-10も参照
13. サムエル下24:24

包容の教義

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

「もし主イエス・キリストの真の弟子であるなら、わたしたちはどのようなときでも……すべての隣人に愛と理解の手を差し伸べるでしょう。」



その日はきょうのように晴れ渡つたすがすがしい秋の日であったかもしれません。救い主が腰を下ろして弟子たちを教えておられたとき、「ある律法学者」とだけ記された男が現れ、こう尋ねました。「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。」

男の心を御存じだったイエスは、その質問がモーセの律法と反対のことを言わせようとする下心から出ていることを見破られました。

救い主は逆に二つの質問をすることで、その問いに答えられました。「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか。」

お分かりのように律法学者は聖句を暗唱することができました。「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。』とあります。」

「あなたの答は正しい。そのとおりにいなさい。そうすれば、いのちが得られる」と救い主は言われました。

しかし、律法学者は満足しませんでした。彼は信仰を異にする人々との交わりについてユダヤ人の間に厳しい決まりと信念があることを知っていたので、主からさらに答えを引き出そうとしつくく迫りました。論争のわなにかけようとしたのです。「では、わたしの隣り人とはだれのことですか。」

再び教える時が来ました。イエスは御自分の得意であり最も効果的な教授技術の一つである、たとえを使われました。これはもしかするとキリスト教界で最も愛され、よく知られているたとえの一つかもしれません。

エルサレムからエリコに向かう男がどのように強盗どもに襲われ死にそうな目に遭ったか、そのたとえを皆さんは御存じだと思います。ある祭司は道の向こう側を通って行きました。レビ人も立ち止まって助けようとはしませんでした。それからイエスはこう教えられました。

「ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」

そしてイエスは律法学者にもう一つの質問をされました。「この3人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」

律法学者は答えました。「その人に慈悲深い行いをした人です。」

最後に、イエスは律法学者と良いサ

マリヤ人のたとえの読者全員に、こう教えられたのです。「あなたも行って同じようにしなさい。」(ルカ10:25-37参照)

わたしはこのたとえを読む度にその力強さと分かりやすさに心を打たれます。でもなぜ救い主はこの話の主人公にサマリヤ人を選ばれたのか、不思議に思ったことはないでしょうか。キリストの在世当時、ユダヤ人とサマリヤ人の間にはひどい反感がありました。通常はこの二つのグループはお互いに交流を避けていました。もし強盗に襲われた人を同じユダヤ人が助けたとしても、このたとえはやはり教訓に満ちたすばらしいものでしょう。

ユダヤ人とサマリヤ人を登場させるという主の深い配慮によって、はっきりと次のことが分かります。わたしたちは皆隣り人であり、例えば宗教的、政治的、文化的にどれほど深い違いがあっても、お互いに愛し合い、尊重し合い、敬意を払い、仕え合う必要があるということです。

この教訓は今日でも依然として末日聖徒イエス・キリスト教会の教えの一部です。ジョセフ・スミスは回復された教会の教義の要点を挙げる中で、次のように語りました。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張」する一方で、「すべての人に同じ特権を認め[ます]。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げ」ません(信仰簡条1:11)。

うれしいことに教会員の多くはこの教義を理解し、日常生活でそれに従っています。わたしは最近、このユタ州のある町で起こった悲惨な死について、新聞記事を読みました。夫を亡くして悲しむ若い女性の言葉がこう紹介されていました。「驚くほどたくさんの人から助けを受けました。わたしたちはモルモンではありませんが、地元のワードの方々が、食事や手伝い、慰めの言葉をもって十二分の世話をしてくれます。とても大きな愛を示してくださり、感謝しております。」(ディック・ハーモン, "Former Ute's Death Leaves Wife Coping, Wondering" *Daily Herald* [ユタ州, プ

ロボ 2001年8月11日付, A3で引用)

こうでなければなりません。もし主イエス・キリストの真の弟子であるなら、わたしたちはどのようなときでも、ましてや大変なときには、すべての隣人に愛と理解の手を差し伸べるでしょう。『チャーチニュース』(Church News)の最近の号にとっても親しい二人の女性の記事が紹介されていました。「一人はニューヨークから来たユダヤ人医師で、もう一人はユタ州で6人の子どもを持つ[末日聖徒の]専業主婦です。二人とも遠く離れた[テキサス州]ダラスの出身でした。」

この教会員はこう伝えています。「もしわたしたちの友達づきあいが、コンピューターで検索され組み合わせられていたとしたら、そもそも第1段階の評価をパスできなかったのではないのでしょうか。……

……女医としてとても忙しいはずの人から、PTAで使う接待用ナプキンの色について意見を頂けるなんてとても思えませんもの。

思い込みの奇妙な部分、それは機会さえ与えられればすばらしい花を咲かせ、伸びていく可能性があるのに、その芽を摘んでしまう場合があるという点です。わたしはそのような思い込みが無視されたことを永遠に感謝します。」(シ

ヤウナ・エリックソン, "Unlikely Friends Sharing a Lifetime" Church News, 2001年8月18日付, 10)

直観や思い込みはきわめて危険で、不当な場合があります。一部の教会員は近隣の人すべてに優しい笑顔や温かい握手、愛のこもった奉仕の手を差し伸べていないかもしれません。その一方で、わたしたちと同じ信仰を持たず、教会と教会員に対して否定的な先入観を持っている人が近所に引っ越して来ているかもしれません。確かに善い隣人は宗教や国籍、人種、文化にかかわらず、お互いに理解を示し親切を尽くせるように最善の努力をしなければなりません。

時折、わたしは教会員が別の信仰を持つ人々を無視したり除外したりして傷つけていると聞くことがあります。特に住民の大半が教会員である地域にこれはありがちのようです。家族が教会員ではないという理由だけで、近所の特定の子どもと遊ばないように教えている偏狭な親の話を聞いたこともあります。この種の態度は主イエス・キリストの教えとは一致しません。わたしには教会員がなぜこの種の問題を生じるままにしておくのが理解できません。わたしは生まれたときからこの教会の会員として生活してきました。専任宣教師として働き

ましたし、監督は2度、伝道部長、七十人、そして今は使徒になっています。しかし、一度としてそのように教えたこともなければ、教えられていると聞いたこともありません。それは除外するという教義です。この教会の会員がほかの宗教の友人や隣人に対して、愛や親切、寛容、善意を示さないように勧められたのを、一度も聞いたことはありません。

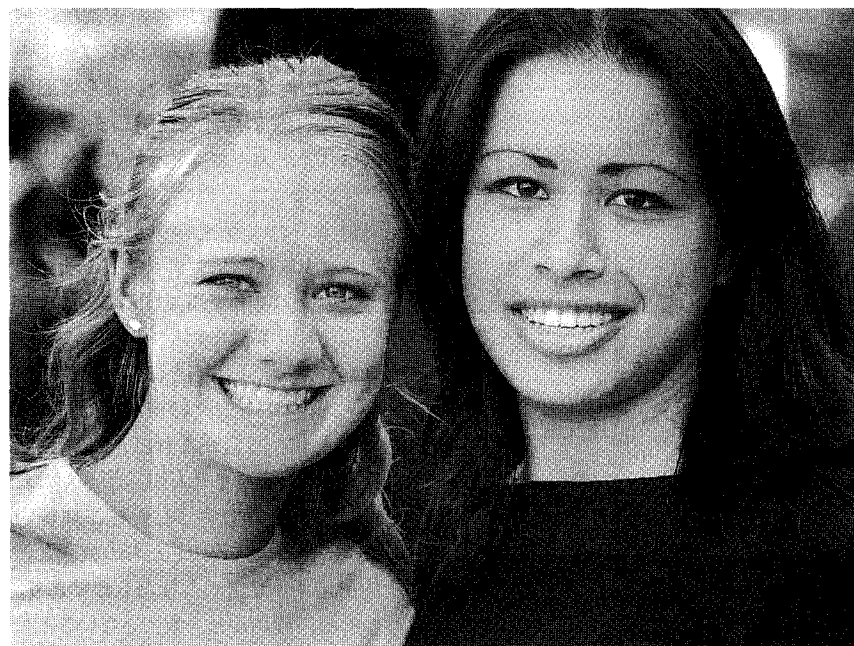
主はわたしたちに多くのことを期待していらっしゃる。両親の皆さん、どうか宗教的、政治的、または文化的な違いのために人々を除外せず、むしろ包容する原則を子どもたちに教え、自らも実践してください。

確かにわたしたちは、世に向かってイエス・キリストの完全な福音が預言者ジョセフ・スミスを通して地上に回復された^{あかし}と宣言し、会員たちに自分の信仰と証を人々と分かち合うように勧めてはいますが、わたしたちのメッセージに耳を傾けたり受け入れたりしないと決めた人々を締め出し無視するのは、絶対に教会の方針ではありません。実に、その逆こそ真実なのです。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は主イエス・キリストに従う者としての特別な義務をわたしたちに思い出させるために、繰り返し述べています。その一つだけを紹介します。

「わたしたちは一人一人が独特な存在です。一人一人が異なっています。このような違いは尊重されなければなりません。……

……わたしたちは互いに対して敬い自制する態度を築くため、さらに熱心に努力する必要があります。自分の擁護する教義や哲学にかかわりなく、お互いへの寛容をもってそうするのです。皆さんやわたしが賛同できない教義や哲学があるかもしれません。それでも、敬意と礼儀とをもってそのように努めることができます。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年] 661, 665)

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは一部の人々から「特異な民」と見なされていることを知っています(1ペテロ2:9。訳注——日本聖書協会の口語訳聖書では「神につける民」と訳出されている)。わたしたちの教



義と信条はわたしたちにとって大切なものです。わたしたちはそれを深く信じ、いとおしんでいます。わたしは決してそのようにすべきでないと提案しているではありません。逆に、わたしたちの特異性と、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージが持つ特殊性は世の人々に明確な選択をさせるために、不可欠な要素なのです。またわたしは、自分や家族を霊的な危険にさらすような関係に身を置くよう提案しているのではありません。しかしわたしたちは、必ずしもすべての人がイエス・キリストの福音が回復されたという教義を受け入れるわけではないことを理解しなければなりません。たいていは、別の信仰を持つわたしたちの隣人は善良な品位ある人々です。わたしたちがそうならうと努めているのと同じように、どの点を取っても善良で品位ある人々です。彼らはわたしたちとまったく同じように家族のために心を砕いています。わたしたちとまったく同じようにこの世をもっと住みやすいに場所にしたいと願っています。親切で愛情深く、寛容で、忠実な人々です。わたしたちがそうならうと努めているのとまったく同じです。ほぼ四半世紀前に大管長会は次のように宣言しました。「わたしたちのメッセージは……宗教的信条や人種、国籍にかかわらず、すべての男女の永遠の福利に特別な愛と関心を寄せるといふものです。なぜなら、わたしたちは同じ永遠の御父の息子、娘であって、真の兄弟姉妹

であることを知っているからです。」(大管長会の声明、1978年2月15日付)

これこそわたしたちの教義です。すなわち包容の教義です。これこそわたしたちが信じていることです。これがわたしたちに教えられていることです。この教義があるからこそ、わたしたちは地上に住むすべての民の中で、最も愛に満ちた、親切で寛容な民でなければなりません。

近所に住む人々に疎外感を抱かせないために、わたしたちができる簡単な3つのことを提案させていただこうと思います。

最初に、隣人を知ろうとすることです。彼らの家族、仕事、物の見方を知ってください。彼らにその意志があれば一緒に集まり、しかも押しつけがましくなく、下心など持たずにそうしてください。友情は決して目的のための手段として示すものではありません。友情自体が目的になるはずですし、またそうしなければなりません。わたしは最近ユタ州に引っ越して来たある女性から手紙を受け取りました。そのほんの一部をご紹介します。「バラード長老にお伝えしなければなりません。わたしが近所の人にあいさつしたり手を振ったりしても、彼らはこたえようとしません。朝夕の散歩のときにそばを通っても、だれも会釈を返す人がいません。黒人の人たちも、親しみを込めた態度を執っても同じような否定的な反応しか返ってこないといつも言っています。」もし、この女性の近所

に教会員が住んでいるとすれば、確かにその人々はこのようなことがあってはならないと知らなければなりません。異なる背景や信条を持つ人々との間に信頼と理解に満ちた有意義な関係を築くようにしましょう。

第2に、わたしたちの語彙の中から次の二つの表現を取り除けたらいいと思います。それは「非教会員」と「非モルモン」です。そのような表現は人を卑しめ、さらには見くびる場合さえあります。わたし自身としては、自分を「非カトリック」であるとか「非ユダヤ人」であるとは考えていません。わたしはクリスチャンです。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。わたしは自分が何者であり、どのような人物であるかを認識される方がうれしく、自分がどのような人物でないかを認識されるのとは対照的です。この同じ礼儀を身近に住む人々に対しても示しましょう。一般的な表現が必要なきには、「隣人」という言い方が多くの場合はうまくいきそうです。

第3に、隣人が末日聖徒イエス・キリスト教会や、道徳的な理由でわたしたちが支持する何らかの律法に賛同できず、憤慨したりいらいらしたりしても、たとえ冗談であっても、引っ越しを考慮すべきだというようなことを言わないでください。わたしは教会員がどうしてそんなことを考えられるのか理解できません。わたしたちの開拓者の先祖は、何も知らない不寛容な隣人たちによってあちこちへ追われました。彼らは想像を超えた苦難と迫害を経験しましたが、それはほかの人々とは異なった考え方をもち、異なった行動をし信条を示したからです。教会歴史の中から学ぶものがあるとすれば、平和に共存するというすべての人の権利を尊重することこそ学び取る必要があります。

今度は、わたしたちとは違う信仰をお持ちのすべての方々に申し上げます。もし、心配な問題があれば、一緒に話し合おうではありませんか。皆さんのお役に立ちたいのです。しかしご理解いただきたいのは、わたしたちの教義と教えは主によって定められたものであり、そのため、皆さんと一致できないことを



●神権部会

2001年10月6日

神への務めを果たす

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

『神への務め達成賞』の要件を達成することにより、皆さんの人生全体の支えとなる、生きた証が得られることを約束します。』



神 権者の前に立ち、神の王国の軍勢に向かって話すことはわたしにとって大きな喜びです。

わたしたちが何者であるのかを知っていること、すなわち、この神権時代に回復されたアロン神権あるいはメルキゼデク神権を持つ神の息子であるという知識を持っていることは、大切です。この世で何を成し遂げようとしているのかを知っていること、すなわち、家族とともに天の御父の御前に戻ろうとしているのだという知識を持っていることは、大切です。わたしたちは豊かな恵みを受けています。ですから、神に対する義務を学んでそれを果たすのも大切なことです。

大管長会と十二使徒定員会は長年にわたって、この悩み多き時代に生きる青少年の幸いに強い関心を寄せてきました。2001年9月28日に大管長会は合衆国とカナダの神権指導者に対して、次のような手紙を送りました。

「2000年1月にわたしたちは、合衆国・カナダ以外のスカウト活動を実施していない地域に、アロン神権達成プログラムを導入しました。その目的は、若い男性がメルキゼデク神権や神殿のエンダウメントを受ける備えをするのを助け、専任宣教師の召しを受け、結婚し、父親の務めを果たすのに備えるのを助けることです。……[このプログラムは国際地域ではこのまま継続されます。そして]合衆国・カナダで使用するために、このプログラムに少し手を加えたものを作りました。若い男性の成長に大切な役割を持つスカウト活動を取り入れたのです。このプログラムは、『アロン神権——神への務めを果たす』(Aaronic Priesthood: Fulfilling Our Duty to God) [という名称で呼ばれることになります。]

プログラムの内容は、『アロン神権——神への務めを果たす』執事用、教師用、祭司用という3冊の手引きの中で説明されています。若い男性は3冊の手引きに説明されている要件を満たすと『神への務め達成賞』を授与されます。

あわせて、この度、若い女性の『成長するわたし』が簡素化されたこと、『若人のために』のパンフレットが改訂されたことをお知らせいたします。これらの資料は、青少年が今日の世にあって信仰と勇気をはぐくむのを助けるために改訂されました。また、両親と指導者が青少年を強めるための資料、『青少年に関する両親と指導者のためのガイド』(Guidebook for Parents and Leaders of Youth)が出版されたことをお知らせ

認めざるを得ない場合もありますが、それでもわたしたちは不愉快な態度を執らずにそのように伝えられるということです。わたしたちの地域社会では丁寧さと敬意、礼儀のある雰囲気での協力し合うことができますし、またそうでなければなりません。ここユタ州では、時事問題に関心のある市民団体が統一連合を形成しています。この教会もほかの教会や組織と同じようにこの運動を支持しています。その目的の一つは、「異なる見解が認められ評価される地域社会の形成に努めること」です。もしかすると、お互いに共通する善のために世界中の隣人が一緒に立ち上がることが、今ほど重要な時期はかつてなかったかもしれません。

救い主は贖罪の苦痛に満ちた肉体的、霊的な過程に入る数時間前に、使徒たちと会って過越の食事、主の最後の晩餐を取り、現世でお与えになる最後の指示を彼らに与えられました。その教えの中に、心を奮い立たせ、人生を変えるほどの宣言があります。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:34-35)

これこそ良いサマリア人のたとえの中で、イエスが「ある律法学者」も含めて、弟子たちに教えられたことです。これこそ生ける預言者と使徒を通して現代のわたしたちにも主が教えておられることなのです。互いに愛し合ってください。どれほど大きな違いがあっても、お互いに親切を尽くしてください。尊敬と丁寧さをもってお互いに接しましょう。わたしはイエスがキリスト、わたしたちの救い主、贖い主であられることを知っており、証します。もっと良い隣人になるという主の訓戒に従うよう主はわたしたちすべての者に期待しておられることを、わたしは知っています。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

します。この手引きはミューチャルが青少年を支える大切な役割を果たすことについて説明しています。

わたしたちはすべての若い男性が『イーグル・スカウト章』(訳注——合衆国のスカウトプログラムで若い男性が受けることのできる最高位の章)と『神への務め達成賞』を受けるために努力するよう望んでいます。また、すべての若い女性が『若い女性確認賞』を受けるために努力するよう望んでいます。青少年はこれらの目標に向かって努力するときに、神殿にもっと思いを向け、家族や主に生涯にわたる奉仕を行うのに必要な技術と特質を伸ばすことができます。

これらの資料は2001年12月までに各ステークに送付されますので、ワードに配付してください。2002年1月からの実施となります。)(大管長会からの手紙、2001年9月28日付)大管長会の歴史的な手紙はこのように結んでいます。

わたしたちは世界の歴史の中でも特に難しい時代に生きています。サタンは地を行き巡り、あちらこちらと歩いて、義なる神の望みをくじくために、神の子らの間であらゆる種類の邪悪を行っています。救い主イエス・キリストの再臨が近づくにつれ、地上の人々に対するサタンのよこしまな企みはいっそう激しさを増すと聖文は教えています(2テサロニケ2:1-10;教義と聖約10:33;52:14;86:3-10参照)。

この末日において、今日のような状況はこれまでありませんでした。大管長会と十二使徒定員会から両親に対して、また監督、神権指導者、補助組織指導者に対して、あなたがた若い男性に自分が何者であり、この世だけでなく来るべき永遠の世においてどのような人物になることができるのか確実に理解させるようにというメッセージが、非常に強く提示されているのです。

「神への務め達成賞」により、若い男性は将来に待ち受けている人生のチャレンジに立ち向かい、アロン神権の目的を成し遂げるための支援を得ることができます。

大管長会と十二使徒定員会はこのように説明しています。「わたしたちは、

皆さんが『神への務め達成賞』を獲得して、それをメルキゼデク神権を受ける備えの象徴とするよう願っています。』(Aaronic Priesthood: Fulfilling Our Duty to God, Deacon [2001年] 4)

「神への務め達成賞」を獲得するころには、皆さんは以下の分野で目標を達成していることでしょう。

- 神権の務めを忠実に果たし、標準を忠実に守る。

- 家族の活動に参加する。

- 定員会活動に参加する。

- 「神への務め」の奉仕プロジェクトを成し遂げる。

- 神権の務めを中心に置きながら、次の4つの分野で個人の目標を達成する: 霊的な面での成長。肉体的な面での成長。学業、人格、職業への備えの面での成長。社会の一員としての成長、また対人関係の面での成長。

これら神権の務めと個人の特質に関する要件を成し遂げることによって、メルキゼデク神権の責任とこれからの人生で待ち受けているチャレンジに備えることができます。「神への務め達成賞」の要件を達成することにより、皆さんの人生全体の支えとなる、生きた証が得られることを約束します。

スカウト活動が実施されている地域では、スカウト活動に参加することによっても、皆さんの取り組みに支援を得ることができます。スカウト活動に参加するようお勧めします。スカウト活動で求められている事項の多くは「神への務め」達成証明書目標と要件をも満たすことになるのですから。

スカウト活動はアロン神権活動プログラムの一部です。「神への務め達成賞」は神権の賞であって、霊性を高め、神権の義務を果たすうえで助けとなる要件を含んでいます。

これらのプログラムから得られる偉大な祝福の中には、次のようなものがあります。教会の青少年として自分が何者であるかをはっきりと理解できるようになること、自分の行動をきちんと説明できるようになること、日常生活の中での様々な行動に対して責任を取れるようになること、そして、地上で達成すべき

事柄を成し遂げるために目標を立てられるようになることです。皆さんにこれらの事柄について、まさに最善を尽くすようお願いします。

若い男性の皆さん、毎日ひざまずいて、心にある望みを神に打ち明けてください。神はあらゆる知恵の源であり、皆さんの祈りにこたえてくださいます。へりくだって、進んで御霊のささやきに耳を傾けてください。毎日聖文を読んでください。証を強めてください。什分の一とささげ物をささげてください。バプテスマを受けたときに交わした聖約を覚えて、それを守り、毎週聖餐を受けるときにそれらの聖約を新たにしてください。今、バプテスマの聖約を守ることが、将来神殿の聖約を交わすための準備となるのです。

これが神に対する皆さんの務めの核となるものです。神への務めを果たすことによって、自分の生活ばかりかほかの人々の生活にも祝福をもたらすことができます。

アロン神権の目的の一つに人々に奉仕することがあります。「神への務め達成賞」の要件の一つとして、毎年少なくとも1度、家族や教会あるいは地域社会にとって意義のある奉仕を行うことが求められます。人々を助けて、奉仕するときに、皆さんは次の聖句が福音の中核を成していることが理解できるでしょう。「あなたがたがこれらの最も小さい者にするのは、すなわち、わたしにするのである。」(教義と聖約42:38)

親やアロン神権の会長である監督の皆さんが、自分に任されている若い男性と若い女性が、神聖で輝かしい目的を果たすためにこの特別な時期にこの世に来るよう備えられていたということを理解するよう願っています。メルキゼデク神権を受ける資格を満たし、メルキゼデク神権を受けることはすばらしい祝福です。若い男性の皆さんは義になった人になり、強さを増し、人々に良い影響を与えるという神聖な召しを受けています。若い男性の皆さんは教会の将来なのです。

わたしたちは天の御父の御前から地上に来て以来、全員が進歩してきました。

た。この世の最初の10年間は学習する大切な時期でした。わたしたちは愛され、養い育てられました。歩くこと、話すこと、自分の不完全な肉体をコントロールすることを学びました。選択の自由について、つまり、選択には結果が伴うということについて学びました。わたしたちの多くは、8歳のときにバプテスマを受けました。それは聖文で告げられているように、善と悪の区別がつく年齢であり、自分が何者か、つまり神の子であること、またなぜ地上にいるのか、何を成し遂げようとしているかをわきまえることのできる年齢です(教義と聖約68:25, 27参照)。

バプテスマを受けてから12歳になるまでの間、家族や神権指導者、補助組織の指導者、教師たちから、神権を受ける準備として福音の原則と標準を教わりました。アロン神権は準備の神権と呼ばれています。さて、生涯の中で2番目の10年間は準備の時期です。将来に待ち受けている重大な決断を下すための準備をする期間です。メルキゼデク神権を受けるため、神殿の聖約を引き

受けるため、神権に伴うすべての責任を成し遂げて、神への務めを果たせるように準備するのです。

今選ぶことが、将来皆さんに与えられる機会の量と質を直接左右します。毎日の一つ一つの決断が皆さんの機会を狭めたり、広げたりするのです。この準備の時期に義にかなった決断を下すならば、将来、皆さんは進んで義にかなった決断を下すことでしょう。

皆さんの生涯のその次の10年間、すなわち20歳から30歳までの10年間にどのような決断を下すことになるかを少し考えてみてください。神殿に参入するためのふさわしさを身に付けること、宣教師として奉仕すること、教育、職業、永遠の伴侶、家族などについてです。この10年間には様々な決断が求められますが、恐れる必要はありません。準備してきたことに対する祝福を喜んで受けるようになるからです。「備えていれば恐れることはない」のです(教義と聖約38:30)。

バプテスマのときに受ける最も偉大な贈り物の一つは、聖霊の賜物です。皆

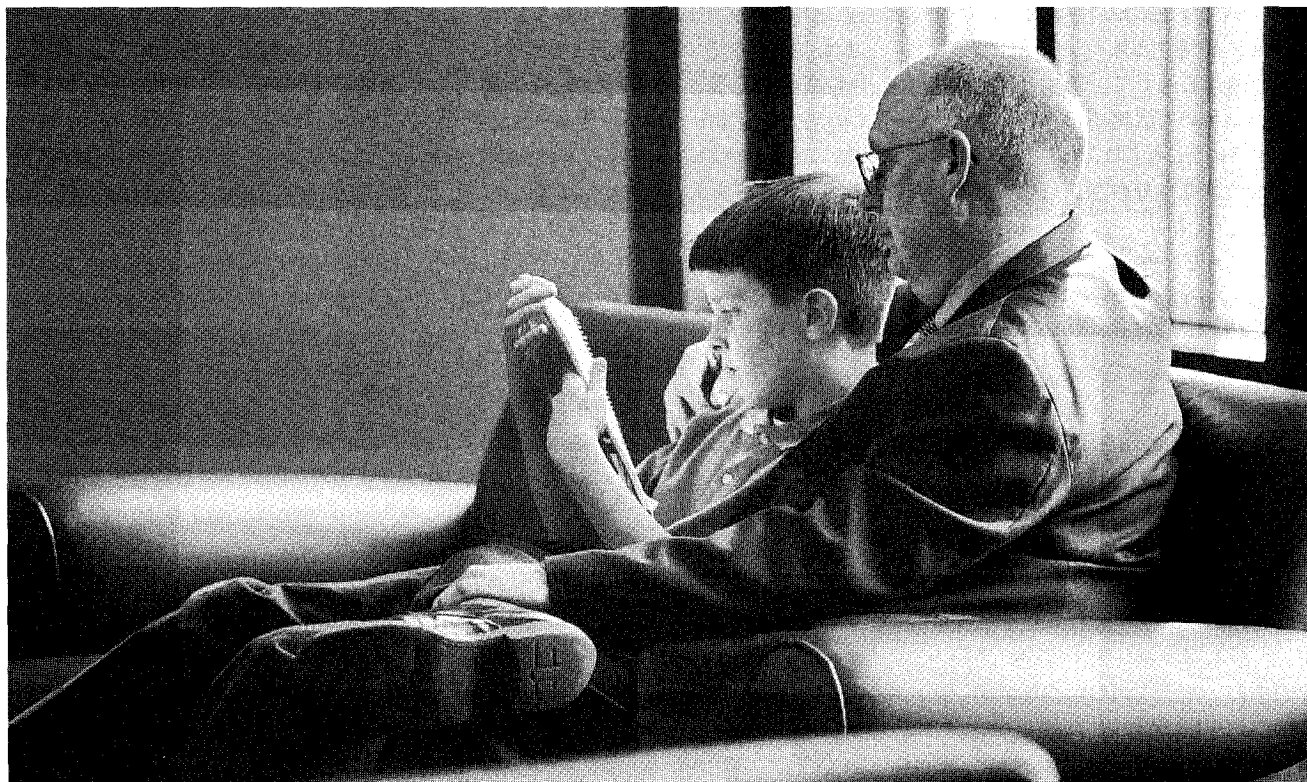
さんは聖霊の賜物によって、これらの大切な決断をするときに靈感あふれる導きを受けることができます。

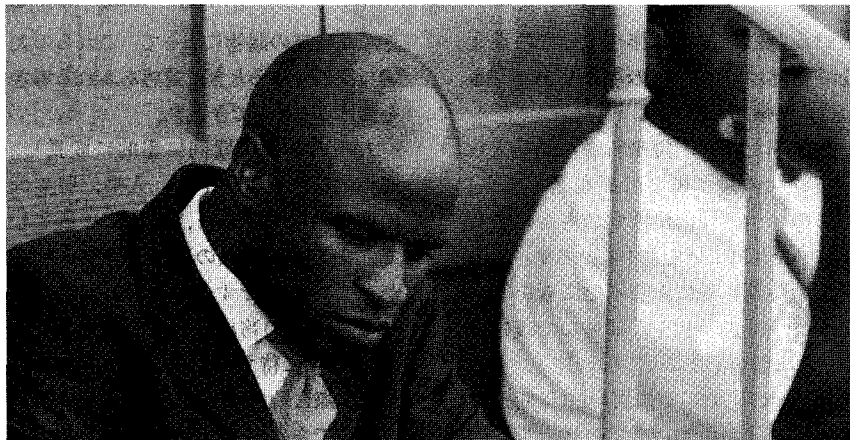
人生の準備の期間に霊的に成長し、肉体的に成長し、学業、人格、職業への備えの面で成長し、社会の一員として、また対人関係の面で成長することが非常に大切です。これらの資質はすべて、神権の務めの一部であって、次の10年間に待ち受けている様々な決断を下す際に助けとなるものです。

何歳であるかにかかわらず、神への務めを果たすうえで大切なことはイエス・キリストの弟子となることです。これは「わたしに従ってきなさい」(ルカ18:22)と言われた主の招きを受け入れることです。救い主に従うためには、救い主がどのような御方であられるか、つまり神の御子であられることを知り、御子の御名を受け、御子の贖いの犠牲を覚え、戒めを守る必要があります。わたしたちはこれらの聖約をバプテスマのときに交わし、聖餐を受ける度にその聖約を新たにしています。

救い主が天の御父にささげられた祈

カンファレンスセンターで瞑想にふける男性。





りから、弟子とは何かまた神への務めとは何かについて、偉大な教えを学ぶことができます。主は執り成しの祈りの中で、こう教えておられます。「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。」(ヨハネ17:4, 強調付加)

イエス・キリストはゲツセマネの園で全人類の罪のために苦しみを受けたとき、このように祈られました。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」(マタイ26:39, 強調付加)

聖文に登場するすべての預言者は、自らの生活を通して、弟子とは何かまた神への務めとは何かについて教えています。わたしたちはこれらの預言者から学ぶ教訓を自分の生活に当てはめることができます。

若きジョセフ・スミスは言いました。「わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻って、父にすべてのことを詳しく告げた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:50, 強調付加)

エリヤは「行って、主の言葉のとおりにした。」(列王上17:5, 強調付加)

「ノアはすべて神の命じられたようにした。」(創世6:22, 強調付加)

ヨシュアは民にこう教えました。「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。……民はヨシュアに言った、『われわれの神、主に、われわれは仕え、その声に聞きしたがいます。』」(ヨシュア24:15, 24, 強調付加)

アルマは言いました。「わが子よ、忘れずに若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。」(アルマ37:35, 強調付加)

大管長会と十二使徒定員会はアロン神権者一人一人に対してこのように勧告しています。

「皆さんは偉大なチャレンジと機会の時代に生きています。皆さんはこの世に変化をもたらすように求められています。神の息子である皆さんはアロン神権の力によって、善を行う偉大な力となることができます

皆さんは奉仕を行うことができます。見返りを考えずに自分の時間や才能、力をささげるのです。聖餐を〔準備し、パスを行い、〕祝福し、〔断食献金を集め、人々を助け、〕ホームティーチャーとして働くことなどによって神権の務めを果たすことができます。皆さんは模範によってほかの人々を高めることができます。福音を学び、福音を分かち合って、信仰と証を築き、福音に生きることによって、自分自身を強めることができます。

天の御父が皆さんに望んでおられることを学び、そして、最善を尽くして天の御父の御心に従う責任があります。……

主は皆さんを信じて、皆さんに託すべき大切な使命を持っておられます。祈りによって主に心を向けるときに、主は皆さんを助けてくださいます。御霊の勧めに耳を傾けてください。戒めに従ってください。神殿にふさわしい者となるために聖約を交わし、守ってください。目標を決め、成し遂げるために、両親や

指導者の協力を仰いでください。務めを果たし、胸の高鳴るような将来のチャレンジに備えるときに、大きな達成感を覚えることでしょう。」(Aaronic Priesthood: Fulfilling Our Duty to God, Priest [2001年] 4-5)

アロン神権の兄弟の皆さん、今、目標を立て、「神への務め達成賞」と「イーグル・スカウト章」を目指して歩み始めてください。その努力には必ず祝福があることでしょう。

わたしは教会の青少年を愛しています。毎日義にかなった事柄を選択している皆さんを心から敬い、感嘆しています。困難な時代にあって、多くのチャレンジに囲まれながらも、皆さんはほんとうに忠実です。皆さんは将来父親となり、教会の神権指導者となるために備えています。

わたしたち皆にとって、時満ちる最後の神権時代に生きていることを理解するのは非常に大切です。今がイエス・キリストの再臨に備える時であり、この終わりの時に、悪魔がこれまでも増して多くの邪悪を世界に解き放つ力を持っているということを理解するのは重要です。ですから、わたしたちが祈っているのは、教会の青少年が皆、敵対する者の火の矢に耐える強さを持ち、わたしたち親と神権指導者が、そうです、羊飼いであるわたしたちが、子どもたちを助けてイエス・キリストの福音に真実かつ忠実な者になれるようにすることなのです。

この業が真実であること、この終わりの時に神権が回復されたことを証します。忠実であるならば祝福を受けられることを約束します。そして、預言者アルマの声に合わせてこう宣言します。「これらのことをあなたがたに語ってきたのは、神への義務感をあなたがたに自覚させ、あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように、またあなたがたが、かつてそれによって受け入れられた聖なる位に従って歩めるようになるためである。」(アルマ7:22)アロン神権者一人一人が神への務めを果たし、誉れをもって天の御父のみもとへ帰ることができるよう祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

神への務め

七十人会長会

セシル・ロ・サミュエルソン・ジュニア

「神権を受けて神への務めを果たすことは非常に重大な責任であるだけでなく、すばらしい特権でもあります。」



子どものころわたしは旧約聖書にあるサムエルの話に感銘を受けました。彼の母親ハンナは感謝して息子の生涯を神にささげました。彼は幼いときから神殿に行き、そこで生活し奉仕しました。ある晩、主に3度呼ばれ、その度に「ここにおります」と答えました。大祭司で教師のエリに呼ばれたと思ったからです。分別のあるエリは幼い「サムエルがまだ主を知らず、主の言葉がまだ彼に現されなかった」²ことも知っていて、主がその少年を呼ばれたのだと悟りました。エリはサムエルに答え方を教えたので、次に主に呼ばれたときサムエルは「しもべは聞きます。お話しください」³と答えました。

サムエルの生涯について学ぶと、彼が神への務めを果たしたこと、そして「サムエルは育っていった。主が彼と共におられて、その言葉を一つも地に落ちないようにされた」⁴ことに気づきます。その結果、サムエル自身偉大な預言者、

指導者になりました。

現代のアロン神権者である若い男性の皆さんも、サムエルと同じように、神に対する神聖な務めがあることを知ってほしいと思います。サムエルにはハンナという立派な母親と、エリという偉大な神権指導者がいました。同じようにほとんどの若い男性の皆さんにはすばらしい両親と、神への務めを果たそうとすると皆さんと両親を助けるために心を砕き、準備を整えた靈感あふれる神権指導者がいます。

ゴードン・B・シンクレイ大管長は皆さんと皆さんのように若い世代の人々にこう語っています。「わたしは……この教会の若い男性、若い女性を深く愛しています。……わたしたちは皆さんを心から愛しています。そしていつも、皆さんを助ける力を祈り求めています。皆さんの生活は、難しい決断や、夢や希望、平和と幸福をもたらすものを見いだしたいという願いで満ちています。……

皆さんにお約束します。もし皆さんが主の戒めに従って主の道を歩むならば、神が皆さんをお見捨てになることはありません」⁵

預言者のこの約束を心に留めつつ、ヘイルズ長老が先ほど述べ、大管長会の手紙にも記されている事柄についてお話ししましょう。それは、皆さんが神への務めを果たすのを支援するために現在作成されている教会の資料についてです。アロン神権の目的は、皆さんが以下の事柄を達成するための指針となります。

● イエス・キリストの福音を受け入れ、その教えに従って生活する。

● 神権の召しを忠実に果たし、自分の神権の職における責任を果たす。

- 意義深い奉仕をする。
- メルキゼデク神権および神殿の儀式を受ける備えをし、ふさわしい生活を送る。
- 誉れある専任宣教師として奉仕する備えをする。
- 可能なかぎり教育を受ける。
- ふさわしい夫および父親になる備えをする。
- 女性、少女、子どもたちに^{しか}然るべき敬意を示す。

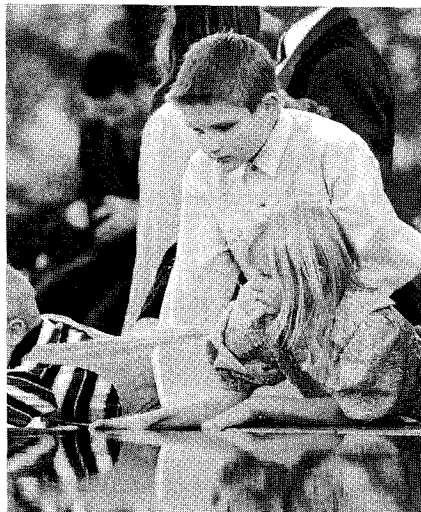
「神への務め達成賞」プログラムは、以上のアロン神権の目的を達成する助けになるでしょう。「神への務め達成賞」の条件を満たすには、アロン神権の目的を果たし、達成する必要があります。また家族の活動、一定の定員会活動、「神への務め」奉仕活動に参加し、日記を付け、次の4つの分野で個人の目標を達成しなければなりません。

- 霊的な面での成長
- 肉体な面での成長
- 学業、人格、職業への備えの面での成長
- 社会の一員としての成長、また対人関係の面での成長

スカウト活動のある所では、スカウトのいろいろな達成章を取ることで「神への務め達成賞」に必要な条件を満たせることに皆さんは気づくでしょう。「神への務め達成賞」もスカウト活動も「すべての必要なもの」⁶のために「用意をする」ことを教えています。「神への務め達成賞」とイーグル・スカウト（訳注——合衆国のスカウトプログラムで若い男性が受けることのできる最高位の章）の各種章を取得することは別々のことではなく、相補うものです。

大管長会と十二使徒定員会は皆さんを愛し、ますます困難になるこの時代にあって皆さんを強めたいと願っています。そのような愛と望みをもって教会は改訂版『若人の強さのために——神への務めを果たす』という小冊子を、若い男性、若い女性、両親、指導者のためにほかの資料と一緒に作成しました。

アロン神権を持つ若い男性の皆さんが、若い女性が「個人の進歩プログラ



ム」に取り組むのと同じように、「神への務め達成賞」を目指して努めるなら、皆さんも彼女たちと一緒に神の証人として立つでしょう。そのような証は皆さんの言葉や生活、戒めを守る態度などに現れるでしょう。

お分かりと思いますが、「神への務め達成賞」を得ること自体が最終目標ではありません。むしろ神の務めにさらに打ち込むうえで助けとなる特質を生活の中に培うことなのです。それらの特質によって皆さんは正しい方向に向かい、ふさわしくあって将来の神聖な職務や機会を得ることができるでしょう。また将来だけでなく、今も幸せで清く、力を得られるようになり、永遠に大切な事柄のために備える助けとなります。そのような永遠に大切な事柄には、例えば聖なる神殿の祝福を得、伝道に出、最終的には主の宮でふさわしい相手と結び固められることなどがあります。

アルマはギデオンの地で教えたとき、この点について、時を超えて永遠に続く言葉で明らかにしました。「さて、わたしの愛する同胞よ、これらのことをあなたがたに語ってきたのは、神への義務感をあなたがたに自覚させ、あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように、またあなたがたが、かつてそれによって受け入れられた聖なる位に従って歩めるようにするためである。』

神権を授けられた人々は、自分が召され聖任されたこの「聖なる位」に従って歩みたいと願うでしょう。皆さんはすべての約束された祝福にはそれに伴う責任があることを御存じだと思います。それらの責任を果たすことによって、人々に仕え、自らを霊的に成長させる機会

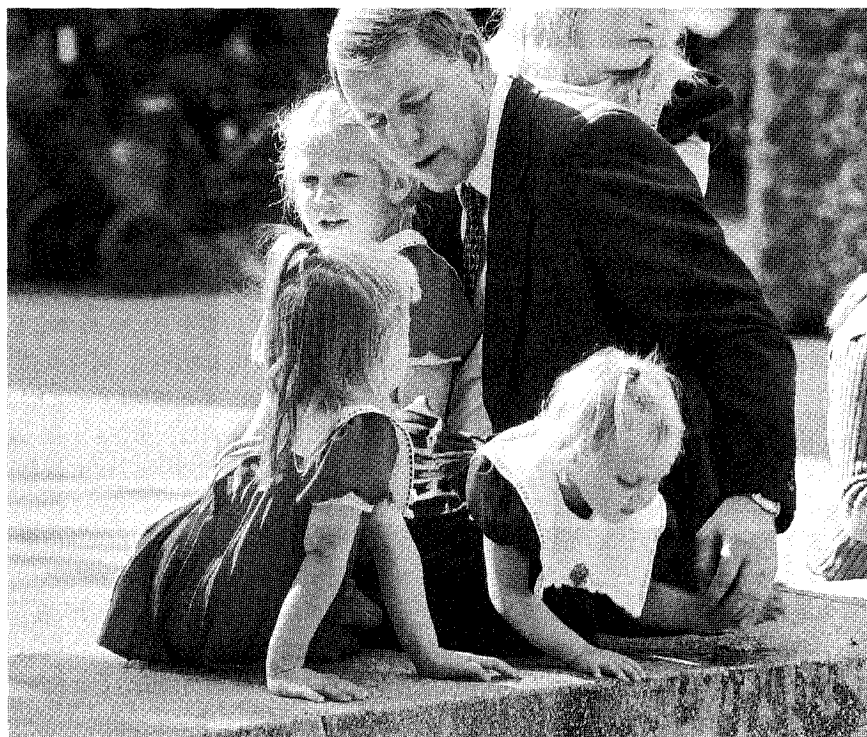
が与えられます。これらはイエスにさらに似た者となるために不可欠な進歩の段階です。

人のためにすべての苦しみを受けられた救い主は、わたしたちがアロン神権者の時代に直面する幾つかの問題と同様の試練に直面されました。⁸ 皆さんはわたしたちの多くが執事になる年齢のころにイエスが体験されたことを覚えているでしょう。主は家族やほかの人々と一緒に神殿に行かれました。家に帰るころになると、主はマリヤやヨセフと離れてしまわれました。家族はイエスが信頼できるほかの友達か親戚と一緒にいると考えただろうと思います。しかしいつまでたっても見つからないので、心配になりました。義務を忘れない親としてマリヤとヨセフは、皆さんの両親が同じような状況に置かれたら行ったと思われることをしました。主を捜して回りました。主を神殿で見つけたときに、主が無事であられたために彼らの感じた、様々な気持ちの入り交じった安堵感^{あんど}は、親か祖父母である者にしか完全には理解できないものであったかもしれませんが、同時に主の反応に対して多少の驚きも含まれていたようです。同じような体験をした方がいらっしゃいますか。その後

に有名なやり取りが続きます。「両親はこれを見て驚き、そして母が彼に言った、『どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんない、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです。』するとイエスは言われた、『どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。』⁹

イエスはこう言われたのかもしれませんが。「わたしが神への務めを果たしていたのを御存じなかったのですか。」

ハロルド・B・リー大管長はイエスの質問の意味は教義と聖約第64章¹⁰にあると教えました。大管長はこう言っています。「人は神権を受けると主の代理人になります。彼は自分の召しをあたかも主の用向きを受けているかのように考えなければなりません。これが神権を尊んで大いなるものとするの意意味です。あの少年がヨセフとマリヤに尋ねたように、主が皆さん一人一人にこうお尋ねになっていると思ってください。『わたしが御父の業を果たしていたのを知らなかったのですか。』何事であれ皆さんが主の御心に従って行くことは、主の業となります。』¹¹ つまり神権を受けて神への務めを果たすことは非常に重大な責



任であるだけでなく、すばらしい特権でもあります。

時には皆さんも、皆さんの両親や神権指導者の対応がマリヤとヨセフのようだと感じる場合があるかもしれません。御父の業に対する重要な質問をすることでイエスが答えられた後、ルカはこう記しています。「しかし、両親はその語られた言葉を悟ることができなかった。」¹²

それにもかかわらずイエスがされたことをよく見てください。それは神への務めを真に果たそうと思うなら、わたしたちがしなければならぬことの模範です。「それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。……イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」¹³

皆さんが覚えておく必要があるのは、神への皆さんの務めは自分の家族、特に両親に対する務めときわめて明確に結びついている点です。わたしたちが神への務めを真に果たせるのは、正しく神に仕え従うときだけではなく、両親や神権指導者に対してもそうするときです。わたしたち全員がサムエルと同じように、「しもべは聞きます。お話しください」¹⁴と主に言えますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

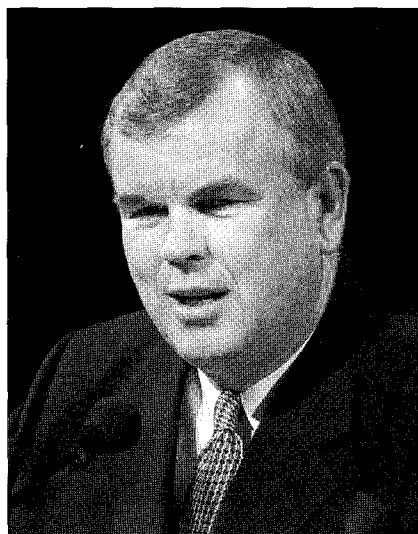
1. サムエル上 3:4-8 参照
2. サムエル上 3:7
3. サムエル上 3:10
4. サムエル上 3:19
5. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30
6. 教義と聖約 88:119
7. アルマ 7:22
8. アルマ 7:11, 教義と聖約 18:11 参照
9. ルカ 2:48-49
10. 教義と聖約 64:29 参照
11. ハロルド・B・リー, *Stand Ye in Holy Places* (1974年) 255
12. ルカ 2:50
13. ルカ 2:51-52
14. サムエル上 3:10

感謝

七十八

スティーブン・E・スノー

「感謝の念を深めるには、祝福を常に思い返し、日々の祈りの中で感謝するとよいでしょう。」



わたしはユタ州南部で育ちました。仲間の中には、セントジョージの目抜き通りにつながるハイウエー 91 号線沿いに多数あったガソリンスタンドで働く者もいました。当時 18 歳だった弟のポールは、家から通りを 3 つ隔てたスタンドで働いていました。

夏のある日、ニューヨークのナンバープレートが付けた車が弟のガソリンスタンドに入って来ました。(30 歳未満の皆さんのために言うておきますが、当時のアメリカでは店員が給油し、窓をふき、オイルチェックまでしていたのです。) 弟が車の窓をふいていると、客はグランドキャニオンまであとのくらいかと尋ねました。「170 マイル (約 274 キロ) くらいです」と弟は答えました。

「グランドキャニオンをずっと見たかったんですよ。どんな感じなんですか」と客が言いました。

「分かりません。行ったことがないの

で」と弟は答えました。

「そんなばかな。グランドキャニオンといえば世界の七不思議の一つですよ。たった 2 時間半の所にいて、見たことがないなんて」と客は言いました。

「ごもっともです。」弟は言いました。

少し間を置いて客は言いました。「いや、それも分かるような気がするよ。家内とわたしはマンハッタンに 20 年以上も住んでいるのに、自由の女神を一度も見に行ったことがないんだから。」

「自由の女神なら見に行きましたよ」と弟は言いました。

兄弟の皆さん、美しい自然や見事な芸術を見に遠くまで行く人は多いのに、近くにある美しいものに目を向けないとは、皮肉なものだとは思いませんか。

幸せをどこかほかの場所に求めるのは人間のさがだと、わたしは思います。仕事上の目標、富、物質的報酬を追求することはわたしたちの目を曇らせ、往々にして、すでに自分の周りにある豊かな祝福に対する感謝を忘れさせてしまいます。

どうしてももっと与えられなかったのだろうと考え続けることは危険です。反対に、どうしてこんなに与えられているのだろうと考えれば、謙虚になれますし、ためにもなります。

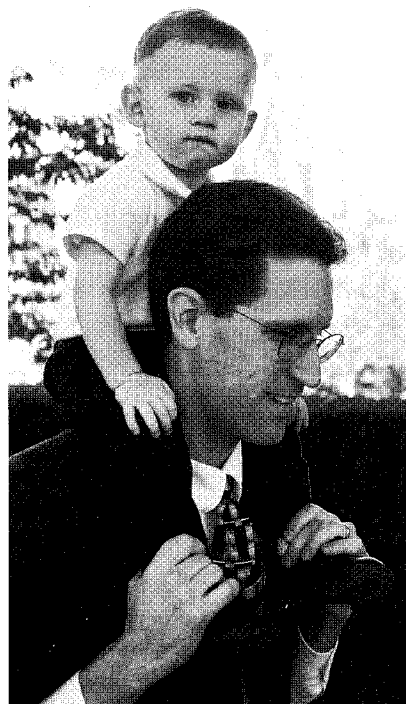
「わずかなものに満足すればそれだけ裕福になる」という格言もあります。

パウロはピリピ人にこう書き送りました。「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。」(ピリピ 4:11)

アルマは息子ヒラマンに次の助言を与えました。それは、すべての父親が子どもたちに教えるべきものです。「あ



大会部会の説教に聞き入る
七十人定員会の会員たち。



なたのすべての行いについて主と相談
しなさい。そうすれば、主はあなたのため
になる指示を与えてくださる。まことに、
夜寝るときは、眠っている間も主が見
守ってくださいるように、主に身を託し
て寝なさい。そして、朝起きるときに、
神への感謝で心を満たしなさい。これ
らのことを行うならば、終わりの日に高
く上げられるであろう。」(アルマ37:37)

アルマは、「神への感謝で心を満たし
なさい」と言っています。主はわたした
ちに感謝するよう求めておられます。テ
サロニケ人への第一の手紙にこうありま
す。「すべての事について、感謝しな
さい。これが、キリスト・イエスにあって、
神があなたがたに求めておられること
である。」(1テサロニケ5:18)

神権者として、わたしたちは常に感
謝の念を深めるよう努めるべきです。感
謝の念を深めるには、祝福を常に思い
返し、日々の祈りの中で感謝するとよい
でしょう。

デビッド・O・マッケイ大管長はこう述
べています。「若い男性が部屋の戸を閉
め、カーテンを閉じ、静かに神に助けを
嘆願するときは、まずその心を注ぎ出し、

健康、友、愛する人々、福音、神がそ
の実在を明らかにしてくださったことに
感謝するとよいでしょう。まず最初に、
恵みを一つ一つ数え上げるのです。」
(Conference Report, 1961年4月、
7-8)

祈るときには常に感謝を表す必要が
あります。わたしたちはすべてを理解し
ているわけではないのに、ある特定の祝
福が必要なんだと思い込んで祈り求め
ることがあります。主が御自分の御心
のままに祈りにこたえてくださるときに
わたしたちが感謝の祈りをささげるな
ら、主はきっとお喜びになるでしょう。

兄弟の皆さん、この次に祈るときには、
祝福をあれこれ願う代わりに、これまで
主によって与えられてきたすべての恵み
に、心からの感謝をささげてください。

ジョセフ・F・スミス大管長はこのよう
に教えています。「感謝の心は常に喜び
と満ち足りた気持ちを与えてくれます。
だれかの役に立ちたいという気持ちがわ
き、愛と友情が生じ、神の影響が及ぶ
からです。『感謝は心に刻まれた思い出
となる』と言われていました。」(Gospel
Doctrine, 第5版[1939年] 262)

1879年10月、ユタの南西に散在していた小さな開拓地から237人の健康な人々が集められ、新しい道を切り開き、現在ユタ州南東のサンファン郡として知られる地域に入植するよう召されました。6週間で到着すると言われていましたが、6か月近くかかりました。その苦難と英雄的行為、特に「ホール・イン・ザ・ロック」と呼ばれる場所を通してコロラド川を渡るという不可能に近い行為については、克明に記録されています。荷車やそれを引く家畜が、溪谷の赤い岩肌にできた狭い裂け目を、コロラド川までかなりの距離を降りて行ったのです。この地を訪れる人々はその事実には驚嘆します。コロラド川を越えてからも、サンファン郡に到着するまでに幾多の苦難が待っていました。疲労困憊した一行は1880年4月上旬、最後の難所、コームリッジに差しかかりました。コームリッジは、砂が固まってできた岩石の峰で、1,000フィート(約305メートル)の巨大な壁のようにそびえ立っています。

あれから120年後の春、ある晴れた日に、わたしの家族はコームリッジに登りました。勾配がきつく危険な峰です。このような峰を荷車、家畜、男性、女性、子どもたちが登るのは、想像もつかないほど大変なことだったでしょう。しかし、足もとには荷車の車輪の跡が、はるか昔に苦難と闘った人々の証として残っていました。彼らはこのような苦しみをどう感じたのでしょうか。何か月もの苦難と困窮の経験を振り返って、苦々しく思ったのでしょうか。多くのものを犠牲にして、苦しい旅をするように求めた指導者を非難したのでしょうか。そのような質問は、わたしたちが頂上に着いたときに答えられました。頂上の赤い岩石には、ずっと昔に刻まれたこのような言葉が残っていました。「おお、神よ、あなたに感謝します。」

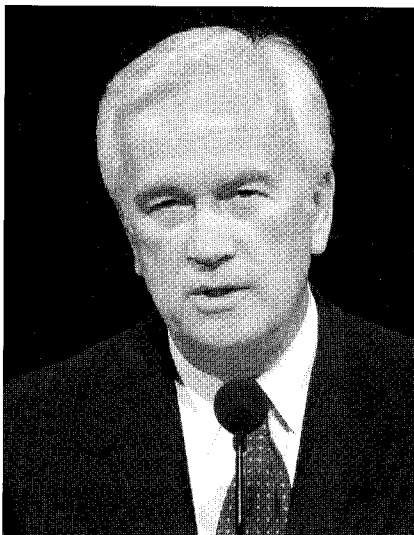
兄弟の皆さん、わたしたちが、持っていないものを思うのをやめ、持っているものに常に感謝できますように。神権を持つ者として、わたしたちが感謝の精神ですべてのことを行えますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。

神権の輪を作り、鎖につなげていく

七十人

キース・K・ヒルビッグ

「心を尽くし義にかなって仕えるとき、自分の神権の輪を強めており、わたしたちの前を歩んだ人々と後に続く人々との鎖をさらに堅固につなげていることになるのです。」



この会場と世界中に集う様々な世代の方々が、この大規模な神権者の集会の席に着いておられます。大勢の息子、父親、祖父、そして曾祖父に至るまで、すべての方が、キリストに信仰を持ち、その戒めを守ろうと努力し、主に仕える望みを胸に抱いています。

長きにわたって神権を受け継いできた家族の一員である方もいらっしゃるでしょう。家族で初めて神の神権を受けた方もおられます。しかし、すべての方が、神権を尊び王国で奉仕するにふさわしい神権者の鎖を作り、つなげていく機会と責任にあずかっています。それによって、家族が世代を超えて結ばれていくのです。今晚わたしは神権の鎖についてお

話ししますが、皆さん一人一人がその中で役割を持っています。

いずれの神権時代にも、主の目的を成し遂げるため、忠実な男性に神権が与えられてきました。聖文には、アダムから始まって、預言者から預言者へと神権の権能が受け継がれたことが書かれています。

わたしたちはこの世の初めまでさかのぼる神権の鎖の一部にたとえることができます。しかし今や文字どおり、わたしたちは自分の先祖や子孫と結ばれるために、自らの強い神権の輪を作るという非常に重要な責任を負っているのです。

人がメルキゼデク神権を受けなかったり、尊ばなかったりすると、その鎖の輪は失われ、その人は永遠の命を得ることができません(教義と聖約76:79; 84:41-42参照)。このゆえに教会では、進んで耳を傾けるすべての人に回復のメッセージを教え、望む人すべてを神権と神殿の祝福に備えさせることに多大な努力を傾けています。

今宵、わたしたちは神の神権を持つ特権にあずかっていますが、その一因は前世によるものです。預言者アルマは地上でメルキゼデク神権に聖任される男性について次のように記しています。「……[彼らは]非常に深い信仰と善い行いのために、神の先見の明によって世の初めから召され、備えられていた。彼らは初めに善を選ぶのも悪を選ぶのも任されていた。そこで彼らは、善を選ん

で、非常に深い信仰を働かせたので、現在、聖なる召しを受けている。」(アルマ13:3)

皆さんが家族にあって忠実な神権者となり、その鎖を作る者、あるいはつなげていく者となるのは、はるか以前から

主が計画されたことでした。神権の「聖なる召し」を受けたのは、皆さんが前世でもこの世でも、信仰を持ち、選択の自由を賢明に行使したからなのです。

1844年、預言者ジョセフ・スミスは次のように述べました。「世に住む人々を

教え導く召しを持つ人は皆、この世界が存在する前に、天上の大会議でその目的のために聖任されたのです。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選〔1976年〕365)

家族にあって神権者として1世代目であろうと5世代目であろうと、わたしたちは忠実さと予任という個々の受け継ぎをもってこの地上にきました。それを知ると、常に神権を尊び、それによって教会において、また日の栄えの王国において幾世代にもわたる家族を築き、永続させるという固い決意が心にわき上がります。

「神権」はしばしば地上で神の御名によって行動する力と権能と定義されますが、救い主や家族、隣人に仕えることも、神権の定義に含まれます。救い主は、わたしたちが神権をおもに人々の益となるために行使するよう望んでおられます。自分に祝福を与えたり、バプテスマを施したりすることはできず、自分のために神殿の儀式を施すこともできません。代わりに、すべての神権者は、愛をもって神権の権能と力を行使して、霊的に成長する助けをしてくれるほかの神権者に頼らなければなりません。

祖父や父、兄が召しを尊んで大いなるものとする姿を見る中で、また神権者としての模範であったワードの兄弟たちから、わたしは神権を行使して奉仕することの大切さを学びました。

わたしはアロン神権の教師の職に聖任されると、60歳ほど年上の大祭司ヘンリー・ウィルケニング兄弟が最初のホームティーチングの同僚となりました。ドイツ系移民で靴職人だった彼は、背丈こそ低い人でしたが、担当の家族に仕えるのに精力的で忠実な羊飼いでした。わたしは毎月担当の家族を訪れるために、彼の後を早足でついて行ったものです。(兄弟はわたしよりずっと速く歩いたり、階段を上ったりしたのです。)そして、幼いわたしがそれまで経験したことのない様々な大変な状況を目にしました。レッスンの一部分を教え、約束を作るのがわたしの役目でしたが、ほとんどの場合、ウィルケニング兄弟が



兄弟姉妹を助け、14歳のわたしがそれまで知らなかった様々な霊的、社会的、経済的、精神的な必要を満たすのを、見たり、聞いたりしていました。

わたしは次第に、たった一人の忠実な神権者が、どれだけ多くの善をなし得るかに気づき始めました。ウィルケニング兄弟が、助けに必要な家族と、そして若いわたしに与えてくれた愛ある奉仕を通して、彼自身の強い神権の鎖を作り上げていくのをつぶさに見せてくれたのです。

若いわたしは、多くの神権者の模範によって、神権の奉仕の業は王国における特別な肩書きや召しや地位によるものではないことを学びました。奉仕の機会は、神の神権を受けると同時に始まり、その神権を持つかぎり常に伴うものなのです。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は1951年4月の総大会で、次のような思慮深い教を残しています。「主に仕えるに当たって大切なのは、どこで奉仕するかではなくどのように奉仕するかです。末日聖徒イエス・キリスト教会において、人は正当に召されるべき職を受けます。いかなる人もその職を求めるべきではなく、また断るべきではありません。」(ボイド・K・パッカー「奉仕の業に召される」『リアホナ』1998年1月号、7で引用)

どのような責任を受けているかにかかわらず、心を尽くし義にかなって仕えるとき、自分の神権の輪を強めており、わたしたちの前を歩んだ人々と後に続く人々との鎖をさらに堅固につなげていることになるのです。

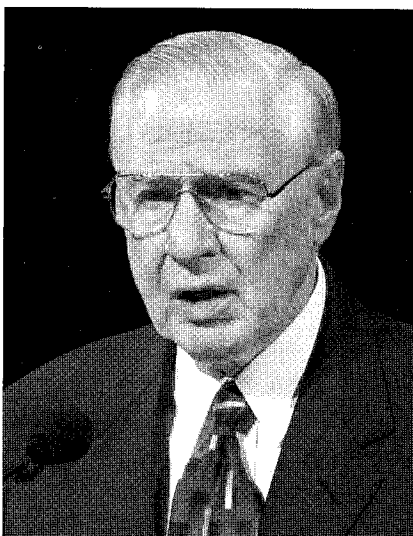
わたしは、救い主の神性と贖いの犠牲と、わたしたちが受ける特権にあずかっている神権が回復されたことを厳粛に証します。この集会に集うすべての息子と父親の皆さんが、忠実に神権を尊んで主に仕え、自分の輪を神権の鎖にしっかりとつなぐことを今晚決心されるように祈ります。その鎖によって、皆さんと先祖と子孫が永遠にわたってともに結ばれますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

「何か大きな事」

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

「わたしたちが、ふさわしさを確かなものとしてくれる、日々の目立たない事柄に対して忠実でありますように。それらはわたしたちを大いなることへと導き、備えさせてくれます。」



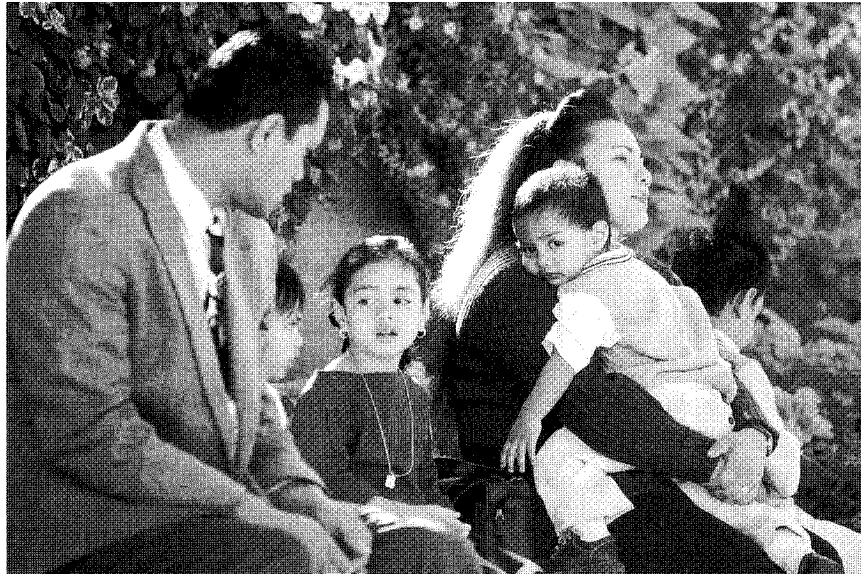
愛する、全世界の神の神権者の皆さん、わたしは皆さんの一人に加えられていることを光榮に思います。今晚、わたしは教会の神権者が、信仰と人格、霊性を築く事柄をもっと熱心に行うように呼びかけたいと思います。これらは神権者が日々心がけるべき務めであり、毎日、毎週、毎月、そして長年にわたって絶えず行うべきことです。教会の業は基本的な事柄の上に築かれています。什分の一を納めることや、家族を養うこと、神権の義務を果たすこと、貧しい人や助けが必要な人の世話をすること、日々の祈り、聖文学習、家庭の夕べ、ホームティーチング、定員会の活動への参加、そして神殿に参入することなどです。教会の大管長から召されるならば、わたしたちはノーブー神殿の建設などの「何か大きな事」を喜んで行う用意ができます。しかし、多くの人は先ほど述べたような

基本的な事柄を行うことをあまり望んでいません。

旧約聖書に登場するスリヤ王の軍勢の長、ナアマンの話はよく御存じのことと思います。ナアマンはハンセン病患っていました。イスラエル人であった小さなしもべは、ナアマンを癒すことのできる預言者がイスラエルにいとナアマンの妻に告げました。ナアマンが馬と車を従えてエリシャの家を訪れると、エリシャはナアマンに使者を遣わして次のように指示しました。「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう。」¹

この中でも若い皆さんは、母親に手を見せると何と言われるかよく分かっていると思います。きつとすぐに手を洗ってくるように言われることでしょう。しかしナアマンは年若い少年ではありませんでした。ナアマンはスリヤの軍勢の長でした。ナアマンは、ヨルダンに行つて身を洗うようにというエリシャの勧告に腹を立て、そして「怒って去」²りました。ナアマンの僕で知恵に秀でている者がそれに反論してこう言いました。「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったのでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか。」³ ナアマンは悔い改めて預言者の勧告に従いました。そしてハンセン病は消えうせ、「その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり、清くな」⁴りました。このたとえでの「何か大きな事」はきわめて簡潔で、簡単なことでした。

近代の教会歴史の中に、主から厚い



恵みを受けた二人の人の対照的な例があります。その一人、ハイラム・スミスは死に至るまでも完全に忠実で、献身的であり続けました。しかし、その一方でオリバー・カウドリは、教会の回復の歴史における「何か大きな事」を目の当たりにしたにもかかわらず、自分の野心から盲目となり、教会の指導者としての高い地位を失ってしまいました。

オリバー・カウドリは預言者ジョセフ・スミスとともに教会の回復にとって重要な多くの事柄を経験しました。バプテスマのヨハネの管理の下で行われたバプテスマやアロン神権の授与、カートランド神殿での驚くべき現れを経験しました。そして彼は自らの手で「預言者〔ジョセフ・スミス〕の口から出るモルモン書のすべての言葉を（わずかなページを除いて）」⁵書き記したのです。預言者ジョセフを除いて、オリバー・カウドリほど天使と交わるという栄誉に浴した人物はいませんでした。

しかし、ジョセフ・スミスに困難が訪れると、オリバーはジョセフ・スミスに対して批判的になり、そして遠ざかって行きました。預言者の差し伸べた親交の手もむなしく、オリバー・カウドリは預言者と教会に敵意を抱くようになり、1838年4月12日、教会から破門されてしまいました。

預言者の死から数年たって、オリバーは悔い改め、⁶教会に戻りたいという意志を示し始めました。その返答として、ブリガム・ヤングは1847年11月22日の手紙でこう伝えました。「あなたが一度去った、わたしたちの天の御父の家へ

戻ってください。……そして、モルモン書が真実であることの証を新たにしてください。」⁶オリバーは高等評議会の前^{あかし}に姿を現したとき、このように言いました。「兄弟の皆さん、わたしは何年もの間、皆さんから離れていました。しかし今、戻りたいと思っています。わたしはへりくだり、皆さんの中に加えていただきたいのです。何の地位も要りません。皆さんとともに数えられさえすれば満足です。わたしは教会を去り、現在は教会の会員ではありませんが、もう一度会員になりたいと思っています。その扉から入りたいのです。わたしはその扉を知っています。以前の地位を求めてここに来たのではありません。へりくだって教会の決定に身をゆだねます。教会の決定は正しく、従うべきものであることを知っているからです。」⁷

彼はまた次のような言葉で証を述べました。「友人ならびに兄弟の皆さん。わたしの名はカウドリ。オリバー・カウドリです。教会歴史の初期に、わたしは〔評議会〕に籍を置きました。わたしは〔モルモン書が〕翻訳された金版をこの目で見て、この手で触れました。またわたしは解訳器も見ました。モルモン書は真実です。シドニー・リグドンが書いたものでも、スポールディング氏が書いたものでもありません。わたし自身が預言者の口から出るままに記したのです。」⁸オリバーは戻って来ましたが、教会の中で高い地位は失ってしまいました。

これと対照的にヒーバー・J・グラント大管長はハイラム・スミスについてこう述べました。「ハイラム・スミスが人生の

中で表した、預言者ジョセフ・スミスへの兄としての愛情ほど素晴らしい模範はありません。……彼らは人がなし得ないほど、一致し、慈しみ合い、愛をもって接しました。……ハイラム・スミスの心の中には……一寸の嫉妬心もなかったのです。世の人の中でハイラム・スミスほど、人生において、また死に至っても神の生ける預言者に対し、誠実、真実、そして忠実であった人物はいません。」⁹

ジョセフは、教会を導き、現在わたしたちに与えられている啓示を授かりました。そして、ハイラムはこの弟ジョセフのすべての必要、そして要求にこたえました。ハイラムは毎日、毎月、そして長年にわたって確固として忠実でした。

兄アルビンの死後、ハイラムは両親のために白い家を建てました。ジョセフが金版を受け取ったときはそれを保管し守るための箱を用意しました。版が翻訳されたとき、ジョセフはハイラムを信頼し、印刷するための原稿の写しを託しました。ハイラムは毎日、ほとんどはオリバー・カウドリとともに、その原稿を持って印刷所までの道を往復しました。¹⁰

ハイラムは農夫、または労働者として家族を支えました。しかし、1830年に教会が設立されるとコールズビル支部を管理する責任を受けました。彼は妻と家族を連れてニューエル・ナイトの家族とともに住み、そのほとんどの時間を「福音の話に耳を傾ける人がいるかぎりどこでも教え」ることに費やしました。¹¹また常に良い宣教師として自分の家の近隣だけではなく、アメリカの東海岸や南部にも赴きました。1831年にはジョン・マードックとともにミズーリへの行き帰りを通じて福音を宣べ伝えました。¹²

1833年にカートランド神殿建設の構想が伝えられると、ハイラムはすぐに長柄の鎌^{かま}を手にし、神殿用地の雑草を刈り、基礎を掘り始めました。1834年にシオンの陣営が組織されたとき、ハイラムはライマン・ホワイトを助け、人員を募り、ミシガンからミズーリまで聖徒らのグループを導きました。

これらの小さな事柄を通じて、ハイラム・スミスは1834年12月、教会の大管

長補佐に任命されました。彼は自分の弟である預言者ジョセフの指示の下に仕えたのです。彼は教会の業に携わっているときでも、リバティーの監獄に捕らえられているときでも、弟ジョセフにとって、常に力と慰めの源でした。1844年に迫害が猛威を振るい、ジョセフが暴徒から逃れようとノーブーを去ったとき、ハイラムは同行しました。彼らが川岸に立って、戻るべきかどうか熟考していたとき、ジョセフはハイラムの方を向いて言いました。「あなたの方が年上です、どのようにしたらよいでしょうか。」

ハイラムはそれに対し、このように答えました。「戻って、姿を現し、どのようなことになるか見てみようではありませんか。」¹³

彼らはノーブーに戻り、やがて、カーセージの監獄に連れて行かれました。そこで、お互いに数分たがわず、命を奪われ、殉教者として亡くなったのです。ハイラムは寄せられた信頼に対して、死に至るまでも忠実でした。すべての点において彼は救い主の弟子でした。しかし、彼をまことに大いなる者としたのは、日々の熱心な働きでした。対照的に、オリバー・カウドリは金版に手を触れ、天使がともにいたときは大いなる働きをしました。しかし日々の試練や困難を忠実に乗り越えなければならなかったとき、オリバーはためらい、そして教会から離れました。

わたしたちは「何か大きな事」によってのみ、救い主への愛を証明するのではありません。もし預言者から個人的にどこかの見知らぬ異国の地で伝道するよう依頼されたなら、あなたは行くでしょうか。きっとどんな努力をしてでも行くことでしょう。しかし、什分の一はどうでしょうか。ホームティーチングを行うことについてはどうでしょうか。わたしたちの人格を形作る、多くの信仰の小さな行い、献身、そして他人への優しさを通して、わたしたちは主への愛を示すのです。何か月か前に亡くなった、中央幹部のジョージ・R・ヒル3世博士の生涯は、このことを具現したものでした。

ヒル長老は石炭の世界的な権威であ

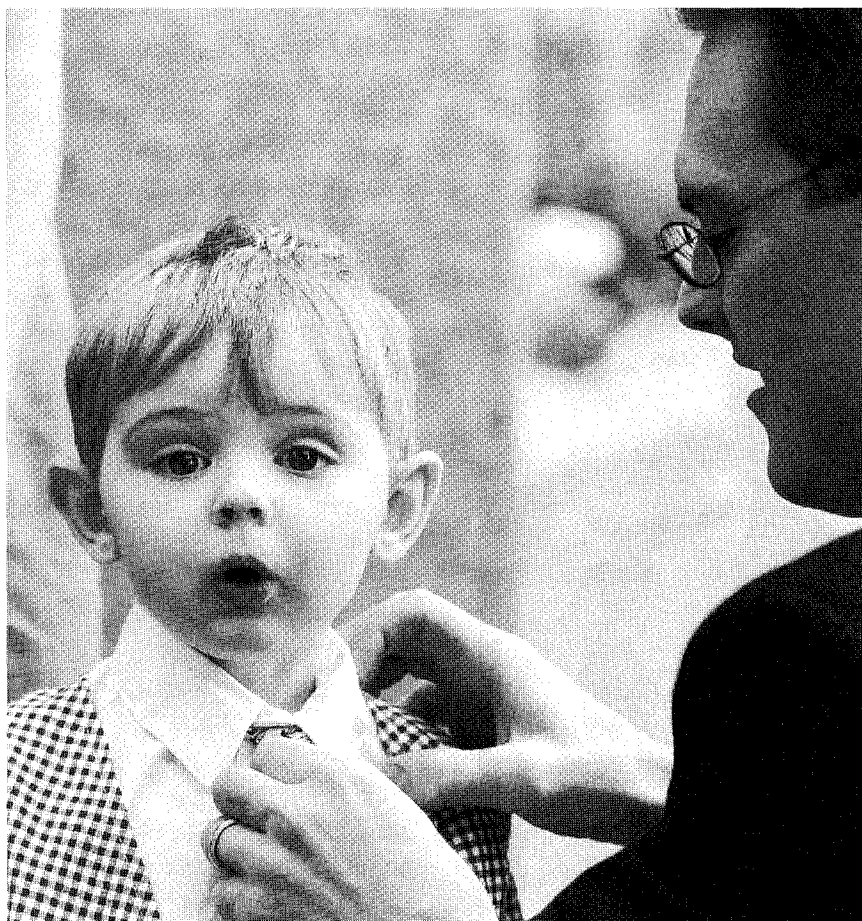
り、著名な科学者でした。彼は科学において数々の賞や栄誉を受けました。また、ユタ大学の工学教授で鉱山および鉱物資源学の学部長を務めていました。しかし、一個人として、ヒル長老は謙遜で慎み深く、まことに献身的な人でした。彼は中央幹部に召される前は3つの異なるワードの監督をし、また地区代表として奉仕しました。中央幹部を解任となった後は、ワードの副監督に召されました。彼の最後の召しは、(そのとき、彼の健康状態は悪化していたのですが)ステーキ福祉センターの缶詰作業ディレクター、そしてワード聖歌隊の隊員でした。彼はほかのすべての召しと同じ決意をもってこれらの召しを全うしました。彼は自分に与えられたすべての召しを、それが何であれ行ったのです。それらは「何か大きな事」である必要はありませんでした。

わたしの友人の一人は、かつてこのように言いました。「わたしたちの才能またはこの世や学術上の栄誉、そして

いよいよ限られる時間を神の聖壇の前にささげるとき、それらの犠牲はわたしたちの心を主に結びつけてくれます。そして主への愛が深まるのを感じるのです。

わたしたちが主の王国においてささげる奉仕は、それがレッスンを教えることであれ、ウェルフェアスクウェアでの缶詰作業であれ、もしそれらを、『義務』ととらえるのであればその価値は小さなものになってしまいます。しかし、わたしたちの才能や、都合の悪いときの集会に出席するための時間などを神の聖壇にささげるものとしてとらえるならば、わたしたちが払う犠牲は、主にあって個人的かつ献身的なものとなるでしょう。」¹⁴

わたしたちの愛する同胞であるヘンリー・B・アイリング長老が紹介してくれた次の話には、これらの決意の原則がさらによく現れています。これはボネビルステーキの高等評議会の中で働いた、彼の父親であり偉大な科学者であるヘンリー・アイリングについての話です。彼には福祉農場に関する責任がありま



した。農場の中には草抜きの必要な玉ねぎ畑がありました。当時、彼は80歳に近く、痛みを伴う骨の痛にむしばまれていました。痛みがひどかったにもかかわらず、彼は自分自身にその責任を割り当て、腹部をひじで押さえながら働いたのです。その痛みはあまりにひどくて、ひざまずけないほどでした。しかし、彼はほほえみ、笑い、玉ねぎ畑の雑草を抜きに来た人々と楽しく語らいました。この出来事についてアイリング長老が話した言葉を引用したいと思います。

「すべての仕事が終わる、玉ねぎの雑草がすべて抜かれた後、だれかが父に[こう言いました。]『ヘンリー、まさかこの雑草を抜いたんじゃないだろうな、ここの雑草には2日前に除草剤を散布したんだ。何もしなくても結局枯れていたのに。』」

父は大声で笑いました。父にはそれが実におもしろい出来事に思えました。自分を題材にした最高の笑い話だと思いました。抜かなくてもよい雑草に一日

中取り組んでいたのです。雑草には除草剤が散布され、何もしなくても枯れていたのです。

……わたしは父に[こう尋ねました。]『お父さん、どうしてそれを笑い話だと思えるの。』

父がそのときに言った言葉をわたしは一生忘れないでしょう。……父はこう言いました。『ヘンリー、わたしは雑草を刈るためにそこにいたわけじゃないんだよ。』¹⁵

小さな事柄には大きな可能性があります。テレビは人間に偉大な祝福をもたらしました。しかしそれは、アイダホの10代の若者が、父親の畑のまっすぐな畝間の上を農耕器具で耕していたときに考え出したのです。彼はそのとき、一つの解像管を通して、幾つもの直線を別の解像管に送信できることを思いつきました。¹⁶ 表面上は小さく見える事柄を行うとき、わたしたちにはそれらの持つ、秘められた可能性が見えないことがあります。この14歳の少年の日々の目立たない仕事の中から、この驚くべき発想が生まれたのです。ニーファイはこう言いました。「このようにして、主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。」¹⁷

若い男性の皆さんは未来に大いなる可能性を持った、選ばれた世代です。未来において皆さんは世界を舞台にほかの若者たちと競い合うように求められるかもしれません。皆さんには特別な訓練が必要です。皆さんはその訓練を受けるよう選ばれるかもしれません。しかしそれは驚くべき業績や大いなることによってではなく、イーグルスカウト章や「神への務め達成賞」、セミナーの卒業、そして伝道に出たことがそうさせるのです。

タラントのたとえで、タラントを増やした者は次のように言われました。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」¹⁸ わたしたちが、ふさわしさを確かなものとしてくれる、日々の目立たない事柄に対して忠実でありますように。それらはわたしたちを大いなること

へと導き、備えさせてくれます。これらのことを、イエスキリストの御名によって証いたします。アーメン。

注

1. 列王下5:10
2. 列王下5:12
3. 列王下5:13
4. 列王下5:14
5. ルーベン・ミラー、日記、1848-1849年、家族・教会歴史部記録保管庫、1848年10月21日
6. プリガム・ヤングからオリバー・カウドリへの書簡、1847年11月22日付、*Who's Who in the Doctrine & Covenants*(1997年)76で、スーザン・イーストン・ブラックにより引用
7. ミラー、日記、1848年11月
8. ミラー、日記、1848年10月21日
9. ヒーバー・J・グラント、"Hyrum Smith and His Distinguished Posterity," *Improvement Era*, 1918年8月号, 854-855
10. ロナルド・K・エスプリン、"Hyrum Smith: The Mildness of a Lamb, the Integrity of Job," *Ensign*, 2000年2月号, 32
11. "Scraps of Biography", *Classic Experiences and Adventures*, "Newel Knight's Journal"の項(1969年)65
12. 教義と聖約52:8-10参照
13. Hyrum Smith-Patriarch, *Ensign*, 2000年2月号, 36で引用
14. ジェームズ・S・ジャーディン、"Consecration and Learning," *On Becoming a Disciple-Scholar* (1995年) 80
15. ヘンリー・B・アイリング長老、"Waiting upon the Lord," *Brigham Young University 1990-91 Devotional and Fireside Speeches*, 22参照
16. フィロ・ファーンズワース、"Dr. X's Instant Images," *U.S. News & World Report*, 1998年8月17日付, 44
17. ニーファイ16:29
18. マタイ25:23

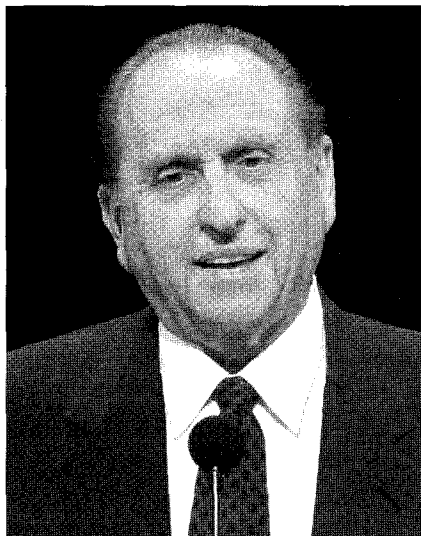


義務の伴う召し

第一副管長

トーマス・S・モンソン

「わたしたちは皆、神権を尊び、数多くの貴い人々が主のみもとに戻れるよう熱心に働くという厳粛な義務があります。」



兄 弟の皆さん、今晚皆さんにお話をする割り当てを引き受けるのは、身のすくむ思いがしますが、その一方で貴重な特権であるを受け止めています。この神権部会を含め、総大会に胸を躍らせ、期待をもって臨むと、参加の場がこの会場であっても、または衛星放送やテレビで御覧になっても、わたしたちの心に喜びがもたらされます。

主は教義と聖約第107章でわたしたちの責任を次のように明らかにし、厳粛な任務を課せられました。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」

義務を遂行することや神の召しにこたえること、または霊的な促しに応じることがさほど困難ではないときがある一方で、このような義務に応じることによって圧倒されてしまうときもあります。わたしは

1966年4月の総大会の前にそのような経験をしました。35年も前のことですが、そのときの経験は今でも鮮明に覚えています。

その大会の一つの部会で話をする割り当てを受けたわたしは、「自分のゴリアテと闘う」というメッセージを準備し、暗記することにしていました。古代にダビデとゴリアテとの間で行われた有名な対決の話に基づいたものです。

そのようなとき、デビッド・O・マッケイ大管長から電話がありました。会話は次のようなものでした。「モンソン兄弟、こちらはマッケイ大管長です。お元気ですか。」

わたしは深呼吸してからこう答えました。「はい元気です、大管長。大会を楽しみにしています。」

「モンソン兄弟、お電話したのはほかでもない、大会のことです。土曜日午前の部会は、復活祭のメッセージとして、日曜日に世界に向けて再放送されます。わたしは復活祭をテーマにした話をしようと思っていますが、あなたにもこの大切な部会と一緒に出席し、同様のテーマで話をさせていただけたらと思います。いかがでしょうか。」

「もちろんです、大管長。喜んでお引き受けいたします。」

そのとき、この短い会話の意味がはっきりと分かりました。「自分のゴリアテと闘う」という話は、にわかに復活祭のメッセージにまったくそぐわないものになってしまったのです。話の準備を一からやり直さなければならないと分かりました。残された時間はごくわずかでした。事実、わたしの「ゴリアテ」が目の前に立

ちはだかったのです。

その晩、わたしは台所のテーブルを片付け、そこにタイプライターと大量の白紙を載せ、このようなときに頼りになるくずかごをわきに置き、こうした割り当ての準備に付き物の書き出しの失敗をすべてそこに捨てられるようにしました。作業を始めたのは午後7時ですが、午前1時になっても納得する最初の一行を書き上げられませんでした。くずかごはいっぱいになったものの、頭は見事に空っぽでした。どうしたらよいのでしょうか。時間は足早に過ぎていきます。わたしは一息ついて祈りました。

するとすぐ、近所に住む、マーク・シャムウェイと妻ウィルマの悲しむ姿が心に浮かびました。この夫妻は少し前にいちばん下の子どもを亡くしていたのです。わたしはこのように考えました。「メッセージの対象をシャムウェイ夫妻本人に絞れば、ほかの人たちには間接的に伝わることになるかもしれない。愛する人を亡くして悲しみに暮れない人などいないのだから。」わたしはタイプライターのキーボードをたたき続けましたが、今度は頭に浮かぶ事柄に追いつくのがやっとというほどでした。

夜明けの最初の光が台所の窓から差し込むころ、わたしはメッセージを書き終えました。しかしまだ、メッセージを暗記し、世界に伝えるという任務が残されていました。預言者からの割り当てを果たすため、これほど奮闘したことはありません。その一方で、天の御父はわたしの祈りを聞いてくださっていました。わたしはこの経験を決して忘れません。

大会の部会が終わりに近づくころ、二つの有名な聖句がわたしの心を占めていました。どちらも皆さんがよく御存じで、いつまでも廃れることない聖句です。最初の聖句は、モルモン書の初期の時代に登場するニーファイが語った言葉です。「そこで、わたしニーファイは父に言った。『わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それではなくては、主は何の命令も人の子らに



カンファレンスセンターの南側窓の外を流れ落ちる人工の滝。
大会参加者に美しい眺めを提供している。

下されないことを承知しているからです。』²

次は、主御自身がわたしたちに約束された言葉で、教義と聖約からの引用です。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。』³

今晚ここに集っているわたしたちの中には、メルキゼデク神権を有している人々が多く、またアロン神権を授かっている人々もいます。わたしたちは皆、神権を尊び、数多くの貴い人々が主のもとに戻るよう熱心に働くという厳粛な義務があります。わたしたちは主が述べられた次の宣言を心に留めています。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。』⁴ わたしたちはなすべきことをすべて行っているでしょうか。また、わたしたちはジョン・テラー大管長が語った次の言葉を覚えているでしょうか。「もし自分の召しを尊んで大いなるものとしなければ、務めを果たしていれば救えたかもしれない人について、あなたは神から責任を問われるであろう。』⁵

ほかの人々を助けたいという望みや、行方の知れない羊を探す働きは即座に実を結ぶとは限りません。時には、進展が遅々としたもので、その様子を認識できないときもあります。わたしの旧友で

あるギル・ウォーナーは、そのような経験をしました。彼は監督に召されたばかりのころ、ワードに所属するダグラスが伝道地で背罪を犯し、会員資格を剥奪されました。父親は悲しみに暮れ、母親は完全に打ちのめされてしまいました。間もなくダグラスはその州から引越して行きました。それから数年が瞬く間に過ぎ、ウォーナー監督は高等評議会の一員に召されましたが、ダグラスがどうしているか、いつも気になっていました。

1975年に、わたしはウォーナー兄弟のステーキの大会に出席し、日曜日の朝早くに神権指導者会を開きました。わたしは教会の宗紀制度について、そして迷い出た人々を救うために熱心に愛をもって働くことの必要性について話しました。ギル・ウォーナーは手を挙げ、ダグラスに起こったいきさつを大まかに話しました。そしてわたしに次の質問を提起して話を終えました。「ダグラスが会員資格を回復できるよう助けるうえで、わたしには何か責任があるでしょうか。』

後になって、ギルから聞いて思い出しましたが、そのときわたしはギルの問いにためらうことなく、率直にこう答えました。「以前監督として彼をよく知り、愛していたのですから、彼を連れ戻すために最善を尽くす義務があると思います。』

ギル・ウォーナーの知らぬ間に、ダグ

ラスの母親はその前の週に断食をして、息子を助けてくれる人が現れるよう祈り求めていたのです。集会の後、心に感じる促しのままダグラスの母親に電話をし、助けを行うという決意を告げたときに、ギルはそのことを初めて知りました。

ギルは救出という苦難の道のりに踏み出しました。ギルはダグラスに連絡し、懐かしく楽しい記憶がよみがえりました。証を述べ、愛を伝え、徐々に自信が生まれました。その歩みは耐え難いほど遅々としたものでした。落胆したことも何度もあります。しかしダグラスは着実に前進しました。そしてついに、祈りがこたえられ、努力が報われ、勝利を得ました。ダグラスのバプテスマが承認されたのです。

バプテスマの日時が設定され、家族が集いました。ダグラスの住む町へ、以前の監督ギル・ウォーナーが飛行機で駆けつけ、儀式を執り行いました。

以前自分が管理したアロン神権定員会に所属していた一人の祭司を愛し、責任感を抱いていたウォーナー監督は、一人も失わないよう救助に向かいました。

そのような監督はほかにもいます。個人的に面識のある監督が3人います。彼らが各々のワードを管理していたころ、祭司定員会には48人またはそれ以上の祭司が所属していました。聖文に規定された祭司定員会の定数を満たす数です。この3人の監督はアルビン・R・ダイアー、ジョセフ・B・ワースリン、アルフレッド・B・スミスです。彼らはこの責任に圧倒されたでしょうか。そのようなことは決してありませんでした。自ら熱心に働くとともに、配慮の行き届いた両親の助けや主の祝福を得て、それぞれの祭司定員会の会員一人一人を導きました。彼らの導いた祭司たちはほとんど例外なく、メルキゼデク神権の長老の職に聖任され、伝道地で奉仕し、主の神殿で結婚しました。ダイアー兄弟とスミス兄弟は次の世へ旅立ちましたが、十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老は今晚この会場にわたしたちとともに出席しています。ワースリン長老、今は成長し年を重ねたあの若者たちに対するあなたの奉仕と指導を、わたした

ちは決して忘れません。

12歳のとき、わたしは執事定員会の書記として奉仕する特権を得ました。定員会の会員たちが果たす機会のあった多くの割り当てを、喜びをもって思い出します。神聖な聖餐^{せいさん}のパスを行い、月々の断食献金を集め、互いに助け合った記憶が次々に心に浮かびます。最も恐ろしい割り当てを受けたのは、ワード大会の指導者会^{せいしやうしあひ}のときでした。集会を管理していたのはステーキ会長会の一員のウィリアム・F・パーションでした。彼は大勢のワード役員に話を依頼しました。その後、彼はわたしに何の予告もなく、立ち上がってこう言ったのです。「これから、執事定員会書記のトーマス・S・モンソン兄弟が御自分の奉仕に関する報告を行い、証を述べてくださいます。」話した内容はまったく思い出せませんが、忘れられない経験でした。

兄弟の皆さん、パウロの次の勧告を心に留めてください。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明^{べんめい}のできる用意をしています。」⁶

第二次大戦中、10代だったわたしは教師定員会会長として奉仕する特権を得ました。わたしは、教義と聖約第107章86節の教えを学び、実践するよう勧められました。「教師の職を管理する会長の義務^{ぎむ}は、聖約の中で与えられているとおりに、……彼らとともに会議会の席に着き、彼らにその職の義務を教えることである。」わたしは全力でこの義務を果たしました。

この定員会にフリッツ・ホーロルド兄弟がいました。背丈は低いものの、心は勇敢な兄弟でした。17歳になるとすぐに合衆国海軍に入隊し、訓練へと出かけました。後に彼は太平洋上で繰り広げられた数多くの残忍な戦闘に加わる大型戦艦に乗り込みました。彼の船は深刻な被害を受け、多くの水兵が命を奪われたり負傷したりしました。

ある戦闘の後、休暇で里帰りしたフリッツは、教師定員会に出席しました。定員会のアドバイザーは彼に対し、わたしたちに話をするよう要請しました。濃紺^{のうこん}の軍服に勲章を着けた彼は華麗に見えました。わたしは何かためになる話

をしてくれるよう依頼しました。とはいっても、わたしたちは同年代です。彼は苦笑いしながら答えました。「志願なんてするものじゃないぞ。」

わたしは17歳のあの日を境にずっとフリッツを見かけませんでした。数年前、あの海戦の記事を雑誌で読みました。フリッツはまだ生きているのか、もし生きているならソルトレークのどこかにいるのだろうか。わたしは1本の電話で彼を探し当て、その雑誌を送りました。彼と夫人は感謝を伝えてくれました。フリッツはまだ長老に聖任されておらず、神殿に参入したこともないことが分かりました。神殿の祝福を受けるふさわしさを得よう励ます手紙を送りました。2度ほど偶然レストランで会いました。ジョイス夫人はいつもこう言いました。「主人を見捨てないでくださいね。」彼の娘たちも声に出して同意しました。わたしは彼を励まし続けました。

つい数週間前、新聞の計報欄^{けいほうらん}で、フリッツの妻ジョイスが亡くなった記事を読みました。フリッツを神殿に連れて行くというわたし自身の計画がもっと功を

混声のモルモンタバナクル合唱団。総大会の3つの部会で音楽を提供した。



奏していればと、どれほど思ったことでしょう。ホーロルド姉妹の告別式の時間と場所をメモし、ほかの予定を調整し直し、告別式に出席しました。フリッツはわたしを見つけるとすぐ、一直線に歩いて来ました。ともに涙を流しました。わたしは最後の話者の割り当てを受けました。

わたしは話す際、フリッツと家族を見て言いました。「フリッツ、わたしは今日この場に、かつて二人が所属していた教師定員会の会長として参列しています。」それからわたしは、フリッツと家族が神殿の儀式を通して「永遠の家族」になれることについて話し、その時が来たらわたしが儀式を執行することを固く約束しました。

最後に、涙をこらえながら、家族と参列者が聞いている前でわたしは言いました。「フリッツ、わたしの友、わたしの戦友。勇気にあふれ、決意に満ちた友よ。君は国が危機に瀕しているときに前線に身を置きました。フリッツ、あなたは今こそ指揮官の笛の合図を聞く時です。君の昇栄への旅のために、『全員乗船。錨を上げよ。』ジョイスはそこで待っています。わたしはあなたの子どもや孫たちが祈っていることを知っています。わたしはかつての教師定員会会長として全力を尽くします。あなたの愛する人々とともに日の栄えへと運ぶ船に、あなたが乗り遅れないように。」

わたしは彼に海軍の儀礼に倣った敬礼をしました。フリッツは立ち上がり、わたしに敬礼しました。

兄弟の皆さん、容易に覚えられるこの言葉に従えますように。「最善を尽くして義務を果たそう。そして、後は主にお任せしよう。」イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

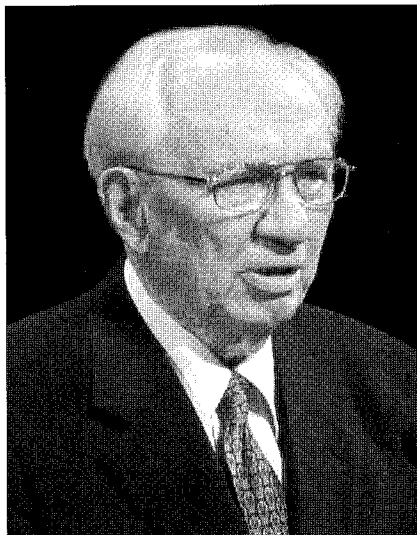
1. 教義と聖約107:99
2. 1ニーファイ3:7
3. 教義と聖約84:88
4. 教義と聖約18:10
5. Deseret News Semiweekly, 1878年8月6日付, 1
6. 1ペテロ3:15

手を差し伸べ、引き上げる

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「低い所にいる人々に手を差し伸べ、高い所へ引き上げましょう。惜しみなく経済的な支援をしましょう。わたしたちの仲間にもっと大きな愛を示しましょう。」



親 愛なる兄弟の皆さん、このホールにこのようにたくさんの神権者が集まる光景を目の当たりにし、さらには世界中のあちこちに大勢の神権者がいて、そのすべてが心一つにし思いを一つにしていることや、生ける神の神権の権能を持っていることを知るのには、実に感慨深く、また謙虚にさせてくれる経験です。聖なる御霊の導きがあるようにと願っています。

この神権者の集いは世界でも類を見ないものです。このような集いはどこを探してもありません。この集いは主の軍勢、すなわち真理の敵サタンと戦う備えのできた男性、何事にも熱心な男性、真理の証を伝える男性、この偉大な大義のために犠牲を払い多くを与えてきた男性で構成されています。主が皆さんを祝福され、支え、強めてくださいますように。「あなたがたは選ばれた世代、

王国の神権者である。」(欽定訳1ペテロ2:9より和訳)

兄弟の皆さん、与えられた神権にふさわしくなしましょう。主にさらに近く生活しましょう。善き夫、善き父親となりましょう。

自分自身の家庭の中で独裁者となっているような男性は、神権にふさわしくありません。自分の選んだ伴侶に対して尊敬や親切、あるいは愛を寄せない人は、主の御手の中にあってふさわしい器となることはできません。

同様に、子どもに悪い手本を示し、感情を抑え切れず、不正直あるいは不道徳な行為に手を染めるいかなる男性も、その神権の力を取り去られることになるでしょう。

次の聖句を思い出してください。「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできないということである。

なるほどそれらがわたしたちに授けられることもあろう。しかし、わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり、あるいはいかなる程度の不義によってでも、人の子らを制御し、支配し、強制しようとしたりするとき、まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約121:36-37)

兄弟の皆さん、主から恵みを受け神聖な力を授かった者として、善良な人

間になりましょう。

では別の、しかし関連する話題についてお話ししましょう。

今年4月の神権部会で、わたしはあ
る新しい計画を発表しました。南アメリ
カ、メキシコ、フィリピン、その他の地
域から召されて働く大勢の宣教師のこと
について話しました。彼らは召しにこた
え、北アメリカ出身の兄弟姉妹とともに
奉仕します。強い証をはぐくみます。新
しい生活様式を学びます。現地の言葉
を話し、現地の文化を知っているので、
非常に効果的に働くことができます。熱
心かつ献身的に働いて、人生のすばら
しい時期を過ごします。

やがて彼らも解任され、故国へ戻り
ます。彼らの家族は貧困の中で生活し
ています。そしてほとんどの場合、以
前と同じ状態に戻ってしまいます。技能
がないため、結果的に良い就職口をな
かなか見つけられず、身動きが取れな
くなってしまいます。

わたしは皆さんに「永代移住基金」に
ついてお話ししました。この基金は、教
会の開拓時代に、イギリスやヨーロッパ
からやって来る貧しい人々を援助するた
めに設立されたものでした。小額の貸し
付けを行うための回転資金が設立され
たのです。この貸し付けによって、3万
人の改宗者が母国からシオンへと移住
し、集まることができました。

わたしは皆さんに、同じ原則を応用
して、「永代教育基金」と呼ぶ基金を設立
しようとお話ししました。什分の一の献
金からではなく、教会員の寄付による基
金から、元金を作ります。そして、この
元金から生み出される利益が若い兄弟
姉妹たちを支援するために用いられます。
すなわち、学校に通い、より良い
仕事に就くための資格を得られるように
するのです。彼らは技能を伸ばし、十
分な収入を得られるようになり、家族を
扶養し、彼らと彼らの前の世代が経験
したような貧困から這い上がることがで
きるのです。

この基金が計画された当初、元金は
一切ありませんでした。しかし、わたし
たちは信仰をもって前進し、組織を設
立し、ささやかながら、自分たちが必

要と感ずることを実行しました。何万ド
ル、何千万ドル、さらには何百万ドルも
の献金を送られてきたことを、喜びをも
って報告したいと思います。これらの献
金は、主を愛し、あまり恵まれない主の
民が経済的に立ち上がるのを惜しみな
く助けたいと願う教会員から送られてき
たものです。現在、わたしたちにはかな
りの額の元金があります。しかし、もっ
と多くの献金が必要です。このような献
金が引き続きなされるよう願っていま
す。元金の額が援助の対象となる人の
数を決定します。

さて、6か月がたった今、どのような
ことが達成されたか皆さんに報告したい
と思います。まず最初に、ジョン・K・カ
ーマック長老を召しました。カーマック
長老は七十人第一定員会で立派に働き、
今回の大会で名誉七十人となりました。
彼は優秀な弁護士であり、実務
面で信頼に足る判断ができる人
物であり、すばらしい能力を備
えた人物です。彼は「永代教育
基金」部門の管理ディレクターに
任命されました。長老は、七十
人の職務から解任されましたが、
この新たな責任にあって全時間を
その務めの遂行にささげるこ
とになります。

七十人のリチャード・E・クック
長老も、同様に名誉七十人とな
りましたが、カーマック長老とと
もに働き、財政面を担当すること
になります。クック長老は以前に
フォード自動車株式会社の経理
部長補佐を務め、世界的規模の
財務に造詣の深い人物で、最も
有能な経営幹部であり、主と主
の子どもたちを愛する人物です。

これまでこれら二人の兄弟た
ちを中央幹部として片面だけ擦
り減らしてきましたが、今回は、
裏返しにして、もう片面も擦り
減らすことにしました。

彼らは組織および研修の専門
家レックス・アレン兄弟、高等教
育プログラムに広範囲にわたる
経験を有するチャド・エバンズ兄
弟とも、一緒に責任を果たして

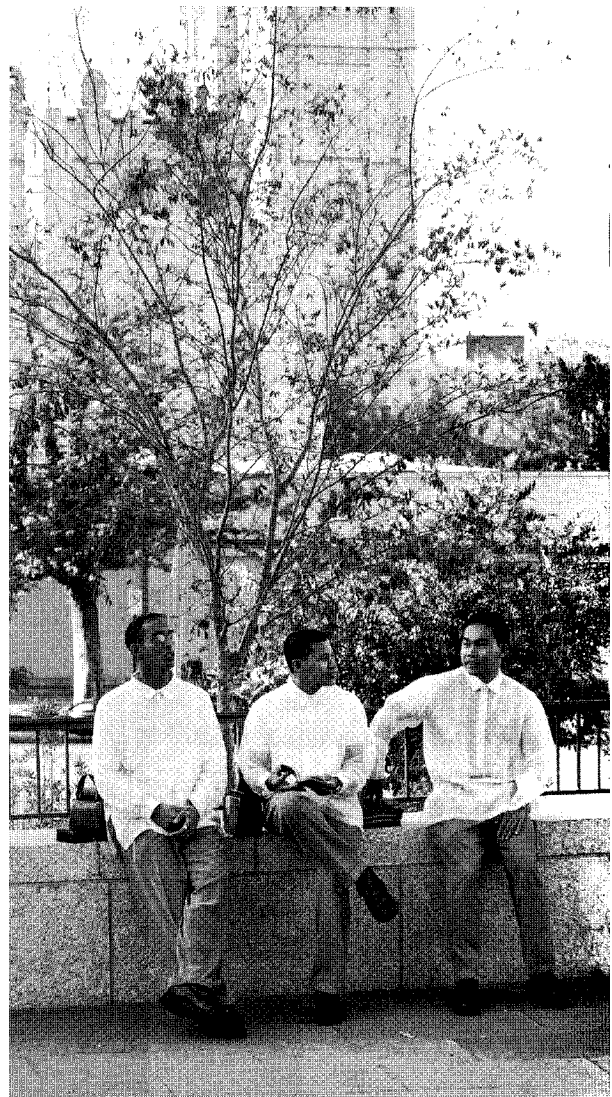
います。

あらゆる人が、見返りを求めることな
く、その時間と専門的知識をささげて
働いています。

このプログラムは、すでに組織され、
機能しています。これらの兄弟たちは、
適切な管理原則に基づき、正しいスタ
ートができるよう、これまで細心の注
意を払ってきました。最初のうちは、こ
のプログラムの機能する範囲を制限して
いましたが、その範囲も、わたしたちが
資金を増すに従って、拡大していくこ
とでしょう。

これらの兄弟たちは教会が持つ既存
の組織を活用すべく働きかけを行ってき
ました。このプログラムは神権を基とし
ています。だからこそ、成功するのです。
このプログラムを始めるのは監督やステ
ーク会長です。教会教育システムや雇

カンファレンスセンターの外で入場を待つ大会参加者
たち。ソルトレーク神殿の尖塔が後ろにそびえている。



用センター、さらには驚嘆すべき協調の精神とともに働くほかの組織と提携しながら、このプログラムは推進されています。このプログラムが最初に参加したのは、帰還宣教師の数が多く必要性の高い地域、すなわちペルー、チリ、メキシコの3か国でした。地元の指導者は熱心に、また献身的に働きました。受益者は自立に関する真の原則を学んでいます。自分の可能性に対する展望を大きく広げることができるようになっています。職業訓練のために地元の優秀な学校を選び、個人や家族、その他地元から得られる手段を最大限に活用しています。そして与えられた機会に価値を見だし、意欲を持ち、深い感謝の念を抱いています。2、3の実例を紹介してみましょう。

まず最初に、ボリビアのコチャバンバで伝道した青年について紹介します。彼は信仰深い母親、そしてめいとともに、貧しい人々の居住区に住んでいます。小さな家の床はコンクリートでできています。白熱電球が1個で、屋根は雨漏りがします。窓は割れています。彼は優秀な宣教師でした。こう語っています。

「伝道はわたしの人生で携わることできた最高の経験でした。わたしは戒めに従順になること、試練のときに忍耐することを学びました。また英語も少し学びましたし、お金や、時間、才能をより有効に用いる方法も学びました。

そして伝道が終わりました。故郷に帰るのはわたしにとって大変なことでした。アメリカ人の同僚たちは大学に戻ることができました。しかし、わたしの国ではひどい貧困が待ち受けていたのです。教育を受けるにはとても難しい状況でした。母は最善を尽くしてくれますが、子どもの教育まで面倒を見る余裕はありません。母は貧しさにとても苦しんでいます。わたしが母の頼みの綱なのです。

『永代教育基金』について知ったとき、わたしはほんとうに喜びました。預言者はわたしたちの努力を理解してくださったのです。わたしは喜びで胸がいっぱいになりました。……勉強をして、自立し、家族を持ち、母を助けられる

可能性が出てきたのです。

わたしは働きながら勉強できる地元の学校で会計を学ぶつもりです。3年間だけの短いコースです。ビルの管理人として働き続けなければなりません、それは苦になりません。いったん卒業して会計の仕事が見つかったら、国際ビジネスの分野でより高い教育を受けることを目標に働くつもりです。

このプログラムは、すばらしい機会です。失敗はできません。主はわたしたちを信頼しておられます。わたしはモルモン書の中で、戒めを守るならば地において栄える、という預言者に語られた主の御言葉^{みことば}を何度も読みました。この預言は今成就しつつあります。わたしは、わたしの兄弟姉妹が持っていなかったものを受けるといふ、また家族を助け、自分の目標を達成するというこのすばらしい機会を授かったことを神に心から感謝しています。また、ほかの人々も同じように多くの恵みを受けられるよう自分に貸し付けられたお金を返済することにもわくわくしています。そうするときに、主がわたしを祝福してくださることを知っています。」

すばらしいと思いませんか。では、もう一つの実例を紹介しましょう。メキシコシティーに住むある青年は約1,000ドルの貸し付けを認可され、ディーゼル整備士になるための学校に通うことができました。彼はこう語っています。「わたしが交わした約束は、自分の努力に満足感を得られるよう最善を尽くすということです。このプログラムが価値ある大切なプログラムだということを知っています。だからこそ、わたしは将来のため最大限にこのプログラムを活用しようとしています。貧しい人々に仕え、助けを与え、自分の家族を助けることができるのです。わたしはこのすばらしい、靈感されたプログラムについて天の御父に感謝しています。」

最近、メキシコシティー出身のもう一人の青年にも貸し付けが認可されました。この青年はネバダ州ラスベガス伝道部で宣教師として働きました。歯科技師になるという望みを持っていました。彼は職業訓練の中で15か月間にわ

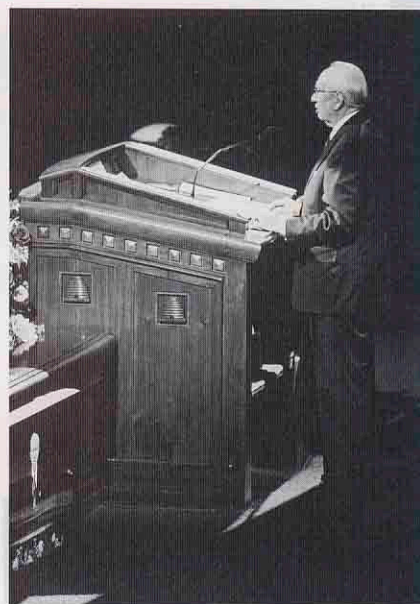
たって献身的に働くことを求められました。こう語っています。『永代教育基金』の助けによって専門学校での勉強を終えた時点でのわたしの約束は、ほかの帰還宣教師たちも同じように祝福にあずかることができるよう貸し付けを返済するということです。」

だからこそわたしたちは、信仰篤く^{あつ}有能な若者たちが経済的な成功を約束する努力のはしごを上れるようにこの業を始めたのです。与えられるチャンスを生かすことによって、彼らは自分たちが、また自分たちの両親や先祖が、ほんとうに長い間経験した貧困の泥沼から抜け出すことができるのです。彼らは宣教師として奉仕し、さらに引き続き教会で奉仕します。自分たちの母国でこの偉大な業を導く指導者となります。什分の一やその他の献金を納めます。その結果として全世界の津々浦々に教会の業の発展が可能となるのです。

わたしたちは今年の末までに約1,200人の若者たちがこのプログラムの恩恵にあずかることになるという予想を立てています。今から3年後には、その数は3,000人以上に達するだろうと推測しています。機会がすでにそこにあります。援助の必要に迫られています。失敗することもあるでしょう。しかしながら、男女とも、かなり大部分の若者たちが期待されたとおり返済してくれることでしょう。

唯一の限界は、わたしたちの持っている基金の額だけになるでしょう。このプログラムに参加を望むすべての人に、額の大小にかかわらず、献金してくださいよう再度お願いいたします。そうすれば、この偉大な業を拡張し、信仰深く潜在的な能力を有する人々に、末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な会員として、経済的自立を得させることができるのです。

この教会のすばらしい業の持つ意味がお分かりでしょうか。二人の宣教師がペルーのとある町にある小さな家のドアをノックします。一人の女性が戸口に出て来ます。宣教師が何を求めているのかこの女性にはよく分かりません。しかし、二人の宣教師は家の中に招き入

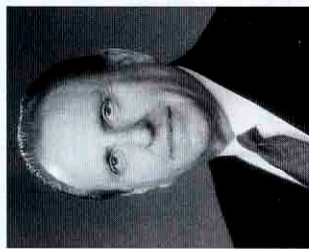


左上——十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老（左）、ジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老とあいさつを交わす
ゴードン・B・ヒンクレー大管長。右上——大会の部会で説教壇に立って話をするヒンクレー大管長。上——会衆に手を振るヒンクレー大管長。

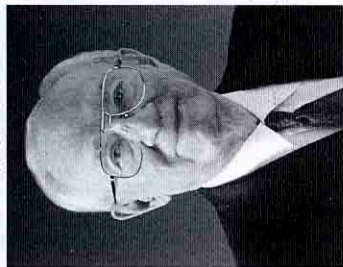
末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2001年11月現在

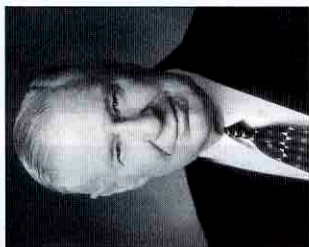
大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン

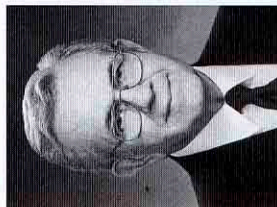


大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

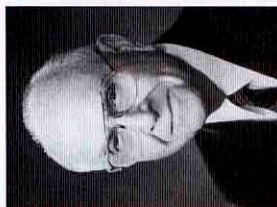
十二使徒定員会



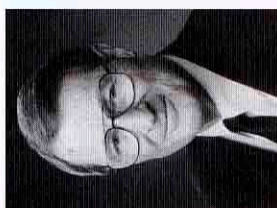
ボイド・K・パッカー



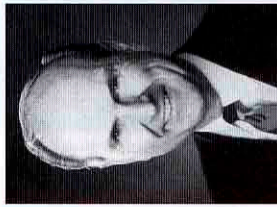
L・トム・ペリー



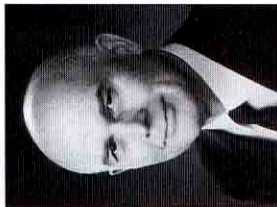
デビッド・B・ヘイト



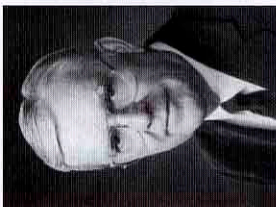
ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



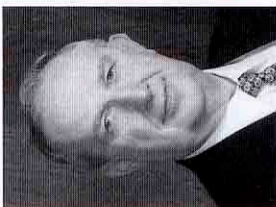
ダリン・H・オークス



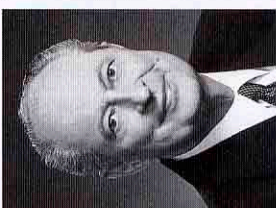
M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



アーサー・C・ティンギー



D・トッド・クリストファースン



デビッド・E・ソレンセン



ベン・B・パンクス



デニス・B・メイコン



チャールズ・テイティエ



セシル・O・サミュエルソン



テンブルスクウェア内にある、改装されたばかりの北訪問者センターにある「クリストス」像を感慨深く眺める女性と少年。

られます。宣教師たちは、ご主人や子どもたちが一緒にいるときにもう一度訪問する予定を立てます。

宣教師たちは彼らを教えます。御霊の力に心を動かされた家族は永遠の真理のメッセージにこたえます。こうして家族はバプテスマを受けます。

家族は教会に活発に集います。正直に什分の一を支払いますが、その額はわずかです。この家族には10代後半の息子あるいは娘がいます。ふさわしいときに、この息子あるいは娘は宣教師として働くように召されます。家族は子どもの伝道を支援するためにできる限りのことを行います。残りの援助は聖徒たちの献金で構成される宣教師基金から補われます。

この息子あるいは娘は、合衆国やカナダから来た同僚と一緒に働きます。英語を学びますが、同僚のスペイン語の方がかなり上達します。二人の宣教師は、二つのきわめて異なる文化を代表しながらも、お互いに愛し合い、感謝し合い、尊敬し合い、一つとなって働きます。

伝道が終わるとともに、北アメリカ出身の同僚は帰国し、復学します。ペルーの宣教師は故郷に帰り、低レベルの仕事を探すことしか望めません。収入もほんとうに微々たるものです。惨めな未来が待っています。しかし、良い仕事を見つけるために必要な技術ありません。そんなときにこの希望に満ちた明るい光がさし込みます。さて兄弟たち、もうお分かりでしょう。これ以上長々と話す必要もないでしょう。何をすべきかは明確です。援助の必要性はとてつもなく大きく、主がこの道を示されたのです。

最近、カーマック長老は、ある古い会計簿を見つけ、わたしのところに持って来てくれました。今をさかのぼる1903年のこと、未来の教師を目指す学生たちがより大きな機会にふさわしい能力を身に付けられるよう援助する小規模の基金が設立されていたことをわたしたちは知りました。在学期間中、そのような学生をささやかな貸し付け金によって助けていたのです。

この基金は、大恐慌のとき最終的に

中止されるまで30年間続けられました。

わたしはその古い会計簿に記されている名前を見て驚きました。そのうちの二人は後に大学の学長となった人たちでした。そのほかの人々も、著名あるいは高度の資格を有する教育者となりました。会計簿には、返済額10ドル、25ドル、3ドル10セントの利子などといったことが記されていました。このプログラムの受益者の一人は、監督となり、ステーキ会長となり、使徒となり、最後には副管長になりました。

兄弟の皆さん、わたしたちはお互いにもっと心からの関心を示し合う必要があります。底辺の生活をしている人々を助けるためにもう少し努力する必要があります。少しの援助があれば生活を改善できる、信仰篤く、高潔で、能力のある人々に励ましと助けを与える必要があります。

この原則は、この基金によって現在推進していこうとしている事業のみならず、もっと広い意味の事業にも応用されるべきものです。もっと思いやりの心を持ちましょう。低い所にいる人々に手を差し伸べ、高い所へ引き上げましょう。惜しみなく経済的な支援をしましょう。わたしたちの仲間にもっと大きな愛を示しましょう。

主はわたしたちを例えようもないくらい豊かに祝福してくださっています。そして、援助を必要としている人は非常に大勢いるのです。主はこうおっしゃいました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

使徒行伝にはこう記されています。

「生れながら足のきかない男が、かえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、『美しの門』と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。

彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいつて行こうとしているのを見て、施しをこうた。

ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、『わたしたちを見なさい』と言った。

彼は何かもらえるのだろうかと期待し

て、ふたりに注目していると、

ペテロが言った、『金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。』

こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、

踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいつて行った。』(使徒3:2-8)

さて注意していただきたいのは、ペテロがこの男の右手を取って、起こしてやったことです。

ペテロはこの足の利かない男を起こすために身をかがめなければならなかったのです。わたしたちも同じように身をかがめなければなりません。

親愛なる兄弟の皆さん、神が皆さんを、老いも若きも、祝福してくださいように。信仰を持ち続けてください。愛によって御業を行ってください。主の道に従って、家族を養ってください。「神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ37:47)

イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

日差しを受けたカンファレンスセンターのロビー。



今がその時である

第一副管長

トーマス・S・モンソン

「最後の裁きの場で、大きな後悔、やり残したことがないように……生きていきましょう。」



今朝、こうして皆さんの前に立つと、わたしの心に、日曜学校であの美しい賛美歌を歌った若い日々がよみがえります。

「楽し安息の日
世の業休む
楽しきこの朝
よき祈りの日」¹

この安息日に皆さんにお話するに当たり、皆さんの信仰と祈りがともにあるように祈っています。

わたしたちは皆、あの運命の日、2001年9月11日に起こった惨事によって、大変な衝撃を受けました。突然、何の前触れもなく、壊滅的な破壊によってあまりにも多くの男女、そして子どもが命が奪われました。楽しい将来の計画は消え失せ、代わりに残されたの

は、傷ついた心からわき上がる悲しみの涙と悲痛な叫びでした。

この3週間半の間、その日の惨事によって直接的に、あるいは間接的に影響を受けた人々から、数え切れないほどの便りが届きました。会員であるレベッカ・シンダーの言葉を皆さんにご紹介したいと思います。彼女は9月11日火曜日の朝、ソルトレーク・シティーからダラスに向かう飛行機に乗っていました。悲劇が起こったとき、すべてのフライトが麻痺したため、彼女の飛行機もテキサス州アマリロに着陸しました。シンダー姉妹は次のようにつづっています。「わたしたちは皆飛行機を降りて空港のテレビを見つけると、状況を伝える報道を見ようとその周囲に集まりました。乗客たちは自分が無事に地上に降りたことを、愛する人々に電話で伝えようと列を成していました。このフライトに同乗し、伝道地に向かう途上にあった12人前後の宣教師たちのことをわたしは決して忘れないでしょう。彼らは電話をした後、空港の隅で輪になってひざまずき、祈りをささげていました。すぐに祈りが必要だと感じた心優しい若い彼らの姿を、そのまま両親に見せられたらどんなに喜ばれるだろうと思いました。」

兄弟姉妹の皆さん、死はすべての人にいつか訪れるものです。よろめく老人にも訪れます。人生の旅路の半分も歩んでいない人に来世への召喚状が届くこともあれば、幼い子どもの笑い声が失われてしまうことも少なくありません。死は、だれも逃れたり、否定したりすることのできない事実なのです。

死は、しばしば侵入者として訪れます。人生の祝宴のさなかに突然姿を現し、その光と快活さを消し去っていきます。死はわたしたちの愛する者のうえにその重い手を乗せ、わたしたちは時折、当惑と疑問の渦中に取り残されます。ひどい苦痛や病気といった特別な状況にある人には、死は、憐れみの天使として訪れますが、ほとんどの場合、わたしたちは死を人の幸福の敵と考えます。

回復された真理の光は、死の暗闇を追いやります。主は言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」²

墓を超えた命というこの確信、そうです、この神聖な確証こそ、救い主が約束された平安を与えてくれるものです。主は弟子たちに約束されました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」³

カルバリの暗闇と恐怖の中に、小羊の声が響きました。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」⁴すると、もはや暗闇は消えうせました。主は御父のみもとに帰られたのです。主は神のみもとから来られ、神のみもとに帰って行かれました。同じように、この地上における巡礼の旅を神とともに歩む人々も祝福された経験を通して、神を頼る子どもたちを神はお見捨てにならないと知なのです。死の夜にあって、主の存在は「光よりもよく照らし、知った道よりも安全」なのです。⁵

パウロはダマスコへ行く途中、よみがえられ栄光に満ちたキリストにまみえしました。後に、パウロと改名した彼は、真理の擁護者、また主の業に働く勇敢な宣教師として、復活された主を証しました。コリントの聖徒たちに向かってパウロはこう宣言しました。「キリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死に……

葬られ……聖書に書いてあるとおり、3日目によみがえ[られ]……

ケバに現れ、次に、12人に現れ……
そののち、500人以上の兄弟たちに、
同時に現れ……

そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、

そして最後に、……わたしにも、現れ[られ]たのである。』⁶

この神権時代に、これと同様の証が預言者ジョセフ・スミスによって雄々しく語られました。彼はシドニー・リグドンとともにこう証しています。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。』⁷

これこそ、わたしたちを支える知識です。わたしたちを慰める真理です。そして悲しみに打ちひしがれた人を影から光へと導き出す確信なのです。それはすべての人が受けられるものです。

命は何とはかなく、死は何と確かなものなのでしょう。わたしたちは自分がい

つこの世を去るように求められるか分かりません。だからこそ、わたしはこう尋ねたいと思います。「わたしたちは今日をどのように過ごしていますか」と。もし明日のためだけに生きるなら、今日という日はすべて、無為に過ごした昨日と化してしまうことでしょう。「自分の人生を見直そうと考えてはいるが、最初の一步を踏み出すのは明日にしよう」と、ずっと言い続けてはいないでしょうか。そのような考えでは、明日は永遠に訪れられません。そのために今日何かを行わないかぎり、そのような明日が来ることはないでしょう。歌い慣れた賛美歌はこのように教えています。

「なすべき業ここにあり
その時は今あり
『いつかなす』と言って時を
過ごさず、今日なせ」⁸

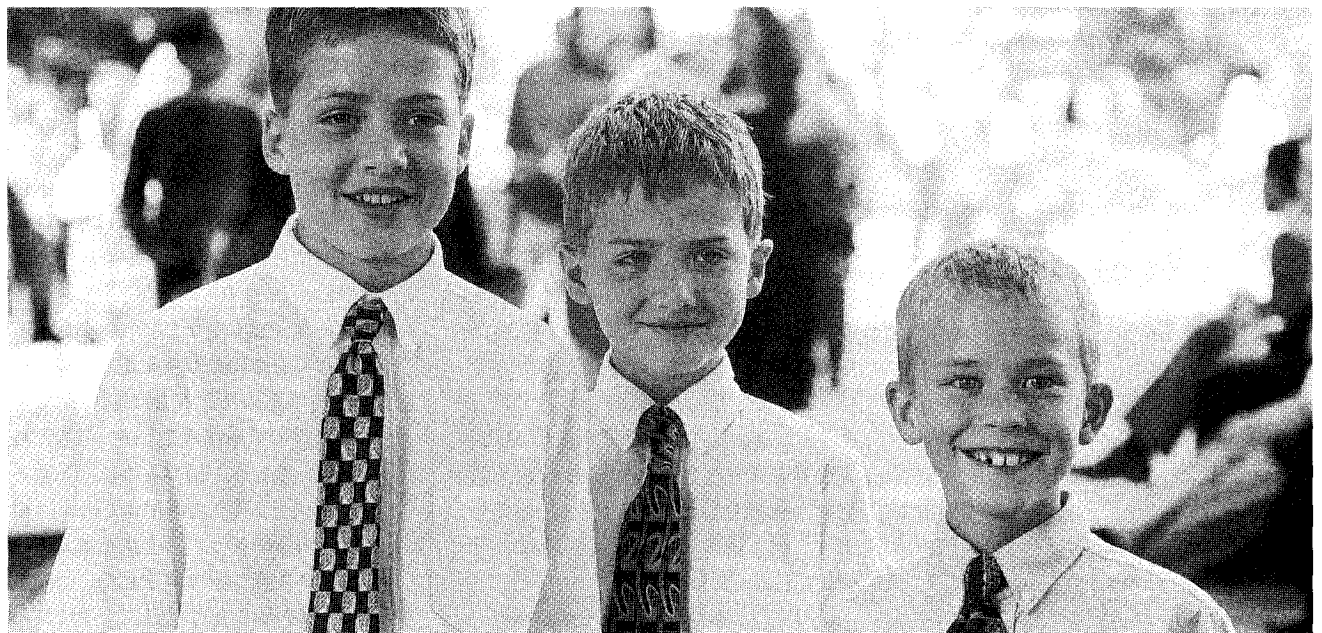
自分自身に次のように問いかけてみましょう。「わたしは、今日何か善いことをしただろうか。」「助けを必要としている人に手を差し伸べただろうか。」そのような問いかけは、幸福を得るための原則であり、だれかに感謝の心をもたらすという満足感と内なる平安を得るための処方箋です。

自らをささげる機会は確かに無限にあります。すぐに失われてしまうもので

もあります。わたしたちには、喜ばせるべき心、伝えるべき思いやりの言葉、与えるべき贈り物、なすべき行い、そして救うべき人々が存在します。

「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである」⁹ ということ心を心に留めておくならば、ディケンズの不朽の名作『クリスマス・カロール』の中でエブネゼル・スクルージに自分が失った機会を悲しげに語りかけたジェイコブ・マリーーの幽霊のように、つらい立場に身を置かなくて済むことでしょう。マリーーはこのような言いました。「いやしくも、それぞれの置かれた小さな範囲中で、いかなることのためであろうと、熱心に力を尽しているキリスト教的精神の持主であるならば、さまざまの有益なことをするためには人間の生命は余りにも短か過ぎると思う筈だということを知らないのか。また、一人の人間が失った機会はいかほど後悔しても取り返しはつかぬということを知らずにいるのだ。だが、私もそうだったのだ。おお！ 私もそうだったのだ！」

マリーーはさらに次のように言っています。「なぜわたしは気の毒な人々たちをかまわずに通り返したのだろうか？ 東の国の博士たちをみすばらしいあばらやへ導いて行ったあのありがたい星をなぜ見上げなかったのだろうか。その星に導かれ



て訪ねてやるべき貧しい家もあったろうに。』¹⁰

皆さんも御存じのように、エブネゼル・スクルージは幸いにも後に良い変化を遂げました。わたしはスクルージのこの言葉が好きです。「わたしは今までのわたしとは違います。」

『クリスマス・カロール』の話はどうしてこれほどまで愛されているのでしょうか。どうして今日でもいきいきとした作品なのでしょう。わたしはこの作品が、神より靈感を受けて書かれたものであると思っています。人の特質のうち、最良のものが引き出されています。そして希望を与えてくれます。そして変わろうという意欲を与えてくれます。わたしたちは、足を引っ張ろうとする道から離れ、心の中で歌いながら、星に従い、光に向かって歩むことができるのです。そして歩みを速め、勇気を増し、真理の光を浴びることができるのです。あるいは子どもたちの笑い声をもっとはっきりと聞くこともできます。さらに嘆き悲しむ人の涙をぬぐうこともできるのです。そして死を迎える人に、永遠の命の約束を分かち合って慰めることもできます。もしわたしたちが垂れている手を上げ、苦しむ人に平安をもたらし、主がなさったように与えるならば、わたしたちは模範によって、迷える者の道案内になることができるのです。

命ははかなく、死は避けられないものなので、一日一日を精いっぱい生きな

くてはなりません。

わたしたちはせっかくの機会を台なしにしてしまうことがよくあります。少し前のことですが、わたしはルイス・ディッキンソン・リッチの心温まる小説を読みました。その作品には、この真理がはっきりと描かれています。このように書かれていました。

「わたしの祖母にはウィルコックス夫人という宿敵がいました。祖母とウィルコックス夫人は、隣同士の家に嫁ぎました。二人の家は、彼女たちがそれから一生住むであろう小さな町の大通りに面していました。二人の間の争いが何によって引き起こされたのか、わたしには分かりませんし、それから30数年を経て、わたしが生まれたころの年代になると、彼女たち自身でさえも、何が発端だったか覚えていなかったことでしょう。二人の争いはちょっとしたいさかいなどという生ぬるいものではありませんでした。まさに戦争そのものでした。……

町中、影響を受けないものなどありません。独立戦争、南北戦争、米西戦争をくぐり抜けてきた築300年の教会も、祖母とウィルコックス夫人による『婦人会会長戦争奪戦』のため、崩壊寸前となりました。そのときは祖母に軍配が上がりましたが、無意味な勝利でした。ウィルコックス夫人は会長の座を逃したため、憤慨して会を脱退してしまいました。敵を屈服させられないのであれば、その座に着くことに一体何の楽しみがあるのでしょうか。そして今度はウィルコックス夫人が『公共図書館の戦い』で白星を上げました。夫人は、わたしのフィリーおばさんではなく、自分のめいのジャートルードを司書に任命することができたのです。ジャートルードが着任したその日から、祖母は図書館の本を読まなくなりました。突然、図書館の本を『汚らしい』と言うようになったのです。そして『高校の戦い』では両者引き分けとなりました。ウィルコックス夫人は校長を解雇しようと奮闘し、祖母は校長に終身在職権を与えようと手を尽くしていましたが、校長は決着が着く前に、転職してしまいました。

子どものとき祖母を訪ねる楽しみの一

つは、ウィルコックス夫人の孫たちにこっけいな顔をして、からかうことでした。忘れもしないあの日、わたしたちはウィルコックス家の雨水用の^{たろ}樽に蛇を入れたのです。祖母は口では反対していましたが、内心は暗黙の同意をしていることが分かりました。

まさかわたしたちだけがそんなことをしていたなんて思わないでください。ウィルコックス夫人にも孫がいたのですから。祖母もまた、いたずらの対象にされていました。洗濯日和の日は、決まってなぜか洗濯用ロープが切れて、落ちた洗濯物が泥まみれになっているのです。

もしボストン新聞に家庭欄がなかったのなら、祖母はこんなにも長く続いたもめ事に耐えられたかどうか、わたしには分かりません。この家庭欄は名案でした。よくある料理のアイデアや掃除のアドバイスだけではなく、読者のための手紙コーナーが掲載されていました。問題があったり、ただ愚痴をこぼしたりしたければ、『アービュタス』といったすてきな名前で新聞社に手紙を書くのです。祖母はその名前をペンネームに使っていました。そうすれば、似たような問題を持ったほかの女性が『匿名希望』や『クサンティッベ』などの名前を使って投書し、自分はそのような場合にはどうしたか教えてくれるのです。問題が解決してからも、女性たちはその後何年間も新聞のコラム上に、子どものこと、保存食作りのこと、新調したダイニングセットのことなどを書いて、文通を続けるのです。祖母もそうしていました。祖母と『かもめ』というペンネームの女性は、25年以上文通を続けました。『かもめ』さんは祖母の親友でした。

わたしが16歳ぐらいのとき、ウィルコックス夫人が亡くなりました。小さな町では、どんなに隣の家族を嫌っていたとしても、遺族のためにどんな手伝いができるか見に行きつてあげることが、しきりになっていました。何でも手伝うと言ったのが本気であることを示すために、祖母はエブロンを着けて、芝生を越えてウィルコックス家へ出向きました。ウィルコックス家の娘たちは祖母に、すでにち



り一つない応接間を、葬儀に備えて掃除するようお願いしました。応接間のテーブルの上に、大きなスクラップブックがありました。スクラップブックには、祖母から『かもめ』さんあての、そして『かもめ』さんから祖母あての手紙が、きれいにはられていたのです。二人とも知らなかったとはいえ、祖母の最大の敵が、実は親友だったのです。わたしはそのとき初めて祖母が泣くのを見ました。その当時はどうして泣いていたのか、はっきり分かりませんでしたが、今振り返ると分かります。もう決して取り戻すことのできない、無駄に費やされた年月を思っ泣いていたのです。」

兄弟姉妹の皆さん、決心して、今日から愛で心を満たしましょう。孤独な人、気落ちしている人、様々な理由で苦しんでいる人に手を差し伸べるために、2マイル行きましょう。「悲しむ人を励まし、だれかを喜ばせ」¹¹ しましょう。最後の裁きの場で、大きな後悔、やり残したことがないように、そして使徒パウロとともに「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」¹² と言えるように生きいきましょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。

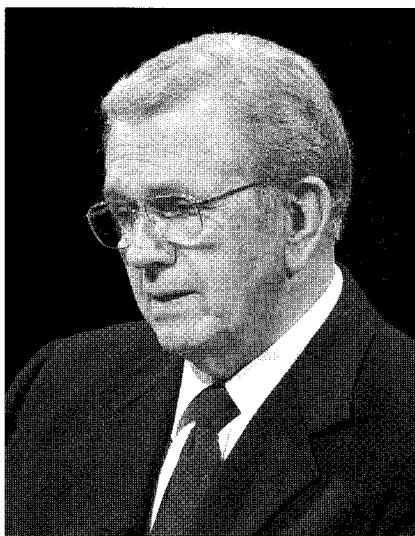
注

1. ロバート・B・ベアード「楽し安息の日」『賛美歌』178番
2. ヨハネ11:25-26
3. ヨハネ14:27
4. ルカ23:46
5. ミニー・ルイス・ハスキンス“The Gate of the Year” *Masterpieces of Religious Verse*. ジェームズ・ダルトン・モリソン編(1948年), 92で引用。
6. 1コリント15:3-8
7. 教義と聖約76:22-24
8. ウィル・L・トンプソン「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番
9. モーサヤ2:17
10. 『クリスマス・カロル』村岡花子訳, 新潮社刊, 31
11. 『賛美歌』(英文) 223番
12. 2テモテ4:7

モルモン書—— イエス・キリストについての もう一つの証^{あかし}

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バックナー

「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証には、この世の飢えた霊を癒し、養う力があります。」



今 わたしが手にしているのは、モルモン書の初版です。これは1830年にニューヨーク州パルマイラ村のE・B・グランディン社で、手動印刷機を使って印刷されました。

1829年6月、当時23歳のジョセフ・スミスは地元農場主のマーティン・ハリスと一緒に23歳のグランディン氏を訪ねしました。グランディン氏はその3か月前に本を出版する意志があることを宣伝していました。ジョセフ・スミスは手書きの原稿を数枚渡しました。

この書物の内容が明るみに出るよう運命づけられているのだとしたら、この書物のいわれも間違いなく明るみに出ることでしょう。想像してみてください。

天使が10代の少年を森に導き、そこで彼は埋められた石の箱と1組の金版を発見したのです。

金版に書かれた記録はウリムとトンミムを使って翻訳されました。ウリムとトンミムは旧約聖書¹に何度も出てきており、ヘブライの学者たちによって、「啓示が与えられ、真理が宣言される」² 道具であると説明されています。

モルモン書の印刷が完成する前、何ページかが盗まれ、地元の新聞にあげけりの言葉と一緒に載せられたことがあります。反感を駆り立てられた暴徒は預言者ジョセフ・スミスを殺し、預言者を信じた人々を荒れ野へ追いやりしました。

このような思いも寄らない始まりから今日に至るまでに、1億893万6,922部のモルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証が印刷されました。62の言語で出版されており、その他の37の言語で抜粋版があり、さらに別の22の言語で翻訳中です。

今では、6万人の専任宣教師が162の国で自費で伝道し、人生のうち2年をささげてモルモン書が真実であることを証しています。

何世代にもわたって、モルモン書は読む人に靈感を与えてきました。ハーバート・シュライターはドイツ語訳のモルモン書を読みました。それにはこう書かれていました。

「また、この記録を受けるとき、これ

が真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。

そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」³

ハーバート・シュライターはこの約束を試して、末日聖徒イエス・キリスト教会に入りました。

1946年、戦争の捕虜から解放されたハーバートは、ドイツのライプツィヒにいる奥さんと3人のかわいい娘さんのところに帰りました。その後間もなく、彼はドイツのベルンブルクへ宣教師として出発しました。同僚もなく、独りぼっちのハーバートは、空腹で凍えながら部屋で腰を下ろし、どのように伝道を始めたらよいか思いを巡らせていました。

彼は戦争で打ちのめされた人々に何を与えることができるかについて考えました。彼は「死後の生活はあるのだろうか」と丁寧に書いたはり紙を作り、壁にはりました。

ほぼ同じころ、ポーランドの小さな村からある家族がベルンブルクにやって来ました。

マンフレッド・シュツェは4歳でした。父親はすでに戦死していました。母親は、彼の祖父母と、母と同様夫に先立たれた彼のおばと、そしておばの二人の幼い娘とともに、たった30分の猶予しか与えられず村から強制退去させられました。持てるだけのものを持って彼らは西へ向かいました。マンフレッドと母親は小さな荷車を引いたり後ろから押したりしました。時々、病弱な祖父が荷車に乗りました。一人のポーランド人将校が哀れな幼いマンフレッドを見て、泣き始めました。

国境では兵士たちが荷物を乱雑にあさって奪ったり、寝具を川に投げ込んだりしました。それからマンフレッドと母親は家族と引き離されてしまいました。母親は家族がベルンブルクへ行ったのではないかと思いました。その町は祖母が生まれた所なので、きっと親類のところに身を寄せているのではないかと思っ

たのです。何週間も信じられないような苦しみをなめた後、母親と息子はベルンブルクに到着し、家族を見つけました。

7人が一つの小さい部屋で一緒に暮らしました。しかし、彼らの困難は終わりませんでした。二人の小さな娘を残し、おばが亡くなったのです。悲しみに暮れる祖母は牧師を呼び求めて尋ねました。「再び家族に会えるのでしょうか。」

牧師は答えました。「復活というようなものはありません。死んでしまった人は、死んでしまったのです。」

遺族は埋葬のために遺体を紙の袋に包みました。

墓地から戻る途中、祖父はほかの多くの人々のように自殺しようと言い出しました。ちょうどそのときです。彼らはシュライター長老が建物にはっておいたはり紙を見たのです。「死後の生活はあるのだろうか。」そこには、末日聖徒イエス・キリスト教会への招待の言葉がありました。集会に出席した彼らは、モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証について学びました。

その書物は以下の事柄を説明しています。

- この世の人生の目的と死の意味、⁴
- 死後の生活が確かにあること、⁵
- 霊が肉体を離れるとどうなるか、⁶
- 復活に関する説明、⁷
- どのようにして罪の赦しを得、また赦された状態を維持できるか、⁸
- 正義または憐れみはどのような影響を及ぼすか、⁹
- 何のために祈るのか、¹⁰
- 神権、¹¹
- 聖約と儀式、¹²
- 天使の役割と務め、¹³
- 個人的な啓示を与える静かな細い声、¹⁴
- そして、中でも顕著なのが、イエス・キリストの使命、¹⁵
- そして、イエス・キリストの完全な福音に含まれるその他の多くの貴い教え。

彼らは教会に入りました。程なくその生活は変わりました。祖父はパン屋の仕事に就き、家族にパンを与えることができるようになりました。そして、かつて

「命のパン」¹⁶を与えてくれたシュライター長老にも分かち与えることができました。

それから、合衆国の教会から援助が届きました。マンフレッドはビーハイブ（訳注——「蜂の巣」の意で勤勉の象徴。ユタ州の異名の一つでもある）の絵がついた小さな袋で届けられる穀物やカリフォルニア産の桃を食べて成長しました。彼は教会の福祉物資の衣類を身に着けました。

わたしは空軍の兵役から解かれるとすぐにユタ州ケイズビルにある福祉工場へ行き、ヨーロッパの食糧のない人々へ送る小麦の袋詰め作業を手伝いました。わたしは自分が詰めた小麦が入った袋が一つでもマンフレッド・シュツェと彼の母親のところに届いたと考えたいと思います。でなければ、同様の助けを必要とした人々のところに届いたことでしょう。

ディーター・ワークトドルフ長老は今日、七十人の一人としてわたしたちとともに壇上に座っていますが、今でもあの小麦の香りと幼い少年のときに手に持った小麦の感触を覚えているそうです。恐らく、わたしが詰めた袋の一つが長老の家族のもとに届いたことでしょう。

わたしは10歳くらいのとき、初めてモルモン書を読むことを試みました。最初の部分は新約聖書で使われているような易しい言葉で書かれていました。その後、旧約聖書の預言者イザヤが書いた文章が出てきました。わたしは理解することができず、読むのは難しいと分かりました。それで読むのをやめました。

何度かモルモン書を読むことを試みました。初めて通読したのは、仲間の爆撃機乗組員たちとともに軍隊輸送船で太平洋上の戦地へ向かう途中のことでした。モルモン書を読んで、真実かどうか自分で知ろうと決心しました。注意深く読み、読み返しました。書いてある約束を試しました。人生を変える出来事でした。それ以来、モルモン書を読むのをやめたことはありません。

多くの若人はわたしよりも優秀です。

ある伝道部長の15歳になる息子は、教会員がほとんどいない高校に通って

いました。

ある日、授業中に正誤判定問題が出題されました。マシューは15番の問い以外は正しく答える自信がありました。15番が次のような問題だったからです。「モルモンの預言者と言われているジョセフ・スミスはモルモン書を書いた。正しい／誤まり」

彼はどちらの答えも選べませんでした。そこで、利口な10代の少年マシューは問題を書き換えました。「と言われている」という部分に×印を書き、「書いた」というところを「翻訳した」に書き直したのです。すると問題はこうなりました。「モルモンの預言者ジョセフ・スミスはモルモン書を翻訳した。」彼は「正しい」と解答して提出しました。

次の日、先生は厳しい調子で、なぜ問題を変えたのかと尋ねました。マシューはにっこりして言いました。「ジョセフ・スミスはモルモン書を書いたのではなく、翻訳したからです。また、彼は預言者と言われていたのではなく、預言者だったからです。」

それから、マシューはなぜそのようなことを知っているのかクラスの人に話そう求められました。¹⁷

イギリスで、妻とわたしはドロシー・ジェームズと知り合いになりました。ド

ロシーはウィンチェスター大聖堂の境内に住む牧師だった夫に先立たれていました。彼女は何年もの間失われていた家族の聖書を取り出して見せてくれました。

何年も前、家族の一人が財産を売りました。新しい持ち主はその聖書が20年以上も開かれないままで小さい机の中にあつたのを見つけました。そこにはボーモント・ジェームズという名の子どもが書いた幾つかの手紙もありました。持ち主はジェームズ家族を見つけ、長く失われていた家族の聖書を返すことができました。

タイトルページにある、次のような書き込みを妻が読みました。「この聖書は1683年のトーマス・ジェームズの時代から我が家に伝えられてきた。このトーマス・ジェームズはオックスフォードにあるボドレイアン図書館の初代図書館員で、1629年8月、ニューカレッジチャペルに埋葬されたトーマス・ジェームズの直系子孫である。〔署名〕C・T・C・ジェームズ、1880年」

余白やメモのページは英語、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語で書かれたメモでびっしりと埋まっていました。特に一つの書き込みが彼女の心を打ちました。タイトルページの下の方から彼

女が読んだ言葉はこうでした。「聖書から最高の感銘を受けると、読者はそれを心に深く刻み込む。」

それからコリントからの引用がありました。「わたしたちの推薦状は、あなたがたなのである。それは、わたしたちの心にしるさされていて、すべての人に知られ、かつ読まれている。そして、あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であって、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。2コリント3:2-3」¹⁸

わたしのモルモン書の余白にもたくさんの書き込みがあり、大量に下線が引かれています。ヒンクレイ大管長とともにフロリダ州へ行ったことが一度あります。大管長は説教壇から振り返り、聖典を1冊貸してくださいと言いました。わたしは自分の聖典を渡しました。大管長は2、3秒、パラパラとめくっていましたが、振り返ってわたしに聖典を戻しながらこう言いました。「どこもかしこもこんなに塗りつぶされては、読めたもんじゃありませんよ。」

アモスは預言しました。「ききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主

テンプルスクウェアで奉仕する宣教師たち。訪問者にあいさつし、多くの言語で福音を宣べ伝えている。



の言葉を聞くことのきき手である。」¹⁹

幼いマンフレッド・シュツツェやディーター・ワークトドルフが住んだ世界よりもはるかに危険な世界にあって、モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証には、この世の飢えた霊を癒し、養う力があります。

マンフレッド・シュツツェは今では七十人第三定員会の会員であり、ヨーロッパ東部のセミナリーを管理しています。母親は現在88歳ですが、今でもフライベルクの神殿に参入しています。ハーバート・シュライターがかつて副神殿長を務めた神殿です。

ウルグアイ出身の新しい七十人、ウォルター・F・ゴンサレス長老と一緒に、わたしはユタ州モロナイで開かれた大会に出席しました。モルモン書に出てくる名前が付いた町です。モロナイには医師も歯医者もいません。食料を買うために町を出なければなりません。学生たちは統合地域の高等学校までバスで揺られて盆地を横断するのです。

わたしたちは236人の出席者とともに集会を開きました。ゴンサレス長老が、出席者たちを農業に従事する平凡な人々にすぎないと思わないように、わたしは次のような証の一文を提示しました。「わたしは福音が真実であることと、イエスがキリストであられることを知っています。」これをスペイン語で言える人はいますか、とわたしは質問しました。何人かが手を挙げました。次に、ほかの言語で言える人はいますか、と尋ねました。すると以下の言語でこの証が繰り返されたのです。

日本語	中国語	フィンランド語
スペイン語	トンガ語	マオリ語
ドイツ語	イタリア語	ポーランド語
ポルトガル語	タガログ語	韓国語
ロシア語	オランダ語	フランス語

合計15か国語

再び、英語で言います。「わたしは福音が真実であることと、イエスがキリストであられることを知っています。」

わたしはこのモルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証を愛し

ています。それを研究してください、そうすれば旧約聖書、新約聖書の両方とも理解することができます。それが真実であることを知っています。

この1830年版のモルモン書は、23歳のエグバート・B・グランディンによって23歳のジョセフ・スミス・ジュニアのために印刷されました。105ページから読みます。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」²⁰

これこそまさにわたしたちが行っていることなのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 出エジプト28:30;レビ8:8;民数27:21;申命33:8;サムエル上28:6;エズラ2:63;ネヘミヤ7:65参照
2. ジョン・マクリントック, ジェームズ・ストロング, *Cyclopaedia of Biblical, Theological, and Ecclesiastical Literature*(1867-1881年)「Urim and Thummim」の項参照
3. モロナイ10:4-5
4. 2ニーファイ2:21;33:9;アルマ12:24;34:32;42:4参照
5. 2ニーファイ9:3-7;モーサヤ16:8;3ニーファイ11章参照
6. アルマ34:34;40:11-14, 21参照
7. 2ニーファイ9:12;アルマ40:23;41:2;3ニーファイ11:1-16参照
8. モーサヤ4:1-3, 12, 26;アルマ4:14参照
9. アルマ34:15-16;41:14;42:15-16, 22-25参照
10. 2ニーファイ4:35;32:8-9;エノス1:9;アルマ13:28;34:17-27, 37:36-37;3ニーファイ18:19-21;モロナイ7:26参照
11. 2ニーファイ6:2;モーサヤ18:18;アルマ6:1;13章;3ニーファイ11:21;18:37;モロナイ2:2;

3:4参照

12. 2ニーファイ11:5;モーサヤ5:5;18:13;アルマ13:8, 16参照
13. 2ニーファイ32:2-3;オムナイ1:25;モロナイ7:25, 37参照
14. 1ニーファイ16:9;17:44-45;エノス1:10;アルマ32:23;ヒラマン5:30;3ニーファイ11:3参照
15. 1ニーファイ11:13-33;2ニーファイ2:6-10;モーサヤ3:5-12;アルマ7:7-13;3ニーファイ27:13-16参照
16. ヨハネ6:35
17. ジョージ・D・デュラント, "Helping Your Children Be Missionaries," *Ensign*, 1977年10月号, 67
18. ドナ・スミス・バックナー, *On Footings from the Past: The Packers in England*(1988年)329で引用
19. アモス8:11
20. モルモン書(1830年)105:2ニーファイ25:26も参照

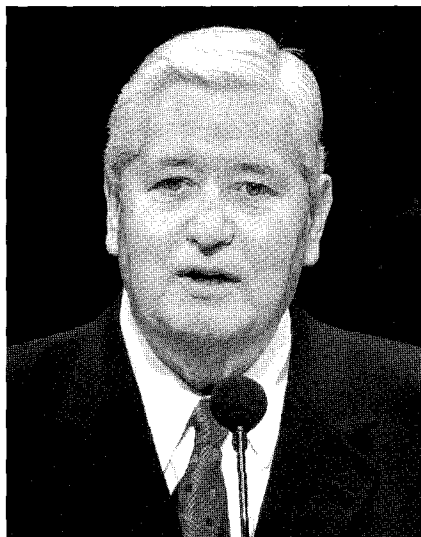


雄々しく立つ

管理監督

H・デビッド・パートン

「イエス・キリストは、常に雄々しく立つ完全な模範です。主は、高潔さと強さと勇気を身をもって示されました。」



賢 明な男性がよく次のような簡潔な助言をくれました。「デビッド、雄々しく立ちなさい（訳注——文字どおりには「高く立ちなさい」の意）。」父は、わたしの身長がもう少し伸びるようにとか、つま先立ちをするようになどと期待したわけではなく、妥協して原則を曲げたり、霊的な価値を傷つけたり、責任から逃れたりせずに、勇気をもって決断すべきだと言いたかったのです。父の助言に従うと生活はともうまくなりました。しかし、雄々しく立つことができなかったときにはたいへいの場合、不愉快な思いをすることになりました。最近、二人の幼い孫に、雄々しく立つようと天のお父様がおっしゃったら、何をしてほしいということだと思ふか尋ねました。一人は自然につま先立ちになったのでほんの少しか背が高く見えました。二人はすかさず口をそろえて、「正しいことをしてほしい」

とことだよ」と言いました。

9月11日の出来事の苦悶と混乱の中から、たくさんの男女や国々が雄々しく立ち上がりました。友好関係にある者も対立関係にある者も皆、共通の敵に対して結束しました。たぐいまれな勇気にあふれた行為がそこかしこに見られました。人道的な援助が分け隔てなく行われています。人種や宗教の違いにかかわらず、人々が犠牲者とその家族に援助の手を差し伸べています。無数の祈りがささげられています。善を信じる人々が、恐怖の力と無分別な暴力を肯定する人々に反対して雄々しく立っています。

日和見主義者はいつか、いずれかの側に立たなくてはならないと言われています。もしわたしたちが日和見的な立場を取っているなら、今こそ、勇気を奮い起こして義の側に雄々しく立ち、わたしたちを奴隷にする罪を避ける時です。

わたしたちの救い主、イエス・キリストの生涯と務めと教えは、自分自身を評価する指針を与えてくれます。イエス・キリストは、常に雄々しく立つ完全な模範です。主は、高潔さと強さと勇気を身をもって示されました。わたしは救い主の教導の業の中から3つのことをお話したいと思います。

最初に、バプテスマを受けた後、イエスは御霊に促されて天の御父と交わるために荒野へ退かれました。肉体が御自身の神聖な霊に従うように、40日間、断食されました。肉体が弱っているところへ試みる者がやって来て、奇跡を行う大きな力を行使するよう救い主に何度も誘いました。飢えを満たすため

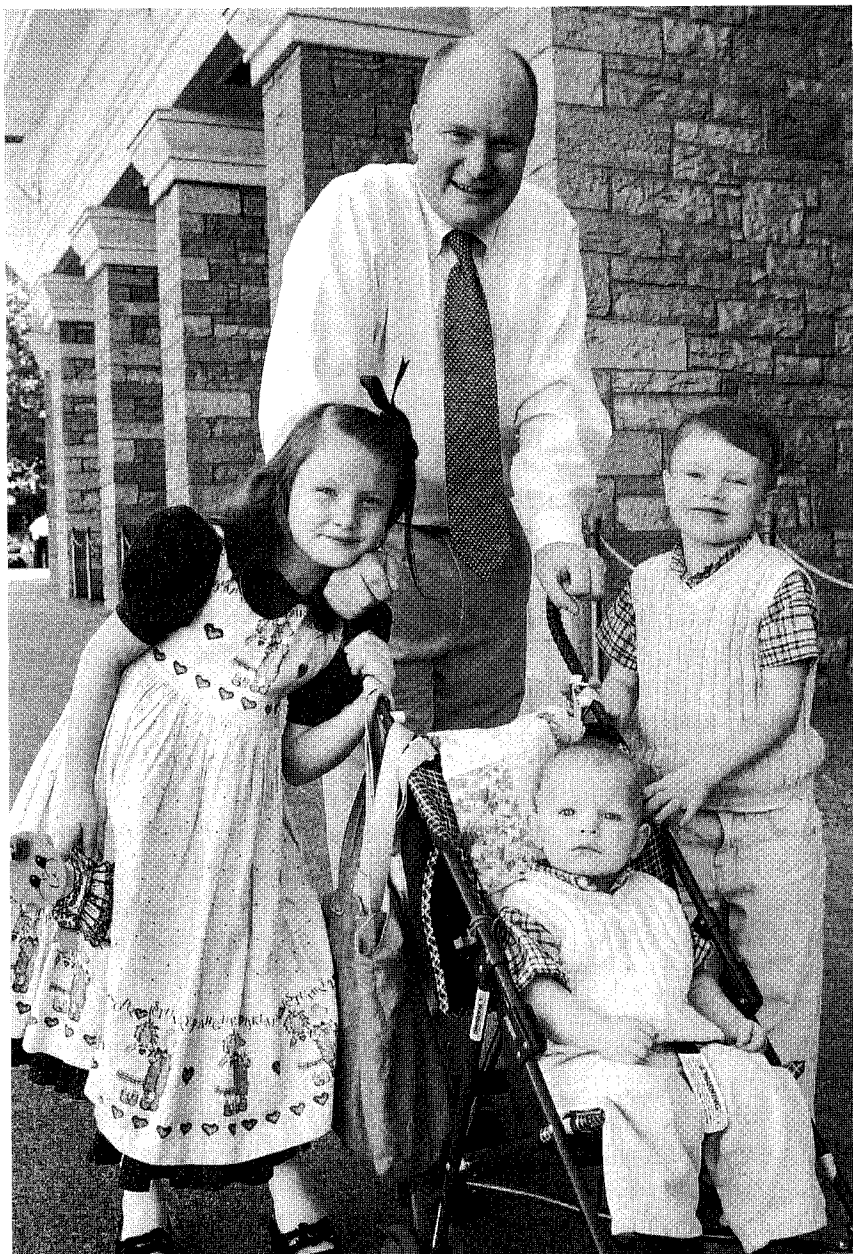
に、石をパンに変えるようにという要求に対して、救い主は、「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」と返答し（マタイ4:4）、雄々しく立たれました。高い所から飛び降りて、天使に助けてもらったかどうかというばかげた要求に対して主は、「主なるあなたの神を試みてはならない」と雄々しく言われました（マタイ4:7）。ひれ伏して悪魔を拜むなら、この世の富と栄華を上げようという誘いに対して、主は雄々しく答えられました。「『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」（マタイ4:10）

試みる者の邪悪な誘いが弱まる気配はありません。物質的な富に対する欲求に駆られて、原則から離れる人もいます。必要と欲求を区別することができず、心を混乱させている人もいます。子どもたちは、両親の愛情や注目、指導を求めています。多くの人が欲しいものをもっと多く得るために倫理や道徳を捨て、時には法律を犯したりしています。

物質的なものを追い求めるわなにはまっていることに気づいたら、今こそ、勇気をもって雄々しく立つ時です。神への愛を大事にするよりも、お金で買えるものを大事にしているなら、今こそ、雄々しく立つ時です。必要以上の豊かさに恵まれているなら、今こそ、必要が満たされていない人々に分け与えることによって雄々しく立つ時です。

2番目に、救い主はあるとき弟子たちを呼び集めて言われました。「聞いて悟るがよい。口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである。」（マタイ15:10-11）

多くの人が日々の普通の会話の中で神の御名をみだりに唱えています。教会の青少年同士の会話の中でも、感情を表す際に下品で粗野な言葉がいつも簡単に出てくるようです。若い友の皆さん、今こそ雄々しく立ち、皆さんの会話の中からそのような言葉を一掃する時です。どのような言葉について申し上げているか、皆さんには分かるはずですが、不幸なことに、皆さんは学校にいるとき、音楽を聞くと、スポーツをするときにそ



テンプルスクウェアのタバナクル前で休憩を取る家族。

のような言葉を何度も何度も耳にします。雄々しく立つためには勇気が必要です。皆さんは勇気を奮い起こすことができますでしょうか。もちろんできます。天の御父にこの状況を乗り越える強さを求めてください。救い主は言われました。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。」(教義と聖約19:38)このようなことが言われてきました。「ひざまずいているときにこそ、最

も高いところに到達する。」(“Standing Tall,” New Era, 2001年10月号, 19)不敬な言葉や粗野な言葉は人を高めません。汚すだけです。妻とわたしは青少年のスポーツイベントに何百回となく出席してきました。模範を示すべきコーチやほかの大人たちから出る不敬な言葉を聞くことが多すぎます。大人たちは粗野で不敬な言葉を一掃するように雄々しく立つ必要があります。

「行いは、言葉よりも多くを語る」という言葉があります。実際、行いはわた

したち自身についてたくさんのことを語っています。わたしたちは預言者の勧告に従って上品な服装をするという点で雄々しく立つ必要があります。「品のない服装には、極端なショートパンツや短いスカート、体の線がはっきりと出るもの、腹部を覆っていないシャツ、その他の肌を露出する服装などが含まれます。(For Strength of Youth [2001年] 12. 現行の『若人のために』の改訂版。近日出版予定)上品で、こざっぱりした清潔な服装は、心を高めてくれます。乱れた服装は品位を落とします。もし疑問があるならば、「この服装で主の御前に出て平気だろうか」と心に聞いてください(For Strength of Youth, 13)。母親の皆さんは、この重要な事柄に関して模範となり、判断基準となることができます。しかし、若人は焼きたてのパンのおいしいにおいにすぐ気づくのと一緒くらい、偽善的な行為にもすぐ気づくということを忘れないでください。親の皆さん、息子や娘たちに助言を与え、品のない服装に対して彼らとともに雄々しく立ってください。

3番目に、だれがわたしたちの隣人なのかという律法学者の問いかけに対して救い主がされた話を思い出してください。エルサレムからエリコに旅していた男が強盗に襲われ、着物をはぎ取られ、半殺しにされて捨て置かれたという話です。最初に通りがかった人は祭司でしたが、目をそむけて道の向こう側を通り過ぎました。次の人も、不運に見舞われたその人を見て立ち止まりましたが、助けることなく通り過ぎました。3番目に通りがかったサマリヤ人は、傷に包帯を巻いてやり、世話を受けられるように手配しました。そこで、イエスはだれが隣人になったかとお尋ねになりました。律法学者は、慈悲深い行いをした人ですと答えました。救い主はその答えを聞いて、「あなたも行って同じようにしなさい」と言われました(ルカ10:37. 30-37参照)。

隣人に手を差し伸べるとき、隣人の必要にだけでなく、気持ちにも心を配っているのでしょうか。わたしたちは隣人を選別し、同じ信仰を持つ人々だけが隣

人であると考えてはいないでしょうか。信仰や肌の色、そのほか目に見える違いに関係なく、すべての人を隣人と考えているでしょうか。救い主の「隣人」の定義には、いかなるただし書きもありませんでした。教会で使用されている独特な言い回しは誤解を招き、無神経で恩着せがましく聞こえる可能性さえあります。昨日のバラード長老の言葉にもありましたが、わたしも「非教会員」という言葉に抵抗を感じます。非教会員という言葉を使うとき、そう呼ばれた人は自分が地域社会や町や、極端な場合、人類の一員としてさえも見なされていないと感じるかもしれません。わたしたちは、よく隣人を受け入れ仲間に入れていと言いますが、ある人々にとってはわたしたちは不寛容にしか映らないことが多々あります。わたしたちは自分と神を愛するようになって初めて、隣人を愛することができるのです。隣人に率直な愛と尊敬を示すという点で雄々しく立つではありませんか。

わたしたち家族の親しい友人が2、3か月前に亡くなりました。彼は夫婦で山歩きを楽しみました。ある秋の日の午後、二人は美しい滝に行こうと険しい山道を数マイル登りました。山から下りる途中、擦れ違う数人の登山者たちが質問をしたそうです。「行ってみる価値はありますか。」友人夫妻の答えはいつも「はい」でした。後になって二人は、新鮮な空気や、山々の美しさ、体を動かすこと、それに愛する人と一緒にいることを楽しまなければ、努力して登る価値はないと語りました。

仲間から強いプレッシャーを感じ、受け入れられたいと願うあまり、「勇気をもって雄々しく立つことに価値はあるのですか」と問う人もいることでしょう。その問いに、わたしはこう答えます。「永遠の命が大切だと思うならば、そしてこの世でほんとうの喜びを経験したいならば、決意して、日々たゆまず努力して、雄々しく立つ価値があります。」

わたしたちすべての人が義の側に雄々しく立つことができますように。主イエス・キリストの聖なる御名によって、お祈りします。アーメン。

「恐れることはない。 われわれと共にいる 者は……多い」

中央若い女性第二副会長
シャロン・G・ラーセン

「親となり、愛し導くという神聖な務めにあつて、わたしたちは一人では（ありません。）これ以上に大きな喜びはほかにありません。どんな犠牲（をもちかう）価値があります。」



の人数を数えるのに余念がないただ一人の同伴者に対し、たとえ敵の軍勢がいかに多く、この世の力がどれほど強くとも、わたしたちが主の側に立っているならば、わたしたちは常に敵を上回る軍勢を味方につけていることを改めて確信させました。エリシャが若い友人に次のように語った慰めの言葉は、今日にも当てはまることを証します。「われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多い……。」（列王下6:16）主はかつてエリシャに対して行われたように、力強く愛し導く両親、祖父母、おじおば、隣人、指導者、友人という「火の戦車」で、わたしたちの若人を囲み、守っておられます。

わたしはこれまで4年間、若い女性に関する業に深く携わってきました。世界中を巡って若い女性に会い、彼女たちの希望と夢、恐れと失望をある程度知ることができます。わたしは、ヒンクレ一大管長の次の言葉に同意します。「この教会の青少年はこれまでの中で最高の青少年です。」（Church News, 1997年2月15日付、3）教会の若人たちは全般的に、善良で礼儀正しい人になろうと、雄々しく精力的に努めています。

教会の青少年は強く善良ですが、わたしたちの助けを必要としています。そして、活用できる援助手段があります。

青 少年の両親や指導者は、青少年や彼らが生活するこの世界について信仰を失いそうになり、腕を組んで悩むことがよくあるかもしれません。

今日わたしたちが置かれている状況は過去に例を見ないものでも、希望を見いだせないものでもありません。エノクが預言者であったとき、天は、この世の邪惡のゆえに涙を流しました（モーセ7:28-37参照）。今日も、天が涙していることは確かです。

預言者エリシャは、彼を殺そうとするスリヤ軍に包囲されましたが、スリヤ軍



カンファレンスセンター1階の柱に
寄りかかって入場を待つ女性。

『若い女性個人の進歩プログラム』、『アロン神権——神への務めを果たす』、『青少年に関する両親と指導者ためのガイド』、改訂版『若人の強さのために——神への務めを果たす』といった資料は、道徳的に墮落している社会にあって青少年が確固とした姿勢で立ち向かえるよう、両親と指導者が精力的かつ直接的に働きかけるうえで助けとなるものです。教会の青少年が求めているのは、単に衣食住だけではなく、愛し、導いてくれる人を求めているのです。

愛することにおいてきわめて重要な要素は聞くことです。わたしはこれまで得たすばらしい経験から、聞くことの真の意味を知りました。

わたしは以前は父と一緒によく農場で働いたものです。常に楽しい仕事とは限りませんでしたが、昼食の時間になると、大きなボプラの木陰に座り、食事をし、話をしました。父はこの時間を、規則を定めたり娘の行動を正したりする絶好の機会として利用したことはありませんでした。互いに雑談していたにすぎません。

この時間は、父に質問できる時間で

した。わたしはすっかり安心して、父を怒らせるような質問をすることができました。こんな質問もしたことを覚えています。「先週、わたしの帰りが遅いからってお父さんがわざわざ迎えに来たでしょう。どうしてそんなことをして、友達の前でわたしに決まり悪い思いをさせたりしたの。」

父の答えは、愛の別の側面を表しています。決して気紛れではありませんでした。わたしには守るよう期待されている特定の行動基準がありました。父の答えはこうです。「心配するのは、おまえが遅くまで外出するからだよ。何よりも、おまえの無事を願っているんだ。」父のわたしへの愛は、眠りたい欲求や、服を着替え、車に乗ってわたしを捜しに出かける煩わしさよりも強いことが分かりました。

干し草畑であろうと、ほかのどこかくつろいだ場であろうと、このようなときに築いたきずなは、後で悩みや問題が起きたときに、切り抜ける力を与えてくれます。このようにして時間を一緒に過ごす、厳格な教義や相手の誤りを正す姿勢がなくても、あるいはむしろ、それが無いゆえに、きずなは壊れずに保たれるのです。

愛は、相手が話したいと思うときに聞くことです。真夜中でも、朝6時にセミナーへ行く途中でも、あるいは夕食の支度で忙しいときでも耳を傾けます。暗い寝室の場面が出てくる教会のコマーシャルを見たことがありますか。ドアが開き、少女が本をわきに抱えて部屋に入り、ぐっすり眠っている父親のところへ来て尋ねます。「パパ、絵本を読んでもくれる？」父親は目を閉じたまま、夢見心地でこうつぶやきます。「パパはね、すごく疲れているんだ。ママに聞いてごらん。」少女は母親が眠っているところへ行き、尋ねます。「ママ、パパに絵本を読んでもらってもいい？」すると父親の目が大きく開きます。次の場面では、3人が一緒になり、父親が絵本を読んでいます。

愛することは自然にできるかもしれませんが、導くことは養うべき技能で、それはあまり真剣に考えられていないよう

です。模範という、ほかのいかなる方法よりも強力な手段で導くのです。それは青少年の両親や指導者にとって大きな責務です。

わたしたちが生活し、話し、祈る様子を見て、わたしたちが主を愛していることを青少年は知ることができるのではないのでしょうか。わたしたちと一緒にいるときに感じることによって、天の御父は愛の神であられることが分かるのではないのでしょうか。わたしたちは様々な教えの風や社会的な圧力、また世俗的な名声の策略などに動揺されないという安心感を、青少年は持てるでしょうか(エペソ4:14参照)。

もしわたしたちが義をもって導こうとするなら、何に価値を置くか、疑問の余地はありません。わたしたち自身が少しでも疑問を感じていると、青少年は大きな疑問を抱くようになります。

時々わたしは、名声や人々の称賛を得よう子どもたちにプレッシャーをかけているのは、わたしたち母親ではないかと思うことがあります。わたしたちの基準が主の標準となるようにわたしたちの願いを変えるなら、主の王国においては二重の標準は存在しないという明確なメッセージを伝えることになります。

昨年11月、ヒンクレイ大管長は青少年に向けて話をしましたが、その後ある若い女性が母親に、彼女の所属する若い女性の指導者が2番目のイヤリングを外したことを報告しました。こうした観察眼の鋭い若者は気づいています。皆さんのショートパンツの長さや、ブラウスを着るためにガゼットをピンで止めていたりしていないか、庭で作業をしているとき何を着ているか、あるいは着ていないか、どんな映画館の前に並んでいるか、気づいているのです。

わたしたちは主と聖約を交わしましたが、指導者になると、こうした聖約を守る決意の度合いが試されることがよくあります。

ある若い母親がこう言いました。「善い親になるには、ばく大な時間と労力が必要です。家の中を片付けながら、子どもをテレビの前で寝かせて、それからベッドに入れる方が、聖文を読み、祈

り、物語を読んで、寝かしつけるよりも簡単です。でも、子どもたちは、寝る前のこの儀式を楽しみにしており、このために時間と労力を使うことは、動くのも大変なほど疲れ切っているときでさえ、永遠の報いに影響を及ぼすことを知っています。」一貫性のある指導により、青少年は賢明な選択ができるようになり、その結果、青少年に対するわたしたちの信頼が増すようになります。

わたしは16歳のとき、母が父に話しているのが聞こえてきたときの経験を思い出します。母はわたしがしようとしている選択について心配していました。わたしは未熟でしたが重大な罪^{かしやく}は犯していなかったため、良心の呵責を感じてはいませんでした。母は心配でした。そのときの父の言葉はわたしの心に刻み込まれました。母にこう言いました。「心配するなよ。わたしはシャロンを信頼している。あの子は正しいことをするさ。」干し草畑で過ごした時間は、そのとき報われたのです。そのときから、わたしは愛と信頼に満ちた両親に従うようになりました。

両親や指導者にとって最大の試練の一つは、一見かわいげのない子どもを愛することです。これは難しい務めです。忍耐と無条件に愛する能力が試されます。心を痛めた両親が助けを求めて祈るとき、その助けは、天使のようなおばやおじ、祖父や祖母、良い友達、わたしたちの愛する者を取り巻く指導者たちを通して与えられます。彼らは、わたしたちが祈り求めている方向へ子どもを向かせるというメッセージをさらに強めてくれるのです。

親となるすばらしい喜びを味わうために次の世代の人々を備える際に、賢明に愛し、目的をもって導くことは、悪と戦ううえで助となります。わたしたちは12歳の息子が初めて聖餐^{せいさん}のパスをしたり、聖餐の祈りをささげたりするのを聞く喜びを忘れることはできません。自分の娘が救い主について証を述べるのを聞いたり、若い女性のメダルをもらうのを見たりするときの気持ちをうまく説明できるでしょうか。

子どもと一緒に神殿に入り、ふさわし

い伴侶^{はんりよ}とともに聖壇の前でひざまずく姿を見ると、天国をかいま見ることができます。子どもたちがはぐくむようわたしたちが働きかけてきた、約束を交わし達成するという精神に基づいた生活を二人でともに始める用意ができたのです。これこそ収穫の時です。

最後に、親となり、愛し導くという神聖な務めにあって、わたしたちは一人で

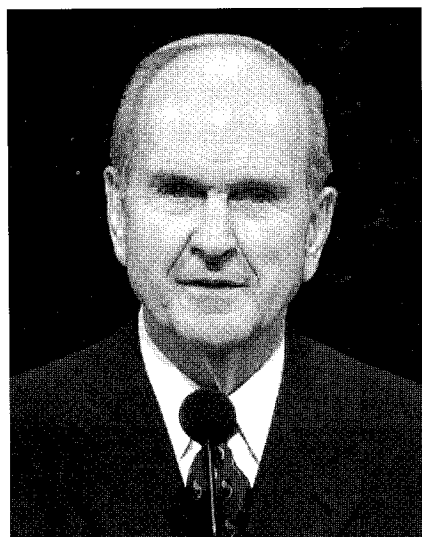
はないことを証いたします。こうした親の務め以上に大きな喜びはほかにありません。どんな犠牲や、面倒も、忍耐、試練、辛抱をもする価値があります。「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。」(ローマ8:31)イエス・キリストの御名^みによって証いたします。アーメン。



あなたの家を 整えなさい

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

「家族はこの生涯における最大の業と喜びの中心で(あり)永遠にわたってその中心であり続けることでしょう。」



以前我が家に10代の娘が何人かいたころ、休みに家族を連れて電話もボーイフレンドも届かない遠い所へ行きました。グランドキャニオンを流れるコロラド川をゴムボートで下ったのです。出発の時点では、この旅にどれほどの危険が潜んでいるのかまったく分かりませんでした。

初日は楽しく過ぎました。ところが2日目になって、ホーンクリークの急流に差しかかり前方の激しい段差を見たときには、恐ろしくなりました。大切な家族がゴムボートで漂いながら、激流に飲み込まれようとしているのです！反射的にわたしは片手で妻を、もう一方の手でいちばん年下の娘を抱きかかえました。彼らを守ろうと、自分の方へ抱き寄せました。ところが断崖にきたとき、ボートがしなって巨大な石投げのよ

うになり、わたしは空中に投げ出しました。わたしは渦巻く激流に落下しました。なかなか水面に上がれません。息を継ごうとする度に、ボートの底にぶつかってしまうのです。家族にはわたしの姿が見えませんでした。わたしには家族の叫び声が聞こえていました。「お父さん！ お父さんどこ？」

わたしはついにボートの横に出て、水面に上がりました。家族は溺死寸前のわたしを水から引き上げてくれました。無事の再会に皆が感謝しました。

その後は楽しい日々が続きました。そして最終日、この旅で最も危険な急流、ラバフォールを通る時が来ました。前方を目にしたわたしは、すぐにボートを岸に着けてもらい、緊急家族会議を開きました。ここを無事に切り抜けるには、慎重な計画が必要だと思ったのです。わたしは家族にこう説明しました。「何が起きても、ゴムボートは水面に浮かんでいる。ボートに固定してあるロープに力の限りしがみついているならば、何とかかなる。たとえボートが引續繰り返っても、ロープにしっかりつかまっていれば大丈夫だ。」

わたしは7歳の娘に向かって言いました。「みんなはロープにつかまる。でも君はお父さんにつかまっているんだよ。お父さんの後ろに座って。お父さんはロープにつかまるから、お父さんにしっかりとしがみついているんだよ。」

そして計画を実行しました。わたしたちは激しい急流を乗り越えました。――

必死でロープにつかまりながら。――そして全員が無事でした。¹

教訓

兄弟姉妹、わたしが命を落としそうになりながら学んだ教訓についてお話ししましょう。人生を歩んでいくときに、困難などときにおいてさえ、父親が反射的に妻や子どもたちを抱き締めることは必ずしも目的を達成する最善の手段とはなりません。しかし、もし父親が救い主と福音の鉄の棒に忠実につかまっているならば、家族は救い主と父親につかまりたいと思うでしょう。

この教訓は父親だけに当てはまるものではありません。性別や既婚、独身、年齢を問わず、人は直接救い主につながり、真理の鉄の棒にしっかりつかまり、真理の光によってほかの人を導くことができます。そうするときに、この人に従いたいと人が思うような義の模範となることができるのです。

戒め

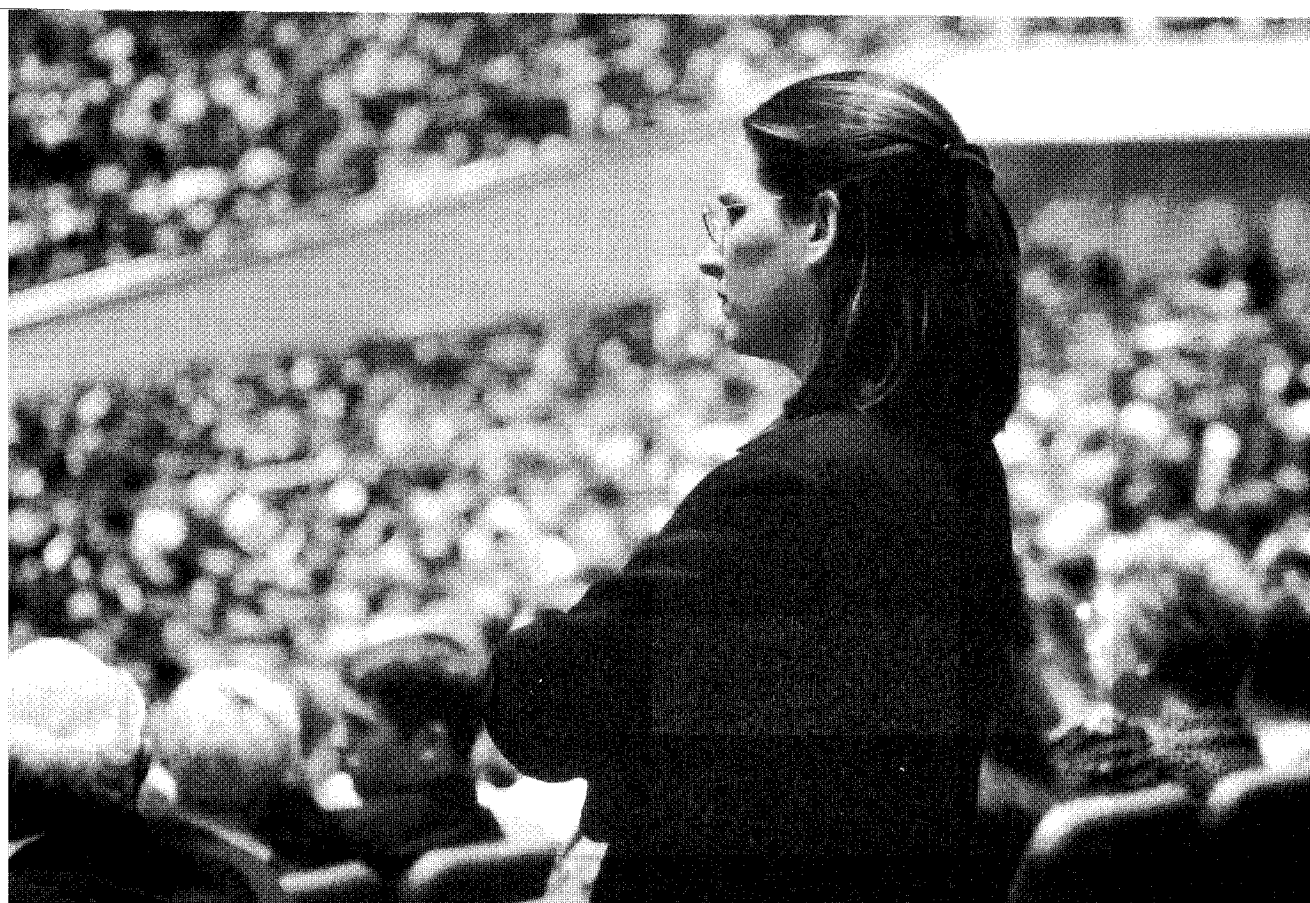
主にとって、家族はきわめて大切です。主はわたしたちが肉体を得て家族を築けるように地を創造されました。² 主は家族を高めるために教会を設立されました。家族が永遠に続くように神殿を用意されました。³

もちろん主は父親に、家族を管理し、養い、守るよう期待しておられます。⁴ しかし主はそれ以上を求めておられるのです。聖文には「あなたの家を整えなさい」と命じられています。⁵ 両親はこの戒めの大切さと意味を理解したなら、その方法を学ばなければなりません。

家を整えるには

家を主に喜ばれるように整えるには、主の方法を用いなければなりません。「義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和」という主の属性が必要です。⁶ 父親は「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛に」よることを忘れてはいけません。⁷

両親は「心を大いに広げる」「優しさと



カンファレンスセンターには非常に多くの人が集まったが、参加者は皆、各話者の話に注意深く耳を傾けた。

純粋な知識」の生きた模範でなければなりません。⁸ 母親も父親も、利己的な関心事を捨て、偽善、暴力、悪口を避けなければなりません。⁹ 両親は、子どもが生まれつき自由を望むものであることをじきに学びます。人は自分で歩んで行きたがるものなのです。それがたとえ親の善意によるものであっても、拘束されたくはないのです。しかし、だれでも主に従うことはできます。

いにしへのヨブはこの概念を教えました。こう言っています。「わたしは堅くわが義を保って捨てない。わたしは今まで一日も心に責められた事がない。」¹⁰ ニーファイもこう教えています。「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがない。」¹¹

福音が時代を超えたものであるように、これらの教義は永遠のものです。以下の聖文の勧告について考えてみましょう。

箴言にはこう書かれています。「教訓をかたくとらえて、離してはならない、それを守れ、それはあなたの命である。」¹²

新約聖書にもこうあります。「兄弟た

ちよ。堅く立って、……言伝えを、しっかりと守り続けなさい。」¹³

モルモン書には、「鉄の棒」¹⁴ にしっかりつかまっていた人々について書かれています。この鉄の棒は「神の言葉」¹⁵ にたとえられています。真理で固定された鉄の棒は動くことも変わることもありません。

そのほかの神の命令

両親は主の御言葉に従うだけでなく、それを子どもに教えるように神から命じられています。聖文には明確な指示が与えられています。「シオンにおいて、……子供を持つ両親がいて、8歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと^{あんしゅ}按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」¹⁶

この戒めでは、子どもを教える責任がはっきりと両親にゆだねられています。家族に関する世界への宣言は、「家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することにな[る]」¹⁷ と警告しています。わたし

はそれが真実であると厳かに申し上げます。

これらの義務を果たすには、教会と家族の両方が必要です。それらは互いに協力し合い、強め合います。教会は家族を高めるためにあります。そして家族は教会の土台となる単位なのです。

この相互関係は、教会初期の出来事ははっきりと示しています。1833年、主は教会の若き指導者たちを親としての不十分さゆえに叱責されました。主は言われました。

「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。

しかし、まことに、わたしはあなた……に言う。……あなたは、戒めに従ってあなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。……さて、わたしは戒めをあなたに与える。……あなたは……自分自身の家を整えなければならない。あなたの家には、正しくないことがたくさんあるからである。……まずあなたの家を整えなさい。」¹⁸

この啓示は、預言者ジョセフ・スミスの誠実さを力強く伝える、数多い証拠

の一つです。ジョセフはこの厳しい叱責の幾つかが自分に向けられたものであったにもかかわらず、聖典から省かなかったのです。¹⁹

今日、大管長会は親が優先すべきことを再度強調しています。聖徒に向けた最近の手紙から読んでみましょう。「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くしてください。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義になかった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。」²⁰

両親は何を教えるべきか

この神聖な指示を念頭に置きながら、何を教えるべきかについて考えてみましょう。聖文は両親に、イエス・キリストへの信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物について教えるように命じています。²¹ 両親は救いの計画²²と神の戒めに完全に従って生活することの大切さを教えるべきではありません。²³ そうしなければ、子どもたちは贖いと自由をもたらず神の律法を知らずに苦しむでしょう。²⁴ また両親は、地上に教会と神の王国を築くために²⁵ 時間と才能、什分の一、財産²⁶をささげ、生活を奉獻する方法を模範によって教えるべき



ません。そのような生活は確かに子孫に祝福をもたらします。聖文にこうあります。「あなたの務めはとこしえに教会に対するものである。これはあなたの家族のゆえである。」²⁷

家族に敵対するもの

親も子も、主の業と御心にはいつも強力な反対勢力があることを理解しなければなりません。²⁸ 神の業(と栄光)は不死不滅と家族としての永遠の命をもたらすことであるため、²⁹ 当然の結果として敵の攻撃は家庭の中心、家族に向けられます。ルシフェルは執拗に命の神聖さと親としての喜びに的を絞って攻撃してきます。

悪しき者は絶えず活動しているのですから、気を緩めてはなりません。一瞬たりともです。何の害もないように思われる小さな誘いも、悲劇的な背きにつながる大きな誘惑となりかねないのです。昼も夜も、家でも外でも、罪を避け「良いものを守」らなければなりません。³⁰

ポルノグラフィや妊娠中絶、有害な薬物の常用といった反抗的な悪は、幸福な家庭と忠実な家族の道徳的基盤をむしろ白ありとなります。悪に身をゆだねれば、必ず家族を危険にさらすことになるのです。

サタンの望みは人を自分のように惨めにすることです。³¹ 肉欲を駆り立てて霊的な暗闇の中で生活させ、死後の世界の存在を疑わせようとします。使徒パウロはこう言っています。「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。」³²

家族の祝福を永続させる

しかし、神の偉大な幸福の計画を理解することにより、わたしたちの未来への信仰は強まります。主の計画は絶えず問いかけられてきた質問に答えてくれます。互いへの思いやりと愛は一時的なもので、死とともに失われるのでしょうか。いいえ。家族はこの地上での試しの期間の後も続くのでしょうか。そのとおりです。神は日の栄えの結婚と、

最大の喜びの源である家族が永遠であることを明らかにしておられます。

兄弟姉妹の皆さん、財産や世の誉れはいずれ消えていきます。しかし妻や夫、家族としての結びつきは違うのです。家族関係がどのくらい続くかに関して、人の最高の望みを満たしてくれるものはただ一つ、永遠です。永遠の結婚の祝福を得るためには、大きすぎる犠牲などありません。求められるのは、神の御心に添わないものを拒み、神殿の儀式を尊ぶことだけです。神聖な神殿の聖約を交わし守ることによって、神と伴侶への愛と、まだ生まれていない子どもたちを含む子孫への真の関心を証明するのです。家族はこの生涯における最大の業と喜びの中心です。そして「王位、王国、公国、……力、主権、……昇栄と栄光」を受け継ぐとき、家族は永遠にわたってその中心であり続けることでしょう。³³

今すぐ家を整え忠実に福音につかまっているなら、これらのかけがえのない祝福を得ることができるのです。神は生きておられ、イエスはキリストであられ、この教会は主の教会です。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は主の預言者です。イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

注

1. ラッセル・M・ネルソン、レベッカ・M・テラー "Friend to Friend," *Friend*, 1997年3月号, 6-7 参照
2. 教義と聖約 2:1-3 参照
3. 教義と聖約 138:47-48 参照
4. 1 テモテ 5:8 参照
5. 教義と聖約 93:44。列王下 20:1; イザヤ 38:1 も参照
6. 1 テモテ 6:11
7. 教義と聖約 121:41
8. 教義と聖約 121:42
9. 1 ペテロ 2:1 参照
10. ヨブ 27:6
11. 1 ニーファ 15:24
12. 箴言 4:13
13. 2 テサロニケ 2:15。ほかに関連する聖句として次の二つが挙げられる。「あなたは、キリスト・イエスに対する信仰

と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を模範にきなさい。」(2テモテ1:13)「わたしたちの告白する望みを、動かことなくしっかりと持ち続け〔なさい。〕」(ヘブル10:23)

14. 1ニーファイ8:30

15. 1ニーファイ11:25

16. 教義と聖約68:25, 強調付加

17. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』
1996年6月号, 10

18. 教義と聖約93:40-44

19. 教義と聖約93:47参照

20. ゴードン・B・ヒンクレー大管長, トーマス・S・モンソン副管長, およびジェームズ・E・ファウスト副管長の署名がなされている1999年2月11日付けの同手紙では、両親が行うことも述べられている。「わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようにお勧めします。必要とされるそのほかの事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」(“Policies, Announcements, and Appointments,” *Ensign*, 1999年6月号, 80で引用)

21. モロナイ8:10; 教義と聖約19:31;
68:25-34; 138:33; 信仰箇条
1:4参照

22. モーセ6:58-62参照

23. レビ10:11; 申命6:7; モーサヤ4:
14参照

24. 2ニーファイ2:26; モーサヤ1:3;
5:8; 教義と聖約98:8参照

25. ジョセフ・スミス訳マタイ6:38参
照

26. モーサヤ4:21-26; 18:27;
アルマ1:27参照

27. 教義と聖約23:3

28. モロナイ7:12-19参照

29. モーセ1:39参照

30. 1テサロニケ5:21

31. 2ニーファイ2:17-18, 27参照

32. 1コリント15:19

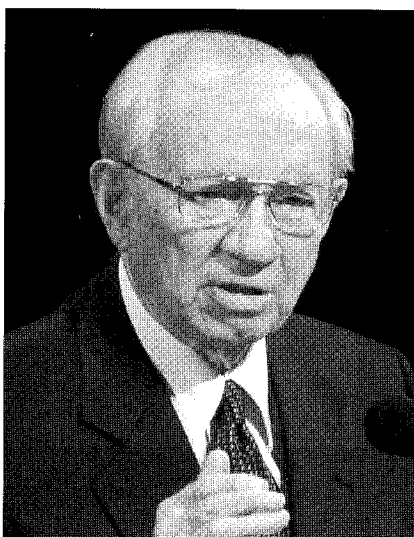
33. 教義と聖約132:19

わたしたちが 生きている時代

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「わたしたちの安全は悔い改めにかかっています。神の戒めを守るときにわたしたちは力を授けられます。」



愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしはへりくだってこの機会に臨んでいます。主の御霊に導かれるままにお話しできるよう祈っています。

先ほど、合衆国のミサイル攻撃が進行中であるというメモを受け取りました。言うまでもなく、わたしたちは危険な時代に生きています。わたしはこの時代とわたしたち教会員を取り巻く状況についてお話ししたいと思います。

1か月もたっていない9月11日の出来事はだれもがはっきりと覚えています。敵意に満ちた邪悪な攻撃によって、わたしたちは戦争に引きずり込まれています。21世紀最初の戦争です。前世紀は人類の歴史上、最も戦争が多い時代だったと言われてきました。そして今、新たな危機を迎えました。どのように展開

し、終結するのかは分かりません。合衆国が建国されて以来、本土に重大な攻撃を受けたのはこれが初めてです。しかし、これは合衆国だけに対する攻撃ではありませんでした。あらゆる地に住む善良な人々と国民に対する攻撃です。周到な計画の下で、大胆に実行され、むごい結果を生じました。何の罪もない5,000人以上の人々が亡くなったと考えられています。この中には多くの外国人もいました。まさに、残酷で狡猾な、また途方もなく邪悪な行爲です。

最近、わたしは国内の数人の宗教指導者とともに、ホワイトハウスに招かれて、大統領にお会いしました。大統領は気さくに、また率直に話してくださいました。

その日の晩に大統領は議会と国民に向かって、アメリカと同盟国はこの悲惨な出来事の計画に関与したテロリストと彼らをかくまっている人々を追跡して捕らえる決意であると、はっきりと表明しました。

現在、我が国は戦争状態にあります。巨大な軍隊が動員されてきましたし、それは今後も続行するでしょう。方針についての同盟が結ばれています。この紛争がいつ終わるのかだれにも分かりません。どれほどの人命と財産が失われるのかも分かりません。どのような方法で戦争が展開されるのかも分かりません。教会の働きにも様々な影響を与えることでしょう。

わたしたちの国の経済は苦しい状況



教会指導者の勧告から力を得ようとする会員で、どの部会も満席となった。

に置かれています。すでに問題が起きていたところにこの事件が起きて、問題をさらに大きくしました。多くの人が職を失っています。教会内でも、失業者の増加は福祉の必要を招き、什分の一に影響を及ぼすことが考えられます。宣教師プログラムにも影響を与えることでしょう。

わたしたちは今や、世界的な規模の組織となっています。150か国以上の国々に教会員がいます。この世界的規模の非常に大きなプログラムを管理運営することはますます難しくなっていくと予想されます。

アメリカ国民である教会員は国家の大統領とともに毅然として立ち上がっています。おぞましく邪悪な力を突き止めて、自分たちの行為に責任を取らせなければなりません。これはキリスト教徒とイスラム教徒の問題ではありません。わたしは、攻撃目標となっている国の飢えた人々に食糧が届けられていることを知ってうれしく思っています。わたしたちは全世界のイスラム教徒の隣人を尊重し、自分の宗教の教えに従って生きている人々が苦しみを受けることのないようにと願っています。わたしたちの民に特にお願いしたいのは、罪のない

人々への迫害にいかなる形であれ関与しないでほしいということです。むしろ、親しみを示し、援助の手を差し伸べ、守り、支援する人であってください。探し出して壊滅させなければならないのは、テロリストの組織です。

この教会の会員であるわたしたちは、そのようなグループについてある程度の知識を持っています。モルモン書にはガデアントンの強盗団について記されています。残忍で、誓いの下に結束し、邪悪と破壊を目的とする秘密結社です。当時、彼らは自分たちの利用できるあらゆる手段を使って、教会を滅ぼし、詭弁を弄して人々の支持を求め、社会を支配しました。現在の状況にも同じ要素を見ることができます。

わたしたちは平和を愛する民です。過去も現在も平和の君であるキリストに従っています。けれども、わたしたちは正義と良識を守り、自由と文明を守るために立ち上がらなくてはならない時があります。それは、モロナイが妻子と自由の大義を守るために人々を結集させたのと同じです(アルマ48:10参照)。

先日、ラリー・キング氏のテレビ番組で、宗教という名の下であのような忌まわしい活動を行うことについてどう思う

かという質問を受けました。わたしはこのように答えました。「宗教によって、不正や邪悪、またこのような邪悪な出来事が防げるわけではありません。わたしの信じている神はこのような行動を許してはられません。憐れみの神であり、愛の神であられます。また平和と安らぎの神であられます。わたしはこのような事態のときに、慰めと強さを神に求めます。」

この国やほかの国々の教会員は現在、多くの人々とともに国際的な運動に参加しています。軍隊に属している人々が、愛する人々に別れを告げて出て行く姿がテレビに映し出されています。彼らは、無事に帰還できるかどうか分からないままに出て行くのです。それはわたしたちの民の家庭にも影響を与えています。わたしたちは教会として一致団結してひざまずき、この軍事行動の重荷を背負う人々に全能者の力が注がれるように祈らなければなりません。

この紛争がどれだけ続くのかだれも知りません。どこが戦闘の場となるのか正確に知っている人はいません。終結するまでどの程度の範囲で人々が巻き込まれるのかだれにも分かりません。規模や様子について現時点では見当のつ

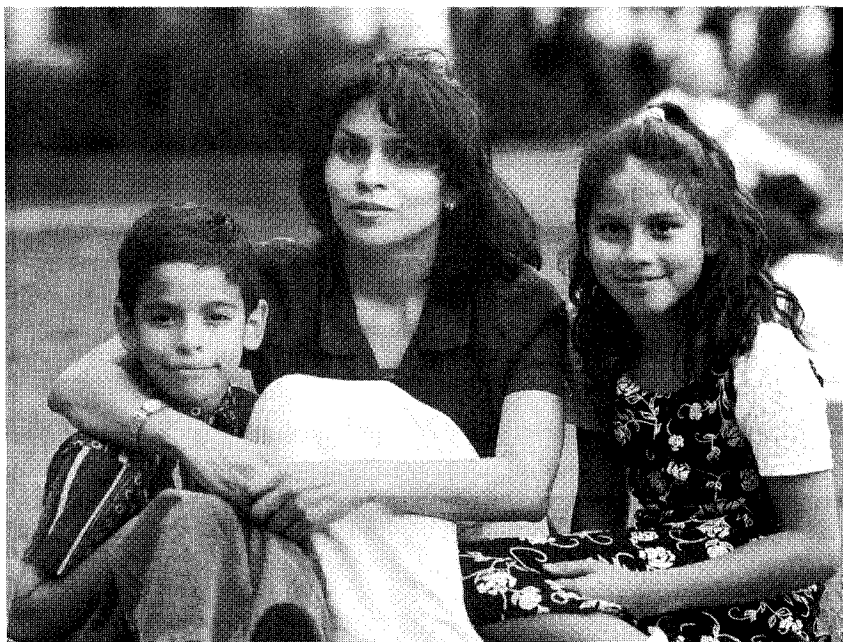
かない計画がすでに始められています。

このようなときに、わたしたちは命と平和が、そして文明そのものが、はかないものであることを痛切に思い知らされます。経済は特に不安定です。わたしたちは繰り返し、自立について、負債について、儉約について勧告を受けてきました。わたしたちの中にはまったく不必要なもののために多くの負債を抱えている人々が大勢います。わたしは若いころに、家族の必要を満たすだけの質素な家を建てて、その家を美しく、魅力のある、心地よい、安全な場所とするよう父から言われました。できるだけ早く抵当を外して、どのようなことが起きても、妻子のために住む場所があるようにしておきなさい、と父から忠告を受けました。わたしはそのような教えの下で成長しました。この教会の会員である皆さんに、可能な限り負債を解消して、必要なきのために蓄えをするよう強く勧告いたします。

今後起きるあらゆる事態に備えることはできません。けれども、多くの不慮の事態に備えることはできます。現在起きている状況を見て、わたしたちのなすべきことを肝に銘じようではありませんか。

60年以上にもわたって絶えず勧告されてきたように、緊急時に命を支えるための食物を蓄えておこうではありませんか。しかし、パニックに陥ったり、過剰な行動に出たりすることのないようにしてください。あらゆる面で分別のある人になってください。兄弟姉妹、何よりも、生ける神とその愛される御子を信じる信仰をもって前進しようではありませんか。

このアメリカの地には大いなる約束があります。わたしたちははっきりとした言葉でこう告げられているのです。「この地はえり抜きの地であり、この地を所有する民はどの国民も、この地の神に仕えさえずれば、奴隷の状態にも囚われの身にもなることなく、天下のほかのどのような国民からも支配を受けない。この地の神とはイエス・キリストである。」(エテル2:12)この約束は取り消されることがありません。最も大切なことは神の戒めに従うことです。



わたしたちが従っている憲法はわたしたちに恵みをもたらしてただけでなく、諸外国にとっても憲法の模範となってきました。これは、神の靈感による国家の安全手段であり、自由と、法の下での正義と公平を保証するものです。

将来にどのようなことが待ち受けているかは分かりません。否定的な言葉を述べたくはありませんが、聖文の警告とこれまで絶えず与えられてきた預言者たちの教えを思い出していただきたいと思えます。

パロが見た肥え太った雌牛とやせ細った雌牛、太った良い穂とやせた穂の夢が教える偉大な教訓をわたしは忘れることができません。

マタイによる福音書第24章で主が明らかにしておられる厳しい警告をわたしの心から追い払うことができません。

わたしも皆さんと同じように、地が清められ、筆舌に尽くし難い苦難があり、泣き、嘆き、悲しみの時が来ることを宣言した近代の啓示の言葉をよく知っています(教義と聖約112:24参照)。

さて、わたしは人騒がせなことを言うつもりはありません。死を宣告する預言者になりたいとは思いません。わたしは楽観的です。すべてを滅ぼす災いがわたしたちを襲う時が来ているとは思いません。そうでないことを心から祈っています。まだ成し遂げねばならない主の業が非常に多くあります。わたしたちと、またわたしたちの子どもたちでそれを行わなければなりません。

教会の業務を運営する責任のあるわ

たしたちは、これまでと同じように慎重であり、細心の注意を払っていることをお伝えしておきます。教会の什分の一は神聖な基金です。主が自ら定められた方法によって配分されています。わたしたちは非常に大きく、複雑な組織になってきました。広範囲にわたるとともに多くの費用がかかるプログラムを実施しています。けれども、収入の範囲を超えるようなことは行っていないことをお伝えしておきます。教会に負債を負わせるようなことはしません。手もとにある資源の範囲内に収めています。

わたしは什分の一の律法に心から感謝しています。これは主の財政の律法です。教義と聖約第119章で、わずかな言葉をもって与えられています。主の知恵がそこにあります。金額の多寡に関係なく、什分の一を正直に納めるすべての男女、すべての少年少女、そして子どもたちに申し上げます。皆さんが心の中に抱えている信仰に感謝します。わたしは皆さんと、そして什分の一を納めるべきであるのに納めていない人々に申し上げます。主が驚くべき祝福を約束しておられることに注目してください(マラキ3:10-12参照)。主は「什分の一を納める者は、主の来臨の時に焼かれないであろう」とも約束しておられます(教義と聖約64:23)。

断食献金を納めている人々にも感謝しています。これはひと月に2度の食事を抜くだけで、ほかに何も求められません。それは苦しんでいる人々を助けることを目的とした福祉プログラムを支える



大きな柱となっています。

さて、わたしたちは皆、ひどい戦争、争い、憎しみ、苦しみが今に始まったことではないと知っています。わたしたちが今日目にしている争いは、天の戦いで始まった争いの再現でしかありません。黙示録から引用したいと思います。

「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、

勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。

その時わたしは、大きな声が天でこう言うのを聞いた、『今や、われらの神の救と力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。』(黙示12:7-10)

それは恐ろしい戦いであったことでしょう。悪の軍勢は義の軍勢に向かって蜂起しました。大いなる欺く者である暁の子は敗北し、追放されて、天軍の3分の1を一緒に連れて行きました。

この大きな戦いについてモーセ書とアブラハム書はさらに理解の光を投げかけています。サタンは人から選択の自由を取り上げて、すべての功績、誉れ、栄光を受けようとしていました。この計画に対抗したのは、御子が自ら成し遂げると語られた、御父の計画でした。その

計画に基づいて、御子は地上に来て、人類の罪を贖うために命を差し出されました。

カインの時代から現在に至るまで、敵対する者は恐ろしい戦いを画策してきました。それらは非常に大きな苦しみを招きました。

裏切りとテロリズムはサタンとともに始まりました。これらは、神の御子が神の息子娘たちの間で平和と善によって支配するために戻って来られるまで続くことでしょう。

有史以来今日まで、実には大勢の男女が生を受け、死んでいきました。ある人たちは今後起きる戦いで命を落とすかもしれません。しかし、わたしたちにとって死は終わりでないことを、厳粛に証します。現在ここで生活しているのとまったく同じように確かに、来世があります。天の戦いの争点となった偉大な計画によって、人は生き続けるのです。

ヨブは「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」と尋ねました(ヨブ14:14)。その後、ヨブはこのように言っています。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉にあって神を見るであろう。

しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものでは

はない。」(欽定訳ヨブ19:25-27より和訳)

さて、兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはどのような義務であろうと自分の義務を果たさなければなりません。しばらくの間平和が来ないかもしれません。一部の自由が制限されるかもしれません。不都合なことも出てくるかもしれません。次々と苦しみを受けるかもしれません。けれども永遠の父なる神は御父を仰ぎ見るこの国とあらゆる文明世界を見守ってくださることでしょう。主は「主をおのが神とする国はさいわいである」と言われました(詩篇33:12)。わたしたちの安全は悔い改めにかかっています。神の戒めを守るときにわたしたちは力を授けられます。

どうか祈ってください。正義のために祈ろうではありませんか。善を擁護する軍勢のために祈ろうではありませんか。どの宗教を信じているか、どこに住んでいるかにかかわらず、善を求める男女のために祈ろうではありませんか。祖国でのことであれ外国でのことであれ、邪悪に対してひるむことなく立ち上がろうではありませんか。必要であれば生活を改め、すべての人の御父である御方に頼ることによって、天の祝福を受けるにふさわしい者となろうではありませんか。主は言われました。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」(詩篇46:10)

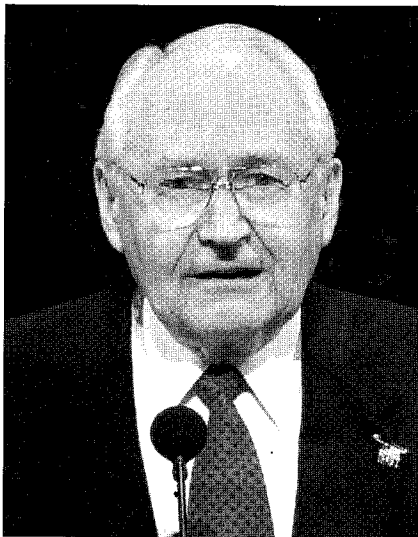
現在は危険に囲まれた時代でしょうか。そのとおりです。けれども恐れる必要はありません。心に平安を、家庭に平和を得ることができます。わたしたちは皆、この世にあって善なる影響を及ぼすことができます。

わたしたちは待ち受けている不安な日々をそれぞれに生きていきます。全能者である天の神がわたしたちを助け、祝福してくださいますように。揺るぎない信仰をもって神に頼ることができますように。わたしたちが生き永らえるにしても、あるいは死を迎えるにしても、偉大な贖い主である御子に信頼を寄せることができますよう、イエス・キリストの聖なる御名によってお祈りします。アーメン。

帰還宣教師

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

「今必要なのは、再び仕える用意のできた帰還宣教師から成る王国の軍勢です。」



この午後の部会で、わたしは特定のグループに向けてお話ししたいと思います。過去数年の間に、何十万という方々が専任宣教師の召しを終えて帰還してきました。皆さん一人一人は、救い主が弟子たちに与えられたのと同じ召しにこたえたのです。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19, 20)

世界の多くの国々へ出かけて行き、救い主のメッセージを伝えるのは皆さんの特権でした。キリストのもとに来て、主の福音の祝福を味わうように人々を招

いたのです。皆さんはいろいろな文化の中に住み、様々な言語を学ぶ特権を得ました。それは、イエス・キリストの使命^{あかし}についての皆さん自身の個人的な証を築く時期でもありました。

わたしは長年にわたり、帰還宣教師である皆さんとお会いする榮譽に絶えずあずかってきました。皆さんの多くが、かつて特権にあずかって奉仕した人々にもう一度会うためにぜひとも帰りたいと望んでいます。伝道地で経験したことをぜひ分かち合いたいと願っています。結婚の案内状や履歴書には、帰還宣教師であることを示す一行を書き加えています。今ではもう宣教師の名札を付けてはいませんが、皆さんは自分がかつて宣教師として主に仕えた者であることを示したいと切望しているように見えます。そのうえ皆さんには、福音のために奉仕することの喜びを見いだした、すばらしい思い出があります。

さらに皆さんとたくさん話し合って学んだことがあります。それは、伝道地を離れ普通の教会員の生活に戻っていくのは、時々調整が難しいということです。恐らく、末日聖徒イエス・キリスト教会の専任宣教師として奉仕しなくなったとき、引き続き福音を分かち合っていきたいという願いを保つのは困難なことでしょう。

幾つかの提案をしたいと思います。

わたしの宣教師時代について残っている最も強烈な思い出の一つは、定期的な祈りを実行することによって、どんなに主に近くなれたかということです。その当時、伝道本部はソルトレーク・シ

ティーのステートストリート沿いにありました。それは大変大きな家で、宣教師訓練センターとして改装されたものでした。一部屋にたぶんベッドが10台も入るような大きな共同寝室が幾つもありました。チェックインしたのは日曜日の夜でした。

伝道に赴く前の週は興奮することばかりでした。パーティーや歓送会がたくさん開かれました。残念ながら、わたしは十分に休息を取れず、伝道本部で受けるはずの訓練に対しても備えができていませんでした。伝道本部での最初の晩が終わるころ、わたしは疲れ果てていました。ほかの宣教師がベッドの準備をするのを待っている間、わたしは自分のベッドの上に横になっていて、間もなく寝入ってしまいました。しかし、周りの気配を感じて、わたしは眠りから呼び戻されました。目が覚めてきたとき、だれかが祈っている言葉が聞こえてきました。目を開けてみて非常に驚きました。わたしの部屋の長老たちが全員わたしのベッドの周りにひざまずいて、一日を終えるためのお祈りをしていたのです。わたしはすぐに目を閉じ、眠っているふりをしました。あまりにも恥ずかしかったので、ベッドから出て祈りに加わる気にはなれませんでした。宣教師としての祈りにまつわる最初の経験は恥ずかしいものでしたが、それはまた、導きを得るためしばしば主に呼び求めた、すばらしい2年間の始まりでもありました。

伝道期間中ずっと、毎朝新しい一日を始めるに当たって、同僚と一緒に祈りました。毎晩、ベッドに入る前にも同じようにしました。勉強する前に祈りましたし、アパートを出て伝道活動をしに行くときにも祈りました。そしてもちろん、伝道活動を正しく進めるための導きを必要としたとき、特別な祈りをささげました。天の御父に度々祈りをささげることによって、召された業を推し進めるための力と勇気を与えられたのです。答えは、時には驚くほど直接的に、しかもはっきりとした方法で与えられました。わたしたちが一日の助けを求めて主に請い求めれば求めるほど、聖なる^{みたま}御霊の導きは高まったように感じまし

た。

伝道後のわたしの生活を振り返ってみると、伝道地で経験したのと同じように自らを主に近く保つことができた期間があったことに気づきます。また、いつの間にかこの世的なものが忍び込んできて、自分の祈りと行いがあまり一致せず、忠実でなかった期間もありました。

今、ちょっとした自己評価をする良い機会ではないでしょうか。つまり、わたしたちが伝道地で天の御父との間に築いていたのと同じ関係を、今でも持っているかどうかを知るために自分自身を吟味してみるのです。もし、この世的なものがわたしたちから祈りを遠ざけているとすれば、わたしたちは偉大で霊的な力を失っていることになります。もっと祈りの頻度を多くし、首尾一貫した力強い祈りを通して伝道の精神に再び火をつける時は、たぶん今なのです。

宣教師としての懐かしい思い出の二つ目は、毎日聖文学習を行ったことです。福音を学ぶための聖文学習計画に従うように自己訓練したことは、実り多いすばらしい経験でした。聖文の教えの知識はしばしば、個人の学習を通して輝かしい方法で明らかにされました。宣教師として、わたしが驚嘆したことを思い出します。それは、主が、地上に



いる主の子どもたちのためにいかに完全な計画を用意しておられたか、ということです。また、すべての神権時代に、子どもたちに対する御心^{みこころ}を記録するよう、いかに主の預言者の心に靈感を与えてこられたか、ということです。主の御言葉^{みことば}は常にはっきりとしており、直接的で、主の律法と主の道に従うことによって得られる祝福を明らかにしてくれました。

さらにわたしたちは毎日、1時間かそれ以上を使って、同僚と一緒に学習したものです。二人の目で王国の教義を調べることは、わたしたちの理解を大いに増すようでした。わたしたちは一緒に読み、次にお互いの感じたことを分かち合いました。

わたしたちの心は、個人および同僚との学習を行うにつれて研ぎ澄まされてきました。この学習により、わたしたちは同僚としてもっと親しくなり、王国の教義に関する理解は増したのです。

伝道地を後にすると、もはや学習習慣を身に付けるのを助けてくれる同僚はいなくなります。しかし、これは学習をやめるべきだという意味ではありません。家に帰ったとき、毎日家族で聖文学習を行うのは何とすばらしいことでしょうか。家を離れて住むことになったら、ルームメイトや友達を招いて一緒に学習してはどうでしょうか。定期的な勉強会の時間を持つことによって、王国の教義を心の中に明確に保つことができるでしょう。そうすれば、この世の絶え間ない影響から守られるでしょう。もちろん、結婚するとき、福音の教えをともに学び、分かち合える永遠の伴侶^{はんりよ}を持つことになります。聖文はいつもそこにあって、人生の目的に関する理解を深めてくれます。また、人生をもっと満ち足りた、実り多いものとするために行うべきことを教えてくれます。どうか、個人や伴侶との定期的な聖文学習を続けて行ってください。

人生で福音をまったく教えられなかった人に福音を教えるときに感じる喜びを覚えているでしょうか。主の律法と主に従うことから得られる祝福を教えるときに経験する心の高まりを覚えているでし

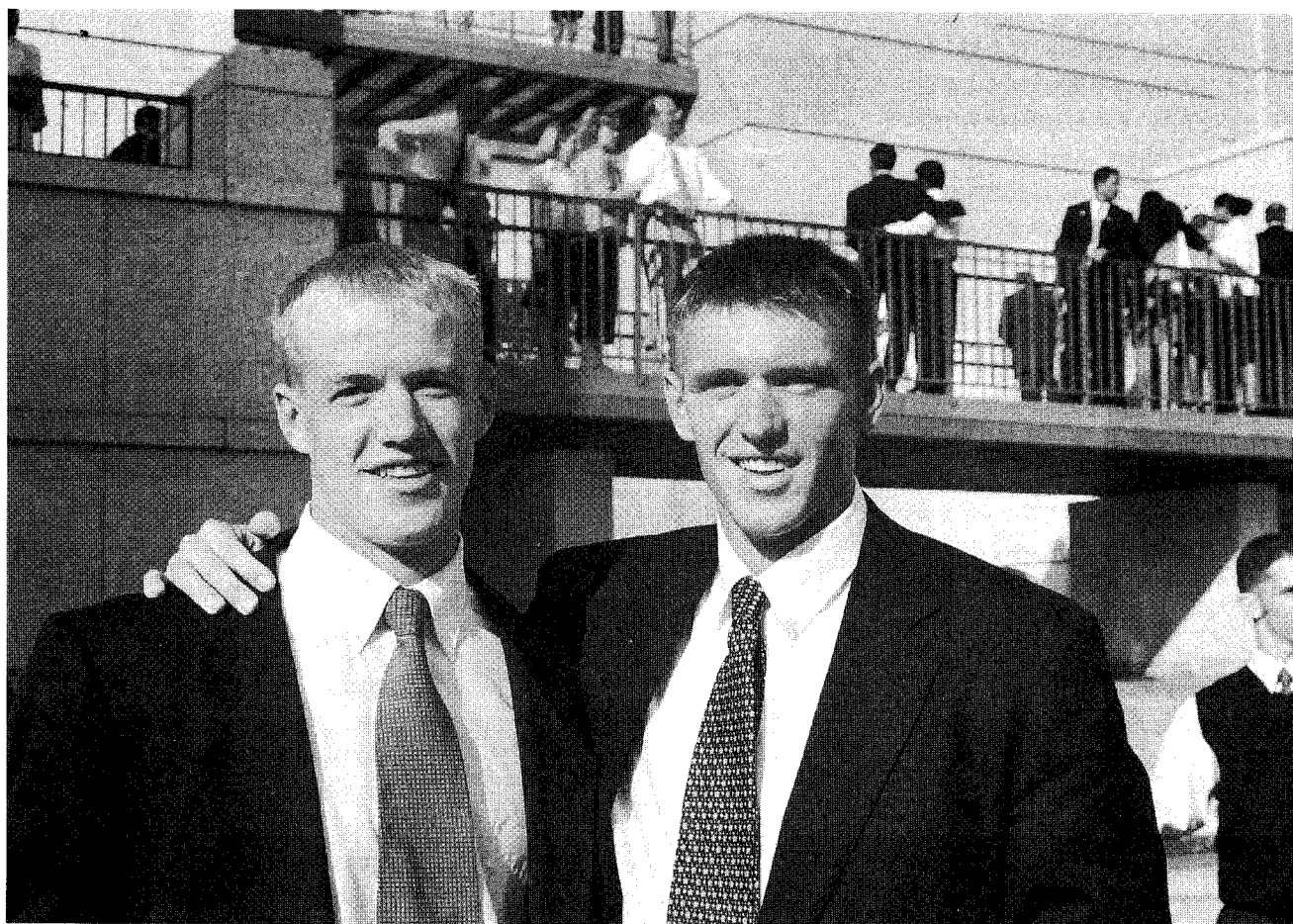
ょうか。伝道地で最初のバプテスマを施したときの喜びを、忘れたことがあるでしょうか。

わたしが宣教師だったころ、礼拝堂にはバプテスマフォントが備えつけられていませんでした。わたしの最初のバプテスマはオハイオ州のシオト川で行われました。涼しい秋の日で、水は空気よりも冷たく感じられました。求道者に後からついて来るように励まししながら、あの冷たい川の中に足を踏み入れたときの衝撃をよく覚えています。しかし、空気と水の冷たさは、バプテスマの儀式を執行するとすぐに消えてしまったのです。バプテスマの水から上がって来たその人の喜びに輝く顔を見たときの印象を、わたしは決して忘れないでしょう。

福音を教えバプテスマを施す機会は、専任宣教師の名札を付けた人々だけに限られているわけではありません。この世の日常的な活動に戻ると伝道活動の熱意が消えてしまうのはなぜでしょうか。

人類の歴史上、この地上に住む天の御父の子どもたちに福音を教えるために、わたしたちがこれ以上よく備えられたときはかつてありませんでした。しかも、かつてなかったほど、^{こんにち}今日人々は福音をもっと必要としているように思われるのです。世の中では信仰が弱まっているのが分かります。人々はこの世的なものをますます愛するようになってきており、道徳的価値観は低下しています。その両方が心痛と絶望の種となるのです。今必要なのは、再び仕える用意のできた帰還宣教師から成る王国の軍勢です。専任宣教師の名札を付けることはないかもしれませんが、福音の光を見つけようともがいている世の人々にそれをもたらすために、同じ望みと決意を持つことができるのです。

帰還宣教師の皆さんに、再び自分自身をささげ、伝道活動の望みと精神でもう一度満たされるようにと、お招きします。天の御父^{しんべ}の僕としての外見を保ち、僕となり、僕として振る舞ってくださいようお願いします。皆さんが福音を宣べ伝える決意を新たにできるよう祈っています。主がわたしたち全員に行うよ



カンファレンスセンターの広場およびバルコニーからの眺めを楽しむ大会参加者たち。

う召されたこの偉大な業に、さらに雄々しく従事できるようになるためです。皆さんに約束したいと思います。もし、かつて専任宣教師として持っていた熱意をもって力強く進み続けるならば、大いなる祝福が皆さんを待ち受けています。

数年前、息子のリーから電話をもらったことがあります。息子の話では、わたしの最初の同僚が近所に滞在中で、わたしとちょっとの間会いたがっているということでした。リーとわたしは二人で、その最初の同僚が滞在している娘さんの家を訪ねました。長い間お互いに会わなかった後で顔を合わせたのは、特別な経験でした。宣教師としてわたしたちはオハイオ州のある町で伝道を開始する機会を与えられました。この割り当てのために、わたしたちは10か月間一緒に働いたのです。彼はわたしのトレーナーであり、最初の同僚でした。彼が育った家庭では、一生懸命に働くことの

価値が教えられてきました。そのため、彼について行くのは大変なことでした。でも、一緒に働くうちに同僚として親しくなっていました。

わたしたちの同僚関係はその10か月間の割り当てでは終わりませんでした。第二次世界大戦が始まっていた。わたしは帰還してからほんのわずかな間普通の生活をしただけで、軍隊に召集されました。新兵訓練所での最初の日曜日でした。末日聖徒の集会に出席していたときに、見覚えのある後ろ姿が目に入りました。あの最初の同僚だったのです。こうして、その後の2年半の大部分を一緒に過ごしました。軍隊の中では環境は大いに違っていました。わたしたちは伝道活動を続けようと努力しました。できるかぎり、一緒に祈りました。状況が許すときは、一緒に聖文を学びました。弾痕^{なんこん}の残るわたしのテントの中で、ランプの光だけを頼りに同僚と

ともに何度も行った聖文学習の時間を思い出します。聖文の朗読は時々空襲警報のサイレンに中断されました。ランプを素早く消し、一緒にひざまずき、祈りによって勉強会を閉じたものです。

わたしたちは二人ともグループリーダーとして任命を受けました。そして、再び一緒に奉仕し、わたしたちの主なる救い主の栄えある福音を教える機会にあずかったのです。専任宣教師のときよりも、軍隊ではもっと成功しました。なぜでしょうか。わたしたちが経験を積んだ帰還宣教師だったからです。

最初の同僚へのこの訪問は彼に会った最後の機会となりました。不治の病を患っていたため、わずか数か月後に亡くなったのです。わたしたちの伝道を再び体験し、伝道後の生活についても語り合うことができたのはすばらしい経験でした。わたしたちは監督会、高等評議会、そしてステーク会長会で行った

奉仕について詳しく語り合いました。もちろん、子どもたちや孫たちのことを自慢し合いました。わたしたちがともに座り、再び会えた機会に感動しているとき、わたしはアルマ書第17章に記された言葉について考えずにはいられませんでした。

「さて、アルマはギデオンの地から南方のマントイの地へ向かって旅をしていたとき、見よ、思いがけず、ゼラヘムラの地を指して旅をしていたモーサヤの息子たちに出会った。

モーサヤのこの息子たちは、天使が初めてアルマに現れたときにアルマとともにいた人々である。そのため、アルマは自分の仲間に会えたことでひとかたならず喜んだ。しかも、彼らがなおも主にあって兄弟であったので、その喜びはいっそう深かった。さらに、彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」(アルマ17:1-3)

皆さん全員が、わたしが最初の同僚と経験したのと同様の経験ができるように願っています。また、わたしたちの天の御父の王国を築くために皆さんが時間と才能を勤勉にささげたときのことを、ちょっと立ち止まってじっくり考えることができるように願っています。皆さんがそうするために努力するならば、わたしは約束します。それは皆さんの人生で感動的な経験の一つとなるでしょう。皆さんは帰還宣教師という偉大な軍勢なのです。新たな熱意と決心とをもって前進しましょう。皆さんの模範によって、この混乱した世の中に福音の光を輝かせてください。わたしたちが携わっているのは、主の業です。神は生きておられます。イエスはキリストです。わたしたちは主の教会に属しています。これが、皆さんへのわたしの証です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

第7の戒め——盾

十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル

「十戒の7番目の律法を守ることが大切な盾になるのです。その盾を下ろしたり、なくしたりすることにより、天からのかけがえのない祝福を失うことになります。」



わたしも兄弟姉妹の皆さんとともに、ヒンクレー大管長の預言者としての使命について感謝の思いを新たにしました。ヒンクレー大管長がはるか昔に予任されていたことを証するとともに、そのことに感謝の意を表します。

わたしは今日、ヤコブ〔訳注——ニーファイの弟〕の忌み嫌った不貞の問題についてお話ししたいと思います。すなわち、十戒の7番目の律法に背くことです。ヤコブは、この戒めに耳を傾ける人々が「非常に感じやすく、清く、繊細である」ことを思い、彼らがすでに受けている傷を癒す代わりに、「ますますその傷を深くする」ことのないように願っていました(モルモン書ヤコブ2:7, 9)。しかしながら、不道德に対するヤコブの厳しい言葉は、分析的であるとともに詩的でも

あります。「多くの者が心に深い傷を負って、死んだようになっていく。」(モルモン書ヤコブ2:35) 今日、多くの人が傷を負って人生を歩み、その被害者は増加の一途をたどっています。

そこでわたしたちは皆、たとえその「罪は緋のようであっても、雪のように白くなる」よう(イザヤ1:18)、真の悔い改めに至るための福音の基本原則を知っておく必要があります。しかし、悔い改めの厳しさとそれに伴う豊かな報いを語るのが、このお話の目的ではありません。それと同様、純潔と貞節を守り、今日のアメリカの社会では少数派となりつつある、婚前交渉が誤りであると信じる多くの勇敢な若人と成人を称賛するのが目的でもありません。この戒めに関し、従順を生じる信仰を持つ人々は称賛に値し、それを破ってしまっても、「悔い改めを生じる信仰」を持つ人々には敬服いたします(アルマ34:15, 強調付加)。

確かに婚前交渉や不貞は、私生児や母子家庭、家庭の崩壊、病気の蔓延といった、計り知れない影響を世に与える結果を引き起こします。多くの結婚関係が、首の皮一枚でつながっている、もしくはすでにぶつ切りと切れてしまった状態にあります。この人目につかないながらも深刻な危機は、戦争をも含むこの時代の厄介な世界的危機とともに世にはびこっています。イエスは、末日の地上では「諸国民が悩み……おじ惑い」、混乱すると言われました(ルカ21:25。教義と聖約88:91; 45:26も参照)。

だからこそ、十戒の7番目の律法を守

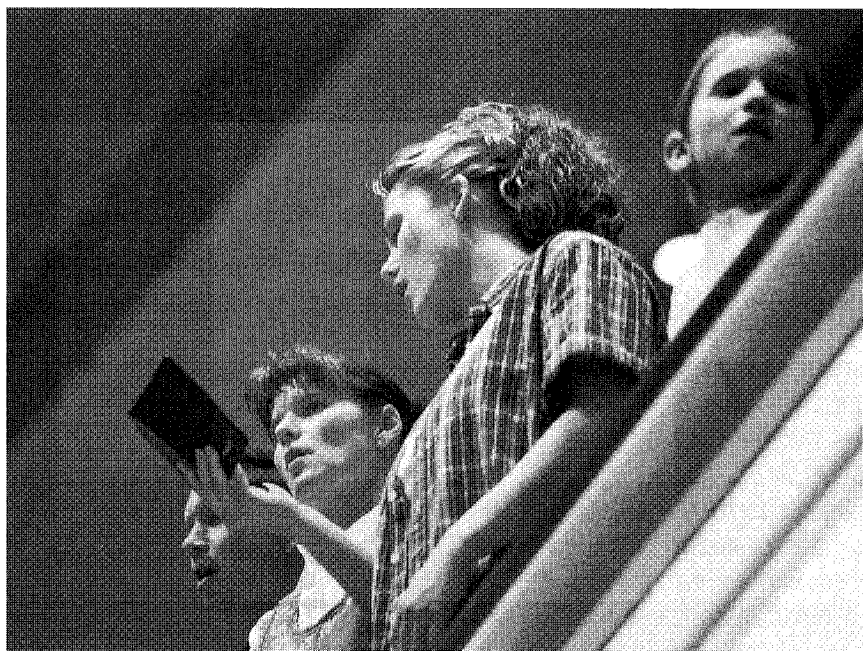
ることが大切な盾になるのです。その盾を下ろしたり、なくしたりすることにより、天からのかけがえのない祝福を失うことになります。その祝福なしには、人も国も繁栄を保ち続けることができません。

この名誉と栄華を追い求める世の中にあり、天の祝福にあずかろうとする思いが何と少ないことか、不思議ではありませんか。逆に、死後の世界を信じる者が少なくなるにつれ、世の不徳が増します。コリホルは「多く……を惑わし……人が死ねばそれで終わりである」と民に語りました(アルマ30:18)。快楽中心の西洋社会を見詰めた日本の思想家が、あたかも挑戦のようにこう述べています。

「もし死後の世界がないならば、この残り少ない余生を快楽に没頭して何が悪い? 『次の世』に対する不信仰が、近代西洋社会の道德観念低下に拍車をかけてしまっているのだ。」(梅原猛“The Civilization of the Forest: Ancient Japan Shows Postmodernism the Way”, *At Century's End*, ネイサン・P・ガーデルズ編[1995年]190で引用)

したがって、善良な市民とは道徳的に正しい行いをする人でなければなりません。隣人を羨望することと隣人を愛することは明らかに違うのです。マシュー・アーノルドは「自然界は純潔を気に留めない。人の本質はそれを大いに気にかける」と、洞察しています(*Philistinism in England and America*, *The Complete Prose Works of Matthew Arnold*, 第10巻, R・H・スーパース編[1974年]160)。わたしはこれに付け加えたいと思います。神から授かった本質は純潔を無限とも言えるほど気にかけるのです。

生まれながらの人が影響を及ぼす性癖は7番目の律法に反するもので、人を墮落させ、「肉欲や官能におぼれ、悪魔に従(う)」ものを伴っています(モーサヤ16:3。モーサヤ3:19; モーセ5:13も参照)。兄弟姉妹の皆さん、この3つの言葉が耳障りなようでしたら、悪魔は「すべての人が自分のように惨めになることを求めている」という(2ニーファイ2:2)、



賛美歌は会衆にとって、大会の部会の中で、立って参加する機会となっている。

敵の恐るべき目的を考えてみてください。惨めな者は仲間を求めるのです。

「生まれながらの人を捨て」る最良の方法の一つは、枯らせてしまうことです(モーサヤ3:19)。枯らせると容易に追い払うことができます。そうしないと、誘惑という名の電車が止まる度に切符にはさみを入れてもらって乗り込むことになります。悲しいのは、言葉を並べても生まれながらの人には勝てません。なぜなら、欲が言葉をふさぐからです(マルコ4:19参照)。

残念ながら、狡猾な人が、人のすることはどんなことも「決して罪にならない」と言い聞かせると、人々は7番目の律法を容易に破ってしまいます(アルマ30:17)。それらの人々は健全な教えに耐えられなくなり、戒めを重視しない、耳ざわりのよい話をする人に従っていきます(2テモテ4:3参照)。しかしながら、箴言は真実を語っています。「姦淫を行う者は思慮がない。」(箴言6:32)戒めは、周りのことばかりを気にする人々にも、無視されがちです。ドストエフスキーが登場人物を通してこう語っています。「時は流れ、人類は賢人を通して宣言する。犯罪など存在しない。だから罪はない。残るのは餓えばかりである」と(フ

ョードル・ミハイロビッチ・ドストエフスキー, *The Brothers of Karamazov*, コンスタンス・ガーネット訳[1952年]130-131)。

悪魔はまた、プライバシーという概念を必要以上に誇張しています。だれも見えていなければ大丈夫、とけしかけています。コンピューターのマウスを一押しするだけで、パスポートを見せることもなく、だれにも知られず、しかもあつという間に敵の領域に入ることができるのです。すでに腐敗した良心が、最後の無意味な検問を試みますが、無駄なことです。

しかし神は、屋内用と屋外用の二つの十戒を用意されたわけではありません。悔い改めの道を二とおり許可されたわけでもありません。週末の後悔が「罰の定めを受ける者の悲しみ」を生むかもしれません。しかし、神の御心に添った悲しみによってしかもたらされない「大きな変化」は生じないのです(モルモン2:13; モーサヤ5:2; アルマ5:13-14。2コリント7:10も参照)。

もちろんわたしたち死すべき人間には選択の自由が与えられています。天においては、この選択の自由を守るための戦いさえ起こりました。にもかかわら

ず、この世においてはこの偉大な選択の自由の賜物が、ほとんど無抵抗で敵の手に落ちてしまっています。

この7番目の律法を確固として守る方法はたくさんあります。例えばダビデは、自分のいるべき所にいなかったという理由で、容易に罪に陥ってしまいました。「春になって、王たちが戦いに出るに及んで、ダビデは……エルサレムにとどまっていた」とあります(サムエル下11:1)。そして皆さん御存じのように、屋上から一人の女性を色欲の心で見、それが悲劇の始まりとなりました。大切な教えは、「あなたがたは聖なる場所に立ち」、行くべきでない所を避けることです(教義と聖約87:8。マタイ24:15も参照)。

「幸福に」暮らしている人たちは(2ニーファイ5:27)、賢明にも自分たちを守ってくれる霊的な方法を身に付けています。それは、適切な服装や言葉遣い、ユーモア、音楽に表れ、そこにはキリストの真の弟子としての決意がみなぎっています(箴言23:7参照)。

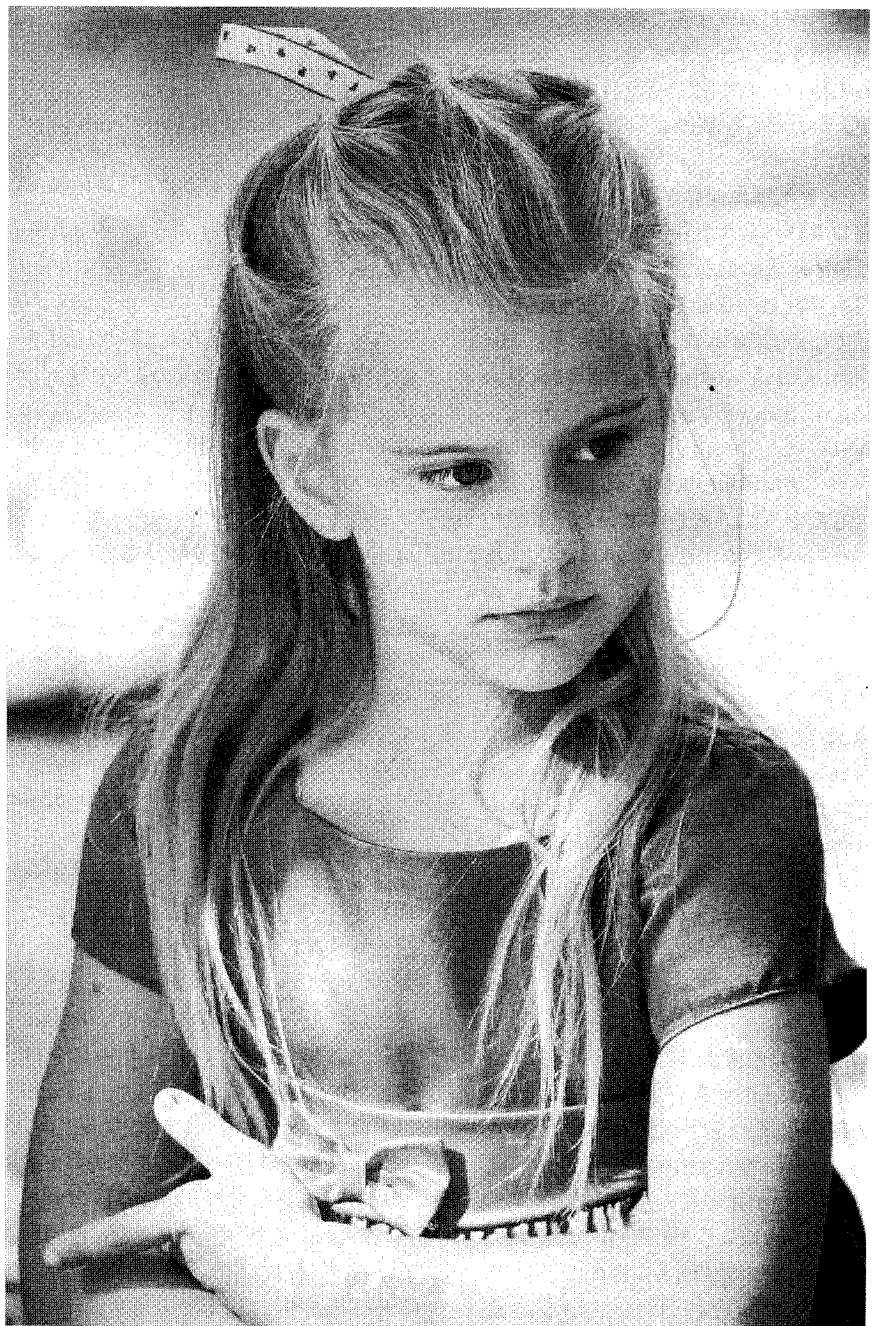
また、後に問題を起こしたくなければ、悔い改めていない罪を引きずったまま結婚してはなりません。「つり合わないくびき」を相手に負わせてはならないからです(2コリント6:14)。同様に、夫婦が離れ離れにならないために、互いに対する忠誠心を固く保ち、滝壺へと続く激しい流れにわざわざ身を任せることのないよう、十分に注意しなければなりません。また、同じように避けなければならないのが、自己憐憫という腐ったよどみです。このよどみに入り込むと、良心と聖約の両方を遠ざけることにより、責任感を放棄し、「人々の前で自分を正しい」者としようとします。しかしそれは、「神のみまえでは忌みきらわれる」ことなのです(ルカ16:15)。

情欲の欺きの渦を見抜くことも重要な盾の一つです。自分のみだらな生活から7番目の律法を軽蔑する人々は、あたかもカインのようです。カインは弟アベルを殺すことにより6番目の律法を破り、「わたしは自由だ」と宣言しました(モーセ5:33)。そのような間違った自由はペテロの警告を思い起こさせます。「おおよそ、人は征服者の奴隷となるもので

ある。」(2ペテロ2:19。2ニーファイ2:26-30も参照)確かに、かまびすしい声は、束縛と罪の中にあっても偽笑いの声すら立てるかもしれません。しかしそのような声について、箴言はこう語っています。「笑う時にも心に悲しみがあり、喜びのはてに憂いがある。」(箴言14:13)

今の世では、宣伝が真実かどうかも気がかりです。ある種の名称は明らかに欺きで、侮辱以外の何物でもありま

せん。「エクスタシー(恍惚)」と呼ばれる薬は、「悲惨」と呼ぶべきです。ダンスパーティーの一種でみだらに暴れ狂う「レイブ(狂乱)」は、さながら「喪中のつぶやき」です。少々みだらでもダンスなら問題はないと取り違えている参加者がいます。そのような人たちは、「無知で罪を犯し」ているではありません(3ニーファイ6:18)。敵を軽々しく思い、敵のまねをすることにより自分に妥協し、友達を迷わし、悲しませているのです。



そのようなみだらなダンスが、一見きらびやかな、しかし薄暗い場所で開かれるのはなぜか考えてみたことがありますか。または、どうしてぜいたくな飾り付けがされているか分かりますか。または、どうして混乱した、騒がしい音楽を流すのか考えてみたことがありますか。それは、悪が夜明けを恐れ、明るい真理による断固とした吟味に持ちこたえられず、自分の行動を静かに振り返ることに耐えられないからです。

このように、無感覚を助長する活動に加われば、仲間になりたい、愛されたいという正当な欲求を不当な方法で満たすことにより霊の味を見分ける味蕾が麻痺し、真の愛と誤った快樂との区別が難しくなります。そして悲しいことに、犠牲者も加害者も「心が鈍って」しまうのです(1ニーファイ17:45;エペソ4:19;モロナイ9:20)。

ヘンリー・フェアリーは、「情欲に満ちた人は人生の中心に恐ろしい空虚を抱えている」と書いています(ヘンリー・フェアリー、*The Seven Deadly Sins Today* [1978年] 187)。それでもなお、何も知らない若人は、「自分の水筒を満たすこと」について語るのです。その水筒を満たすのは、残り物の砂と有毒な思い出の砂利以外にありません。フェアリーは続けて書いています。「情欲には相手への思いやりはない。自分の欲望を満たすのみである。情欲は夜明けには消えうせ、夜になり、居場所を探そうと再び戻って来ても、消し去った自らの過去があるだけである。」(同上、175)

どのように変装しようとも、情欲が愛の代わりになることはありません。それどころか、それは「多くの人の愛[を]冷え」させ(マタイ24:12)、真の愛の成長を妨げます。ですからわたしたちは、「激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい」と戒められているのです(アルマ38:12)。さもないと、激情がわたしたちの心の空いた場所をじわじわと占めてしまい、義になかった霊の居場所が奪われてしまうのです。

あまり目立ちませんでしたが、かつて社会には、家庭、教会、そして学校を含むいろいろな機構が、個人の激情を

抑制するバランスのよい助けを与えていました。しかしながら、これらの機構は今、失われたり、機能しなくなったり、立場をあいまいにしたりしています。

さらには、悪いことをした人々でも、ほかに称賛すべきことをしていれば許そうという非制裁主義が、最近の傾向として勢いを増してきています。ムッソリーニですら、電車を定刻どおり運行させたではありませんか。7番目の律法を犯す人でも、何らかの貢献はしているでしょう。しかし彼らは、見えない代償を払っています(アルマ28:13参照)。モリアントン王についてこう書かれています。「彼は民に対しては公正であったが、自分自身に対してはそうではなかった。多くのみだらな行いをしていたからである。」(エテル10:11)明らかに公正で偏りのない指導者モリアントンでしたが、自分自身を尊ばなかったのです。彼自身の内なる傷は、外側の装飾や建物で覆われてしまっていたのです(エテル10:12参照)。

わたしがここまで話してきたことは非常に重要なことです。そこで、次のことを申し上げなければなりません。躊躇せず(ちゅうちよ)に申し上げます。啓示には、悔い改めない人々はイエスがわたしたちのために苦しまれたように必ず苦しみ、いつの日か、その罪に相当する、神の完全な裁きを個人的に受けるとあります(教義と聖約19:16-18参照)。さらには、宣伝する者、資金を提供する者、支援する者、利益を得ようとする者、またいかなる者であれ、この不道徳という薬漬けのドラマを飽くことなく支援強化する者は、自身が無数の人々に与えたあらゆる苦しみを自らの身に受けなければならないのです。

最後に兄弟姉妹の皆さん、時には、またある状況下では、主の弟子として、たとえ独りであっても進んで耐えることが要求されます。わたしたちがこの世で喜んでそうすることは、かつてキリストがゲツセマネで独りでひざまずかれたことと呼応します。贖いの最後の過程では、「だれも[主]とともにいなかった」のです(教義と聖約133:50。マタイ26:38-45も参照)。

しかしながら、忠実な者たちはその立場を守るかぎり、決して独りになることはありません。ゲツセマネでキリストを力づけるためにいたあの天使は、訳があつてキリストのみもとを去りました(ルカ22:43参照)。しかし、わたしたちが神とその戒めへの信仰の盾を高く掲げるならば、天使たちが「[わたしたち]の周囲にいて」「[わたしたち]を支え」、「[わたしたち]に対する務めを果たし」てくれるのです(教義と聖約84:88; 109:22)。このことを約束し証します。そして兄弟姉妹、わたしたちの心の天候を測るためにダイヤルをセットしましょう。そのようにしてわたしたちは、この世と来るべき世で味わう幸福の程度を決めることができるのです。また、第7の戒めを含む神の戒めを守ることによって、わたしたちはダイヤルを正しくセットし、神がその御手をわたしたちに置いてくださるようお願いすることができます。その御手はお持ちのものをすべて与えることを願っておられる御方の御手なのです(教義と聖約84:38参照)。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

しばしたすみ、ソルトレーク神殿を感嘆して眺める家族。



「いちばん大切な、 第一のいましめ」

七十人

ロバート・F・オートン

「存在の意味を教えられているわたしたちが、もし神と隣人を愛さないならば、わたしたちの行うほかのすべての事柄は永遠の見地から見てほとんど何の意味も持たないことになります。」



この4週間、憎しみから出た計画的かつ破壊的なテロ行為に、世界中の関心が集中しています。

憎しみは愛の正反対に位置します。ルシフェルがその第一の主唱者であり、張本人です。救いの計画に対するルシフェルの提案が御父に拒絶されたときから今までずっと、それは変わっていません。銀貨30枚でイエスを大祭司たちに売り渡す企てをユダに吹き込んだのはルシフェルでした。「ほえたけるししのよう、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」のも(1ペテロ5:8)、あらゆる義の敵、争いの父であるルシフェルなのです。

これとは対照的に、「あなたがたの敵

を愛し、……あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい」と語られたのは(3ニーファイ12:44。マタイ5:44も参照)、ユダの手で大祭司たちに売られたイエスでした。また御自分を十字架につけた兵士のために「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と嘆願されたのもイエスでした(ルカ23:34)。

わたしは、何年もの間、愛は一つの属性だと思っていました。しかし、愛は属性以上のものです。それは戒めなのです。イエスは、律法学者、パリサイ人との対話の中で、こう語られました。

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』(マタイ22:37-40。ガラテヤ5:14も参照)

ヒンクレー大管長はこう語ったことがあります。「愛は北極星と似ています。移り変わる世にあって、愛は不変です。愛は福音の真髄です。

愛がなければ……福音を人生の Handbook として人々に勧めることはできません。』(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年]319, 317)使徒ヨハネはこう語りました。「神は愛である。」(1ヨハネ4:8)このように、律法全体と預言者とが、

愛そのものであるイエスにかかっているのです。

使徒パウロは、福音の第一の原則である信仰は、愛によって働くと教えています(ガラテヤ5:6参照)。何と理解する価値のある教義でしょうか。愛は信仰を支える原動力なのです。寒い冬の夜に暖炉の火が部屋を暖めてくれるように、神と隣人への愛はわたしたちの心の中にあらゆることを可能にする信仰の火をともしてくれるのです。

わたしたちのほとんどが神への愛を公言します。しかし、難しいのは隣人を愛することだと気づきました。「隣人」という言葉は、家族、会社の同僚、近所や教会で会う人々、さらには敵をも意味します。もっとも、敵の行っていることを黙認するわけではありませんが。兄弟姉妹の皆さん、もしわたしたちがこのような人々をすべて愛しないとしたら、ほんとうの意味で神を愛していると言えるでしょうか。使徒ヨハネは次のように宣言しました。「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。」また次のように付け加えました。「『神を愛している』と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。」(1ヨハネ4:21, 20)ですから、神と隣人に対する愛、この二つは固く結びついて切り離すことのできないものなのです。

わたしたちの永遠の進歩は、どれだけ愛することができるかにかかっています。ウェブスターの辞書は「愛」を「ほかの人の福利に対する非利己的で、揺るぎない、誠実な関心。尊敬、誠意または共通の利害に基づく感情」と定義しています(Longman Webster English College Dictionary, 国際版)。そしてモロナイは愛という言葉に「キリストの純粋な愛」や「慈愛」と同じ意味を持つ言葉として扱っています(モロナイ7:47参照)。神への愛を表す最も良い方法は、神の戒めを守ることです。また神と隣人への愛を示すには、慈愛に満ちた奉仕を行うことです。

ここで、二つの例を挙げてみましょう。ルーマニアのトランシルバニアアルプスで、妻と子ども二人のいる男性が、バプテスマを受けて教会に入りました。こ

の男性は支部の指導者になりましたが、経済的また家庭的なプレッシャーが原因で、しばらくの間教会を離れてしまいました。後に再び教会に活発になりましたが、そのときかつての経験を話してくれました。自分がバプテスマの水から出ると同時に、だれかが「あなたを愛しています」と耳もとでささやく声を聞いた、というのです。それまでだれからもそのような言葉をかけられたことはありませんでした。愛に満ちたその言葉の記憶、そして支部の会員の愛と思いやりに満ちた行いや言葉のおかげで彼は教会に戻って来たのでした。

数年前、ある若い男性がこの世的な影響に屈してしまいました。しばらくの間、両親は彼をどうすることもできませんでした。この男性の隣人であり同じワードの会員だった二人の大祭司が、特に彼を助ける責任に召されていたわけでもありませんでしたが、おじやそのほかの人々と協力して、助けの手を差し伸べ、彼と交友関係を築きました。二人の大祭司はこの若い男性が再び教会に活発になれるよう導き、伝道に備えるよう励ましたのです。彼らはこの若い男性に愛を伝え、その愛を自分たちの行動で示しました。その結果この若者の人生は変わりました。一人の子どもを育てるには、豊かな愛が必要であり、時には協力して助けることが求められるのです。

「人は謙遜であり、愛に満ち……なければ、だれもこの業を助けることはできない。」(教義と聖約12:8)「愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ5:13)奉仕が愛の自然な表れであるように、愛も奉仕の自然な表れです。夫の皆さん、妻に仕えてください。妻の皆さん、夫に仕えてください。夫婦の皆さん、子どもたちに仕えてください。そして、わたしたち皆は、神と隣人に仕えましょう。そうするときに、わたしたちは自分の献身する対象を愛するようになり、「愛する」といういちばん大切な、第一の戒めに従順になることができます。

エルサレムでの復活に引き続いて、イエスはアメリカ大陸にいるニーファイの民に御姿を現されました。バプテスマ

について教えた後で、イエスは次のような言葉で怒りと争いについて警告されました。「あなたがたの中に決して論争があってはならない。……まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおおりに立てる。」(3ニーファイ11:22, 29)

兄弟姉妹の皆さん、もしわたしたちが愛するという戒めに従順になるならば、お互いの間に決して論争や争い、憎しみはないでしょう。一人一人が神の子どもであることを理解するなら、悪口を言い合うのではなく、親切と敬意をもって接することでしょう。わたしたちの間にも、すべての人の間にも、ニーファイ人やレーマン人、あるいは「何々人」というものがまったくなくなり、すべての男女がお互いに正しい態度で接するようになるでしょう。

ある日の早朝、ブカレストのチースミージュ公園をジョギングしていると、1本の老木が目にとまりました。この老木は必死になって新しい枝を伸ばそうとしていました。つまり新しい命を誕生させようとしていたのです。命の象徴は与えることです。わたしたちは家族や友人、そして地域社会や教会に非常に多くを与えています。その結果、時々、老木のように、人生はつらすぎると考えることがあるかもしれません。与え続けるこ

とは負いきれないほどの重荷であると感じるかもしれません。あきらめる方が、また生まれながらの人が行うように行動する方が楽だと思えるかもしれません。しかし、わたしたちはあきらめるべきではありませんし、あきらめてはなりません。なぜでしょうか。それはキリストのように、あの老木のように、与え続けなければならないからです。少ししか与えていないときには、わたしたちに命を得させるために御自身の命をささげられた御方のことを考えましょう。

イエスは地上での生活が終わりに近づいていたときに、再び愛の原則について教えられ、弟子たちに、御自身が彼らを愛したように、互いに愛し合うように教えられました。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

結論として、存在の意味を教えられているわたしたちが、もし神と隣人を愛さないならば、わたしたちの行うほかのすべての事柄は永遠の見地から見てほとんど何の意味も持たないことになります。

わたしは人の不死不滅と永遠の命をもたらすキリストの神性とキリストの召しの真実性を証します。わたしたちが、主が愛され、愛し続けておられるのと同じように愛することができますようにイエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

カンファレンスセンター退場時に、杖を挙げて会衆に別れを告げるヒンクレイ大管長。

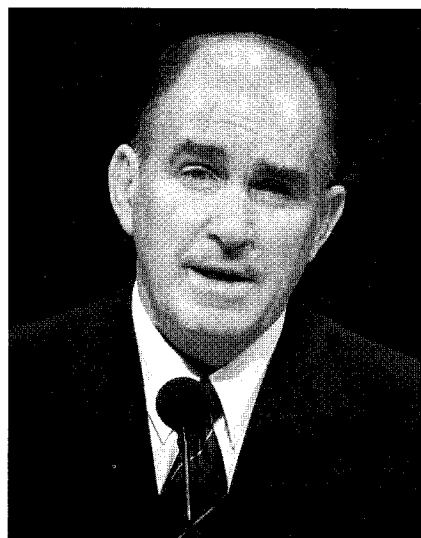


行動が人格を決める

七十人

ウェイン・S・ピーターソン

「ほとんどの出会いでは、自分がどのように反応するかでどんな経験をするかを決めることができます。」



何 十年も前、家族とともに休暇を過ごしていたとき、一つの経験から大切な教訓を学びました。ある土曜日に妻とわたしは、子どもたちをドライブに連れて行き、少し買い物をするにしました。ドライブをしている間に子どもたちが眠ってしまい、起こしたくなかったので、わたしが車に残って妻が急いで店に行くことになりました。

待っている間に、わたしは前に止まっている車を見ました。その車には子どもが何人も乗っていて、皆、わたしを見ていました。わたしの目と6、7歳の小さな男の子の目が合いました。目が合ったとき、彼はすかさずわたしに向かって舌を出しました。

わたしの最初の反応は彼に向かって舌を出すことでした。しかし、「わたしがしようとしていることは適切だろうか」と考えました。幸いにも、わたしはどのように反応する前に、前の週の総大会

でマービン・J・アシュトン長老から教わったある原則を思い出しました（Conference Report, 1970年10月, 36-38。または *Improvement Era*, 1970年12月号, 59-60 参照）。周囲の出来事に対する反応を変えることがどれほど大切かを彼は教えてくれたのです。そこでわたしはその小さな男の子に手を振りました。彼はまた舌を出しました。わたしはにっこり笑って、また手を振りました。今度は彼も手を振りました。

間もなく、しきりに手を振るその子に、弟と妹が加わりました。それに応じて、わたしは腕が疲れるまで、様々な方法で手を振り続けました。その後、ハンドルに手を置いて休み、その子たちの両親がわたしの妻が早く戻って来ることを期待しながら、再び思いつく限りのあらゆる独創的な方法でずっと手を振り続けました。

やっと両親が戻って来ました。そして、彼らが立ち去るとき、わたしの出会った新しい友人たちは、姿が見えなくなるまで手を振り続けました。

それはちょっとした経験でしたが、次のことを示していました。すなわち、ほとんどの出会いでは、自分がどのように反応するかでどんな経験をするかを決めることができる、ということです。わたしはこの幼い友人の子どもらしい振る舞いに、親しみを込めた方法で応じるという選択ができたことに感謝しました。そうすることでわたしは、自分の本能に従っていたら抱いたはずの否定的な感情を回避できたのです。

ニーファイ人への教えの中で、救い主はこう述べておられます。「だから、何事でも人からしてほしいと望むこと

は、人々にもそのとおりにしなさい。これが律法であり、預言者である。」（3ニーファイ14:12）

すべての人がこの「黄金律」を実践したときに世界に及ぼされる影響を想像してみてください。しかしそうすることは人の性質に反しているように思えます。ベニヤミン王が述べたように、「生まれながらの人は神の敵であり」、「聖なる御霊の勧めに従い……生まれながらの人を捨てて」「従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者と」なるまでその状態が続きます（モーサヤ3:19）。

変化の速い今日の世界では、人々が互いに侵略行動を取る傾向が増しているように思えます。ある人々は実際の、あるいは想像上の侮辱行為に簡単に腹を立て、怒りを示します。わたしたちは皆、運転中の怒りや、そのほか粗野で無神経な行為を自ら経験したりそのような話を聞いたりしたことがあるでしょう。

不幸なことに、自分の家庭でこのような行動を取って家族の間に摩擦と緊張を招いている人々がいます。

ある状況においては自分にされた行為に仕返しをするのは自然なことに思われるかもしれませんが、そうしてはなりません。ビクトル・フランクルは、恐ろしい戦時中の経験を思い出して次のように述べています。「強制収容所での生活を経験したわたしたちは、人を慰めるために、また最後の一切れのパンを分かち合うために小屋の一つ一つを訪ね歩いてた人々のことを忘れることができない。そのような人が大勢いたわけではなかったが、彼らは、人からすべてを奪おうとしても一つだけ奪えないものがあることを十分に証明してくれた。それは人の究極の自由である。どのような環境に置かれても自分の姿勢を貫くことを選ぶ自由、自分の道を選ぶ自由である。」（*Man's Search for Meaning* [1955年]86, 強調付加）

それは気高い行為であり、大いに期待されているものですが、イエスはそれ以上のことをわたしたちに期待しておられます。「あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不

当に扱い迫害する者のために祈りなさい。」(欽定訳マタイ5:44より和訳)

わたしの大好きな賛美歌はこの教えを強調しています。

「心を抑えよ、兄弟たちよ
知恵の声をもて、これを導け
力は静けき思いに宿り
怒りは理性も眼も暗くする」
(「心を抑えよ」『賛美歌』198番)

わたしたちが固める決意と執る態度が最終的に人格を形成します。チャールズ・A・ホールは適切にも、そのプロセスを次の言葉で述べています。「思いをまいて、行いを刈り取る。行いをまいて、習慣を刈り取る。習慣をまいて、人格を刈り取る。人格をまいて、行く末を刈り取る。」(The Home Book of Quotations, バートン・スティーブンソン選[1934年] 845で引用)

家庭での行為は非常に重要です。家庭は、善くも悪くも、人の行動が最も影響を及ぼす場所です。時折、わたしたちは家庭ですっかりくつろいで、言葉に注意を払わないことがあります。礼儀を容易に忘れてしまいます。気をつけなければ、互いに非難し合ったり、平静を失ったり、自分本位の行動を取ったりという習慣に陥ってしまいます。伴侶や子どもたちはわたしたちを愛しているので、すぐに許してくれるかもしれませんが、沈黙のうちに、目に見えない傷と言葉に表せない心痛を残すことがしばしばあります。

子どもが両親を怖がったり、妻が夫を恐れたりする家庭があまりにも多くあります。指導者たちは次のことを思い起こさせています。「父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。……伴侶や子どもを虐待する人々……は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」「[家族——世界への宣言]『リアホナ』1998年10月号, 24) 悪魔は家庭の中に争いや葛藤、恐れ、の雰囲気をつくり出せたら御霊が悲しみ、家族を結ぶきずなが弱められることを知っています。

復活された主御自身がこう述べておられます。「まことに、まことに、あなた

がたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。」(3ニーファイ11:29)

家庭の中に怒りや争いがあるのを感じたとき、何の力が生活を支配しているか、またサタンは何をしようと努めているか、早く気づかなければなりません。ソロモンは次のような金言を述べています。「柔らかない答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす。」(箴言15:1)

家庭は、理想的には一人一人が安全、安らぎ、愛、またしばしば世の中で出遭う厳しい批判と争いからの守りを感じる避け所であればなりません。

キリストはあらゆる場面で感情に流されない完全な模範を示されました。カヤパやピラトの前に立たれたイエスは、苦しめる者たちにこぶしで打たれ、たたかれ、平手打ちされ、あざけられました(マタイ26章; ルカ23章参照)。非常に皮肉なことに、彼らは自分たちの創造主をあざけり、創造主は彼らに対する愛情から、苦痛に身を任せられたのです。

この不当な虐待に直面しながらも、

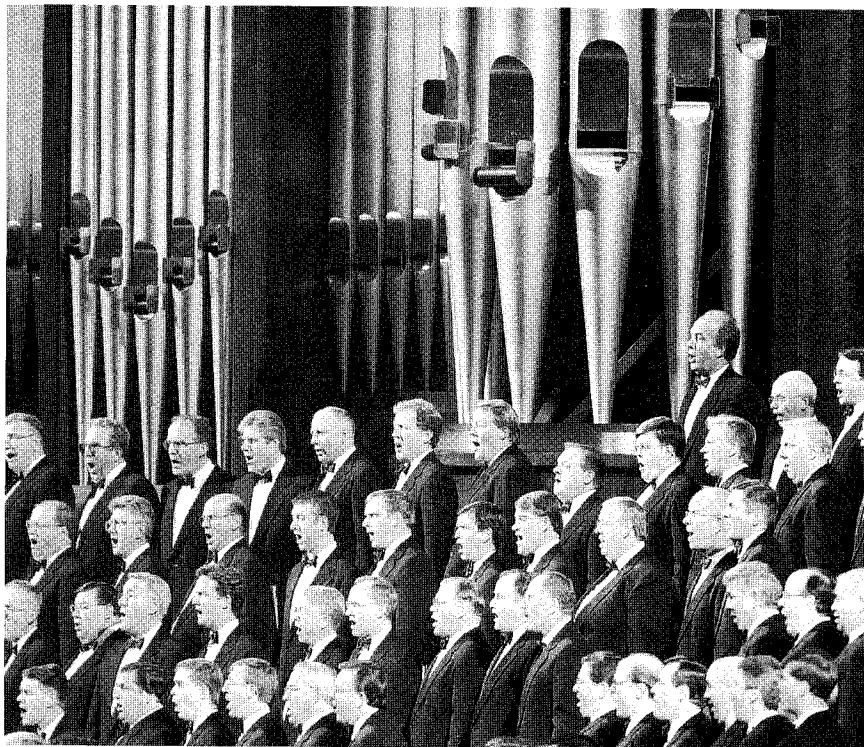
イエスは平静を保たれ、思いやりのない行為をすることを拒まれました。十字架上での言葉に尽くせないあの苦悶のただ中であってさえ、イエスはこう懇願されたのです。「父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

イエスはわたしたちに同じことを期待しておられます。御自分に従う人々にこう言われました。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

思いやりと愛ある方法で家庭を強めることにより、弟子であることを証明できますように。「柔らかない答は憤りとどめ」という言葉を覚え、人々との関係や出来事において、救い主から認めていただけるような人格を形成する努力を行えますように。

イエス・キリストは完全な模範です。主は救い主であり、贖い主であられます。わたしはこの御方について証します。わたしたちは今日、生ける預言者によって導かれています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

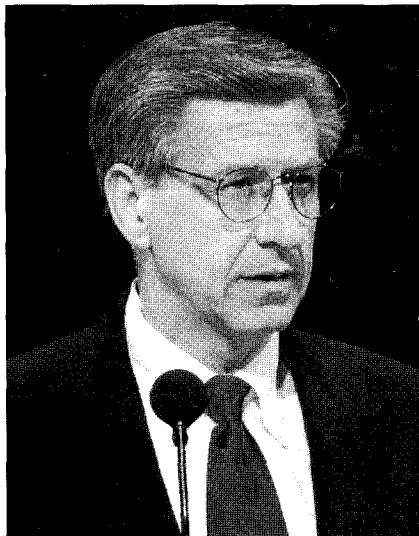
大会の部会で歌を披露するモルモンタバナクル合唱団の団員たち。



つぶやきに注意する

七十人
H・ロス・ワークマン

「従順は……主の祝福の実現のために、なくてはならないものなのです。」



若い宣教師だったとき、同僚とわたしは、神は現代の預言者を通して語られると証しました。すると一人の男性が尋ねました。「それではあなたがたの預言者は今週、何と言いましたか。」当時の教会機関誌である『インプルーブメント・エラ』(Improvement Era)最新号の預言者のメッセージをなかなか思い出せなかったわたしは、生ける預言者の教えを知り、従うことの大切さが特によく理解できました。

今日わたしは皆さんに生ける預言者に従うようにと勧め、また皆さんが預言者に従うのを妨げようと企てているサタンの策略について警告できるよう願っています。聖文はその策略を「つぶやき」と呼んでいます。

救い主は「つぶやき」から不従順へと続く裏切りの道について警告するため、たとえて教えられました。そのたとえには、特別な良い土地を持っていたある

身分の高い人のことが語られます。彼は僕たちに12本のオリーブの木を植え、また果樹園を見渡す見張り台を築くように言いました。見張り台の目的は、見張り人をその台の上に座らせて、敵が襲って来たときに警告させるためでした。このようにして、果樹園を守ろうとしたのです。

しかし僕たちは見張り台を築きませんでした。敵が来て、オリーブの木を折り倒しました。僕たちが不従順であったため、果樹園に大きな災いが生じました(教義と聖約101:43-62参照)。

僕たちはどうして見張り台を築く責任を果たさなかったのでしょうか。この大きな災いの種はつぶやきによってまかれたのです。

主のたとえによると、つぶやきには3つの段階があります。各段階は、不従順へ続く道の次の段階へとつながっています。

第1に、僕たちは疑うことを始めました。彼らは主人が与えた指示よりも自分たちの判断に従いたいと思いました。彼らは次のように言いました。「今は平和な時であるのに、主人に、なぜこの見張り台が必要なのか。」(教義と聖約101:48)彼らはまず自分の心の内に疑問を抱き、そしてその疑問をほかの人の心にも植えたのです。まず、疑うことから始まったのです。

2番目に、僕たちは正当化をして、行うよう指示されたことから免れようとし始めました。彼らは次のように言いました。「この金を銀行に預けてはどうだろう。このようなことは必要ないのだから。」(教義と聖約101:49)このように彼らは不従順に対する言い逃れをしたの

です。

主の戒めへの従順を怠るという3つ目の段階が、当然のごとく待ち構えています。たとえば次のように続きます。「彼らは……非常に怠惰になった。そして、その主人の命令に聞き従わなかった。」(教義と聖約101:50)このようにして、災いを招く条件がそろったのです。

神は預言者をお与えになりました。御自分の子どもたちに御自分の方法で指示を与え、子どもたちを永遠の命に備えさせるためです。神の方法は人が容易に理解できるものではありません。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。」(イザヤ55:8)従順は、たとえ戒めの目的が理解できないとしても、主の祝福の実現のために、なくてはならないものなのです。

わたしたちがつぶやくようにサタンは巧みに惑わしてきますが、要するにサタンは従順が生み出す力を破壊しようとしているのです。つぶやきのパターンを、次のイスラエルの子らの話に、はっきりと見ることができます。

主はイスラエルの子らが乳と蜜の流れる地を受け継ぐことができるよう、一人の天使を送り、カナン人を追い払うと約束されました(出エジプト33:1-3参照)。イスラエルの人々がカナンの国境に到着すると、モーセは密偵を送ってカナンの地を探らせました。彼らは戻り、カナンの兵が強いことを報告し、カナンはイスラエルよりも強いという意見をあえて表明しました。そしてつぶやきが始まったのです。

彼らは、自分たちの生ける預言者、モーセを通して与えられた戒めに疑いを抱きました。そして彼らの疑問をほかの人にも広めました。カナンの巨人に比べれば自分たちはいかにすぎないと考えているイスラエルの子らに、どうしてカナンを打ち倒せるでしょうか(民数13:31-33参照)。

疑いは、正当化や言い逃れへと発展しました。彼らは妻子の安否を心配していると断言し、「エジプトにいた方がましであつたらうに」と言い切りました(民数14:2-3参照)。

イスラエルが自分たちをエジプトへ連れ戻す一人の頭を立てようとしたとき、つぶやきは不従順になりました(民数14:4参照)。

彼らはまさに生ける預言者に従うことを拒んだのです。イスラエルの子らは、つぶやきが原因で、主がカナン人を滅ぼして約束の地を与えると約束してくださった祝福を、取り上げられてしまいました。その代わりに主は、イスラエルの人々を荒野で40年間さまようようになさったのです。

どこにでもあるこのつぶやきのパターンは、リーハイの家族にも、やはり見受けられます。

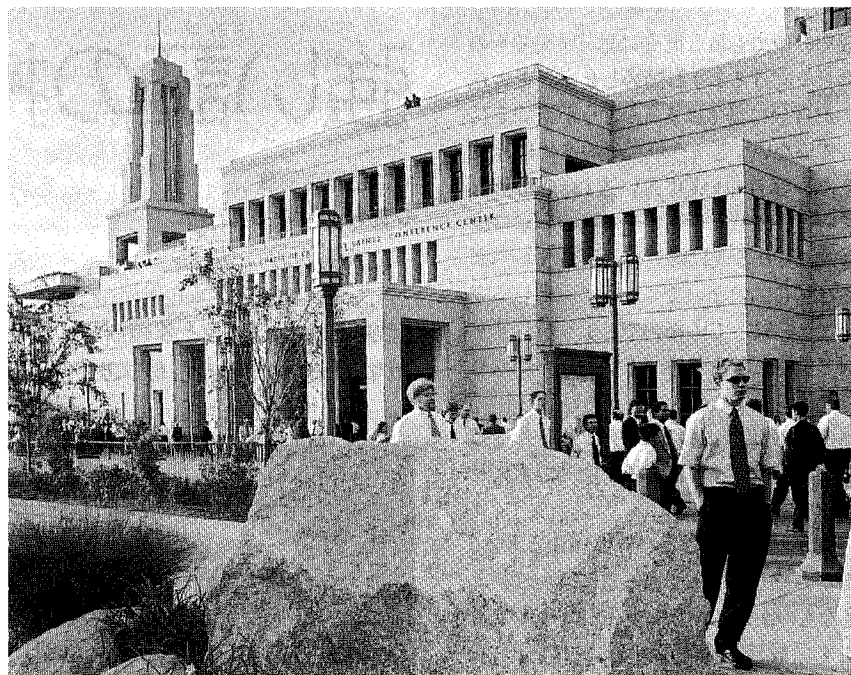
預言者リーハイは真鍮の版を手に入れるために息子たちをエルサレムへ送り、息子たちは多大な障害を経験しました。まずレーマンは単に真鍮の版が欲しいと頼んでみましたが、ラバンの家から追い出されてしまいました。そしてリーハイの息子たちが真鍮の版の代価として金銀を支払うことを申し出ると、ラバンは彼らを殺そうとし、彼らの財産を取り上げました。兄弟たちは岩の洞穴の中でこの状況をどうするか相談しました。

レーマンとレムエルはつぶやきました。つぶやきはいつも疑いを抱くことから始まるのです。彼らは言いました。「主がどのようにして、ラバンを我々の手に渡すことができるのか。」(1ニーファイ3:31)

次に言い逃れです。「見よ、ラバンは力のある人で、五十人を指揮することができるし、まことに、五十人を殺すことさえできる。それならば、どうして我々を殺せないわけがあるのか。」(1ニーファイ3:31)

最後に、彼らは怠惰になりました。怒りと恨みと弁解で心を満たしたレーマンとレムエルは、忠実なニーファイが主の業を達成し終えるまで、エルサレムの城壁のそばで待ちました(1ニーファイ4:3-5参照)。

主はわたしたちの時代にも、この態度に反対してこう語っておられます。「しかし、命じられるまで何事も行わず、疑いの心をもって戒めを受け入れ、それを



土曜日の夕べに総大会の神権部会のために会場に到着した神権者たち。

不承不承守る者は、罰の定めを受ける。」(教義と聖約58:29)

わたしたちは挙手によって生ける預言者を支持しました。わたしたちは、生ける預言者がこの時代に明らかにする神の御言葉を聞く特権を喜んでいますが、その言葉を聞いたなら、わたしたちはどうすべきでしょうか。生ける預言者の指示に厳密に従うでしょうか。それともつぶやくでしょうか。

わたしたちの生きる現代の方が、モーセやニーファイの時代よりも生ける預言者に従うことは容易でしょうか。モーセやニーファイにつぶやいた人々は、現代に生きていたらつぶやかなかったでしょうか。同じ質問を反対にして投げかけることができます。今日つぶやく人は、レーマンやレムエル、イスラエルの人々のように当時の預言者につぶやき、災いを招く結果となったでしょうか。

きわめて簡単な指示にどのように反応するかを見れば、つぶやく傾向があるかどうかよく分かります。ある集会に出席したとき、管理者が参加者に向かって、部屋の前方へ席を移すようお願いしました。移動したのは数人だけでした。ほとんどの人は移動しませんでした。どうしてでしょうか。

きっと、なぜ居心地のよい場所を離れなくてはならないのかと疑問に思った人もいたと思います。「どうして移動しなくてはならないのか?」そして間違いなくすぐに、自分がどこに座っていいようと何も問題ないはずだ、という言い逃れや正当化が続きます。そして管理者がそのような要請をしたことに、いらだちを感じる人もいたと思います。そして最後の段階は、見ていた人には明白なことでしたが、応じることを怠ったのです。移動した人はほとんどいませんでした。これはささいなことだったのでしょうか。確かにそうです。しかしそれは、心の奥深くに喜んで従う意志を欠いていることを表しました。不従順の精神を反映していたのです。それはささいなことではありません。

わたしは最近西アフリカで教会の集会に出席しました。そこで神権指導者が兄弟たちに向かい、前方に移動し、礼拝堂の前3列に座るよう言いました。全員が即座に立ち上がり、指示どおりに席を移動しました。これはささいなことでしょうか。確かにそうです。しかし進んで従う意志を表していました。それはささいなことではありません。

わたしは、皆さんが生ける預言者の

戒めの中でも最も厄介に思っているものに目を向けるようお勧めします。その戒めが自分に当てはまるかどうか疑問を持っていないでしょうか。その戒めに今従えない都合のいい「言い逃れ」を用意していないでしょうか。その戒めを思い出させてくれる人に対して、不満やいらだちを感じていないでしょうか。そして守ることを怠っていないでしょうか。サタンの欺きに気をつけてください。つぶやきに注意してください。

幸せな親は、従順な子どもから特別な喜びを受けます。神様にとっても同じではないでしょうか。

僕がつぶやくことなく従順なときに、主がお感じになるであろう喜びがどのようなものか、わたしも少しだけ理解できます。最近、妻とわたしは、自分たちの責任について説明を受ける集会に出席しました。そのときはどんな割り当てを受けるのか、どこで働くのか見当が付きませんでした。そしてわたしたちは西アフリカで働くよう召されることを、わたしだけがこっそりと知らされました。わたしはその割り当てに驚き、そして喜びましたが、39年連れ添ってきた妻はどういう心境になるだろうかという考えが頭をよぎりました。妻はこの割り当てをどう受け止めるでしょうか。彼女が赴くことに同意してくれることは分かっていました。これまで、彼女は主からの召しを断ったことは一度もありません。でも心の内はどうでしょうか。

彼女の隣に腰かけると、彼女はわたしの目を見て、わたしが割り当てを知っていると察知しました。彼女は言いました。「それで、どこなの？」わたしは一言で答えました。「アフリカ。」彼女の目は輝き、明るく言いました。「すごいじゃないの！」わたしは喜びに満たされました。

わたしたちも心から喜んで生ける預言者に従うならば、天の御父も喜びをお感じになることでしょう。キリスト・イエスが生きておられることを証します。主はわたしたちの時代の預言者に語られます。つぶやくことなく、わたしたちの生ける預言者に従えるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

あかし 強い証の持つ力

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

「わたしたちの安全と幸福は証の強さにかかっています。強い証は試練や不確かな状況の中でわたしたちの行動を導く指針となるからです。」



この不確かな世の中であって、決して変わらない事柄があります。それは、わたしたち一人一人に向けられた天の御父の完全な愛、神は確かに生きておられ、わたしたちの声を常に聞いておられること、変わることもない完全な真理が存在すること、そして幸福の計画は実在することなどです。ほかにも、イエス・キリストへの信仰とその教えに従うことによって人生で確かに成功が得られ、それは救い主の贖いの力によるものであることや、死後の世界が確かに存在し、現世での生活に応じて、その後の世界におけるわたしたちの境遇が定められることも含まれます。人がこれらの真理を受け入れるか否かにかかわらず、その真実を変えることは不可能です。これらの真理は、生きた証を築くうえでの重要な土台となります。そして堅固な証は、安定した有意義な生活における揺るぎない

基盤となり、そこでは平安が得られ、自信が培われ、幸福がもたらされ、そして愛がはぐくまれます。その強さは、全能の神がその業を推し進めておられるという確信によってしっかりと根を下ろします。神は失敗されることはなく、その約束を果たされます。

強い証は実りある生活を支える力となります。そのような強い証は、父なる神とイエス・キリスト、そして聖霊が備えておられる神としての特質を理解するうえでその中心を成します。わたしたちがこの御三方に対して心からの信頼を寄せると、証は確固としたものになります。そしてこの力強い証は、聖霊がわたしたちを導いておられ、日々義になかった行いをするよう促しを与えておられることへの個人的な確信に基づいています。

霊的な感化によってわたしたちの証は強められます。そのような感化により、わたしたちは教えが真実であることや、義になかった行いが正当なものであること、そして身に迫った危険に対し発せられる警告を確認します。このような霊的な導きはしばしば、強い感情の表れを伴い、わたしたちは言葉に詰まり、目に涙を浮かべることもあります。しかし、証とは感情的なものではありません。証は無数の正しい決断で紡いだ糸で織られた人格において、真髄を成すものです。少なくとも始めのうちは、これらの選択は、信じられていながらも目に見えない物事を信じる信仰によって積み重ねられます。¹ 強い証はわたしたちの心に平安と慰め、そして確信を与えます。救い主の教えに絶えず従うことによって、人生が素晴らしいものとなり、未来

が約束され、人生で直面する試練を乗り越える力が備えられるという確信が生まれます。真理を理解すると証は強められ、祈り、聖文の教義について深く考えるとその証は徐々に培われます。信仰と、約束された結果が得られるという強い確信をもってそれらの真理を実践すると、証は養われます。

強い証はいつの時代も預言者たちを支え、困難の中であって勇氣と決断力をもって行動できるよう彼らを強めてきました。このような証は、わたしたちにも同様の働きかけを行うことができます。個人的な証を強めるとき、わたしたちは正しい選択をする力を得ます。そしてさらに邪悪さを増すこの世の圧力に断固として立ち向かうことができます。わたしたちの安全と幸福は証の強さにかかっています。強い証は試練や不確かな状況の中でわたしたちの行動を導く指針となるからです。

自分の生活を正直に吟味してみてください。皆さんの証の強さはどの程度でしょうか。ほんとうに生活を支える力になっているのでしょうか。それとも、自分が学んだ事柄が真実であることを願う望みでしかないのでしょうか。あるいは単に、価値ある原則や生活様式を、理にかなない納得のいくものとして受け入れるような漠然とした信念といった程度でしょうか。表面的に受け入れているだけにすぎないそのような姿勢では、必然

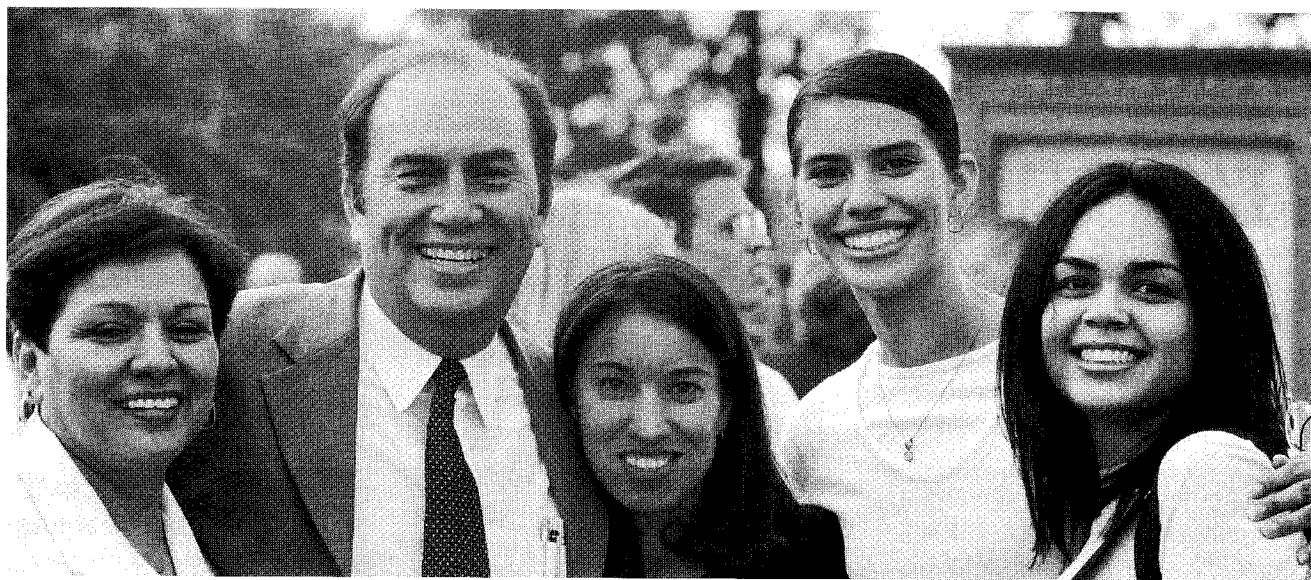
的に訪れる重大な試練に直面するとき、助けにはなりません。皆さんの証は正しい選択をするうえでの導きとなっているのでしょうか。そのためには根本的な真理をわたしたちの人格の隅々にまで浸透させなければなりません。皆さんにとってそれらの真理は不可欠なものであり、人生そのものより価値を置く必要があります。正直に自分の証を吟味し、本来あるべきほどの強さが備わっていないと確信するとき、わたしたちはどのようにして証を強めたらよいのでしょうか。

皆さんがイエス・キリストとその教えを信じる信仰、そして約束を成就する無限の力を主がお持ちであることを信じる信仰を行使するときに、証は強められます。² 鍵は「信仰を行使する」ことです。真の信仰には計り知れない力が伴います。しかし、その力を発揮するには従わなくてはならない原則があります。モロナイはこう教えました。「信仰とは待ち望んでいながらまだ見えないものであることを、世の人々に示したい。あなたがたは、自分が見ていないからということに疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。」³ つまり、皆さんが信じている真理や原則を実践する必要があるのです。そのような真理や原則に絶えず従って生活すると、わたしたちは聖霊の力によってそれらが真実であるという証を得ます。それはしばしば平安な気持ち

ちによって示されます。心が鼓舞されることもあります。ほかの真理が明らかにされる場合もあるかもしれません。忍耐強く待ち望むなら、確信を必ず得ることができます。主は必要な理解力をわたしたちに与えてくださり、その教えが真実であることを、個人的な経験を通して証明してくださいます。主は、自ら進んで常に従う人に、御自身の律法が、約束された結果を生み出すという確信を得させてくださいます。

祈りの静かな時を過ごし、またその努力に伴う感化を心に感じたときに深く考えることにより、力強い証は徐々に培われます。謙遜で信頼のこもった祈りによってわたしたちは慰めを得て、悲しみは癒され、心は安らぎ、導きを受け、ふさわしくない者が決して知ることのできない幸福が訪れます。

祈りに関する幾つかの真理は、皆さんの助けとなるかもしれません。助けが必要とき、主は皆さんの祈りを聞いてくださいます。そしてそれらの祈りに必ずこたえてくださいます。しかし一般的に、わたしたちの祈りが直ちに答えを必要とするものであっても、ひざまずき、祈っている間に答えが与えられることはありません。皆さんはある規範に従う必要があります。祈りの答えを自分で探し、その後、それが正しいかどうか主に尋ねよう求められています。⁴ 「心の中で……思い計」るように言われた主の勧告





に従う必要があります。⁵ 皆さんは解決策についてしばしば考えます。それが正しいかどうか主に尋ね求めるのです。これらの助けは、祈りと聖文について深く考えることによって、また時には周囲の人々の仲立ちや、⁶ 自分自身の才能とといった形によって、聖なる御霊の導きを通して与えられます。

また時には、確かな答えを得るまで皆さんが信頼をもって前進し続けることを主が望まれる場合もあります。一般的に、主は幾つもの小さな答えを与えられます。小さな答えはそれぞれ、皆さんが信仰を示す後に与えられ、ほかの答えと結びついて、やがて答えの全体像が皆さんに示されます。この規範に従う

ためにわたしたちは信仰を働かせる必要があります。時には非常に困難なこともあります。それにより、個人の成長という重要な結果を生みます。神に尋ね求める前に答えが与えられる場合もあります。皆さんが危険に気づかずにいるとき、または間違った事柄を正しいと思い込んで行っているときがそうです。

アルマは断食と祈りを通し、証がどのように強められるかを示しました。このように述べています。

「わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。

……見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。』⁷

ロムニー副管長は以前、証を強める聖文の力について、個人的な経験から教えたことがあります。

「皆さんに、〔モルモン書〕に親しむよう強くお勧めします。子どもたちにモルモン書を読み聞かせてください。幼すぎて内容が理解できないなどということはありません。息子がまだ幼少のころ、わたしは彼にモルモン書を読み聞かせたことを覚えています。……わたしはベッドの下段に、息子は上の段にそれぞれ横たわりました。ニーファイ第二書に記された、非常に感動的な最後の3つの章を、1節ごとに交互に声を出して読みました。息子の声がかれていたため、風邪をひいていると思いました。……わたしたちが読み終わると彼は言いました。……『パパ、モルモン書を読んで泣いたことはある?』

『あるよ。……主の御霊がパパの心にモルモン書が真実だって証してくれるから、泣いてしまうことが時々あるんだ。』

『そうか。』息子が言いました。『それだよ、ぼくが今晚感じたことは。』⁸

自分の一々の律法に喜んで従うことと断食献金を通して、皆さんの証は強められ、それにより主は豊かに祝福してください。証が強まるにつれてサタンからの誘惑も激しさを増します。サタンの攻撃に立ち向かってください。皆さんが強まるにつれ、皆さんに対するサタンの影響力は弱まります。⁹ 世の中においてはサタンの影響力はさらに広がり、利己的な風潮を蔓延させています。しかしサタンが今日、世に大きな混乱を巻き起こそうとも、イエス・キリストの贖いと復活によってサタンのたどる末路は定まっています。サタンに勝利は訪れません。

今日にあってもサタンは主の定められた領域でしかその力を発揮できません。

わたしたちが得たいかなる祝福もサタンが奪うことはできません。またサタンは義にかなった数々の決断によって織りなされたわたしたちの人格を変えることもできません。聖なる神殿で交わされた夫と妻、そして子どもたちの永遠のきずなを断ち切ることも、真の信仰を取り去ることも不可能です。わたしたちの証を奪い去ることもできません。これらの祝福はサタンの誘惑に屈服するときに失われることは確かですが、サタン自身は神の祝福に対して何の力も持たず、それらを破壊する力もないのです。

これらの、またそれ以外の真理は確かなものです。しかし、それらの真理が確かであると知るために皆さんは真理を理解する必要があります。そして神の律法に従い、御霊の力によって与えられる確信を心から望む必要があります。わたしたちの証は、主の教えが理にかなっているように思えることから始まるかもしれません。しかし、わたしたちはこれらの神の律法を実践することによって自分の証をはぐくむ必要があります。そのようにして得られる個人的な経験によって、主の教えが真実であることへの確信が与えられ、約束された結果がもたらされます。その確信は一時には与えられません。強い証は、教えに教え、教訓に教訓を加えることによって与えられます。力強い証には、信仰、時間、常に従順であること、そして喜んで犠牲を払うことが求められるのです。

強い証を弱い基の上に築くことはできません。したがって、自分が確信を持っていない事柄について信じているかのように見せかけてはなりません。確かな証を得ることができるよう尋ね求めてください。力強い祈りの中で真剣に取り組み、義にかなった生活を送り、霊的な確信が得られるよう求めてください。主の教えのすばらしい点は、それらが真実であり、自分自身で確かめられることです。静かな細い声によって訪れる御霊の導きに絶えず注意を払い、霊的な感受性を研ぎ澄ましてください。皆さんの気持ち、必要、悩み、望み、そして心に抱いている夢を天の御父に伝えてください。御父が必ずわたしたちの祈

りにこたえてくださるという完全な信頼を寄せ、御父に話しかけてください。その後、正しいと思っている事柄を行い、信仰と義によって生まれる確信を胸に歩を進め、主が最もふさわしいと感じられるときに主の方法で与えられる答えを忍耐強く待ちながら、人生において着実に前進しましょう。¹⁰

ジョセフ・スミスが自らの能力をはるかに上回る事柄をなし得たのはなぜでしょうか。それは彼の力強い証によるものでした。証により彼は従順になり、主を信じる信仰を持ち、主の御心^{みこころ}を行うという揺るぎない決意が生まれました。皆さんの証が強まるにつれ、必要とふさわしさに応じて、行すべき事柄と必要とされる時を知る靈感を受け、物事を成し遂げるうえで神の力や能力を得ることができると証します。¹¹ ジョセフ・スミスは自らを訓練することにより主の導きに従う能力を完全なものとししました。自らの欲求、都合、または導きに従ううえで妨げとなる人々の説得に身をゆだねることはありませんでした。そのようなジョセフの模範に従いましょう。

人生において、尽きることのない平安と守りを感じるときがあります。それらを静かに思い返すとき、わたしたちを愛しておられる天の御父がいらっしゃることをわたしたちは知る必要があります。神はわたしたちを導き、助けてくださいます。その確信こそが力強い証の中核を成すのです。

間もなく、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が本大会の閉会に当たってお話をします。今朝わたしたちは、主の預言者である大管長から、直面するチャレンジについて厳粛で、わたしたちに自信を取り戻させる勧告を聞きました。大管長は、わたしたちが天の御父にへりくだって祈り、悪と闘ううえで導きと強さが得られるように求めることを要請しました。御父とその愛子イエス・キリストにより、わたしたちは安全に守られます。救い主は皆さんを愛しておられます。そして自分の証を強めようとする皆さんの努力を確かに認め、その証が人生で善を行うための完全な力となり、必要なときに皆さんを常に支える力となり、不確

かなこの世の中にあって常に平安と確信を与える力となるようにしてくださいます。

主に仕える十二使徒として、その証を述べる権限を託された者として、わたしは救い主が確かに生きておられることを厳粛に証します。主はよみがえりであり、栄光を受け、完全な愛^みを持った御方です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

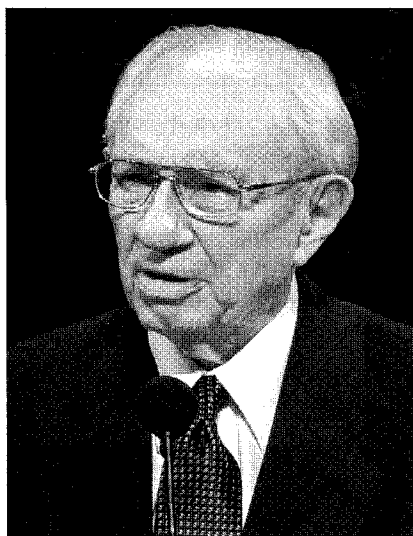
1. エテル12:6;ヘブル11:1参照
2. アルマ26:22;教義と聖約3:1-10;教義と聖約82:10参照
3. エテル12:6, 強調付加
4. 教義と聖約6:23, 36;教義と聖約8:2-3, 10;教義と聖約9:9参照
5. 教義と聖約9:8
6. スペンサー・W・キンボール *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年) 252参照
7. アルマ5:45-46
8. Conference Report, 1949年4月, 41
9. デビッド・O・マッケイ "Let Virtue Garnish Thy Thoughts," *Improvement Era*, 1969年6月号, 28参照
10. デビッド・O・マッケイ "The Times Call for Courageous Youth and True Manhood," *Improvement Era*, 1969年6月号, 117参照
11. 教義と聖約43:16参照



「また逢うまで」^あ

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

「わたしたちの安全は生活の徳高さにかかっています。わたしたちの強さは義の中に存在しています。神は次のことを明確にされました。すなわち、わたしたちが神を捨てなければ、神はわたしたちを見捨てられないということです。」



愛する兄弟姉妹の皆さん、昨日から今日にわたって、ハワード・W・ハンター大管長の未亡人であるイニッシ・ハンター姉妹がわたしたちとともに出席していることをうれしく思います。ハンター姉妹が集っていることに心から感謝しています。

さて、この偉大な大会も終わりに近づいてきました。後で合唱団が「神よ、また逢うまで」(『賛美歌』85番)を歌う予定ですが、わたしはこの賛美歌に感謝しています。次のような歌詞になっています。

神よ、また逢うまで 汝れを守りませ
み手に抱きつつ……

危うきときには
み腕に守りて……

愛の旗揚げ

死の恐れを去り 神よ、共に在ませ

この賛美歌を人々が様々な言語で歌うときに、わたしは英語で歌ってきました。地球の全大陸で開かれた記憶すべき数々の集会で、これらの簡潔ですばらしい歌詞を声高らかに歌ってきました。宣教師たちに別れを告げるとき、目に涙を浮かべながら歌いました。ベトナム戦争のときには、戦闘服に身を包んだ男性たちとともに歌いました。幾多の場所と様々な環境で、数えられないほどの長い年月にわたって、互いに愛し合う人々に歌い継がれてきたこの別れの歌を、実到大勢の人々とともに声を上げて歌ってきました。

会ったときは見知らぬ人でも、別れを告げるときには兄弟姉妹になっていました。

これらの簡潔な歌詞は、お互いのために天の御座に向けてささげられた祈りとなりました。

このきわめて特筆すべき歴史的な大会を閉じるに当たって、そのような精神で、わたしたちは別れを告げようとしています。

皆さんは兄弟姉妹の話を聞いて感動を覚え、向上する決意を強められたことと思います。既婚の男性は皆このように自分に言い聞かせたことと思います。「^{はんりよ}伴侶や子どもたちに対して、もっと親切で寛大な人になろう。心を平静に保

つようにしよう。」わたしたちが人々と会話するときに見受けられる粗暴さが、親切によって取って代わられるように願っています。

妻であるすべての方々が、夫を親愛なる伴侶、最も大切な人、支え手、擁護者、「つり合うくびき」の下に手に手を取ってともに歩む伴侶として見る事ができるように願っています。また、子どもを神の息子娘としてとらえ、子育ては自分が世界に対してできる最も重要な貢献であり、子どもの成功が自分の最大の関心事であり、子どもはいかなる所有物や望みよりも尊い存在であると考えられるように願っています。

少年少女の皆さんが両親へのより深い感謝の念を抱いてこの大会から帰宅するように、すなわち、自分たちを世に迎え入れてくれた人、自分たちをこよなく愛し、いつも心にかけてくれる人である両親へのさらに熱烈な愛を心に抱いてこの場を去るように、わたしは望んでいます。

家庭内の雑音が幾らかでも減少し、穏やかな声で、より深い感謝と敬意をもってお互いに語り合うことができるように期待しています。

この教会の会員であるすべての方が、教会に対して絶対的な忠誠を尽くせるように願っています。教会は皆さんの忠実な支えを必要としており、皆さんも教会の忠実な支えを必要としているのです。

わたしは生活の中で祈りがもっと重要視されるように願うものです。将来に何が待ち受けているかだれにも分かりません。推測することはできるかもしれませんが、だれにも分かりません。病気に襲われるかもしれません。不運に見舞われるかもしれません。恐怖にさいなまれるかもしれません。わたしたちや愛する人に死が訪れるかもしれません。

しかし何が起ころうとも、わたしたちの揺るぎない確固とした信仰が、北極星のようにわたしたちを導き照らしてくれますように。

さて、今日、わたしたちは特別な問題に直面しています。深刻で、痛切かつ困難な問題であり、わたしたちにとって大きな関心事となっています。確かに

わたしたちは主を必要としています。

昼食を取るため帰宅したとき、わたしはテレビのスイッチを入れ、しばらくの間ニュースを見ておりました。そして、詩篇にある言葉を次のように心の中で言い換えてみたのです。「なにゆえ、もろもろの国はかくも荒々しくともに騒ぎ立つのか。」(詩篇2:1参照)わたしは20世紀のあらゆる戦争を生き抜いてきました。いちばん上の兄は第一次世界大戦の犠牲者として、フランスの土に眠っています。わたしは第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、そして小規模の紛争を生き抜いてきました。紛争の中では、人は互いに大変争い好きでかたくなな民になっていました。わたしたちは主の方に顔を向け、主に頼る必要が大いにあります。わたしはキプリングの次の偉大な言葉について考えています。

はるかかなたに遠征した我らの海軍は
消え去り、
砂丘と岬に戦火はやむ。
見よ、我らの昨日のすべての華やかさは
ニネベとツロとともにある。
万国の裁き主よ、しばし我らを助けたまえ。
我らが主を忘れぬために。
(ラドヤード・キプリング、"Recessional"
Masterpieces of Religious Verse, ジェ
ームズ・ダルトン・モリソン編〔1948年〕
512)

わたしたちの安全は生活の徳高さにかかっています。わたしたちの強さは義の中に存在しています。神は次のことを明確にされました。すなわち、わたしたちが神を捨てなければ、神はわたしたちを見捨てられないということです。イスラエルを見守る御方はまどろむことも、眠ることもなさいません(詩篇121:4参照)。

さて、この大会を閉じるに当たり、閉会の祈りがなされますが、現在の状況を考えてわたしも短い祈りをささげたいと思います。

永遠の父なる神よ、あなたは大きな万国の裁き主、宇宙の統治者であり、

わたしたちの御父にして神であられます。わたしたちはあなたの子どもであり、この暗い厳粛な時に当たり、信仰をもってあなたに心を向けています。愛する御父よ、どうかわたしたちが信仰を持てるように祝福してください。愛を持てるように、心の中に慈愛を持てるように祝福してください。この世にある恐ろしい悪を根絶するため、不屈の精神を持てるように祝福してください。現在戦いに従事している人々に保護と導きをお与えください。彼らを祝福し、命を守り、危害と悪から救ってください。彼らの愛する者たちの安全を求める祈りをお聞きください。わたしたちは世界の偉大な民主主義のために祈ります。その政府の創設はあなたが見守ってくださったものであり、そこには平和と自由、そして民主的なプロセスが存在しています。

御父よ、助けを必要とするこの時期にあつて、わたしたち自身の国家とその友を憐れみの目で御覧ください。わたしたちの命を守り、あなたとあなたの愛される御子を信じる信仰をもって歩めますように助けてください。わたしたちは御子の憐れみに頼り、わたしたちの主なる救い主としてあがめています。平和の業を祝福し、再び速やかに平和を回復してください。わたしたちはへりくだって請い求めます。どうか、わたしたちの過ちを赦し、罪を見過ごし、親切と寛大さをもってお計らいくださいますように、また人々の心をあなたに向けさせてくださいますように。わたしたちすべてを愛しておられる御方、すなわち主イエス・キリスト、わたしたちの贖い主、救い主の御名によってへりくだりお祈りします。アーメン。



確固として、 揺るぎなく

中央扶助協会会長

メアリー・エレン・スムート

「困難が降りかかってきても、信仰を捨てることはできません。わたしたちは道をそれたり、後戻りしたり、落胆したりはしません。」



人

生の中で心に残るような人や出来事に会おうとき、わたしたちは変わっていきます。

今宵、会長会として、ここで語られる言葉が心に残るものとなり、それによってわたしたちが神の娘として堅く確固として、揺るぎなくあることができるように祈っています。

世界中を旅しながら、わたしは心に残る扶助協会の忠実な姉妹たちと出会ってきました。彼女たちがここにいる人々、また世界中の人々と、献身的に助け合い仕え合うのを見てきました。わたしはその影響を受け続けることでしよう。

皆さんの祈りがともにあって、これからお話しする幾つかの事柄が皆さんの

心にしみ込み、救い主であり贖い主である御方のいっそう近くへと導くものとなるよう願っています。

わたしたちが信仰において確固として揺るぎなくあることを選ぶのは、日の栄えの王国において永遠の栄光、永遠に増し加えられること、そして家族関係が継続することが約束されているためです。わたしたちは家族を愛しており、家族の一人一人が人生の試しに直面しても義になかった選択をして世に勝つものを見守るときに、何にも増して大きな喜びや平安が得られることを知っています。

時々、すぐにあるいは長期にわたって自分自身に害を及ぼすようなことをしている子どもや孫がいると、わたしは両手でその子の頬を包みます。そしてひとみの奥を見詰めながら、その子がどれだけ愛され、大切にされているかをよく説明します。それからその子が選んだ行動が招くであろう害について話します。

わたしは救い主がわたしたち一人一人の顔を両手でしっかり包み、わたしたちをお造りになった神に対して確固として揺るぎなく、忠実であるように諭される様子を思い浮かべることができます。

姉妹の皆さん、わたしは両手を皆さんの頬に添えて、ひとみの奥を見詰め、神の愛する娘としての皆さんの重要な役割について明確なビジョンを伝えることができたなら、と思います。わたしたちの「人生には意味と目的と方向性があります。」わたしたちは「祈りと聖文の研究

を通して、イエス・キリストへの証を増し加え」、[「聖霊の導きに従うことにより、霊的な強さを求め」る女性です。]「結婚生活や家族、家庭を堅固なものとするために、自らをささげ……母親としての務めに気高さを、女性としての務めに喜びを見いだします。」¹ わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会の女性です。

この死すべき世に来る前に、わたしたちは愛にあふれた天の御父の御前でともに生活していました。大好きだった話題の一つは、幕を通過してこの地上に生まれたときに起こる事柄についてだったのではないかと思います。

そして今、わたしたちはここにいます。地上で出遭う困難について教えを受けていましたが、この現世で生きるということがとてつらく、厳しく、疲れ、また時には悲しいものでさえあることを理解していたか、あるいは知ることができたかは疑問です。恐らくだれでも、自分の直面している状況があまりにも耐え難いと感じたことがあるでしょう。それでも預言者ジョセフ・スミスが教えているように、「この教会に加わったとき、[わたしたち]は神に仕える者に名を連ねました。そのとき、[わたしたち]は中立な立場を去ったのであり、そこへ戻ることは決してできません。もし自分が仕えることと決めた主を捨てるなら、それは悪しき者のそそのかしによるのであり、[わたしたち]は悪しき者の命令に従いその僕となるのです。」²

救い主が両手をわたしたちの頬に添えて、ひとみの奥を見詰め、試練のときには姉妹愛すなわち扶助協会が力となってくれるであろうと約束してくださっている様子を、わたしは思い浮かべることができます。教会のすべての女性のためのこの組織は、わたしたちを救い主のみもとへ連れて行くこと、そして互いに協力して病んでいる人や貧しい人を助けることを目的としています。扶助協会の姉妹たちは新会員の肩に腕を回し、その人の人生がどんな局面にあるかにかかわらずだれもが必要とされ、養われていると感じられるようにします。また新たに入って来た若い女性を歓迎

し、すべての活動において欠かせない存在とします。活躍してもらいましょう。彼女たちを失うようなことがあってはなりません。だれもが高められ、愛されるようにしましょう。そうすればだれもが、安全な港、純粋な真理、そして神の娘にふさわしい生活様式へと続く細い道にあって、導いてくれる神権指導者に従うことでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は教会の女性にこう勧告しています。「皆さんの内にある大いなる可能性に従って行動しましょう。能力以上のことをするようお願いしたりはしません。皆さんが失敗についてばかり考え悩むことのないよう願っています。能力をはるかに超えた目標を設定しようとするのしないよう願っています。ただ自分にできることを、自分が知っている最善の方法で行うよう願っています。そうするならば、皆さんは奇跡が起きるのを目の当たりにすることでしょう。」

「家庭訪問ができません」あるいは「祈ったり聖文を読んだりする時間がありません」「忙しすぎて家庭・家族・個人を豊かにする集会に出席できません」と言う姉妹がいれば、わたしはヒンクレイ大管長の勧告のようにこう申し上げたいと思

います。「皆さんの内にある大いなる可能性に従って行動しましょう。」立ち止まって、自分の行動が自分にとって最も大切な事柄と矛盾していないかどうかを検討する必要があるかもしれません。生活の中で第一のものを第一にすると、毎日を悔いなく過ごすことができます。

毎週扶助協会に行くのは、霊的に強められ、養われ、愛されるためだけではなく、もっとよく奉仕できるようになるためでもあります。時として、最も大切な務めはまさに自分自身の家庭という囲いの中にあります。

ルシフェルは、わたしたちの心を最も大切な事柄からそらさせるために、自分にできるすべてを行っています。彼の非常に有効な手段の一つは、生活の中でこれほど多くの事柄が必要とされているときに霊的な事柄を中心に置くことは不可能だと説得することです。

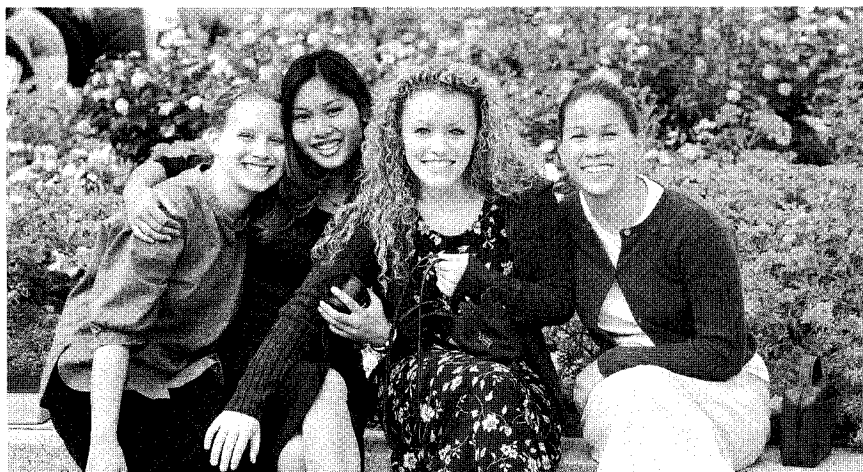
律法学者が救い主にどの戒めがいちばん大切であるかを尋ねたとき、イエスは躊躇なくこうお答になりました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』……第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。』」こ

れこそ大切な戒めなのです。すべての律法と預言者は、この二つの戒めにかかっています。これが最も大切な事柄なのです。これらの戒めに従おうと努力するとき、ほかの事柄は自然にうまくいくでしょう。

わたしたちと天の御父との関係はどうでしょうか。心と、勢力と、思いと、力を尽して天の御父を愛しているでしょうか。家族、隣人、扶助協会の姉妹たち、そして同胞^{はらから}をどのくらい愛しているでしょうか。これらの問いかけは最も大切な事柄を認識するのに役立ち、人生における活動と照らし合わせて自分の状態を確認することができます。

R指定の映画(訳注——アメリカ映画協会が、17歳未満は保護者同伴の義務があると指定している準成人向けの映画)やポルノグラフィーを見ることに時間を費やすとしたら、また、神の娘としての品位を落とすふさわしくない活動に参加するとしたら、主を愛していると言えるでしょうか。品のない服装をするとき、主への愛を示していると言えるでしょうか。先日、大勢の青少年を前に話をした際、集会後に一人の若い男性からこのようなメモを受け取りました。「どうか教会の女性の皆さんに、ほくが姉





妹たちの慎み深さにどれほど感謝しているかを伝えてください。今の世の中で上品な服を見つけるのが難しいことは知っています。でもそれはほくにとって、そして彼女たちが結婚するふさわしい男性にとって価値あることであると伝えてください。」

困難が降りかかってきても、信仰を捨てることはできません。わたしたちは道をそれたり、後戻りしたり、落胆したりはしません。雄々しくさっそうと前進し、慎み深さと謙遜^{けんそん}と信仰において周囲のすべての人々の模範となるのです。確固として揺るぎなくあることは、個人として目指すべき目標であり、それは永遠の報いを伴います。もしそうあるならば、わたしたちは「全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押され……天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかる」⁵のです。

数十年前、扶助協会の姉妹たちへの別れの言葉の中で、ベル・スバップフォード姉妹はこう語りました。「今日の平均的な女性にとって賢明なのは、自分の関心を吟味し、従事している活動を評価し、それから生活を簡素化するための措置を取り、最も大切なものを第一とし、最もすばらしく最も永続的な報いがあることに重点を置き、価値のない活動は避けることです。わたしはそう信じています」⁶。

時々、心の痛手となる出来事によって、最も大切な事柄を理解するようになることがあります。数週間前、わたしたちはそのような悲劇的な出来事を体験し、それは人生を変え、備えの必要性

を悟らせました。先ごろ合衆国東海岸で起きたテロ事件で直接被害を受けた人々が最も頻繁に口にするのは、もう一度家族で過ごすことが唯一の望みだ、という思いです。わたしにはその気持ちがよく理解できます。

今年の初め、わたしは大きな手術を受け、何日も病院で過ごしました。自分の人生について、そしてもし天に召されたら主に何を報告するだろうかということについて深く考えていると、人に与えられた最も大切な責任の一つは家族であることがはっきりと分かりました。わたしの最大の喜びは、子どもたち、孫たち、そして将来のひ孫たちが福音に堅く確固として、揺るぎなくあるようになることである、と確信しました。この孤独な時期に、暗い病室で、わたしは自分の家族の囲いの中で行うことは、その外で行うことよりもはるかに大切であることを理解したのです。

確かに、問題や痛み、悲しみに取り囲まれることがあります。しかし屈してはいけません。後戻りしてはいけません。中央扶助協会第2代会長のエライザ・R・スノーは、このような言葉を記しています。「わたしは前進する。……わたしはすさまじい嵐にあってほほえみ、荒れ狂う大海を恐れることなく意気揚々と進もう。……そして『イエスの証』^{あかし}は光をともし、わたしを永遠の入り口へと照らし導き、日の栄えの王国の栄光について教えてくれる」⁷。

すべての姉妹と向かい合ってひとみを見詰め、この言葉に込められた熱意を悟ってもらい、自分が何者で、何を

成し遂げる力を持っているかを姉妹たち自身にほんとうに理解してもらうことができればどんなにすばらしいでしょうか。わたしたちの宣言の言葉がわたしたちの内に深く根を下ろしますように。「わたしたちは神に愛されている神の……娘であり、……一つとなって……イエス・キリストに献身します。わたしたちは信仰と徳とビジョンと慈愛を持った女性[です。]」⁸。

落胆、悲しみ、痛み、苦悩に取り囲まれ、試しを受けるかもしれません。しかし福音における愛する姉妹の皆さん、わたしたちは、もう引き返すことはできませんが、堅く確固として立ち、接する人々の心に何かを残すことができます。すさまじい嵐にあってほほえみ、荒れ狂う大海を意気揚々と進むことができます。イエス・キリストの証によって、永遠の入り口へと導く光をとることができます。

輝かしい最後を迎えることができるように、最も大切なことに力を注ぐことができるように、そして幕の向こうで会い、確固として揺るぎなくあり続けたことを知って勝利に喜びながら抱擁し合うことができますように。これらのことを愛する姉妹の皆さんのために、願い、祈っています。イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

1. 扶助協会の宣言、「家庭訪問メッセージ——若い女性を扶助協会に迎える」『リアホナ』2000年3月号、25
2. "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor* 1892年8月15日付、492
3. *Motherhood: A Heritage of Faith* (1995年) 9
4. マタイ22:37、39
5. モーサヤ5:15
6. *A Woman's Reach* (1974年) 23
7. "The Lord Is My Trust," *Poems, Religious, Historical, and Political*, 第1巻 (1856年) 148-149, 強調部分は原典のまま。
8. 『リアホナ』2000年3月号、25

確固として立つ

中央扶助協会第一副会長
バージニア・U・ジェンセン

「わたしたちは今、^{あがな}贖い主という岩の上に、家族の基礎を家族とともに築いているということを決して忘れないようにしましょう。」



わたしの末娘夫婦は、赤ちゃんを授かるための最良の医療法と最新の科学的援助を何年もかけて一生懸命に探し求めてきました。二人は断食し、祈り、望んできました。

そしてついに、長い間の念願がかなって今初めての子どもを身ごもっています。最近、医師は、胎児の健康状態を診断するために精密検査を計画しました。娘は、その検査に大きな不安を抱いていました。検査日が近づき、夫が同伴できないことを知った娘は、わたしに付き添ってもらえないかと尋ねてきました。こう言いました。「お母さん、できるだけのことをしてやっとなってきた赤ちゃんなのよ。もしものことがあったら、だれかにそばにいてほしいの。」

わたしは、永遠にわたって愛し、慈しむことになる孫を一足先に見られることを喜びました。万事うまくいくから大

丈夫よ、と娘を励ましたかったのですが、内心はわたしも心配でたまりませんでした。

超音波診断のビデオを見た医師は、結果を伝えにきました。開口一番、「すべての赤ちゃんがこんなに完璧だったらいいんですけどね」と言いました。わたしは有頂天になるのを必死でこらえました。そして車に乗り込むと自分の気持ちを抑え切れなくなり泣き始めました。すべての妊婦があのような言葉を聞ければいいのに、と思いながら泣きました。赤ちゃんが欲しいと願いながらもかなえられないでいるすべての女性のことを思って泣きました。子どもが欲しいと願いながらも夫のいないすべての女性を思って涙があふれました。そして最後に、わたしたち家族がこの赤ちゃんにふさわしい家庭を提供できるようにという心からの望みとともに感謝の涙を流しました。

イギリスの詩人ワーズワースは、この孫や家庭についてのわたしの思いを、次のような詩で表現しています。

「われらの誕生はただ眠りと前世の忘却に過ぎず。栄光の雲を曳きつつ、われらの故郷なる神のもとより来たりぬ。」
(ウィリアム・ワーズワース「幼年時代を追想して不死を知る頌」『ワーズワース詩集』田部重治訳、岩波書店、167)

わたしたちの家庭は神聖なものです。天の御父と天の家へとつながっているからです。娘との経験により、家庭と家族は何よりも優先するものであり、きわめて大切なものであるということを、改めて強く感じました。また、愛し、養い、

教えるという生来の特質を身に付けた者として、わたしたち女性が家族一人一人を守り祝福するように召されていることも思い起こしました。主はこの地上に赤ちゃんを送られるに当たり、状況がどうあれ、わたしたちが確固として揺るぐことなく立ち、増大する悪の影響に立ち向かうとりでとなるような家庭を築き続けることを必要としておられます。この地上のどこに住んでいようと、家庭と家族を擁護するという責任は、わたしたちの責任なのです。

「永遠の命を得る備えをするために最適の場所は家庭であると、わたしは心から信じている」と、デビッド・O・マッケイ大管長は語りました(“Blueprint for Family Living” Improvement Era, 1963年4月号, 252)。しかし、ますますソドムとゴモラに似てきている世界にあって、義にかなった子どもたちを育てていくにはどうしたらよいのでしょうか。

ハワード・W・ハンター大管長が語ってくれた次の話は、わたしがこの問いの答えを見つける助けになりました。

ナポレオン戦争の決戦が1815年6月18日にベルギー、ブリュッセル近くのワーテルローという村で行われました。これは現在、「ワーテルローの戦い」と呼ばれ、近代史における転換点として位置づけられており、事実、政治的境界線やヨーロッパにおける権力のバランスに大きな変化をもたらしました。フランス皇帝ナポレオンの軍とイギリス將軍アーサー・ウェルズリー、ウェリントン公爵という名の方が有名ですが、の指揮する連合軍の間のこの大戦が重大な局面にあったとき、不安に駆られた将校が公爵の部屋に急いで入って来ました。そして、連合軍の騎兵中隊を直ちに退却させなければ、大規模なフランス軍の前に敗北は目に見えている、と伝えました。

公爵はこう命じました。「確固として立て。」

「しかし、わたしたちは全滅してしまいます。」将校は答えました。

「確固として立て。」公爵の答えは変わりませんでした。

(ハワード・W・ハンター、That We Might Have Joy [1994年] 148参照)

「確固として立て」が公爵の指令でした。その結果、連合軍は勝利を収めました。「確固として立て」という短い指示の言葉から、わたしは勇気と助言を受け取ります。姉妹の皆さん、わたしたちは今日、子どもや孫、そのほかの家族の思いと心、そして魂のための熾烈な戦いに加わっています。しかしこの戦いでわたしたちは、ウェリントン公爵の隊が持っていたよりも、はるかに強力な武器や防具を持っています。なぜならわたしたちには、主イエス・キリストへの信仰から得られる力と福音の儀式の力があるからです。勝利を収めるためには、わたしたちは主イエス・キリストへの信仰で自分自身を備え、自分たちの確信している事柄に確固として立たなければなりません。

モルモン書には「真実の信仰に帰依して……堅く確固として動かず、喜んで力のかぎり主の戒めを守っていたので、真実の信仰から離れようとしなかった」レーマン人のことが記されています(3ニーファイ6:14)。

主イエス・キリストの福音と、皆さんと家族に対する主の計画に対する強く

揺るぎない信仰と知識は、異なる見解や邪悪な影響力を跳ね返す偉大な防具となります。永遠の聖約と戒めに従い、忠実であるならば、平安を得、さらに、混乱した世の中であって幸福さえ得ることができるのです。信仰という武具で身を固めてください。そうすれば皆さんは揺るぎなく立って、天の御父の子らにとってふさわしい家庭を築くことができます。

わたしはかつて、暴力と政治的混乱に苦しむ地域を訪れたことがあります。神経のこまやかなある神権指導者がわたしの抱いていた恐れを感じ取って、慰めとなる話を紹介してくれました。

その指導者が少年のころ、突然父親がいなくなり、おかげで母親は経済的に苦しい状態に陥りました。母親は1冊の古い書物から見つけた次の言葉から力を得ました。

「時の門に立つ者に向かい、わたしはこう言った。『未知の世界へ安心して行けるように光を下さい。』」

彼は答えた。

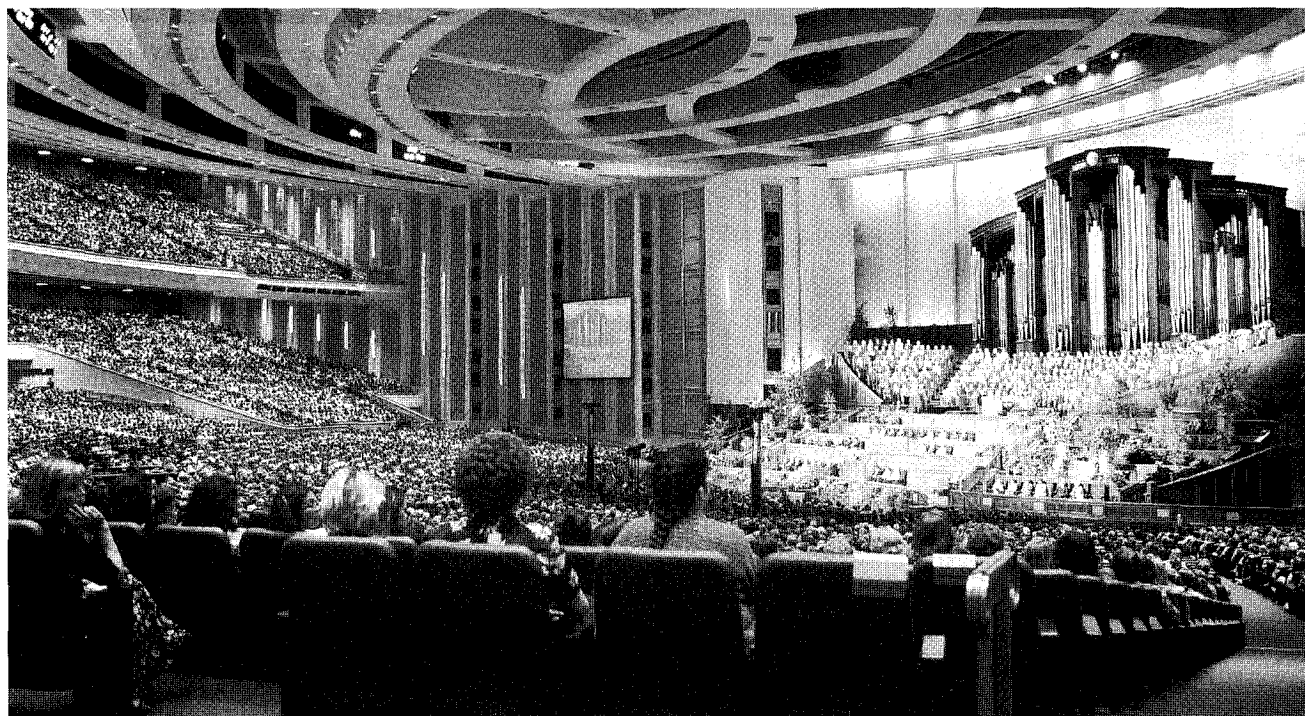
『暗闇に入り、あなたの手を神の手にゆだねなさい。光に照らされた明るい道を

を歩むより、その方があなたのためになり、歩き慣れた道を歩むより安全である。』」(ミニー・ルーズ・ハスキンス、*The Oxford Dictionary of Quotations*, 第4版、アンジェラ・パーティントン編[1996年]328で引用)

わたしの友人であるその神権指導者の母親はこの勧告に従うことによって、生活を立て直し、堅固な基礎を築きました。わたし自身も不安なときに、この世のどのような防御手段を用いるよりも主がともにいてくださる方がずっと安全であるという知識で身を固め、未知の世界を前進することによって、耐えていくことができました。

確固として立つには、贖い主の岩の上に基を築いていれば主が常に支えてくださるということを心の底から知る必要があります。この教えはヒラマン書の第5章に力強く記されています。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大風が

2001年9月29日土曜日の夕べ、中央扶助協会集会に出席した姉妹たちで満席となったカンファレンスセンターの会場。



あなたたちを打つときにも、それが……あなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12)

姉妹の皆さん、主の約束は確実です。主はわたしたちを救うために命を差し出してくださいました。

わたしたち自身が確固とした態度を維持するために、また、ほかの人々が確固として立つのを助けるために、回復された福音のメッセージを心の中にしっかりと植え、家庭の中で教えなければなりません。家庭の中で子どもたちや愛する人々に霊の武具を与えてください。彼らは毎日、あなたのもとを去り、家庭という安全な要塞から出て行くときにそれが必要なのです。断食と祈りを通して天の力に頼る方法を愛する人たちに教えてください。安息日を守ることによって俗世から離れられることを教えてください。従順になることを教えてください。人ではなく、神から認めていただくことを目標とするよう教えてください。天の家に帰るには救い主を愛して救い主に従い、神聖な聖約を交わして、聖約と戒めを守る以外に方法がないことを教えてください。あなたの家族がサタンの邪悪な力に対して勝利を得るための武器は福音の真理であり、救いの計画の知識なのです。

わたしたちは妻として、母親として、あるいは祖母、姉妹、おばとしての模範を示すうえで確固として立たなければなりません。わたしたちは家族を愛しているからこそ、従うべき力強い義の模範を示したいと思うのです。言葉と行いの一つ一つについて、どのような衣服を身に着けるかについて、どのように時間を過ごすかについて、あらゆる選択を通してわたしたちは何を信じているかを示しているのであり、家族はその模範に従うようになるのです。

預言者ジョセフ・スミスの母ルーシー・マック・スミスはその記録の中で、1803年の春、彼女と夫が宗教について大きな不安を抱いていたことを記しています。



ルーシーは自身の真理の探究について、このように記しています。「わたしは近くの森へ行って、真の宗教を示してくださいよう主に祈った。」(*History of Joseph Smith*, プレストン・ニブレー編[1958年] 43) どこかで聞いたことのある言葉ではないでしょうか。

17年後の1820年の春、真理を探し求めていた預言者ジョセフ・スミスは『神に願い求め』ようと決意した」とあり、「わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入って行った」とあります(ジョセフ・スミス—歴史1:13-14)。

真理を示してくださいようように神に願い求める場所として、母親と息子がともに森を選んだのは偶然の一致だったのでしょうか。ジョセフの祈りはイエス・キリストの福音が回復されるという結果につながって、全世界に祝福をもたらしました。確固とした信仰を持った一人の女性が示した義の模範が数え切れないほどの人々に祝福をもたらしたのです。

わたしは自分が妻であり母親であることを喜びとしますが、その務めを果たすことは必ずしも容易でないことを知っています。小学校で、神に手紙を書くように先生(わたしの友人)から言われた一人の女の子の気持ちがよく分かります。シャロンはこのように書きました。「愛する神様、あなたが世界中の人々を愛されることはきっと大変なことだと思います。わたしの家族は5人しかいないのに、わたしはできていないからです。」同じように、わたしの家族もわた

しを愛することが難しかったときがあったと思います。けれども、ローレン・C・ダン長老の言葉は真実です。彼はこう言いました。「家庭ほど末永く続く貴いものはあり得ません。」(「わたしたちの大切な家族」『聖徒の道』1975年4月号, 179) たとえ家族生活が非常に困難になることがあっても、家族の中で行うわたしたちの働きは何にも増して大切です。あなたが気落ちして、家庭内の物事が望んでいるようにはいかないときでも、確固とした信仰をもって、別の小学生の少女が神への手紙で言ったように言ってください。「愛する神様、わたしはほんとうに自分にできる限りのことをしています。」家庭生活には様々な困難が付き物ですが、それによって必要以上に落胆したり、家族の中で分かち合うことのできる愛を惜しんだりしてはなりません。

信仰の武具で身を固め、確信していることについて確固としていきましょう。わたしたちは今、贖い主という岩の上に、家族の基礎を家族とともに築いているということを決して忘れないようにしましょう。あなたの手を神の手にゆだねましょう。わたしたちは主の助けによって、義のとりでとなる家庭を築くことができます。

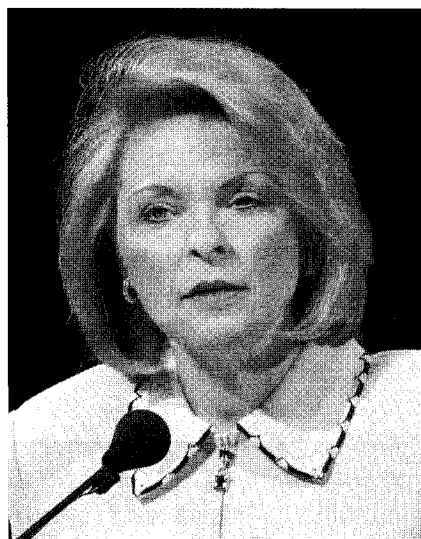
家庭と家族を守るために確固として立つ皆さんの努力に対して主の祝福がありますよう、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

わたしたちは皆、 母親ではないでしょうか

中央扶助協会第二副会長

シェリー・L・デュー

「母性は(子どもを産むこと)だけのものではありません。それはわたしたち女性の本質です。」



この夏わたしは、4人のめいと怖い経験をしました。日曜日の夕方、ある都会の繁華街にあるホテルから、話をすることになっていた近くの教会へ歩いて行ったことでした。そこは前に何度も歩いたことのある場所でしたが、その晩わたしたちは突然、酒に酔ってパレードを見物する群衆に取り囲まれてしまいました。10代の少女には、そして少女たちのおばには、最悪の場所でした。しかし、車両が通行止めになっていたのも、そのまま歩くしかありませんでした。群衆の騒がしい声の中、めいたちに叫びました。「わたしから離れちゃだめよ。」群衆をかき分け、やっとの思いで進みながら、ただただめいたちの無事を願うばかりでした。

ありがたいことに、何とか教会へ着く

ことができました。しかし、不安なその1時間を通して、自分の安全を顧みずに子どもを守る母親がどんな思いをするかがもっとよく理解できました。めいたちの親たちは大切な娘たちをわたしに託しました。愛するめいたちを無事を守るためなら、わたしはどんなことでもしたでしょう。同じように、天の御父はわたしたち女性に御自分の子どもたちを託され、子どもたちを愛し、この世の危険を無事にくぐり抜けて天の家へ帰れるように導くことを求められました。

愛することと導くこと。この二つの言葉には、御父と御子が全力を尽くしておられる業のみならず、わたしたちがなすべき業の本質が要約されています。わたしたちの仕事は、主の業が進められるよう主のお役に立つことだからです。では、末日に生きる神の女性として、わたしたちは主の業を進めるために、どのようにしたら十分に主のお役に立てるのでしょうか。

預言者たちはこの問いに繰り返し答えを与えています。例えば、60年前に大管長会は、母性を「人間が行う最も高貴で神聖な業」¹であると述べました。

皆さんは、なぜ預言者たちが母性の教義(それは確かに教義です)を何度も何度も教えてきたのか考えてみたことがありますか。わたしはあります。神の女性の仕事について、わたしは長い間、一生懸命に考えました。わたしたちすべての女性にとって、母性の教義はどんな意味があるのか、いろいろと考えて

みました。この問題を解くために、ひざまずいて祈り、聖文を研究し、神殿に参入しました。これらの行為はすべて、女性としてわたしたちが果たす最も大切な役割に関する崇高な教義を教えてください。常に女性が直面する問題に関して「確固として揺らぐことなく」²立つことを望むなら、この教義をはっきり理解しておかなくてはなりません。なぜなら、サタンは母性に対して戦いを挑んでいるからです。サタンは、揺りかごを揺らす者はサタンの地上の王国を揺さぶることができる³と知っています。そして、次の世代の人々を愛し導く義にかなった母親がいなくては、神の王国が倒れてしまうことを知っているのです。

母性の重要性を理解すると、預言者たちが女性の最も神聖な役割をそれほどまでに守ろうとしてきた理由が明らかになります。母性は単に母であることと同じ意味であるとわたしたちは考えがちですが、主が言われる母親という言葉には、もっと多くの異なった意味があります。母親の役割と本質を定義するために、あらゆる言葉の中から父なる神とアダムがエバに対して選んだのは「すべての命ある者の母」⁴という言葉でした。その名が与えられたのはエバが子どもを産む前でした。エバと同じように、わたしたちの母性はわたしたちが生まれる前から始まっています。ふさわしい男性がこの世で神権を受けるよう予任されたのと同じように、⁵ 義にかなった女性は前世で母性の特権を授けられました。⁶ 子どもを産むことは、もちろん母性の一部ですが、母性はそれだけのものではありません。それはわたしたち女性の本質です。まさに女性の真髄であり、神聖な特質や特性であり、御父がわたしたちに与えられた比類ない性質です。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこのように述べています。「神は女性の内に神聖な特質を植え付けられました」⁷。その特質が母性の賜物^{なまもの}です。マッシュー・カウリー長老はこのように教えています。「男性は人々を救う者となるために、[この世で]与えられるべきものがあるが、母親や女性には必要ない。人を救う者になるために、生来、固有の権利、権

限が与えられているからである。……そして神の子どもたちの生活の中で、霊的な再生を及ぼす力が与えられているのである。」⁷

母性は、御父が息子たちに神権を賦与された後で残った余り物ではありません。それは神の娘たちに御父がお与えになれる最も高貴な賜物であり、神の子どもたちが第二の位を保つのを助けるために女性に与えられた比類のない役割であり、神聖な責任なのです。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は、母性は「神からの召しであり、永遠に重要なものであり、その重要性は神権そのものと同じほど」であると宣言しています。⁸

母性の問題は非常に慎重な扱いを要します。なぜなら、女性としての最大の喜びであると同時に、苦悩でもあるからです。始めからそうでした。エバは墮落の後、喜びました。墮落がなければ、「決して子孫を持つことはな」かったからです。⁹しかし、カインとアベルについてのエバの苦悩を皆さんは想像できるでしょうか。母親の中には、自分が産んだ子どものゆえに苦悩を経験する人もいます。地上で子どもを産むことがないために苦しむ人もいます。このことについてジョン・A・ウィットソー長老は明瞭に述べています。「自分の責任ではなく、母親になる賜物を行使できない女性は、あたかも母親であるかのような経験をすることができます。」¹⁰

主以外には測り知ることのできない理由で、子どもを持つのを待たなくてはならない人もいます。義にかなった女性にとっては、この遅延はたやすく耐えられるものではありません。しかし、わたしたち一人一人に定められた主の時刻表は、女性の天性を否定するものではありません。ですから、わたしたちの中には、単に母性を発揮するほかの方法を見つけさえすればよいという人もいます。周囲には、愛と導きを必要としている人がたくさんいるのですから。

エバは模範を示してくれました。子どもを産むだけでなく、かつて女性が行った最も勇気ある決断をし、アダムと二人で人類が進歩するための道を開き、す



べての人の母親になったのです。男性が尊敬し、女性が従うべき女性の姿を模範で示し、雄々しい信仰、御霊への鋭い感受性、悪に対する嫌悪、まったく私心のない精神など、女性としてわたしたちに与えられた性質を示すひながたとなってくれました。「自分の前におかれている喜びのゆえに……十字架を忍」¹¹んでくださった救い主のように、エバは人類を生じさせる業に貢献できる喜びのゆえに、墮落に耐え、わたしたちを深く愛し導いてくれたのです。

御父の娘として、そしてエバの娘として、わたしたちは皆母親です。これまでもずっと母親でした。わたしたちは皆、若者を愛し、導く責任があります。教会の若い女性たちは、神の娘がどのような者なのか、つまりどのような服を着、どのようなものを見たり読んだりするか自分の目で見なければ、神の娘として生活することをどのようにして学べるのでしょうか。どのように時間を使い、どのようなことを考え、どのようにして誘惑に対抗し、不安定な状況に対処し、ほんとうの喜びをどこで見いだすのか、慎み深さや女らしさが義にかなった女性のしるしであることがどうして分かるのでしょうか。教会の若い男性は、わたしたちが美德を示さなければ、どのようにして神に従う女性の価値を認めるように

なるのでしょうか。

わたしたちには、義にかなった女性のあるべき姿を示すという、何より大切な義務があります。なぜなら、教会の青少年は教会以外の場所でそれを見いだすことができないからです。扶助協会の姉妹たちには、若い女性が喜んで扶助協会に移行できるよう助ける責任があります。扶助協会は、幕のこちら側にいる女性たちにとって最も重要な組織です。これは、わたしたちと若い女性たちの間の友情が、彼女たちが18歳になるずっと前から始まっていなければならないということを意味します。わたしたちは皆、もちろん自分の家族の子どもたちから始めて、家族の枠を越えただれかに対して、母親のように接することができます。わたしたちは皆、主の王国における女性の役割が偉大で神聖なものであるということを、言葉によって、そして行いによって示すことができます。繰り返します。わたしたちは皆、イスラエルの母であり、若者を愛し、この世の危険な道を無事に歩めるよう導くという召しを受けています。

わたしたちを産み、忍耐強く養い育ててくれた母親の温かい信頼がなければ、自分の持つ可能性を十分に発揮することはほとんど不可能でしょう。わたしは最近、わくわくする思いで青少年の

ころにお世話になった指導者に久しぶりで会いました。まったく自信がなかった10代のころ、わたしはいつもこそそこそこの女性のそばへ寄りました。彼女がいつもわたしの肩に腕を回し、「あなたは最高だわ」と言ってくれたからです。彼女が愛してくれたので、わたしは彼女から導きを受けたいと思いました。どれほど多くの若い男性や若い女性が皆さんの愛と指導を求めていることでしょうか。

イスラエルの母親としての自分の影響力がかけがえのない永遠のものであるということを、わたしたちは十分に理解しているでしょうか。幼いころ、母が真夜中にわたしを起こして、「シェリー、まくら枕を持って階下へ行きなさい」と言うことが何度もありました。わたしはそれが何を意味しているのか知っていました。「竜巻が来る」ということです。そんなときわたしは途端に恐がりました。しかし、母は必ずこう言ってくれました。「シェリー、何も心配はないわ。」母の言葉はいつもわたしを穏やかな気持ちにしてくれました。あれから何年もたった今日でも、生きていくことがつらくなったり怖くなったりするとき、母に電話し、「何も心配はないわ」と言ってくれるのを期待して待つのです。

最近、米国で起きた恐ろしい事件は、わたしたちが不安定な世に生きていることを明白に示しました。子どもたちの安全が守られ、将来に対して自信を持たせてあげられる義にかなった母親が、かつてないほど必要とされています。平和と真理をどこに見いだせるかを教え、イエス・キリストの力が常にサタンよりも強いことを教える母親です。若い女性や若い男性の信仰を強め気高い特性を高めるとき、また、だれかを愛し一歩でも道を前進するように導くときいつも、わたしたちは母親としての天性と召しに忠実であることができ、それによって神の王国を築くことができるのです。福音を理解する女性ならだれでも、ほかの仕事の方がもっと重要だと考えたり、「わたしはただの母親です」という言葉は口にしたりしないことでしょうか。母親は人の心を癒す存在なのですから。

周囲を見てください。あなたを、そしてあなたの感化を必要としているのはだれでしょう。もしほんとうに大きな変化をもたらしたいと望むなら、わたしたちが産んだ子どもたちや、喜んで養い育てようと思う人たちに対して母親の役目を果たすことによって、その望みはかなうでしょう。教会の青少年のそばにいるなら、つまり彼らを愛するなら、たいていの場合、彼らはわたしたちから離れないでいる、つまりわたしたちの導きを受け入れることでしょうか。

イスラエルの母であるわたしたちは、主の秘密兵器です。わたしたちの影響は創世の時から常に存在する天来の性質に由来しています。前世で御父がわたしたちの役割を説明されたとき、計画の中であまりにも重要な事柄を託してくださったこと、御父の子どもたちを愛し導くためにあまりにも重要な賜物を受けたださったことに、わたしたちは驚かなかったでしょうか。神の王国の中で御父が与えてくださった高貴な特性のゆえに、少なくともある程度はその理由で、わたしたちは喜び呼ばわったのではないのでしょうか。¹² この世は何も教えてはくれませんが、御霊は教えてくれます。

わたしたちは主を失望させるわけにはいきません。たとえわたしたちが母性に気高さや神聖さを見いだす地上で唯一の女性となる日が来たとしても、それでよいではありませんか。母親とは、日の栄えの王国の中で最高の階級にあって完成された義にかなった女性、すなわち、子孫においても、知恵や喜び、影響力においても、永遠に増し加えられる資格を持った女性を指す言葉なのですから。

わたしは知っています。わたしは完全に知っています。わたしたちの神聖な役割に関するこの教義は真実であり、このことを理解するとき、すべての女性は平安を得、目的を見いだすのです。愛する姉妹の皆さん、どのように表現してよいか分からないほど愛している皆さん、この危険に満ちた時代において母親であるというチャレンジに立ち向かってください。たとえ忍耐と勇気と信仰が最後のひとかけらまで試されることになっ

てもです。イスラエルの母として、神に従う女性として、確固として揺らぐことなく立ってください。御父とその独り子はわたしたちに神聖な管理の職と天の王国における神聖な冠を与えてくださいました。そのことを喜び、御二方から寄せられている信頼に足る者となれますように、イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

注

1. "The Message of the First Presidency to the Church," *Improvement Era*, 1942年11月号, 761
2. モーサヤ5:15
3. モーセ4:26
4. アルマ13:2-4, 7-8参照
5. スペンサー W キンボール, "The Role of Righteous Women," *Ensign*, 1979年11月号, 102参照
6. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年) 387
7. *Matthew Cowley Speaks* (1954年) 109
8. "Our Wives and Our Mothers in the Eternal Plan," *Relief Society Magazine*, 1946年12月号, 801
9. モーセ5:11
10. *Priesthood and Church Government*, ジョン・A・ウィッツォー編 (1939年) 85
11. ヘブル12:2
12. ヨブ38:7参照

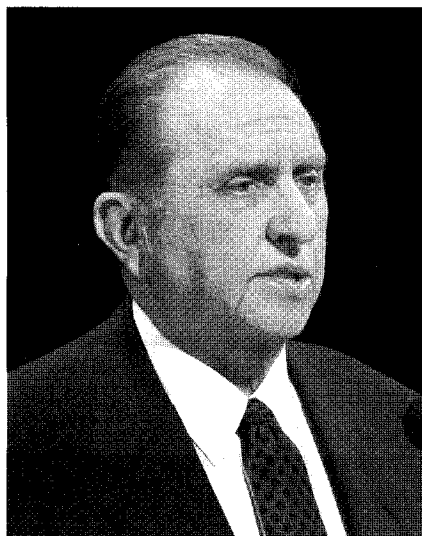


「模範になりなさい」

第一副管長

トーマス・S・モンソン

「思いを真理で満たし、心を愛で満たし、生活を奉仕で満たしましょう。」



わたしたちは今晚、中央扶助協会会長から感動的なメッセージを伺って心が奮い立つのを覚えています。わたしたちが皆、確固として揺らぐことのないようにとの訴えでした。これは、今の時代に見られる試練を乗り越え、またあらゆるものが激変する世の中で堅固な岩を築くうえで、知恵にあふれた勧告です。

使徒パウロが愛するテモテにあてて書き送った知恵の言葉に目を向けてみましょう。

「しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。」

それは、良心に焼き印を押されている偽り者の偽善のしわざである。」¹

続いて、テモテを激励する言葉を述べています。これはわたしたちにとっても注目すべき言葉です。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」²

使徒パウロが語ったこのチャレンジを乗り越えるために、いつまでも変わることのない3つの公式をここカンファレンスセンターと世界各地の集会所に集っている、愛する姉妹たちと分かち合いたいと思います。

1. 思いを真理で満たす。
2. 心を愛で満たす。
3. 生活を奉仕で満たす。

まず、思いを真理で満たすことについて話しましょう。誤りにとどまっていたら、真理を見いだすことはできません。真理を見いだすには啓示された神の御言葉^{みことば}を調べ、研究し、それに従って生活することが必要です。誤ったことに取り囲まれているといつしかそれを受け入れるようになってしまいます。一方、真理に触れていれば、真理について学ぶことができます。

世の救い主はこのように命じておられます。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」³そして、こう付け加えられました。「聖文を調べなさい。あなたがたは、聖文の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖文は、わたしについてあかしをするものである。」⁴

主はまた、わたしたち一人一人にこのように勧めておられます。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」⁵

開拓者時代、今晚わたしたちに与えられた「確固として揺らぐことのないように」とのチャレンジを乗り越え、思いと心と全身に真理を満たした、キャサリン・カーティス・スペンサーという女性が

いました。夫のオーソン・スペンサーは、感受性が強く、豊かな教育を修めた人でした。ボストンで生まれ育ったキャサリンは、教養のある洗練された人でした。彼女には6人の子どもがいました。体があまり丈夫でなかった彼女はノーブーを出発してから、厳しい寒さと過酷な状況にさらされたために健康を害していました。スペンサー長老は妻の両親に手紙を書いて、西部に住まいを築くまで妻を両親のもとで過ごさせてほしいと頼みました。すると、「汚らしい宗教を捨てさせるなら、戻って来てもけっこうです。しかし、教会を捨てるまでは戻ることを許しません」という返事が返ってきました。

スペンサー姉妹が信仰を捨てるはずもありませんでした。両親からの返事を読んで聞かされた彼女は、夫に聖書を持って来てルツ記から次の聖句を読んでもくれるように頼みました。「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」⁶

外は嵐が吹き荒れていました。荷車の幌が破れてしまったため、友人たちはスペンサー姉妹が吹き込む雨にぬれないようにミルクなべを彼女の頭の上にかざしました。このような中で、彼女は一言の不平も言わず、息を引き取りました。

わたしたちは命を差し出すよう求められることはないかもしれません。けれども、神はわたしたちの声に出さない祈りを聞いてくださることを忘れてはなりません。隠れたことを見ておられる神は、必要ならば人々の面前で報いてくださるでしょう。

わたしたちは困難な時代に生きています。将来、何が起こるか分かりません。だからこそ、不測の事態に備えておく必要があります。統計からも明らかのように、夫が病気になったり、亡くなったりして、あるいは経済的な必要に迫られて、皆さんが家計を支えなければならなくなることが、時折あります。緊急事態が発生したときに家族を養えるよう



カンファレンスセンターに向かう大会参加者、および同センターを出てテンプルスクエアに通じる道に向かう参加者。

に、より高い教育を受けるように努め、仕事につながる技術を身に付けておくよう強くお勧めします。

研究と学習を重ねることによって才能を伸ばすことができます。子どもの勉強をよく助けられるようになるでしょうし、人生で遭遇するかもしれない不測の事態に備えていることによって心の平安を得られるでしょう。

第2の公式、心を愛で満たすことを説明するために、使徒行伝に記録されている感動的な出来事を紹介したいと思います。ヨッパに住んでいたタビタまたはドルカスと呼ばれた弟子の話です。彼女は「数々のよい働きや施しをしていた」婦人であったと説明されています。

「ところが、そのころ病気になって死んだので、人々はそのからだを洗って、屋上の間に安置した。

……弟子たちはペテロが〔近く〕にいると聞き、ふたりの者を彼のもとにやっ

て、『どうぞ、早くこちらにおいで下さい』と頼んだ。

そこでペテロは立って、ふたりの者に連れられてきた。彼が着くとすぐ、屋上の間に案内された。すると、やもめたちがみんな彼のそばに寄ってきて、〔タビタ〕が生前つくった下着や上着の数々を、泣きながら見せるのであった。

ペテロはみんなの者を外に出し、ひざまずいて祈った。それから死体の方に向いて、『タビタよ、起きなさい』と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起きなおった。

ペテロは彼女に手をかして立たせた。それから、聖徒たちや、やもめたちを呼び入れて、彼女が生きかえっているのを見せた。

このことがヨッパ中に知れわたり、多くの人々が主を信じた。』⁷

「数々のよい働きや施しをしていた」女性であったタビタについて説明している

この聖句は、扶助協会の持つ基本的な責任を明らかにしていると思います。つまり、苦しんでいる人を慰めること、貧しい人の世話をすること、そしてこれらに付随するあらゆる事柄です。扶助協会の女性である皆さんはまことに憐れみの天使です。このことは、寒さや飢えにさいなまれ、苦しみを受けているあらゆる地の人々に対して大規模に実施されている人道的救援活動に見ることができます。皆さんの働きはワードやステーク、伝道部の中でもはっきりと見ることができます。教会のすべての監督はこれらが真実であることを証できることでしょう。

執事の少年だったころ、わたしは断食日曜日の朝にワードの責任の一端を担っていました。各家族に小さな封筒を持って行き、彼らが献金を入れるのを待ち、それから監督に届けるのです。その責任を果たしていたあるとき、高齢

で独り暮らしだったライト兄弟は、ドアの所でわたしを喜んで迎えると、老いた両手で不器用に封筒を開け、わずかな金額をその中に入れました。献金する彼の目には涙が込み上げていました。彼はわたしに腰かけるよう促し、何年も前に家の中に食べ物がまったくなくなったときの話を話してくれました。飢えに苦しみながら彼は食べる物を与えてくださるよう天の御父に祈りました。それからしばらくして、窓の外に目を向けていると、だれかが彼の家の方に歩いて来るのに気づきました。その人は赤くベンキを塗った荷車を引いていました。扶助協会会長のバームフォース姉妹でした。線路の向こうから彼の家までの1キロ近くを、荷車を引いてやって来たのでした。荷車にはワードの扶助協会の姉妹たちから集めた食べ物が山ほど載っていました。バームフォース姉妹は食物を降ろすとライト兄弟の空っぽの食品棚に入れました。ライト兄弟は、彼女が「天から遣わされた天使」のようだったと言いました。

姉妹の皆さん、皆さんは愛の最高の模範です。皆さんは家庭を明るくし、子どもたちを愛によって導いています。家庭の頭は夫ですが、皆さんは家庭の心です。互いに尊敬し合い、責任を分かち合うことによって、夫婦は最強のチームを組むのです。

子どもたちは関心や愛を必要とするときに、母親のところへ行きます。このことに意味があるとわたしは考えています。福音に背を向けた息子や何かにつけて投げやりな少女でさえ、家族のもとに戻る必要があると気づいたときに、迷わず母親のもとへ来ます。母親は決して子どもを見捨てたりしません。

母親の愛は子どもの良いところを引き出します。皆さんは子どもたちにとって従うべき模範です。

普通、子どもが覚えて話す最初の言葉は「ママ」です。戦争のさなかであれ、平和なときであれ、死を目前に控えた息子が口にする最後の言葉はほとんどが「お母さん」です。このことにも大切な意味があると思います。姉妹の皆さん、皆さんは何と高貴な役割を帯びているこ

とでしょうか。皆さんの心が愛に満ちていることをわたしは証します。

第3の公式、生活を奉仕で満たすことについて、二つの例を紹介したいと思います。最初の例は、生徒たちの生活に大きな影響を与えた一人の教師です。2番目の例は、霊的な暗闇の中で生活していた人々に福音の光をもたらした夫婦の宣教師です。

何年も昔、ミューチャルの教師を務めていたバー・ディー・シェフィールドという若い女性がいました。夫とともに長い間待ち望んでいたのですが、彼女には子どもがいませんでした。その代わり彼女は、永遠の真理と人生の教訓を教えることによって、彼女にとって特別な若い女性たちに心からの愛を毎週示していました。しかし、そうした彼女を病魔が襲い、27歳の若さでこの世を去りました。

毎年戦没者記念の休日が来ると、ミューチャルの少女たちは先生が葬られている墓地に集まり、必ず、花と「バー・ディーへ、あなたの生徒より」と書いた小さなカードを手向けていました。最初は10人いた少女も、やがて5人、そして2人、最後に1人になりました。しかしその一人は毎年欠かさず墓を訪れて、花束と、いつものように「バー・ディーへ、あなたの生徒より」と書いたカードを供えました。

バー・ディーが亡くなってから25年近くが過ぎたある年、欠かさず墓を訪れていた、ただ一人の「少女」は戦没者記念日によそへ出かけなければいけなくなりました。そこで、数日早く先生の墓を訪れることにしました。花を摘んでリボン巻き、カードを添えると、上着を着て出かけようとしていました。ちょうどそのとき、玄関のベルが鳴りました。ドアを開けると、訪問教師の一人であるコリーン・フラーが立っていました。訪問教師の同僚との都合がつかないので、月末までに何とか家庭訪問を終えたいという思いから、連絡をしないで一人でやって来た、とコリーンは説明しました。コリーンは招き入れられると、上着と花に気づきました。そして、何かの予定をじやましたことをわびました。

「大丈夫よ」という返事が返ってきました。「わたしのミューチャルの先生だった人のお墓に花を手向けるために出かけようとしていたところなの。この先生はわたしやほかの女の子にすばらしい影響を与えてくれた人なのよ。最初は10人が毎年、愛と感謝を伝えるために訪ねていたんだけど、今はわたしがクラスを代表して訪れているの。」

コリーンは尋ねました。「その先生の名前、もしかして、バー・ディーじゃない？」

「ええ、そうよ。でも、どうして知っているの」と姉妹が尋ね返しました。

声を詰まらせながらコリーンは言いました。「バー・ディーはわたしのおばなの。母の妹なのよ。おばが亡くなってから毎年、戦没者記念日に家族で墓地を訪れると、お花とバー・ディーの生徒からのカードがお墓の上に置かれているのに気づいていたわ。うちの家族は、バー・ディーを覚えてくれていることにお礼を言えるよう、その生徒がだれなのかを知りたかったのよ。これでみんなに教えられるわ。」

アメリカの詩人ソーントン・ウィルダーは「この世を去った人々へのいちばんの贈り物、それは嘆きではなく、感謝である」と言いました。

生活を奉仕で満たした第2の例は、ポーランドで1年半の伝道の召しを受けたユリユーシュ・フセックと妻ドロシーが宣教師として経験したことです。これを



紹介してわたしの話を終えることにします。ポーランド生まれのフセック長老はその国の言葉を話し、ポーランド人を愛していました。フセック姉妹はイギリス生まれでポーランドについてはほとんど知りませんでしたし、その国の人々については何も知りませんでした。

二人は主を信頼して伝道を始めました。生活環境は決して快適とは言えないものでした。仕事は孤独で、しかもやるべきことは山ほどありました。当時ポーランドにはまだ伝道部がありませんでした。フセック夫妻に与えられた責任は道を備えることです。伝道部が恒久的に設置され、ほかの宣教師が召され、人々に福音が説かれ、改宗者にバプテスマが施され、支部が設立され、礼拝堂が建てられるための準備でした。

責任のあまりの大きさにフセック長老と姉妹はくじけてしまったのでしょうか。いいえ、そのようなことは一瞬たりともありませんでした。その召しが神から与えられたものであると知っていた二人は

神の助けを祈り求め、^{みわざ}御業に全身全霊で打ち込みました。結局ポーランドに1年半どころか5年滞在して、これらの目的をすべて達成したのです。わたしはラッセル・M・ネルソン長老、ハンス・B・リンガー長老と3人で、フセック長老とともにポーランド政府のアダム・ロバトカ長官と会見したときにそのことを知りました。「あなたがたの教会を歓迎いたします。建物を建ててもけっこうですし、宣教師を派遣してもけっこうです。どうぞポーランドへおいでください」と長官が言うのを聞きました。そして長官はユリユーシュ・フセック長老を指して言いました。「この方は奥さんとともに、教会のために一生懸命働いてくれました。皆さんは彼らの模範と働きに感謝なさるといでしょう。」

フセック夫妻のように、わたしたちも主の業においてなすべきことを行おうではありませんか。そうすれば、わたしたちもユリユーシュ・フセック、ドロシー・フセック夫妻とともに次の詩篇の言葉を

体現することができるでしょう。「わが助けは、天と地を造られた主から来る。」⁸

愛する姉妹の皆さん、皆さんは真に「信者の模範」です。既婚か独身かにかかわらず、天の御父が皆さん一人一人を家庭において、家族において、生活の中において祝福され、世の救い主から「良い忠実な僕よ、よくやった」⁹という栄光あふれる賛辞を受けることができますように。わたしは皆さんを祝福し、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

注

- 1.1テモテ4:1-2
- 2.1テモテ4:12
- 3.教義と聖約88:118
- 4.欽定訳ヨハネ5:39から和訳
- 5.教義と聖約19:23
- 6.ルツ1:16
- 7.使徒9:36-42
- 8.詩篇121:2
- 9.マタイ25:21

テンプルスクウェアに続く門をくぐって散歩する大会参加者たち。



指導者の言葉

教会の子どもたちのために——2001年10月6日、7日に開かれた第171回
 半期総大会のお話から

大 管長 ゴードン・B・ヒンク
 レー——現在は危険に囲ま
 れた時代でしょうか。そのと
 おりです。けれどもおそれる必要はあり
 ません。心に平安を、家庭に平和を得
 ることができます。わたしたちはみな、
 この世にあって良いえいきょうをおよぼ
 すことができます。

第一副管長 トーマス・S・モンソン
 決心して、今日から愛で心を満たし
 ましょう。孤独な人、気落ちしている人、
 いろいろな理由で苦しんでいる人を助け
 るために、2マイル行きましょう。

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
 あがないのすばらしいメッセージは、
 救い主がわたしたちすべてに感じておら
 れる完全な愛です。この愛は、あふれ
 るばかりのあわれみ、にんたい、めぐみ、
 公平、長くたえしのぶこと、そして特に、
 ゆるしに満ちた愛なのです。

十二使徒定員会会長代理 ボイド・
 K・バッカー

わたしはこのモルモン書——イエス・
 キリストについてのもう一つのあかしを
 愛しています。それを研究してください。
 そうすれば旧約聖書、新約聖書の両方
 とも理解することができます。それが
 真実であることを知っています。



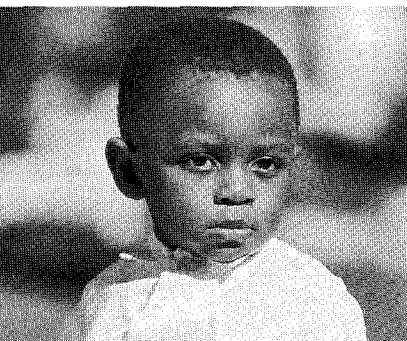
十二使徒定員会 ダリン・H・オックス
 主はご自分のすべての子どもたちを
 愛しておられます。主はすべての子ども
 たちがご自分の真理を全部手にし、ご
 自分が持つておられる祝福を豊かに受
 けることを望んでおられます。主は
 一人一人がいつ準備できるのかご存じで
 す。そしてわたしたちに対しては、福音
 を分かち合うことについての教えを聞い
 て、それをいつも覚えているように求め
 ておられます。

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワー
 スリン

みなさんが心配する必要のあることは
 ただ一つ、最高の自分になるよう努力
 することです。みなさんはどのようにし
 て努力するのでしょうか。人生で最も
 大切な目標に注意を集中させてくださ
 い。そうすれば、目標に向かって一歩一
 歩前進して行けるでしょう。

十二使徒定員会 リチャード・G・ス
 コット

消えることのない平安と守りを得るた
 めには、人生のあるとき、静かに深く
 思いめぐらすときに、わたしたちを愛
 しておられる天父がいらっしゃることを
 知る必要があります。神はわたしたちを
 導き、助けてくださいます。その確信こ
 そが力強いあかしの中心となるのです。



十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホ
 ランド

わたしたちはおしみなくあわれみをも
 ってあたえてくださる天父に対し、愛を
 個人的に示すために、〔じゅうぶんの一と
 献金〕を納めるべきです。神はそのめぐ
 みによって、うえている人びとにパンを、
 貧しい人びとに衣服をあたえてくださ
 います。人生のさまざまな時において、わ
 たしたちもみな、……めぐみを受けてき
 ました。

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイ
 リング

みなさんが聖文について深く考え、
 神と〔バプテスマの時に〕聖約を交わし
 た事柄を実践し始めるなら、神に對す
 る愛をいっそう深めることができます。
 また、みなさんに対する神の愛をいっそう
 よく感じられます。このことを約束します。

七十人 H・ロス・ワークマン

神はご自分の子どもたちにご自分の
 方法で指示を与え、子どもたちを永遠
 の命に備えさせるために預言者をおあた
 えになりました。……従順は、たとえい
 ましめの目的が理解できないとしても、
 主の祝福の実現のために、なくてはなら
 ないものなのです。

管理かんとかく H・デビッド・バートン
 教会の青少年同士でかわされる会話
 の中でも、感情を表す際に下品でらん
 ぼうな言葉がとても簡単に出てくるよう
 です。若い友のみなさん、今こそお
 しく立ち、みなさんの会話の中からその
 ような言葉をなくす時です。……天父
 にこの状況を乗り越える強さを求めてく
 ださい。



わたしたちの時代のための教え、2002年度

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間となっています。大管長会は毎年、これらの集会で使用するために、10のテーマを指定の資料とともに決定します。以下は2002年度ののためのテーマと資料です。残り2回分のテーマは、ステーク会長会または地方部長会によって選定されます。

第4日曜日の話し合いは、定員会またはグループのメンバーの必要と状況に合わせて、指定の資料の一つ、または二つを中心にして行うとよいでしょう。教師は必ずしもすべての資料を使用する必要はありません。指導者と教師は、それらの集会を、講義や発表の場ではなく、話し合いの場とするように勧められています。指導者と教師は、定員会またはグループのメンバーが話し合った原則を実践するよう鼓舞していくにはどうしたらよいか、検討してください。定員会やグループでの話し合いを準備し、指揮するための提案は、『教師、その大いなる召し』(36123 300)と『教師ガイドブック』(34595 300)に掲載されています。

1. ナザレのイエス、救い主であり贖い主である御方

マタイ1:18-21; 使徒4:8-12; 3ニーファイ11:7-17

「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号、2-24(ビデオカセット[任意]『キリストの特別な証人』[53584 300])

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主——キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号、4-19

「イエス・キリスト——堅固な基」『末日聖徒の女性B』第1課

2. 家族、個人として真の改心をする

ルカ18:18-30; モーサヤ4:6-7; 5:2; アルマ5:14-35

ゴードン・B・シンクレイ「信仰の奇跡」『リアホナ』2001年7月号、82-85

L・トム・ベリ「弟子となること」『リアホナ』2001年1月号、72-74

ダリン・H・オークス「主の望まれる者になるというチャレンジ」2001年1月号、40-43

「慈愛」『福音の原則』第30章

3. わたしたちが交わしたバプテスマの聖約への忠実さを保つ

マタイ3:3-17; 2ニーファイ31:5-20; モーサヤ18:7-10

ジェームズ・E・ファウスト「新しく生まれる」『リアホナ』2001年7月号、68-71

ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号、6-9

「バプテスマ——永続する聖約」『神権の義務と祝福A』第29課

4. 贖いを通して、喜びと平安を見いだす

イザヤ1:16-20; 2ニーファイ9:18-

21; アルマ34:14-16; 38:8-9; 教義と聖約18:10-13

ボイド・K・パッカー「主の御手」『リアホナ』2001年7月号、25-28

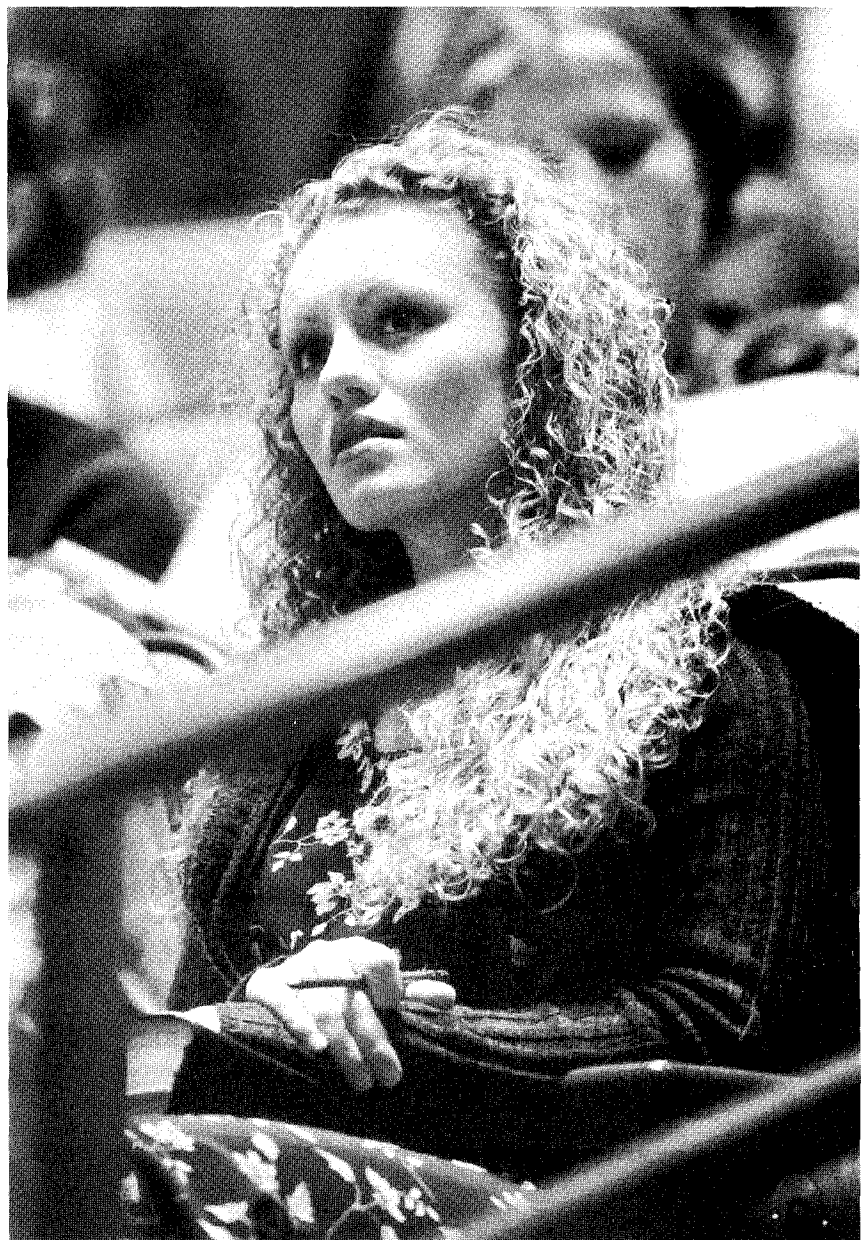
リチャード・G・スコット「平安と喜びに至る道」『リアホナ』2001年1月号、31-33
「悔い改め」『福音の原則』第19章

5. 福音の真理に対する証を培う

ヨハネ7:17; アルマ5:44-46; 32:27-28; エテル12:26; モロナイ10:4-5; 教義と聖約6:20-23

ジェームズ・E・ファウスト「深まる証」『リアホナ』2001年1月号、69-71

ジョセフ・B・ワースリン「純粋な証」『リアホナ』2001年1月号、27-30



「イエス・キリストの福音に対する証」
『神権の義務と祝福A』第26課

6. 信仰の受け継ぎを子どもたちに与える
箴言22:6; マタイ5:13-16; テトス2:1-8; 1ニコファイ1:1; 教義と聖約68:25-28

ゴードン・B・シンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30-41

デビッド・B・ヘイト「強いリンクとなる」『リアホナ』2001年1月号, 23-25

「家族は永遠に」『福音の原則』第36章

7. 悪に対し、家庭と家族を強める
イザヤ52:11; ヨハネ15:1-4; モルモン書ヤコブ3:10-12; 教義と聖約121:45

トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ボルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号, 2-6

ユール・A・マックスウェル「世の誘いと誘惑」2001年1月号, 43-46

「道徳的な清さ」『神権の義務と祝福A』第34課

8. 家族、個人で伝道活動に参加する
マルコ16:15; 教義と聖約18:15-16; 34:4-6; 60:1-2; 123:12; 88:81

M・ラッセル・バラード「会員が鍵である」『リアホナ』2000年9月号, 12-21

ジェフリー・R・ホランド「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号, 15-17

「伝道」『福音の原則』第33章

9. 行方の知れない主の羊たちを見いだし、養う
ルカ10:25-37; エペソ2:19; アルマ31:34-35; 教義と聖約18:15-16

トーマス・S・モンソン「永遠の航海」『リアホナ』2000年7月号, 56-59

ヘンリー・B・アイリング「わたしと一緒目を見まわしなさい」2001年7月号, 44-47

「フェロシップ——神権にかかわる責任」『神権の義務と祝福B』第10課

10. 神殿の祝福を受ける
詩篇24:3-5; 教義と聖約109:12-23; 教義と聖約110:6-10

ボイド・K・バック「聖なる神殿」『聖徒の道』1992年6月号, 14-23

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 37-40

「家族の歴史と記録の保持」『神権の義務と祝福B』第8課

扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集会」のテーマ(提案)*

家庭・家族・個人を豊かにする集会を計画する際は、姉妹たちの必要を慎重に検討してください。適切であれば、育児や家族関係に関する技術を向上させるのに役立つレッスンを、これらの集会に含めるようにしてください。『家族ガイドブック』(31180 300)および『結婚と家族関係コース教師用ガイド』(35865 300)が資料として活用できるでしょう。これらの資料は教会管理本部配送センターを通じて入手できます。

提案されているテーマ	ミニクラスでの研究課題のためのアイデア**
霊的成長 (教義と聖約88:63)	● 神殿における礼拝 ● 個人の祈りと聖文の研究 ● 安息日を守る (教義と聖約59章)
ホームメイキングの技術 (箴言31:27)	● 食物の栽培, 料理, 保存 ● 家庭内の整頓と清掃 ● 労働の持つ価値
結婚と家族の関係 (モーサヤ4:15; マラキ4:6)	● 「家族——世界への宣言」(『リアホナ』1998年10月号, 24) ● 家庭の夕べ, 家族の祈り, 聖文の研究 ● 育児の技術
関係を強める (マタイ5:38-44; 25:40)	● 意思の疎通と争いの解決 ● 悔い改めと赦し ● 効果的な指導
自立 (教義と聖約88:119)	● 家庭貯蔵と緊急時の備え ● 教育とリソースの管理 ● 健康と衛生
奉仕 (箴言31:20; モーサヤ4:26)	● 家族と隣人への奉仕 ● 教会における奉仕 ● 地域社会での奉仕プロジェクト
肉体と精神の健康 (教義と聖約10:4; モーサヤ4:27)	● 運動と栄養 ● ストレスのコントロールとレクリエーション ● 感謝の念を持ち、主の祝福を認める
個人の成長と教育 (教義と聖約88:118; 130:18-19)	● 祝福師の祝福 ● 才能と創造力を伸ばす ● 生涯学習
読み書きの能力 (ダニエル1:17; モーセ6:5-6)	● 福音の知識 ● 歴史と証の記録 ● 幼児期の教育と児童文学
文化芸術 (教義と聖約25:12)	● 家庭における音楽の大切さ ● 文学と芸術 ● 異文化を理解する

*家庭・家族・個人を豊かにする集会のガイドは1999年9月20日付けの大管長会の手紙とともに配布されています。

**ミニクラスでの研究課題のための参考資料として『末日聖徒の女性A』『末日聖徒の女性B』『福音の原則』を活用することができます。

リソースガイド

2002年度用。『アロン神権3』

(34822 300) 第1課—第25課

以下は、『アロン神権3』のレッスン（第1課—第25課）を補足するための参考資料です。教師用手引きの中のレッスンに代わるものではありません。（Fは「フレンド」を指します。レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。注意——教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭（3月31日）のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の贖いと復活、生涯、使命に焦点を絞った大会説教や記事、賛美歌を活用することを検討してみてください。

第1課——神会

ゴードン・B・シンクレー「御父と御子と聖霊」『聖徒の道』1998年3月号、2-9

ジェームズ・E・ファウスト「唯一の、まことの神でいますあなたとイエス・キリストとを知る」『リアホナ』1999年2月号、2-6

S・マイケル・ウィルコックス「わたしのほかに、なにものをも神としてはならない」『聖徒の道』1998年2月号、26-33

第2課——救いの計画

ジョセフ・B・ワースリン「備えの時」『聖徒の道』1998年7月号、15-18

ヘンリー・B・アイリング「家族」『聖徒の道』1998年10月号、12-23

ジョン・B・ディクソン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』1999年10月号、18-24

「神の子です」『賛美歌』189番

第3課——生ける神の息子たち

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号、85-88

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちは神の子である」『リアホナ』1999年1月号、94-97

「お父さまは生きています」『賛美歌』190番

第4課——選択する能力と自由

ジョセフ・B・ワースリン「あなたの選

び」『聖徒の道』1998年11月号、46-48

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号、10-17

「選べ、正義を」『賛美歌』152番

第5課——天より落ちたルシフェル

ジェームズ・E・ファウスト「内なる敵」『リアホナ』2001年1月号、54-57

リチャード・C・エッジリー「サタンのスナイプ袋」『リアホナ』2001年1月号、52-53

デニス・ラージー「現代の『刻んだ像』の礼拝を拒む」『聖徒の道』1998年3月号、16-23

第6課——アダムの堕落

ラッセル・M・ネルソン「贖い」『聖徒の道』1997年1月号、39-42

ダリン・H・オークス「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号、80-84

「現世での葛藤」『リアホナ』2001年9月号、30-31

第7課——死と地獄に勝利を収めた贖罪

ゴードン・B・シンクレー「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」『リアホナ』2000年12月号、2-6

D・トッド・クリストファーソン「死者の贖いと、イエスへの証」『リアホナ』2001年1月号、10-13

リチャード・D・ドレーパー「贖い主としてのキリストの役割」『リアホナ』2000年12月号、10-17

第8課——復活と裁き

ゴードン・B・シンクレー「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」『リアホナ』1999年7月号、82-85

ダリン・H・オークス「復活」『リアホナ』2000年7月号、16-19

「世に勝つ」『リアホナ』2000年9月号、26-27

第9課——正義と憐れみ

リチャード・G・スコット「平安と喜びに至る道」『リアホナ』2001年1月号、31-33

ジェフリー・R・ホランド「きてごらん下さい」『聖徒の道』1998年8月号、44-48

第10課——「大きな変化」

ジェームズ・E・ファウスト「第二の誕生」『聖徒の道』1998年6月号、2-6

ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号、40-43

ロバート・L・ミレット「生まれながらの人を脱ぎ捨てる」『リアホナ』2000年8月号、6-10

「われ主を愛して」『賛美歌』134番



第11課——永遠の命を得る信仰

ジェームズ・E・ファウスト「信仰の盾」
『リアホナ』2000年7月号、20-23

ジェフリー・R・ホランド「窓辺に降り立つ鳩のように」『リアホナ』2000年7月号、90-93

テラー・ハートリー「信仰の試し」『リアホナ』1999年10月号、40-42

「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番

第12課——悔い改め

ボイド・K・バック「洗われて清くなる」『聖徒の道』1997年7月号、9-12

ヘンリー・B・アイリング「引き延ばさないでください」『リアホナ』2000年1月号、38-41

「心の平安を見いだす」『リアホナ』2000年6月号、32-33

「主に来たれ」『賛美歌』67番

第13課——赦すものが赦される

ゴードン・B・シンクレイ「汝^{なんじ}には赦すことを求めらる」『聖徒の道』1991年11月号、2-7

ヘンリー・B・アイリング「わたしたちが一つとなれるように」『聖徒の道』1998年7月号、70-72

エシカ・デルフィン・サリナス「あなたがたの敵のために祈りなさい」『リアホナ』2000年9月号、8-10

アローラ・ロハス・デ・アルバレス「赦しによって一つとなった二人」『リアホナ』1999年10月号、44-46

ロデリック・J・リントン「赦す心」『聖徒の道』1998年6月号、28-33

第14課——聖餐

ロバート・D・ヘイルズ「主を覚える」『聖徒の道』1998年1月号、28-31

「主の犠牲に感謝する」『リアホナ』2001年6月号、26-27

「どうすればふさわしい状態で^{せいさん}聖餐を受けていると分かりますか」『リアホナ』1999年4月号、22-24

第15課——終わりまで堪え忍ぶ

ニール・A・マックスウェル「よく堪え忍

ぶ」『リアホナ』1999年4月号、10-17

ロバート・D・ヘイルズ「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う」『聖徒の道』1998年7月号、80-83

第16課——世の命であり、光であられるイエス・キリスト

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主——キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号、4-19

シャロン・G・ラーセン「荒野の中的光」『リアホナ』1999年7月号、107-109

「主は光」『賛美歌』47番

第17課——聖霊

ボイド・K・バック「炎のように分かれた舌」『リアホナ』2000年7月号、7-10

シェリー・L・デュー「わたしたちは独りではない」『リアホナ』1999年1月号、105-107

「みたまはわれに」『賛美歌』82番

第18課——祈り

ヘンリー・B・アイリング「わたしの心に書き記す」『リアホナ』2001年1月号、99-101

ジュリエッタ・アレビヤン・デ・アルバレス「雨の日に感謝の心で」『リアホナ』2000年5月号、26-28

「部屋を出る前に」『賛美歌』78番

第19課——断食

トーマス・S・モンソン「永遠の家庭を築き上げる」『リアホナ』1999年10月号、2-7

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」

『リアホナ』2001年7月号、88-91

ブリガダ・アコスタ・デ・ペレス「断食の祝福」『リアホナ』1999年10月号、46-48

ダイアン・K・カフーン「ストラットンしまいに起きたきせき」『リアホナ』1999年5月号、F6-7

第20課——^{じゅうぶん} 十分の一——霊的な試し

ジェームズ・E・ファウスト「天の窓を開く」『リアホナ』1999年1月号、63-65

セオドア・G・バルマン「主の約束を試す」『聖徒の道』1998年12月号、26-27

「主の恵み、人にも分かつた」『賛美歌』138番

第21課——定員会の役割

M・ラッセル・バラード「歩調を合わせているだろうか」『リアホナ』1999年1月号、6-9

D・トッド・クリストファーソン「神権定員会」『リアホナ』1999年1月号、44-46

「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番

第22課——祭司の義務

トーマス・S・モンソン「神権者——主の強力な軍勢」『リアホナ』1999年7月号、56-59

ダリン・H・オークス「アロン神権と聖餐」『リアホナ』1999年1月号、41-43

第23課——メルキゼデク神権に備える

トーマス・S・モンソン「明日を決める今日」『リアホナ』1999年1月号、52-55

ジョセフ・B・ワースリン「神権者に成長する」『リアホナ』2000年1月号、45-49

ジェフリー・R・ホランド「あなたがたは身を清めなさい」『リアホナ』2001年1月号、46-49

第24課——預言者に従う

ゴードン・B・シンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41

クライド・J・ウィリアムズ「預言者に従う——モルモン書を基礎とする解釈」『リアホナ』2000年6月号、18-23

「来たれ、予言者より」『賛美歌』13番

第25課——すべての若人は伝道に出るべきである

トーマス・S・モンソン「神を尊ぶ者を、神は尊ばれる」『聖徒の道』1996年1月号、54-57

ランス・B・ウィックマン「将来のあなた」『リアホナ』2000年11月号、22-24

「伝道の召し」『リアホナ』1999年8月号、26-31

ジャネット・ピーターソン「今日も自転車に乗って」『リアホナ』1999年4月号、26-28

「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番

リソースガイド

2002年度用。『若い女性3』

(34825 300) 第1課—第25課

以下は、『若い女性3』のレッスン(第1課—第25課)を補足するための参考資料です。教師用手引きの中のレッスンに代わるものではありません。(Fは「フレンド」を指します)。レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。注意—教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭(3月31日)のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の贖いと復活、生涯、使命に焦点を絞った大会説教や記事、賛美歌を活用することを検討してみてください。

第1課—父なる神

ゴードン・B・シンクレイ「御父と御子と聖霊」『聖徒の道』1998年3月号, 2-9

ジェームズ・E・ファウスト「唯一の、まことの神でいますあなたとイエス・キリストとを知る」『リアホナ』1999年2月号, 2-6

S・マイケル・ウィルコックス「わたしのほかに、なにものをも神としてはならない」『聖徒の道』1998年2月号, 26-33

第2課—救い主を知る

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主—キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号, 4-19

ジェフリー・R・ホランド「きてごらん下さい」『聖徒の道』1998年8月号, 44-48

シェリー・L・デュー「唯一のチャンス」『リアホナ』1999年7月号, 77-79

「主に来たれ」『賛美歌』67番

第3課—日々福音に従う

ジェフリー・R・ホランド「確信を放棄してはいけない」『リアホナ』2000年6月号, 34-42

ローリー・リブズィー「リーサル高校へようこそ」『聖徒の道』1998年5月号, 10-15

リンダ・バン・オーデン「主を第一に置く」『聖徒の道』1998年11月号, 42-45

第4課—永遠の伴侶となる準備

ゴードン・B・シンクレイ「主の光の中を歩む」『リアホナ』1999年1月号 108-111

リチャード・G・スコット「偉大な幸福の計画を実践する」『聖徒の道』1997年1月号, 84-86

「日の栄えの結婚」『聖徒の道』1998年10月号, 25

第5課—家庭に霊的な雰囲気を作る

M・ラッセル・バラード「消せない炎のように」『リアホナ』1999年7月号, 102-105

「どうしたら自分の家庭をもっと幸せで霊的なところにするができるでしょうか」『聖徒の道』1998年8月号, 26-29

「愛ある家は」『賛美歌』186番

第6課—女性としての教える責任

ゴードン・B・シンクレイ「母親としての最も大きなチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 112-115

ボイド・K・バックナー「子どもたちを教えなさい」『リアホナ』2000年5月号, 14-23

ロナルド・L・ナイトン「子どもの最良の

教師となる」『リアホナ』2001年6月号, 36-43

「主よ靈感もて」『賛美歌』182番

第7課—人生の目的

トーマス・S・モンソン「日の栄えへの旅」『リアホナ』1999年7月号, 115-118

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちは神の子である」『リアホナ』1999年1月号, 94-97

「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番

第8課—永遠の家族

ヘンリー・B・アイリング「家族」『聖徒の道』1998年10月号, 12-23

アルフォンソ・カストロ・ベスケズ「永遠の家族が欲しいのです」『リアホナ』2000年8月号, 26-28

「家族は永遠に」『賛美歌』187番

第9課—家族の一致をはぐくむ

トーマス・S・モンソン「永遠の家庭を築き上げる」『リアホナ』1999年10月号, 2-7

ヘンリー・B・アイリング「わたしたちが一つとなれるように」『聖徒の道』1998年7月号, 70-72

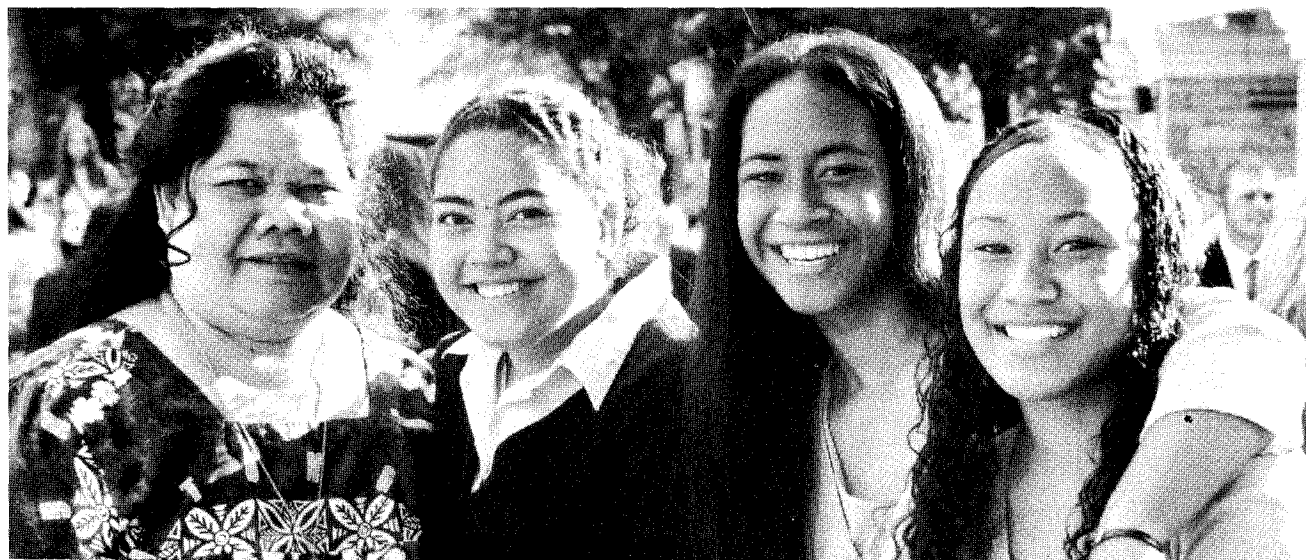
ロバート・E・ウエルズ「寄り合い家族を一つの家族にするには」『リアホナ』1999年6月号, 28-35

タミー・モンロー「ベンと読んだモルモン書」『リアホナ』2000年5月号, 10-12

「家庭の愛」『賛美歌』181番

第10課—楽しい家族の活動

大管長会「大管長会からの手紙」『リアホナ』1999年12月号, 1



ポール・ランズ「家庭の夕べは完全である必要はない」『リアホナ』1999年8月号, 44-47

D・レイ・トーマス「より堅固な家族を築くための提案」『リアホナ』1999年12月号, 30-32

第11課——親族の輪を広げる

ロバート・D・ヘイルズ「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号, 37-40

デニス・B・ノイエンスンバンダー「永遠の家族のきずなを結ぶ橋」『リアホナ』1999年7月号, 99-101

第12課——神権の祝福

ボイド・K・パッカー「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと」『聖徒の道』1994年11月号, 15-24

レイ・H・ウッド「神の子のようであって」『リアホナ』1999年7月号, 48-49

カースティン・セイファー／バージタ・ストランドバーク「レナードがおぼれた!」『リアホナ』1999年11月号, 10-11

フーコ・レイ「わたしの手のうちにあった神権」『聖徒の道』1998年9月号, 32-33

第13課——神権は家族を祝福する

ラッセル・M・ネルソン「羊飼いの、小羊、そしてホームティーチャー」『リアホナ』1999年4月号, 42-48

D・リー・トブラー「神権と家庭」『リアホナ』1999年7月号, 51-52

第14課——わたしたちには素晴らしい伝統がある

ジェフリー・R・ホランド「窓辺に降り立つ鳩のように」『リアホナ』2000年7月号, 90-93

ステイブン・B・オーブソン「わたしたちの遺産」『リアホナ』2000年1月号, 34-36

「長き沈黙破りて出づ」『賛美歌』10番

第15課——イスラエルの家に与えられる祝福

ジェームズ・E・ファウスト「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知ってください」『聖徒の道』1998年7月号, 19-22

ラッセル・M・ネルソン「誓約にあずかる者」『聖徒の道』1995年7月号, 35-39
マービン・K・ガードナー「『町からひとり、氏族からふたり』——ウクライナ、チエルニゴフにおける教会の始まり」『リアホナ』1999年4月号, 36-41

第16課——エンゲウメント

ボイド・K・パッカー「聖き宮居」『聖徒の道』1992年6月号, 14-23

ジュリア・ハーデル「神殿への旅」『聖徒の道』1997年2月号, 8-9

クテカ・カムレテ「ザイルから主の宮へ」『聖徒の道』1997年8月号, 8-9

第17課——神殿参入の備え

ジェームズ・E・ファウスト「永遠、わたしたちの行く末」『聖徒の道』1997年7月号, 21-23

バーバラ・ジーン・ジョーンズ「ふさわしい生活、ただいま建設中!」『リアホナ』2000年11月号, 8-13

タマラ・リーサム・ベイリー「神殿に定期的に参入するタイプの人」『リアホナ』1999年5月号, 46-48

「いとまされる」『賛美歌』158番

第18課——神殿結婚

リチャード・G・スコット「神殿の祝福を受ける」『リアホナ』1999年7月号, 29-31

「持続する愛を養う」『リアホナ』2000年5月号, 25

「日の栄えの結婚」『聖徒の道』1998年10月号, 25

第19課——伝統

デビッド・B・ヘイト「強いリンクとなる」『リアホナ』2001年1月号, 23-25

リチャード・G・スコット「幸福に至る障壁を取り除く」『聖徒の道』1998年7月号, 92-95

ドナルド・L・ホールストロム「義にかなった伝統を育てる」『リアホナ』2001年1月号, 34-35

第20課——宣教師の責任を理解する

L・トム・ペリー「チャレンジを受け入れる」『リアホナ』1999年9月号, 44-47

ロジャー・テリー「もう一人だけ」『リア

ホナ』2000年3月号, 46-48

ローリー・リブジー「わたしは行って行きます」『聖徒の道』1998年2月号, 8-11

第21課——福音を分かち合うことを学ぶ

M・ラッセル・バラード「会員が鍵である」『リアホナ』2000年9月号, 12-21

メアリー・エレン・スムート「わたしたちは神の御手に使われる者です」『リアホナ』2001年1月号, 103-106

クリスティー・ギルズ／シェーン・ワイズ「周囲を見渡し機会を見いだす」『リアホナ』2000年3月号, 8-10

第22課——永遠を見通す目

ジェフリー・R・ホランド「すでに現れた祝福の大祭司」『リアホナ』2000年1月号, 42-45

ジェイ・E・ジェンセン「常に永遠の視野に立って考える」『リアホナ』2000年7月号, 32-33

「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番

第23課——障害を乗り越える

ニール・A・マックスウェル「世の誘いと誘惑」『リアホナ』2001年1月号, 43-46

L・アルディン・ポーター「しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった」『リアホナ』1999年4月号, 30-34

第24課——選択の自由

ジョセフ・B・ワースリン「あなたの選び」『聖徒の道』1998年11月号, 46-48

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号, 10-17

シャロン・G・ラーセン「祝福であり重荷でもある選択の自由」『リアホナ』2000年1月号, 12-14

「選べ、正義を」『賛美歌』152番

第25課——従順

ジェームズ・E・ファウスト「従順——自由への道」『リアホナ』1999年7月号, 53-56

ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号, 6-9

デナリー・チャップマン「3つの質問」『リアホナ』2000年11月号, 46-47

中央補助組織会長会

日曜学校



第一副会長
ジョン・H・グローバーク

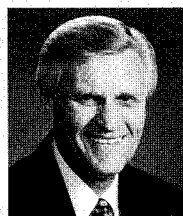


会長
セシル・O・サミュエルソン・ジュニア

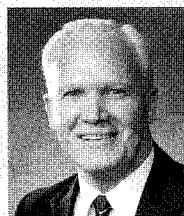


第二副会長
リチャード・J・メインズ

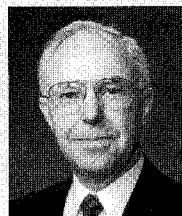
若い男性



第一副会長
グレン・L・ペイス



会長
F・メルビン・ハモンド



第二副会長
スベンサー・J・コンディー

扶助協会



第一副会長
バージニア・U・ジェンセン



会長
メアリー・エレン・スムート



第二副会長
シェリー・L・デュー

若い女性



第一副会長
キャロル・B・トーマス



会長
マーガレット・D・ナドール



第二副会長
シャロン・G・ラーセン

初等協会



第一副会長
シドニー・S・レイノルズ

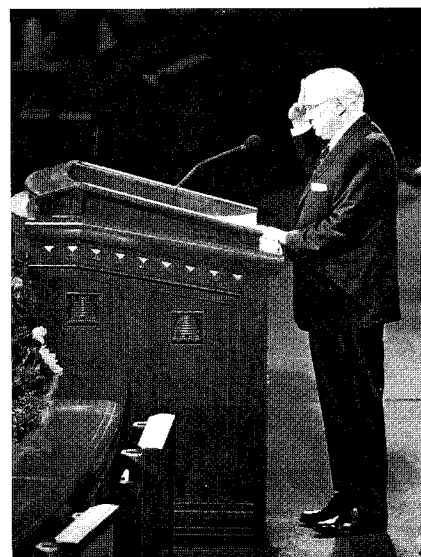


会長
コリー・K・メンラブ



第二副会長
ゲール・M・クレグ

チャーチ・ニュース



大会の土曜日午後の部会で支持の挙手を受ける
ために教会役員の名前を提示する、
ジェームズ・E・ファウスト副議長

七十人、若い男性、 日曜学校の異動

すでに2001年6月に発表されていた七十人会長会の異動が、総大会土曜日午後の部会で教会員により支持された。さらに七十人の会員9人が解任され、24人の地域幹部七十人も解任された。そして新たに3人の地域幹部七十人が召され、日曜学校および若い男性の会長会が再組織された。

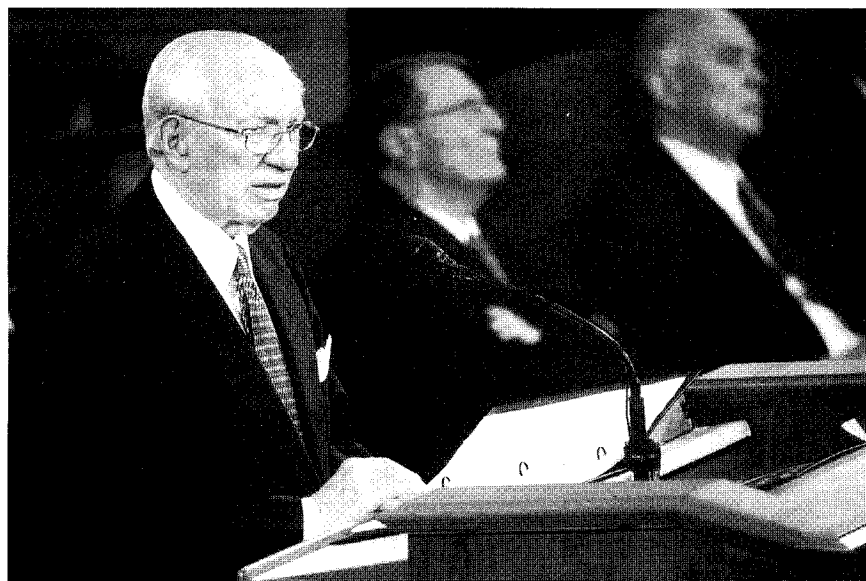
七十人会長会はL・アルディン・ポーター長老とマーリン・K・ジェンセン長老に代わり、新たな会員としてチャールズ・ディディエ長老とセシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老が支持された。ポーター長老は解任され、名誉幹部の称号を受けた。ジェンセン長老は2001年8月にヨーロッパ中央地域会長会で働くよう召された。

サミュエルソン長老は新たに中央日曜学校会長に召され、ジョン・H・グローバーク長老とリチャード・J・メインズ長老が副会長に召された。ジェンセン長老は中央日曜学校会長を解任され、ニール・L・アンダーセン長老とジョン・H・グローバーク長老もジェンセン長老の副会長を解任された。

七十人のF・メルビン・ハモンド長老が新たに中央若い男性会長として、グレン・L・ベイス長老とスペンサー・J・コンディー長老が副会長として支持された。これまで中央若い男性会長として働いてきたロバート・K・デレンバック長老は8月に、太平洋諸島地域会長会で働くよう召された。デレンバック長老はこの大会で副会長のハモンド長老とジョン・M・マドセン長老とともに解任された。

ポーター長老のほかにジョン・K・カーマック長老、ボーン・J・フェザーストン長老、L・ライオネル・ケンドリック長老、レックス・D・ピネガー長老も七十人第一定員会から解任され、名誉幹部の称号を与えられた。

ほかに中央幹部を解任となったのは、七十人第二定員会会員のリチャード・E・クック長老、ウェイン・M・ハンコック長老、リチャード・B・ワースリン長老、レイ・H・ウッド長老の4人である。□



2001年9月14日にタバナクルで行われた追悼集会で話をするゴードン・B・ヒンクレー大管長。

同時多発テロ事件後、教会は人々を慰め、人道的支援を行った

2001年9月11日、ニューヨーク、ワシントンD.C.およびペンシルベニアで起きた同時多発テロ事件後、教会の指導者は平和と慰めのメッセージを送った。この事件で5人の末日聖徒が亡くなったと報告されている。

カリフォルニア州ロサンゼルス・サンタモニカステーキ、サンタモニカ第2ワードのキャロリン・マイヤー・ビューク姉妹(48歳)とその母親でユタ州ケイズビル東ステーキ、ケイズビル第17ワードのメアリー・アリス・ウォールストロム姉妹(75歳)は、ニューヨーク市の世界貿易センターに激突した最初の飛行機に搭乗していた。二人はビューク姉妹の双子の娘たちを大学に送り届け、その帰路に

あった。

ニューヨーク州リッチモンドヒル地方部、リッチモンドヒル第3支部のアイバン・ルイス・カルピオ・パウティスタ兄弟(24歳)は、事件当時世界貿易センターの北側タワー、107階にあるレストランで働いていた。9月11日は自分の誕生日だったため休暇を取る予定でいたが、当日同僚に代わって働くことを引き受けたのであった。

バージニア州マウントバーノンステーキ、クリスタルシティーワードのブレイディー・ハウエル兄弟(26歳)とバージニア州マウントバーノンステーキ、レークリッジ第2ワードのロンダ・ラズムッセン姉妹(44歳)は、ワシントンD.C.の国防

総省の建物への激突の際亡くなった。ハウエル兄弟は合衆国海軍で働く公務員だった。ラズムッセン姉妹は陸軍担当の予算アナリストだった。26年間連れ添ったラズムッセン姉妹の夫も同じ建物で働いていたが、無事だった。

大管長会は同時多発テロ事件の一報を聞いて間もなく、次の声明を出した。「本日起きたこの無差別テロ事件で、亡くなられたまたは負傷された、愛する家族、友人、同僚を持つ人々に心からお見舞いを申し上げます。この悪意に満ちた襲撃事件の罪のない犠牲者の方々のために、祈りをささげます。わたしたちは天の御父に、この悲惨な事件に対応する[ジョージ・W・]ブッシュ[合衆国]大統領とその顧問団を導いてくださるようお願い求めるものです。

この困難な時を乗り越えられるよう、救い主の平安と愛がわたしたちを慰め、導いてくださるよう、わたしたちは人々とともに祈ります。」

9月11日の夜、予定されていたモルモンタバナクル合唱団のコンサートは追悼式に変更された。その席で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語った。「今は暗雲が立ち込めていますが、恐怖と怒りの厚い雲の間には、光り輝く神の御子の神聖ですばらしい御姿があります。御子こそ、この状況下のわたしたちが信頼を寄せるべき御方なのです。」

ヒンクレー大管長は、ブッシュ大統領が「祈りと回想の国民の日」と定めた9月14日、テレビ番組の「ラリー・キングライブ」(Larry King Live)とソルトレーク・タバナクルでの追悼式の両方で、同様の信仰と慰めのメッセージを送った。ヒンクレー大管長は次のように語った。「わたしたちは死者を呼び戻すことはできません。しかし天の御父の御名を呼び、苦しんでいる人たちが慰められ、痛みが和らげられるよう求めることはできます。」また、人がその剣を打ちかえて鋤とし、もはや戦いのことを学ばない日(イザヤ2:4参照)が訪れるのを天の御父が早めてくださるという希望を述べた。この追悼式には、大管長会、十二使徒定員会、そのほかの中央幹部とタバナクル合唱団が出席した。この式の模様は合衆

国中の教会集会所に中継された。

9月20日、ヒンクレー大管長とそのほかの宗教指導者26人がブッシュ合衆国大統領に招かれ、ホワイトハウスで会見した。ブッシュ大統領はこう語った。「わたしはこんなに心強く感じたことはありません。この力は神から来たものです。」大統領は指導者たちに、国の安全のために、そして大統領に知恵、力、正しい判断力が授けられるように祈ってほしいと語った。

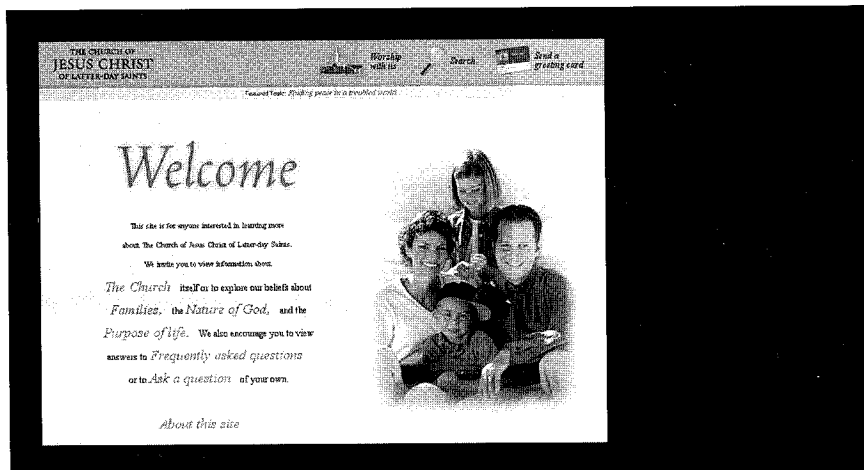
ブッシュ大統領は集まった指導者に意見を求めた。ヒンクレー大管長は次のように述べた。「大統領、わたしたちが大統領を支持していることを知っていただきたいと思います。わたしたちは大統領のために祈っています。わたしたちは神の導きの下にあるこの国を愛しています。」

大管長会の要請を受け、合衆国中の教会ユニットは9月16日の日曜日、特別な追悼聖餐会を開いた。また、世界中の教会員が、家族を失った人々に愛と奉仕の手を差し伸べた。ニューヨークや各地の空港で立ち往生した人々に、家や集会所を開放した会員も多くいた。

教会がアメリカ赤十字に寄付した人道的援助基金の大半は、捜索・救助活動、緊急食糧や宿泊所、そのほかの必要な支援に利用された。赤十字のソルトレーク支部は、ソルトレーク・シティーに足止めされた旅行客の食糧と宿泊所を確保するために寄付金の一部を充てた。さらにニューヨーク市の犠牲者の家族にも支援がなされた。

10月9日、大管長会はアフガニスタン難民に毛布、衛生用品のセット、医療品、新生児用品のセットを送ることを承認した。□

◎国際機関誌「リアホナ」日本語版編集室
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org
◎国際機関誌「リアホナ」のお届け、
その他商品に関するお問い合わせは——
教会配送センター
TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392



www.mormon.orgのホームページを利用すると、
教会に関する様々な質問について調べることができる。

新しいウェブサイトで福音を分かち合う

教会福音を広めるための新たな手段を導入した。教会の公式インターネットサイト www.mormon.org では、個人で福音について詳しく学ぶことができる。

2001年10月5日に発表されたこのウェブサイトについて、翌日の総大会で十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老も次のように言及している。「19世紀にちらしが作成され、20世紀にラジオやテレビ、フィルムの利用が始まったと同様に、この新しい方法が持つ可能性にわたしたちは胸躍らせています。…教会員は友達から質問を受けた際、このサイトを使って答えることができます。直接質問に答えることもできますし、友達にサイトを開いてみるように言うこともできます。」

Mormon.org が発表されてからの3日間で、このウェブサイトへのアクセス件数は9万3,433件に上った。そしてモルモン書の注文が151件、宣教師の訪問の希望は36件あった。アフリカ、アジア、オーストラリア、南太平洋諸国、西インド諸島、ヨーロッパ、中東、および北アメリカ、南アメリカ、中央アメリカのインターネット利用者からアクセスがあった。

Mormon.org は音声、画像、文章により教会の基本的な原則を、分かりやすく率直な言葉を使って説明している。内容は「教会」「家族」「神の属性」「人生の目的」の4つのメインテーマに分かれて

いる。

それぞれのメインテーマの画面には幾つかの見出しが列挙されており、見出しを選択することでそのテーマについての基本的な情報が掲載された画面を表示できるようになっている。そしてその画面からさらに別の関連項目の画面を表示させることができる。また、そのテーマに関連する、教会制作のビデオや大管長会と十二使徒定員会会員の話から抜粋した音声または映像を選択することもできる。もっと詳しく学びたい人は宣教師の訪問を要請したり、教会出版物やビデオの送付を請求したり、または集会所検索機能（現在は合衆国内とカナダ国内のみ）で最寄りのユニットを探したりすることができる。

Mormon.org で得られるそのほかの情報には、社会問題、神学、教会の方針に関する質疑応答集、育児、家族関係、コミュニケーションに関する情報、また利用者が福音関係の用語を理解するための検索機能の付いた用語集などがある。

教会員は友人にこのウェブサイトのページを電子メールで送ったり、福音をテーマにしたグリーティングカードを送ったりして活用することができる。これらのサービスは無料で利用できる。

Mormon.org は現在英語のみで利用できるが、教会の指導者は、いずれほかの多くの言語でも利用可能になると述べている。□



「キリストのバプテスマ」ロバート・T・バレット画

「そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところにきて、バプテスマを受けようとされた。ところがヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った、『わたしこそあなたからバプテスマを受けるはすなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。』しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした。」(マタイ3: 13-15)



「わたしたちの安全は生活の
徳高さにかかっています。
わたしたちの強さは義の中に
存在しています。
神は次のことを
明確にされました。すなわち、
わたしたちが神を捨てなければ、
神はわたしたちを
見捨てられないということです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長
2001年10月7日、日曜午後の部会

第171回半期総大会報告
(2001年10月6、7日)

